

双葉町立新校（仮称）建設工事

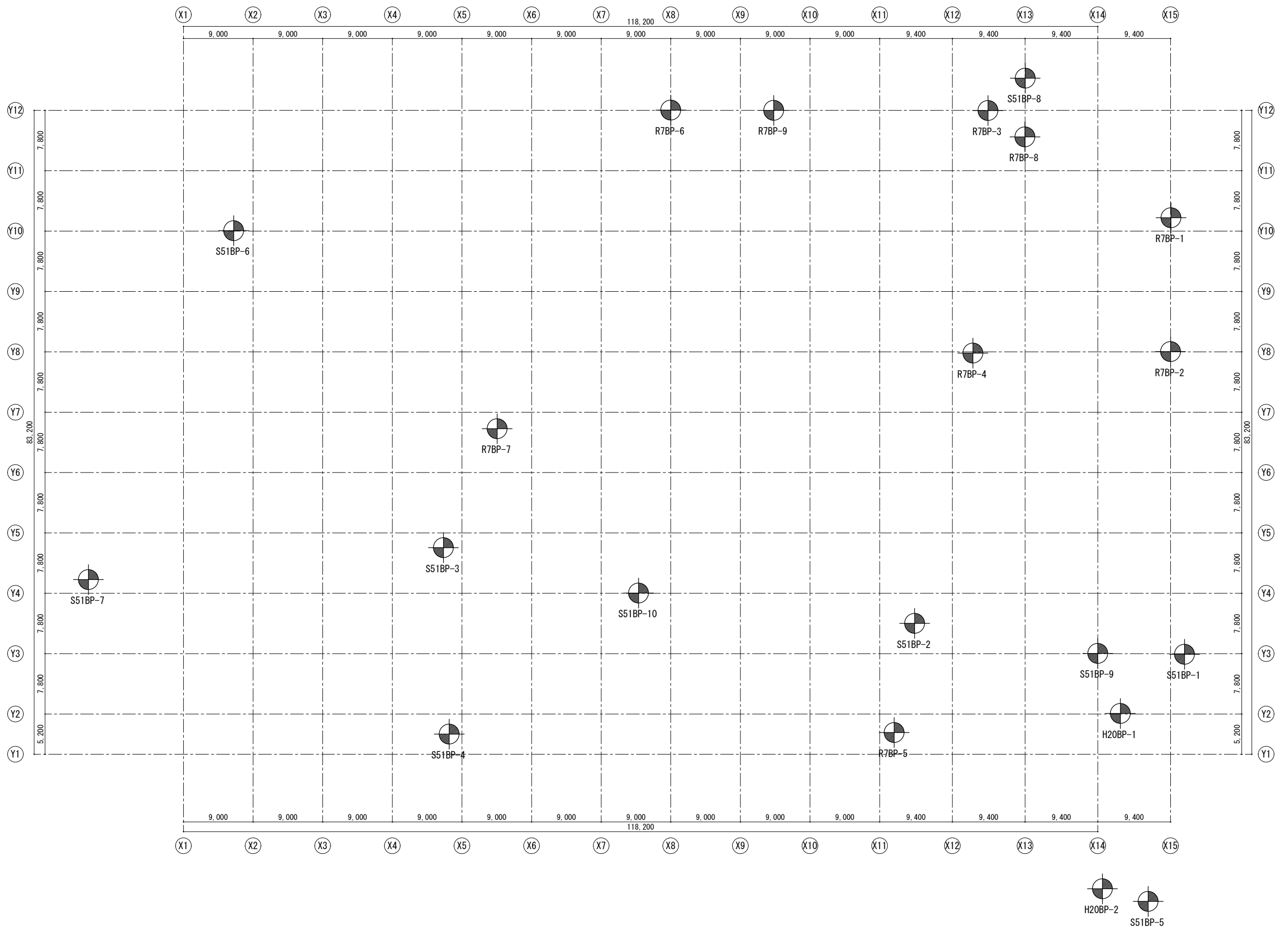
1. 構造設計条件・構造特記仕様書			
図 番	名 称	縮 尺(A3)	備 考
S-0-01	図面リスト(1)	—	
S-0-02	図面リスト(2)	—	
S-1-01	構造設計条件	—	
S-1-02	調査位置図	1/500	
S-1-03	土質柱状図(1)	1/200	
S-1-04	土質柱状図(2)	1/200	
S-1-05	土質柱状図(3)	1/200	
S-1-06	構造特記仕様書(1)	—	
S-1-07	構造特記仕様書(2)	—	
S-1-08	構造特記仕様書(3)	—	
S-1-09	構造特記仕様書(4)	—	
S-1-10	構造特記仕様書(5)	—	
S-1-11	配筋標準図(1)	—	
S-1-12	配筋標準図(2)	—	
S-1-13	配筋標準図(3)	—	
S-1-14	配筋標準図(4)	—	
S-1-15	配筋標準図(5)	—	
S-1-16	配筋標準図(6)	—	
S-1-17	配筋標準図(7)	—	
S-1-18	配筋標準図(8)	—	
S-1-19	配筋標準図(9)	—	
S-1-20	配筋標準図(10)	—	
S-1-21	配筋標準図(11)	—	
S-1-22	溶接標準図(1)	—	
S-1-23	溶接標準図(2)	—	
S-1-24	地盤改良標準仕様書	—	
S-1-25	ベースバック柱脚工法標準仕様書(1)	—	
S-1-26	ベースバック柱脚工法標準仕様書(2)	—	
S-1-27	ベースバック柱脚工法標準仕様書(3)	—	

2.伏図，軸組図							
図 番	名 称	縮 尺(A3)	備 考	図 番	名 称	縮 尺(A3)	備 考
S-2-01	改良体伏図(1)	1/250		S-2-34	体育館 屋根軸組図(2)	1/250	
S-2-02	改良体伏図(2)	1/250		S-2-35	体育館 屋根軸組図(3)	1/250	
S-2-03	改良体伏図(3)	1/250		S-2-36	体育館 屋根軸組図(4)	1/250	
S-2-04	改良体伏図(4)	1/250					
S-2-05	基礎伏図(1)	1/250					
S-2-06	基礎伏図(2)	1/250					
S-2-07	基礎伏図(3)	1/250					
S-2-08	基礎伏図(4)	1/250					
S-2-09	1 階伏図(1)	1/250					
S-2-10	1 階伏図(2)	1/250					
S-2-11	1 階伏図(3)	1/250					
S-2-12	1 階伏図(4)	1/250					
S-2-13	2 階伏図(1)	1/250					
S-2-14	2 階伏図(2)	1/250					
S-2-15	2 階伏図(3)	1/250					
S-2-16	2 階伏図(4)	1/250					
S-2-17	屋根伏図 1 (1)	1/250					
S-2-18	屋根伏図 1 (2)	1/250					
S-2-19	屋根伏図 1 (3)	1/250					
S-2-20	屋根伏図 1 (4)	1/250					
S-2-21	屋根伏図 2 (1)	1/250					
S-2-21A	屋根伏図 2 (2)	1/250					
S-2-22	屋根伏図 2 (3)	1/250					
S-2-23	屋根伏図 2 (4)	1/250					
S-2-24	屋根伏図 3 (1)	1/250					
S-2-25	屋根伏図 3 (2)	1/250					
S-2-26	体育館屋根 伏図(1)	1/250					
S-2-27	体育館屋根 伏図(2)	1/250					
S-2-28	体育館屋根 伏図(3)	1/250					
S-2-29	Y通り軸組図(1)	1/250					
S-2-30	Y通り軸組図(2)	1/250					
S-2-31	X通り軸組図(1)	1/250					
S-2-32	X通り軸組図(2)	1/250					
S-2-33	体育館 屋根軸組図(1)	1/250					

[illegible][illegible][illegible]

構造設計条件（校舎棟）					構造設計条件（付帯施設C）																																																																											
1. 建築物の概要					1. 建築物の概要																																																																											
<table><tr><td>工事名称</td><td colspan="4">双葉町立新校(仮称)建設工事</td></tr><tr><td>建設場所</td><td colspan="4">福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2</td></tr><tr><td>工事種別</td><td colspan="4">○ 新築 ・ 増築 ・ 改築</td></tr><tr><td rowspan="3">建物規模</td><td colspan="2">地下 階 地上 2 階</td><td colspan="2">塔屋 階</td></tr><tr><td colspan="2">高 さ 12.88 m</td><td colspan="2">軒 高 12.58 m</td></tr><tr><td colspan="2">建築面積 9145.34 m²</td><td colspan="2">延床面積 8680.16 m²</td></tr><tr><td rowspan="2">構造種別</td><td>・RC、WRC</td><td>階から 階</td><td>○ S</td><td>1階から2階</td></tr><tr><td>・SRC</td><td>階から 階</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">骨組形式</td><td colspan="4">X方向 ： ブレース付きラーメン構造</td></tr><tr><td colspan="4">Y方向 ： ブレース付きラーメン構造</td></tr><tr><td rowspan="2">計算ルート</td><td colspan="4">・ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3</td></tr><tr><td colspan="4">○ ルート3 ・ 令81条の2</td></tr><tr><td rowspan="2">基礎構造</td><td colspan="4">○ 直接基礎（ 独立基礎 ）</td></tr><tr><td colspan="4">・ 杭基礎（ ）</td></tr><tr><td>増築予定</td><td colspan="4">○ 無 ・有（ ）</td></tr></table>					工事名称	双葉町立新校(仮称)建設工事				建設場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2				工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築				建物規模	地下 階 地上 2 階		塔屋 階		高 さ 12.88 m		軒 高 12.58 m		建築面積 9145.34 m ²		延床面積 8680.16 m ²		構造種別	・RC、WRC	階から 階	○ S	1階から2階	・SRC	階から 階			骨組形式	X方向 ： ブレース付きラーメン構造				Y方向 ： ブレース付きラーメン構造				計算ルート	・ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3				○ ルート3 ・ 令81条の2				基礎構造	○ 直接基礎（ 独立基礎 ）				・ 杭基礎（ ）				増築予定	○ 無 ・有（ ）				2. 荷重条件 a. 地震, 積雪, 風等の荷重						
工事名称	双葉町立新校(仮称)建設工事																																																																															
建設場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2																																																																															
工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築																																																																															
建物規模	地下 階 地上 2 階		塔屋 階																																																																													
	高 さ 12.88 m		軒 高 12.58 m																																																																													
	建築面積 9145.34 m ²		延床面積 8680.16 m ²																																																																													
構造種別	・RC、WRC	階から 階	○ S	1階から2階																																																																												
	・SRC	階から 階																																																																														
骨組形式	X方向 ： ブレース付きラーメン構造																																																																															
	Y方向 ： ブレース付きラーメン構造																																																																															
計算ルート	・ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3																																																																															
	○ ルート3 ・ 令81条の2																																																																															
基礎構造	○ 直接基礎（ 独立基礎 ）																																																																															
	・ 杭基礎（ ）																																																																															
増築予定	○ 無 ・有（ ）																																																																															
地震荷重	用途係数	I = 1.25（一次設計用） I = 1.25（二次設計用）			地震荷重	用途係数	I = 1.25（一次設計用） I = 1.25（二次設計用）																																																																									
	地震地域係数	Z = 1.0				地震地域係数	Z = 1.0																																																																									
	地盤種別	第 2 種 地 盤 T = 0.6 sec				地盤種別	第 2 種 地 盤 T = 0.6 sec																																																																									
	設計用一次固有周期	T = 0.318 sec				設計用一次固有周期	T = 0.058 sec																																																																									
	振動特性係数	R t = 1.000				振動特性係数	R t = 1.000																																																																									
	標準せん断力係数	C o = 0.2（一次設計用）C o = 1.0（二次設計用）				標準せん断力係数	C o = 0.2（一次設計用）C o = 1.0（二次設計用）																																																																									
積雪荷重	地下部分の水平震度	k = 0.1（ 1 - H/40） Z			積雪荷重	地下部分の水平震度	k = 0.1（ 1 - H/40） Z																																																																									
	短期	600 N/m ²	最深積雪量 H s = 30 cm			短期	600 N/m ²	最深積雪量 H s = 30 cm																																																																								
風荷重	長期	0 N/m ²	単位重量 W s = 20 N/m ² ・cm		風荷重	長期	0 N/m ²	単位重量 W s = 20 N/m ² ・cm																																																																								
	速度圧 q	q = 0.6EV o ² V o = 30.0 m/sec				速度圧 q	q = 0.6EV o ² V o = 30.0 m/sec																																																																									
土圧・水圧	地表面粗度区分	・ I ・ II ○ III ・ IV			土圧・水圧	地表面粗度区分	・ I ・ II ○ III ・ IV																																																																									
	風力係数	C f = 0.8k z + 0.4				風力係数	C f = 0.8k z + 0.4																																																																									
土圧・水圧	土の単位体積重量	18 kN/m ³			土圧・水圧	土の単位体積重量	18 kN/m ³																																																																									
	土圧係数	地 下 外 壁 KA = 0.5				土圧係数	地 下 外 壁 KA = 0.5																																																																									
土圧・水圧	設計地下水位	設計GL - 0.92 m			土圧・水圧	設計地下水位	設計GL - 0.92 m																																																																									
構造設計条件（付帯施設A）					構造設計条件（付帯施設D）																																																																											
1. 建築物の概要					1. 建築物の概要																																																																											
<table><tr><td>工事名称</td><td colspan="4">双葉町立新校(仮称)建設工事</td></tr><tr><td>建設場所</td><td colspan="4">福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2</td></tr><tr><td>工事種別</td><td colspan="4">○ 新築 ・ 増築 ・ 改築</td></tr><tr><td rowspan="3">建物規模</td><td colspan="2">地下 階 地上 1 階</td><td colspan="2">塔屋 階</td></tr><tr><td colspan="2">高 さ 3.65 m</td><td colspan="2">軒 高 2.95 m</td></tr><tr><td colspan="2">建築面積 194.49 m²</td><td colspan="2">延床面積 194.49 m²</td></tr><tr><td rowspan="2">構造種別</td><td>○RC、WRC</td><td>1階</td><td>・ S</td><td>階から 階</td></tr><tr><td>・SRC</td><td>階から 階</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">骨組形式</td><td colspan="4">X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造</td></tr><tr><td colspan="4">Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造</td></tr><tr><td rowspan="2">計算ルート</td><td colspan="4">○ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3</td></tr><tr><td colspan="4">・ ルート3 ・ 令81条の2</td></tr><tr><td rowspan="2">基礎構造</td><td colspan="4">○ 直接基礎（ 独立基礎 ）</td></tr><tr><td colspan="4">・ 杭基礎（ ）</td></tr><tr><td>増築予定</td><td colspan="4">○ 無 ・有（ ）</td></tr></table>					工事名称	双葉町立新校(仮称)建設工事				建設場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2				工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築				建物規模	地下 階 地上 1 階		塔屋 階		高 さ 3.65 m		軒 高 2.95 m		建築面積 194.49 m ²		延床面積 194.49 m ²		構造種別	○RC、WRC	1階	・ S	階から 階	・SRC	階から 階			骨組形式	X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造				Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造				計算ルート	○ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3				・ ルート3 ・ 令81条の2				基礎構造	○ 直接基礎（ 独立基礎 ）				・ 杭基礎（ ）				増築予定	○ 無 ・有（ ）				2. 荷重条件 a. 地震, 積雪, 風等の荷重						
工事名称	双葉町立新校(仮称)建設工事																																																																															
建設場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2																																																																															
工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築																																																																															
建物規模	地下 階 地上 1 階		塔屋 階																																																																													
	高 さ 3.65 m		軒 高 2.95 m																																																																													
	建築面積 194.49 m ²		延床面積 194.49 m ²																																																																													
構造種別	○RC、WRC	1階	・ S	階から 階																																																																												
	・SRC	階から 階																																																																														
骨組形式	X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造																																																																															
	Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造																																																																															
計算ルート	○ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3																																																																															
	・ ルート3 ・ 令81条の2																																																																															
基礎構造	○ 直接基礎（ 独立基礎 ）																																																																															
	・ 杭基礎（ ）																																																																															
増築予定	○ 無 ・有（ ）																																																																															
地震荷重	用途係数	I = 1.25（一次設計用） I = 1.25（二次設計用）			地震荷重	用途係数	I = 1.25（一次設計用） I = 1.00（二次設計用）																																																																									
	地震地域係数	Z = 1.0				地震地域係数	Z = 1.0																																																																									
	地盤種別	第 2 種 地 盤 T = 0.6 sec				地盤種別	第 2 種 地 盤 T = 0.6 sec																																																																									
	設計用一次固有周期	T = 0.060 sec				設計用一次固有周期	T = 0.052 sec																																																																									
	振動特性係数	R t = 1.000				振動特性係数	R t = 1.000																																																																									
	標準せん断力係数	C o = 0.2（一次設計用）C o = 1.0（二次設計用）				標準せん断力係数	C o = 0.2（一次設計用）C o = 1.0（二次設計用）																																																																									
積雪荷重	地下部分の水平震度	k = 0.1（ 1 - H/40） Z			積雪荷重	地下部分の水平震度	k = 0.1（ 1 - H/40） Z																																																																									
	短期	600 N/m ²	最深積雪量 H s = 30 cm			短期	600 N/m ²	最深積雪量 H s = 30 cm																																																																								
風荷重	長期	0 N/m ²	単位重量 W s = 20 N/m ² ・cm		風荷重	長期	0 N/m ²	単位重量 W s = 20 N/m ² ・cm																																																																								
	速度圧 q	q = 0.6EV o ² V o = 30.0 m/sec				速度圧 q	q = 0.6EV o ² V o = 30.0 m/sec																																																																									
土圧・水圧	地表面粗度区分	・ I ・ II ○ III ・ IV			土圧・水圧	地表面粗度区分	・ I ・ II ○ III ・ IV																																																																									
	風力係数	C f = 0.8k z + 0.4				風力係数	C f = 0.8k z + 0.4																																																																									
土圧・水圧	土の単位体積重量	18 kN/m ³			土圧・水圧	土の単位体積重量	18 kN/m ³																																																																									
	土圧係数	地 下 外 壁 KA = 0.5				土圧係数	地 下 外 壁 KA = 0.5																																																																									
土圧・水圧	設計地下水位	設計GL - 0.92 m			土圧・水圧	設計地下水位	設計GL - 0.92 m																																																																									
構造設計条件（付帯施設B）					構造設計条件（各棟共通）																																																																											
1. 建築物の概要					b. 積載荷重 (N/m ²)																																																																											
<table><tr><td>工事名称</td><td colspan="4">双葉町立新校(仮称)建設工事</td></tr><tr><td>建設場所</td><td colspan="4">福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2</td></tr><tr><td>工事種別</td><td colspan="4">○ 新築 ・ 増築 ・ 改築</td></tr><tr><td rowspan="3">建物規模</td><td colspan="2">地下 階 地上 1 階</td><td colspan="2">塔屋 階</td></tr><tr><td colspan="2">高 さ 3.74 m</td><td colspan="2">軒 高 3.70 m</td></tr><tr><td colspan="2">建築面積 222.00 m²</td><td colspan="2">延床面積 219.00 m²</td></tr><tr><td rowspan="2">構造種別</td><td>○RC、WRC</td><td>1階</td><td>・ S</td><td>階から 階</td></tr><tr><td>・SRC</td><td>階から 階</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">骨組形式</td><td colspan="4">X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造</td></tr><tr><td colspan="4">Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造</td></tr><tr><td rowspan="2">計算ルート</td><td colspan="4">・ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3</td></tr><tr><td colspan="4">○ ルート3 ・ 令81条の2</td></tr><tr><td rowspan="2">基礎構造</td><td colspan="4">○ 直接基礎（ 独立基礎, ペタ基礎 ）</td></tr><tr><td colspan="4">・ 杭基礎（ ）</td></tr><tr><td>増築予定</td><td colspan="4">○ 無 ・有（ ）</td></tr></table>					工事名称	双葉町立新校(仮称)建設工事				建設場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2				工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築				建物規模	地下 階 地上 1 階		塔屋 階		高 さ 3.74 m		軒 高 3.70 m		建築面積 222.00 m ²		延床面積 219.00 m ²		構造種別	○RC、WRC	1階	・ S	階から 階	・SRC	階から 階			骨組形式	X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造				Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造				計算ルート	・ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3				○ ルート3 ・ 令81条の2				基礎構造	○ 直接基礎（ 独立基礎, ペタ基礎 ）				・ 杭基礎（ ）				増築予定	○ 無 ・有（ ）				c. 特殊荷重 (kN)						
工事名称	双葉町立新校(仮称)建設工事																																																																															
建設場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2																																																																															
工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築																																																																															
建物規模	地下 階 地上 1 階		塔屋 階																																																																													
	高 さ 3.74 m		軒 高 3.70 m																																																																													
	建築面積 222.00 m ²		延床面積 219.00 m ²																																																																													
構造種別	○RC、WRC	1階	・ S	階から 階																																																																												
	・SRC	階から 階																																																																														
骨組形式	X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造																																																																															
	Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造																																																																															
計算ルート	・ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3																																																																															
	○ ルート3 ・ 令81条の2																																																																															
基礎構造	○ 直接基礎（ 独立基礎, ペタ基礎 ）																																																																															
	・ 杭基礎（ ）																																																																															
増築予定	○ 無 ・有（ ）																																																																															
地震荷重	用途係数	I = 1.25（一次設計用） I = 1.25（二次設計用）			地震荷重	用途係数	I = 1.25（一次設計用） I = 1.25（二次設計用）																																																																									
	地震地域係数	Z = 1.0				地震地域係数	Z = 1.0																																																																									
	地盤種別	第 2 種 地 盤 T = 0.6 sec				地盤種別	第 2 種 地 盤 T = 0.6 sec																																																																									
	設計用一次固有周期	T = 0.066 sec				設計用一次固有周期	T = 0.066 sec																																																																									
	振動特性係数	R t = 1.000				振動特性係数	R t = 1.000																																																																									
	標準せん断力係数	C o = 0.2（一次設計用）C o = 1.0（二次設計用）				標準せん断力係数	C o = 0.2（一次設計用）C o = 1.0（二次設計用）																																																																									
積雪荷重	地下部分の水平震度	k = 0.1（ 1 - H/40） Z			積雪荷重	地下部分の水平震度	k = 0.1（ 1 - H/40） Z																																																																									
	短期	600 N/m ²	最深積雪量 H s = 30 cm			短期	600 N/m ²	最深積雪量 H s = 30 cm																																																																								
風荷重	長期	0 N/m ²	単位重量 W s = 20 N/m ² ・cm		風荷重	長期	0 N/m ²	単位重量 W s = 20 N/m ² ・cm																																																																								
	速度圧 q	q = 0.6EV o ² V o = 30.0 m/sec				速度圧 q	q = 0.6EV o ² V o = 30.0 m/sec																																																																									
土圧・水圧	地表面粗度区分	・ I ・ II ○ III ・ IV			土圧・水圧	地表面粗度区分	・ I ・ II ○ III ・ IV																																																																									
	風力係数	C f = 0.8k z + 0.4				風力係数	C f = 0.8k z + 0.4																																																																									
土圧・水圧	土の単位体積重量	18 kN/m ³			土圧・水圧	土の単位体積重量	18 kN/m ³																																																																									
	土圧係数	地 下 外 壁 KA = 0.5				土圧係数	地 下 外 壁 KA = 0.5																																																																									
土圧・水圧	設計地下水位	設計GL - 0.92 m			土圧・水圧	設計地下水位	設計GL - 0.92 m																																																																									
構造設計条件（付帯施設E）					構造設計条件（各棟共通）																																																																											
1. 建築物の概要					b. 積載荷重 (N/m ²)																																																																											
<table><tr><td>工事名称</td><td colspan="4">双葉町立新校(仮称)建設工事</td></tr><tr><td>建設場所</td><td colspan="4">福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2</td></tr><tr><td>工事種別</td><td colspan="4">○ 新築 ・ 増築 ・ 改築</td></tr><tr><td rowspan="3">建物規模</td><td colspan="2">地下 階 地上 1 階</td><td colspan="2">塔屋 階</td></tr><tr><td colspan="2">高 さ 3.55 m</td><td colspan="2">軒 高 2.95 m</td></tr><tr><td colspan="2">建築面積 114.44 m²</td><td colspan="2">延床面積 114.44 m²</td></tr><tr><td rowspan="2">構造種別</td><td>○RC、WRC</td><td>1階</td><td>・ S</td><td>階から 階</td></tr><tr><td>・SRC</td><td>階から 階</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">骨組形式</td><td colspan="4">X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造</td></tr><tr><td colspan="4">Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造</td></tr><tr><td rowspan="2">計算ルート</td><td colspan="4">○ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3</td></tr><tr><td colspan="4">・ ルート3 ・ 令81条の2</td></tr><tr><td rowspan="2">基礎構造</td><td colspan="4">○ 直接基礎（ 布基礎, ペタ基礎 ）</td></tr><tr><td colspan="4">・ 杭基礎（ ）</td></tr><tr><td>増築予定</td><td colspan="4">○ 無 ・有（ ）</td></tr></table>					工事名称	双葉町立新校(仮称)建設工事				建設場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2				工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築				建物規模	地下 階 地上 1 階		塔屋 階		高 さ 3.55 m		軒 高 2.95 m		建築面積 114.44 m ²		延床面積 114.44 m ²		構造種別	○RC、WRC	1階	・ S	階から 階	・SRC	階から 階			骨組形式	X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造				Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造				計算ルート	○ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3				・ ルート3 ・ 令81条の2				基礎構造	○ 直接基礎（ 布基礎, ペタ基礎 ）				・ 杭基礎（ ）				増築予定	○ 無 ・有（ ）				c. 特殊荷重 (kN)						
工事名称	双葉町立新校(仮称)建設工事																																																																															
建設場所	福島県双葉郡双葉町大字新山字東館1番 福島県双葉郡双葉町大字長塚字深谷184番2																																																																															
工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築																																																																															
建物規模	地下 階 地上 1 階		塔屋 階																																																																													
	高 さ 3.55 m		軒 高 2.95 m																																																																													
	建築面積 114.44 m ²		延床面積 114.44 m ²																																																																													
構造種別	○RC、WRC	1階	・ S	階から 階																																																																												
	・SRC	階から 階																																																																														
骨組形式	X方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造																																																																															
	Y方向 ： 壁式鉄筋コンクリート造																																																																															
計算ルート	○ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3																																																																															
	・ ルート3 ・ 令81条の2																																																																															
基礎構造	○ 直接基礎（ 布基礎, ペタ基礎 ）																																																																															
	・ 杭基礎（ ）																																																																															
増築予定	○ 無 ・有（ ）																																																																															
					<table><tr><td>室 名</td><td>床</td><td>小 梁</td><td>架 構</td><td>地 震</td></tr><tr><td>集会室（その他）</td><td>3,500</td><td>3,500</td><td>3,200</td><td>2,100</td></tr><tr><td>キッチン、ランチルーム</td><td>2,900</td><td>2,900</td><td>2,400</td><td>1,300</td></tr><tr><td>図書ひろば</td><td>5,900</td><td>5,900</td><td>5,400</td><td>4,900</td></tr><tr><td>閉架書庫</td><td>11,800</td><td>11,800</td><td>10,300</td><td>7,400</td></tr><tr><td>倉庫、器具庫</td><td>7,800</td><td>7,800</td><td>6,900</td><td>4,900</td></tr><tr><td>機械置場</td><td>4,900</td><td>4,900</td><td>2,400</td><td>1,300</td></tr><tr><td>歩行屋根（学校）</td><td>2,900</td><td>2,900</td><td>2,400</td><td>1,300</td></tr><tr><td>非歩行屋根</td><td>1,000</td><td>1,000</td><td>600</td><td>400</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					室 名	床	小 梁	架 構	地 震	集会室（その他）	3,500	3,500	3,200	2,100	キッチン、ランチルーム	2,900	2,900	2,400	1,300	図書ひろば	5,900	5,900	5,400	4,900	閉架書庫	11,800	11,800	10,300	7,400	倉庫、器具庫	7,800	7,800	6,900	4,900	機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300	歩行屋根（学校）	2,900	2,900	2,400	1,300	非歩行屋根	1,000	1,000	600	400																										
室 名	床	小 梁	架 構	地 震																																																																												
集会室（その他）	3,500	3,500	3,200	2,100																																																																												
キッチン、ランチルーム	2,900	2,900	2,400	1,300																																																																												
図書ひろば	5,900	5,900	5,400	4,900																																																																												
閉架書庫	11,800	11,800	10,300	7,400																																																																												
倉庫、器具庫	7,800	7,800	6,900	4,900																																																																												
機械置場	4,900	4,900	2,400	1,300																																																																												
歩行屋根（学校）	2,900	2,900	2,400	1,300																																																																												
非歩行屋根	1,000	1,000	600	400																																																																												

調査位置図



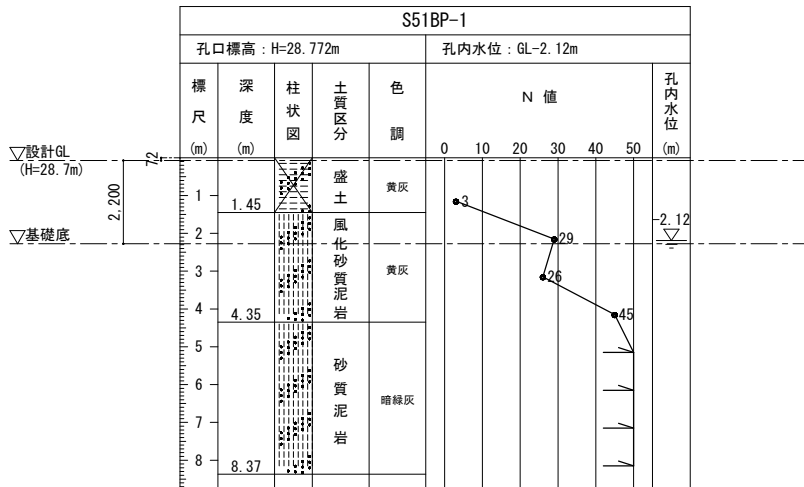
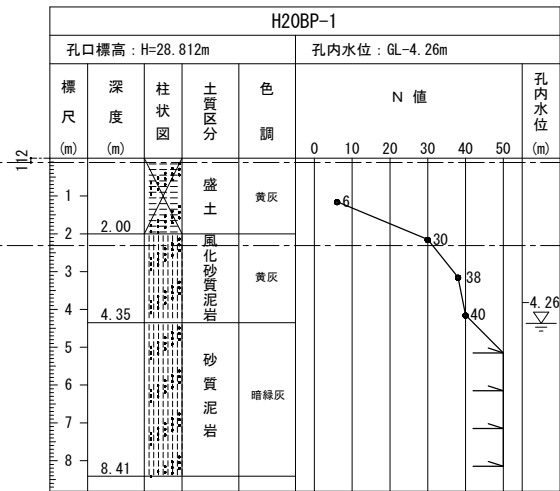
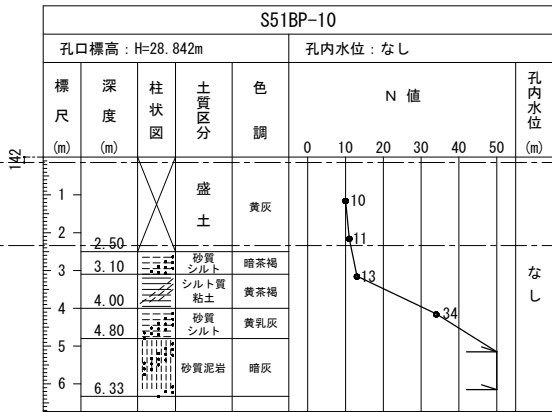
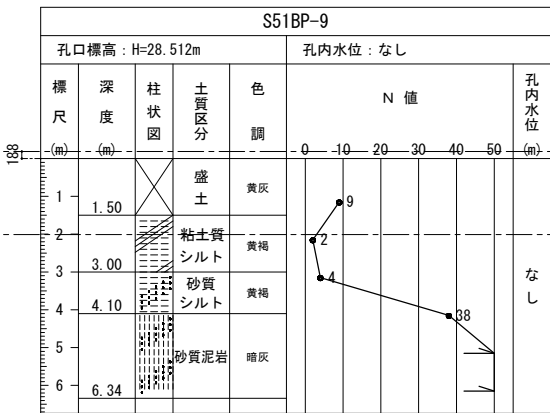
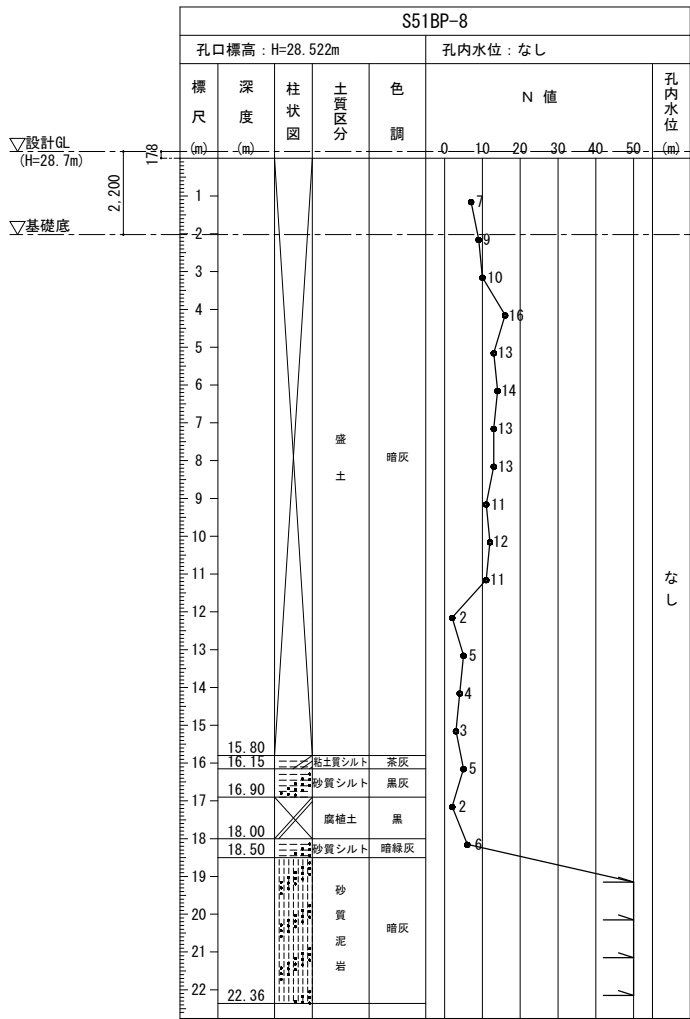
土質柱状図



土質柱状図



土質柱状図



《特記仕様書の注意事項》 1.本書は本工事の特記仕様書であり、本工事に適用する特記事項は下記による。 1)特記事項の適用は、項目の番号に○印のついたものとする。 2)特記事項で材料種別・工法等を選択指示するものは、○印のついたものを適用する。○印のない場合は＊印のついたものを適用する。 2.本書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書最新版（以下「標準仕様書」と略称）による。 3.項目欄の章番号及び、（ ）の数字は「標準仕様書」の該当項目番号を示す。 4.設計図書の優先順位は次のとおりとする。 （1）質疑回答書（（2）から（5）までに対するもの） （2）現場説明書 （3）特記仕様書 （4）設計図 （5）標準仕様書 設計図の中の優先順位は、（1）詳細図（2）配筋標準図とする。 5.JASS5は2022年版、JASS6は2018年版に従う。 《一般事項》 1.監理者の検査を受ける必要がある場合、現場内検査は検査予定日の一週間前までに、現場外検査は検査予定日の二週間前までに連絡する。 2.本工事の施工に先立ち、各工事に別施工計画書及び施工図を作成し、監理者の承諾を受ける。 施工計画書 ○ 仮設計画書 ○ 土工事施工計画書 ・杭工事施工計画書 ○ 鉄筋工事施工計画書 ○ コンクリート工事施工計画書 ○ 型枠工事施工計画書 ○ 鉄骨工事施工計画書 ・緊張工事施工計画書 ・木工事施工計画書 ○ 地盤改良工事施工計画書 施工図 ○ 躯体図 ○ 型枠割付図 ○ 配筋詳細図 ○ 鉄骨工作図 ・ 鋼鋼（鉄）製作図 ・ P C鋼材配線図 ・ 3.工事が完成したときは監理者の指示により、竣工図として下記のものを作成し提出する。 ○ 各階伏図 ○ 軸組図 ○ 各断面リスト ○ 施工図	
3. 土 工 事	
項 目	特 記 事 項
① 根切り (3.2.1) 山留め (3.3)	2節 根 切 り 及 び 埋 戻 し 根切りにより工事現場内外に有害な影響を与えないよう、かつ土砂が崩壊しないよう関係法令等に従い、下記の工法を参考に請負者の責任において適切なのり面または山留めを設けて根切りを行う。また、必要に応じて計測を行い、災害の防止に努める。 山留め壁 ・ 法付けオープンカット工法 ・ 親杭横矢板工法（必要に応じて(簡易山留を含む)） ○ 鋼製矢板壁工法 ・ ソイルセメント柱列山留め壁工法 ・ 連続地中壁工法 支保工 ○ 水平切梁工法 ・ 逆打ち工法 ・ アイランド工法 ・ 地盤アンカー工法 根切り底の仕上り面の精度 ○ 設計レベル±20mm以内 根切り底の検査 ○ 要 ・ 不要 山留めの残置 ○ 不要となった山留めは廃棄物となるため残置しない。ただし、有用性がある場合や技術的に撤去不可能な場合で建築主との協議の上残置する場合はこの限りでない。この場合、残置した山留めは記録に残し、引渡し時建築主に提出する。

項 目	特 記 事 項
② 排水 (3.2.2)	排水により工事現場内外、根切り底、のり面などに有害な影響を与えないように、下記の工法を参考にし、請負者の責任において工事を行う。 排水工法 ⓧ 釜場排水工法 ・ ディープウェル排水工法 ・ ウェルポイント排水工法
③ 埋戻し及び盛土 (3.2.3)	埋戻し及び盛土の種別 ・ A種 山砂の類 ⓧ B種 根切り土の中の良質土 ・ C種 他現場の建設発生土の中の良質土 ・ D種 再生コンクリート砂
④ 建設発生土の処理 (3.2.5)	処理方法 ⓧ 構外搬出適切処理 ・
⑤ 障害物 (3.2.1)	ⓧ 工事に支障があるものは完全撤去 工事に支障がなく撤去しない場合においては、認知した部分の処理内容を監理者に報告し対応を協議する。また、残置した地中障害は記録に残し、引渡し時建築主に提出する。
⑥ 道路補修	ⓧ 工事により破損した構内外の道路は完全補修 ・
7. 土質調査	調査項目 ・ ボーリング m 本 ・ 標準貫入試験 (ⓧ 1.0m毎 ・) ・ スウェーデン式サウンディング ヶ所 (土質調査位置は協議による。)

4. 地 業 工 事

項 目	特 記 事 項			
2節 試験及び報告書				
1. 試験杭及び支持力の確認 (4.2.2)	試験杭の報告書は「標準仕様書」4.2.5 による。 試験杭の仕様 ・ 特定埋込み工法 ・ 「標準仕様書」4.3.5による ・ セメントミルク工法 ・ 「標準仕様書」4.3.4による ・ 場所打ちコンクリート杭 ・ 「標準仕様書」4.5.4、4.5.5、4.5.6による ・ 鋼管杭 ・ 「標準仕様書」4.4.4、4.3.5による ・ 認定工法 ・ 工法で定める仕様による 試験杭の位置 ⓧ 図示			
2. 載荷試験 (4.2.3) (4.2.4)	・ 平板載荷試験			
	名 称	試験深さ (m)	最大荷重 (kN)	箇所数
		設計GLー		
		設計GLー		
		設計GLー		
	荷重制御 ⓧ 1サイクル法 ・ 多サイクル法			
	ⓧ 詳細な位置は図示する 試験の方法は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」4章2節による。			

項 目	特 記 事 項																																			
3. 既製コン クリート 杭 (4.3)	・ 杭載荷試験																																			
	<table><tr><td>名 称</td><td>杭径 (mm)</td><td>本数</td><td>試験種別</td><td>最大荷重 (kN)</td><td>備 考</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・ 鉛直 ・ 水平</td><td></td><td></td></tr></table>	名 称	杭径 (mm)	本数	試験種別	最大荷重 (kN)	備 考				・ 鉛直 ・ 水平																									
	名 称	杭径 (mm)	本数	試験種別	最大荷重 (kN)	備 考																														
				・ 鉛直 ・ 水平																																
	* 詳細な位置は図示する 試験の方法は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築 工事監理指針」4章2節による。																																			
	3節 既製コンクリート杭地業																																			
	材料 (4.3.3)																																			
	<table><tr><td colspan="2">種 類</td><td>規格名称等</td><td colspan="3">区 分 等</td></tr><tr><td>・ PHC杭</td><td>高強度プレスト レストコンクリ ート杭</td><td>JIS A 5373及び 評定・評価基準</td><td>・ A種 ・ C種 ・ E種</td><td>・ B種 ・ D種 ・ F種</td><td></td></tr><tr><td>・ SC杭</td><td>外殻鋼管付きコ ンクリート杭</td><td>評定・評価基準</td><td colspan="3">－</td></tr><tr><td>・ PRC杭</td><td>鉄筋又は平鋼を 入れた杭</td><td>評定・評価基準 (COPITA型同等品)</td><td>・ I 種 ・ III種</td><td>・ II種 ・ IV種</td><td></td></tr><tr><td>・ ST杭</td><td>板理断面を有する通心 力高強度プレスト・レス トコンクリート杭</td><td>評定・評価基準</td><td>・ A種 ・ C種</td><td>・ B種</td><td></td></tr></table>						種 類		規格名称等	区 分 等			・ PHC杭	高強度プレスト レストコンクリ ート杭	JIS A 5373及び 評定・評価基準	・ A種 ・ C種 ・ E種	・ B種 ・ D種 ・ F種		・ SC杭	外殻鋼管付きコ ンクリート杭	評定・評価基準	－			・ PRC杭	鉄筋又は平鋼を 入れた杭	評定・評価基準 (COPITA型同等品)	・ I 種 ・ III種	・ II種 ・ IV種		・ ST杭	板理断面を有する通心 力高強度プレスト・レス トコンクリート杭	評定・評価基準	・ A種 ・ C種	・ B種	
	種 類		規格名称等	区 分 等																																
	・ PHC杭	高強度プレスト レストコンクリ ート杭	JIS A 5373及び 評定・評価基準	・ A種 ・ C種 ・ E種	・ B種 ・ D種 ・ F種																															
・ SC杭	外殻鋼管付きコ ンクリート杭	評定・評価基準	－																																	
・ PRC杭	鉄筋又は平鋼を 入れた杭	評定・評価基準 (COPITA型同等品)	・ I 種 ・ III種	・ II種 ・ IV種																																
・ ST杭	板理断面を有する通心 力高強度プレスト・レス トコンクリート杭	評定・評価基準	・ A種 ・ C種	・ B種																																
杭の施工法																																				
・ セメントミルク工法(4.3.4)																																				
安定液 ・ 使用する ・ 使用しない 根固め液 ・ セメントミルク(水セメント比70%) 杭周固定液 ・ 安定液と兼用 打止め処理 ・ 圧入 ・ ドロップハンマーによる軽打 管理試験 ・ 「標準仕様書」表4.3.1による。 やっこ ・ 使用する ・ 使用しない																																				
・ 特定埋込み杭工法(4.3.5)																																				
工法名 : 安定液 ・ 使用する ・ 使用しない 根固め液 ・ 杭周固定液 ・ 打止め処理 ・ 圧入 管理試験 ・ 根固め液及び周辺固定液の強度試験 は試験杭は1本ごと、その他の杭は20 本に1回とする。 ・ やっこ ・ 使用する ・ 使用しない																																				
(4.3.6)	・ 認定工法 :																																			
	継手 ・ 溶接継手（アーク溶接） ・ 無溶接継手																																			
	N F対策 ・ なし ・ あり ・ SLコンパウンド塗布(位置は図示) ・																																			
4. 鋼杭地業 (4.4)	精度管理																																			
	施工精度は以下の値以内の数値とする。																																			
	杭芯ずれ * 100 mm以内 ・ 杭の鉛直度 * 1/100 以内 ・ 杭頭深度 * ±50 mm以内 ・																																			
	4節 鋼杭地業																																			
材料 (4.4.3)																																				
<table><tr><td>種 類</td><td>規格名称等</td><td>材 質</td></tr><tr><td>・ 鋼管杭</td><td>JIS A 5525</td><td>・ SKK400 ・ SKK490</td></tr><tr><td>・ 小径鋼管杭</td><td>JIS G 3444</td><td>・ STK400 ・ STK490</td></tr></table>						種 類	規格名称等	材 質	・ 鋼管杭	JIS A 5525	・ SKK400 ・ SKK490	・ 小径鋼管杭	JIS G 3444	・ STK400 ・ STK490																						
種 類	規格名称等	材 質																																		
・ 鋼管杭	JIS A 5525	・ SKK400 ・ SKK490																																		
・ 小径鋼管杭	JIS G 3444	・ STK400 ・ STK490																																		

項 目	特 記 事 項	
(4.4.5)	先端部の形状	・ 閉そく形 （ ＊ 平坦形 ・ ペンシル形 ） ・ 開放形 ・ 認定条件で定める仕様による
	先端部の補強	・ 図示による ・ 「標準仕様書」 図4. 4. 1及び表4. 4. 2による
	杭の施工法	・ 特定埋込み杭工法(4.3.5) 工法名 : 安定液 ・ 使用する ・ 使用しない 根固め液 ・ 杭周固定液 ・ 打止め処理 ・ 圧入 ・ 管理試験 ・ 根固め液及び周辺固定液の強度試験

項 目

特 記 事 項

調査管理強度

構造体強度補正值(S)は $3N/mm^2$ とする。

ただし、評定工法の場合は工法で定められた条件の値とする。

混和材料 * 「標準仕様書」(6.3.1)(4)による

セメントの種類 * 高炉B種 ・

上記以外(骨材等)はコンクリート工事による。

試験及び検査

試験練り ・ 要 ・ 不要

試験練りの監理者の立会い ・ 立会う ・ 立会わない

コンクリート圧縮強度試験

1日1回以上かつ $150m^3$ ごととする。

(供試体は適当な間隔をおいた運搬車3台より採取し、養生は標準養生とする。)

スランプ試験

杭1本ごとに最初の運搬車についても行い全運搬車のコンクリートについて目視検査を行う。

鉄筋及び鋼管の種類

種 別	材 質	径	適用箇所
・ 異形鉄筋	JIS G 3112	・ SD295A	D16 以下 帯筋
		・ SD345	D19～D25 主筋
		・ SD390	D29 以上 主筋
・ 鋼管	JIS A 5525	・ SKK400	
		・ SKK490	
		・ SKK400-IR	
		・ SKK490-IR	

工法名称および評定番号

(工法変更を行う場合は、同等以上の工法として監理者が認めた場合に限り工法の変更を認める。)

・

・

精度管理

施工精度は以下の値以内の数値とする。

杭芯ずれ * 100 mm以内 ・

杭の鉛直度 * 1/100 以内 ・

杭頭深度 * ± 50 mm以内 ・

孔壁測定 * 全本数(測定は直交2方向とする)

施工会社

場所打ち杭の施工会社は以下のうちいずれかとする。

ジャパンバイル株式会社

大洋基礎株式会社

東洋テクノ株式会社

日特建設株式会社

丸五基礎工業株式会社

監理者と協議の上、同等以上の技術力及び管理能力を有すると認めた場合に限り、他の施工会社の適用を承諾する。

⑥ 基礎の設計支持力

支持地盤：設計GL-1.80m～-11.30m 付近の泥岩層

杭の許容支持力

(kN/本)

杭 径 (mm)	長期許容支持力	短期許容引抜き抵抗	終局時引抜き耐力	備 考

・ 図示(部材リスト参照)

項 目	特 記 事 項			
	直接基礎の長期許容支持力			
	基礎形式	基礎深さ (m)	支持層	長期許容支持力 (kN/m ²)
	独立基礎	GL-1.80m, -2.30m	泥岩層	400
	独立基礎	GL-1.80m, -2.30m	泥岩層	500(改良地盤)
	6節 砂利、砂及び捨コンクリート地業等			
	⑦ 砂利及び砂地業 (4.6.3)	材料	＊再生クラッシャーラン、切込砂利又は切込砕石とし、 最大粒径は45mm程度、粒度は、JIS A 5001 (道路用砕石) によるC-40程度のものである。 厚さ ＊ 図示	
	⑧ 捨コンクリート地業 (4.6.4)	材料	＊ 無筋コンクリート(6.14)による。 ・ 厚さ ＊ 図示 仕上り面の精度 ＊ 設計基礎底より上へ0mm、下へ20mm以内 ・	
	⑨ 地盤改良	工法	・ 浅層混合処理工法 ・ 深層混合処理工法 ・ 施工箇所 ・ 図示	
	⑩ 床下防湿層 (4.6.2) (4.6.5)	材料	＊ JIS Z 1702による包装用ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合わせ及び基礎梁際のみ込みは250mm程度とする。 適用箇所 ＊ 意匠図による。	

5. 鉄 筋 工 事

項 目	特 記 事 項				
① 異形鉄筋 (5.2.1)	2節 材 料				
	種 別	材 質	径	備 考	
	＊ 鉄筋コンクリート用棒鋼	JIS G 3112	＊ SD295	D10～D16	
			＊ SD345	D19～D25	
			・ SD390	D29以上	
			・ SD490	D29以上	
	・ 高強度せん断補強筋	認定品	・ KW785	K10～K16	
			・ UB785	UD10～UD16	
			・ OT685	OD10～OD16	
			・ SBPD1275	U7.1～U12.6	
			・		
			・		
			・		
	② 溶接金網及び鉄筋金網 (5.2.2)	線径 (mm)	網目 (mm)	適 用 箇 所	
		＊ φ6	100×100	防水押えコンクリート補強筋	
・ φ6		100×100	外壁開口ひび割れ防止筋		
・ D10		100×100	外壁端部スパンひび割れ防止筋		
・ φ3.2		100×100	外壁中央スパンひび割れ防止筋		
・					
溶接金網はJIS G 3551の規格品とする。 鉄筋金網は材質JIS G 3112又はG 3117 SD295の規格品とする。					

項 目

特 記 事 項

③鉄筋の継手及び定着
(5.3.4)

3節加工及び組立

接合方法	適用箇所
⊙ ガス圧接継手	D19以上の柱・梁の主筋
⊙ 重ね継手	ガス圧接以外の継手
・ 重ねアーク溶接	SRC造仕口部の帯筋
・ 機械式継手	D29以上の柱・梁主筋
・ 機械式定着	D29以上の柱・梁主筋
・	

○ 鉄筋の定着長さは、配筋標準図による

- ・ 機械式継手は 同等以上とする
- ・ 機械式定着は 同等以上とする

④鉄筋のかぶり厚さ
(5.3.5)

⊙ 鉄筋の設計かぶり厚さは、配筋標準図による。

・ 耐久性上不利な箇所などの鉄筋のかぶり厚さは下表による。

かぶり厚さ	適用箇所
配筋標準図+10mm	

⊙ かぶり厚さは目地底からの厚さとする。

⑤帯筋
(別図2.2)

⊙ H形

- ・ W-I形
- ・ S P形（スパイラル筋）

・ 丸形

・ 溶接閉鎖型

⑥ガス圧接
(5.4)

圧接会社

ガス圧接は（公社）日本鉄筋継手協会に認定された優良圧接会社認定を受けた会社より選定する。

ガス圧接技能資格者

⊙ 手動圧接 （公社）日本鉄筋継手協会がJIS Z 3881の試験に基づき認めた技能資格種別2種以上の者とする。

・ 自動圧接 （公社）日本鉄筋継手協会に認定された者とする。

* SD390以上の高強度鉄筋に圧接を採用する場合は高分子ガス圧接継手を推奨する。

圧接部試験の合否判定基準は高分子ガス圧接継手の協会で定める基準による。

試験及び検査

検査項目	試験方法	時期・回数	適用箇所
⊙ 外観検査	目視	圧接作業完了時に全数	⊙ 柱、梁の主筋
⊙ 抜取り検査	⊙ 引張 JIS Z 3120 ・ 超音波探傷 JIS Z 3062	1検査ロットに ・ 3本 ⊙ 5本 1検査ロットに 30箇所以上	⊙ 柱、梁の主筋 * 柱、梁の主筋

1検査ロットは1組の作業班が1日に行った圧接箇所の数量及び200箇所以内とする。

コンクリート打設前に必ず監理者に検査結果を報告する。

試験片を採取した部分の修正

⊙ 同種の鉄筋を両端圧接する。

- ・ 同種の鉄筋を両端重ね継手とする（D25以下の場合、継手長さは50d以上）。

不良圧接の補正

⊙ 「標準仕様書」5.4.11 不合格となった圧接部への措置による。

超音波探傷検査

（一社）日本溶接協会の認定（CIW）を受けた事業所に属する者で、（公社）日本鉄筋継手協会が認定する鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者の有資格者とする。

鉄筋引張試験

⊙ 公的検査機関

- ・ 「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条第1項の規定に基づく検査機関（A類検査機関）
- ・ 「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条第2項の規定に基づく検査機関（B類検査機関）

特記事項

⑦ 梁貫通孔の補強
(別図7. 1)

補強方法
* 図示 ○ 既製品
補強箇所
・ 梁貫通位置図による。
◎ 該当機械設備図及び電気設備図による。

6. コンクリート工事

項目

特記事項

① コンクリートの種類
(6. 2. 1)

2節 コンクリートの種類及び品質

コンクリートの類別
◎ I 類 (JIS Q 1001及びJIS Q 1011に基づき、JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート)
・ II 類 (I 類以外のJIS A 5308に適合したコンクリート)
レディーミクストコンクリート工場
◎ 同一打込み工区に2つ以上の工場のコンクリートの打込みは認めない。
◎ コンクリート技師以上の技術者が常駐する工場とする。
・
[JIS A 5308-2009 取り扱い注意事項]
◎ 告示で除外するエコセメントの利用は不可とする。
◎ 再生骨材Hの利用は不可とする。

計画供用期間と耐久設計基準強度 (JASS5 3. 4による)
・ 短期 (耐久設計基準強度 18N/mm²)
◎ 標準 (耐久設計基準強度 24N/mm²)
・ 長期 (耐久設計基準強度 30N/mm²)
・ 超長期 (耐久設計基準強度 36N/mm² ※1)
※1 かぶり厚さを10mm増やした場合は、30N/mm² とすることができ

種別	設計基準強度 (:Fe) ₂ (N/mm ²)	スランブ (cm)	スランブ フロー (cm)	適用箇所
普通	24	18	—	躯体全般
	24	18	—	付帯施設全般

ラップルコンクリートの仕様は無筋コンクリート (6. 14) による。

3節 コンクリートの材料及び調査

調査計画書
◎ コンクリートの調査計画書を提出し、監理者の承諾を受ける。
◎ 調査計画において、各指定事項を満足できない場合は監理者に対応を協議する。

③ 普通コンクリート
(6. 3)

セメント ◎ (JIS R 5210) ポルトランドセメント
・ (JIS R 5211) 高炉セメント
・ (JIS R 5212) シリカセメント
・ (JIS R 5213) フライアッシュセメント

水セメント比 ◎ 65%以下 ・ %以下
単位水量 ◎ 175kg/m³以下 ・ 185kg/m³以下
単位セメント量 ◎ 270kg/m³以上 ・ kg/m³以上
混和材料 ◎ 「標準仕様書」 (6. 3. 1) (4) による
・ JIS A 6202 コンクリート用膨張材
・
水 ◎ JIS A 5308 の附属書C(規定) [レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水] による。
◎ 計画供用期間の級が長期及び超長期の場合は回収水を使用しない。

項 目	特 記 事 項																																
	③ 調査管理強度 (6. 3. 2) ③ $F_m=F_q+S$ F_m: コンクリートの調査管理強度 (N/mm²) F_q: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²) 品質基準強度は、設計基準強度又は耐久設計基準強度の内、大きいほうの値とする。 S: 構造体強度補正值 (N/mm²) ③ 構造体強度補正值 (S) ③ マスコンクリートは「標準仕様書」表6. 13. 1による。 その他のコンクリートは表6. 3. 2による。 5節 普通コンクリートの品質管理 ④ 塩化物量及びアルカリ総量 (6. 5. 4) アルカリ骨材反応抑制対策 ③ アルカリ骨材反応に関して無害と判定された骨材を使用する。 - 低アルカリ形のポルトランドセメントを使用する。 - コンクリート中の総アルカリ量を酸化ナトリウム換算で 3. 0kg/m³以下とする。(「標準仕様書」6. 5. 4(2)により判定) - 高炉セメント (B, C種)、フライアッシュセメント (B, C種) を使用する。 コンクリートに含まれる塩化物量 ③ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0. 30kg/m³以下とする。 6節 コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め ⑤ 目地 (6. 6. 4) ③ 目地の仕様及び適用箇所は意匠図による。 6. 構造スリット <table><tr><th>構造スリット</th><th>仕 様</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>完全スリット</td><td> - 既製品による※ - 図示 </td><td> - 図示 </td></tr><tr><td>部分スリット</td><td> - 既製品による※ - 図示 </td><td> - 図示 </td></tr></table>※カタログを提出し、監理者の承諾を受ける。 ⑦ 止水板 ③ 止水板の仕様、使用箇所は意匠図による。 ⑧ 打込・締め固め方法等の施工方法の確認 以下に示す項目に対して、施工計画書に施工要領を明記し、施工記録を残す。 ③ 打込み、締め固め方法 (JASS5-7節) ③ 打ち継処理方法 (JASS5-7節) ③ 養生方法 (JASS5-8節) 8節 型 枠 ③ 型枠の仕様は意匠図による。 ⑨ 型 枠 (6. 8. 2) ⑩ 型枠の存置期間及び取外し (6. 8. 4) ③ せき板の最小存置期間は下記による。<table><tr><th>施工箇所</th><th colspan="2">基礎、梁側、柱、壁</th></tr><tr><td>セメントの種類</td><td>早強ポルトランドセメント</td><td>普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種</td></tr><tr><td>存置期間中の平均気温</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合 (日)</td><td>15℃以上</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>5℃以上</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>0℃以上</td><td>5</td><td>8</td></tr><tr><td>コンクリートの圧縮強度による場合</td><td>-</td><td colspan="2">圧縮強度が 5N/mm² 以上となるまで ※ 高強度コンクリートの場合圧縮強度が 10N/mm² 以上となるまで</td></tr></table>	構造スリット	仕 様	適用箇所	完全スリット	- 既製品による※ - 図示	図示	部分スリット	- 既製品による※ - 図示	図示	施工箇所	基礎、梁側、柱、壁		セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種	存置期間中の平均気温			コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	2	3	5℃以上	3	5	0℃以上	5	8	コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上となるまで ※ 高強度コンクリートの場合圧縮強度が 10N/mm ² 以上となるまで	
構造スリット	仕 様	適用箇所																															
完全スリット	- 既製品による※ - 図示	図示																															
部分スリット	- 既製品による※ - 図示	図示																															
施工箇所	基礎、梁側、柱、壁																																
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種																															
存置期間中の平均気温																																	
コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	2	3																														
	5℃以上	3	5																														
	0℃以上	5	8																														
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上となるまで ※ 高強度コンクリートの場合圧縮強度が 10N/mm ² 以上となるまで																															

項 目	特 記 事 項																						
	(*) せき板の最小存置期間は下記による。																						
	<table><tr><th>施工箇所</th><th colspan="2">基礎、梁側、柱、壁</th></tr><tr><td>セメントの種類 存置期間中の平均気温</td><td>混合セメントのB種</td><td>中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント</td></tr><tr><td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td><td>15℃以上</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>5℃以上</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>0℃以上</td><td>10</td><td>12</td></tr><tr><td>コンクリートの圧縮強度による場合</td><td>-</td><td colspan="2">圧縮強度が 5N/mm² 以上となるまで ※ 高強度コンクリートの場合圧縮強度が 10N/mm² 以上となるまで</td></tr></table>			施工箇所	基礎、梁側、柱、壁		セメントの種類 存置期間中の平均気温	混合セメントのB種	中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	5	6	5℃以上	7	8	0℃以上	10	12	コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上となるまで ※ 高強度コンクリートの場合圧縮強度が 10N/mm ² 以上となるまで	
	施工箇所	基礎、梁側、柱、壁																					
	セメントの種類 存置期間中の平均気温	混合セメントのB種	中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント																				
	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	5	6																			
		5℃以上	7	8																			
		0℃以上	10	12																			
	コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上となるまで ※ 高強度コンクリートの場合圧縮強度が 10N/mm ² 以上となるまで																				
	※ 計画供用期間の級が長期及び超長期の場合は10N/mm ² 以上となるまでとする。ただし、せき板の取り外し後、湿潤養生を打ち切ることができる圧縮強度が得られるまで湿潤養生をしない場合は、それぞれ10N/mm ² 以上、15N/mm ² 以上に達するまでせき板を存置するものとする。湿潤養生を打ち切ることができる圧縮強度は計画供用期間の級が短期及び標準の場合は10N/mm ² 以上、長期及び超長期の場合は15N/mm ² 以上とする。																						
	(*) スラブ下支柱の最小存置期間は下記による。																						
<table><tr><th>施工箇所</th><th colspan="2">スラブ下</th></tr><tr><td>セメントの種類 存置期間中の平均気温</td><td>早強ポルトランドセメント</td><td>普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種</td></tr><tr><td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td><td>15℃以上</td><td>8</td><td>17</td></tr><tr><td>5℃以上</td><td>12</td><td>25</td></tr><tr><td>0℃以上</td><td>15</td><td>28</td></tr><tr><td>コンクリートの圧縮強度による場合</td><td>-</td><td colspan="2">圧縮強度が設計基準強度の85% 以上又は 12N/mm² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで</td></tr></table>			施工箇所	スラブ下		セメントの種類 存置期間中の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種	コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	5℃以上	12	25	0℃以上	15	28	コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が設計基準強度の85% 以上又は 12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで		
施工箇所	スラブ下																						
セメントの種類 存置期間中の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種																					
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17																				
	5℃以上	12	25																				
	0℃以上	15	28																				
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が設計基準強度の85% 以上又は 12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで																					
<table><tr><th>施工箇所</th><th colspan="2">スラブ下</th></tr><tr><td>セメントの種類 存置期間中の平均気温</td><td colspan="2">中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント、混合セメントのB種</td></tr><tr><td rowspan="3">コンクリートの材齢による場合(日)</td><td>15℃以上</td><td rowspan="3">28</td></tr><tr><td>5℃以上</td></tr><tr><td>0℃以上</td></tr><tr><td>コンクリートの圧縮強度による場合</td><td>-</td><td>圧縮強度が設計基準強度の85% 以上又は 12N/mm² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで</td></tr></table>			施工箇所	スラブ下		セメントの種類 存置期間中の平均気温	中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント、混合セメントのB種		コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	28	5℃以上	0℃以上	コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が設計基準強度の85% 以上又は 12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで							
施工箇所	スラブ下																						
セメントの種類 存置期間中の平均気温	中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント、混合セメントのB種																						
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	28																					
	5℃以上																						
	0℃以上																						
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が設計基準強度の85% 以上又は 12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで																					
* 以下に示す位置のスラブ下支柱の最小存置期間は、コンクリートの材齢による。工程上、コンクリートの圧縮強度による管理を実施する必要がある場合は、監理者と協議の上承諾を得る。																							
<table><tr><th>階</th><th>位置</th><th>管理材齢</th></tr><tr><td>2階</td><td>庇</td><td>(*) 28日以上</td></tr><tr><td></td><td></td><td>* 28日以上</td></tr><tr><td></td><td></td><td>* 28日以上</td></tr></table>			階	位置	管理材齢	2階	庇	(*) 28日以上			* 28日以上			* 28日以上									
階	位置	管理材齢																					
2階	庇	(*) 28日以上																					
		* 28日以上																					
		* 28日以上																					

項目

特記事項

* 梁下支柱の最小存置期間は下記による。

セメントの種類	施工箇所	梁 下
	存置期間中の平均気温	早強ポルトランドセメント、普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種、中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント、混合セメントのB種
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	28
	5℃以上	
	0℃以上	
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。

* 以下に示す位置の梁下支柱の最小存置期間は、コンクリートの材齢による。工程上、コンクリートの圧縮強度による管理を実施する必要がある場合は、監理者と協議の上承諾を得る。

階	位置	管理材齢
		* 28日以上
		* 28日以上
		* 28日以上

9節 試験

⑩ 試験(6.9)

試験練り

* 要

○ 不要

監理者の立会い

* 立ち会う

○ 立ち会わない

使用材料の試験

③ 使用材料は下記の材料の試験結果を提出し、監理者の承諾を受ける。

③ セメント

③ 骨材

③ 水

③ 混和材料

③ アルカリシリカ反応性試験結果

フレッシュコンクリートの試験

試験項目	試験方法	試験時期及び回数				
③ スランブ	JIS A 1101	* 表 6.9.2調査管理強度の判定及び構造体コンクリート強度の判定の供試体の作製方法による。また、打込中に品質変化が認められた場合				
③ 空気量	次のいずれか JIS A 1128 JIS A 1118 JIS A 1116					
・ 単位容積質量	JIS A 1116	<table><tr><td>普通コンクリート</td><td>必要が生じた場合</td></tr><tr><td>軽量コンクリート</td><td>表6.9.2 調査管理強度の判定及び構造体コンクリート強度の判定の頻度による。</td></tr></table>	普通コンクリート	必要が生じた場合	軽量コンクリート	表6.9.2 調査管理強度の判定及び構造体コンクリート強度の判定の頻度による。
普通コンクリート	必要が生じた場合					
軽量コンクリート	表6.9.2 調査管理強度の判定及び構造体コンクリート強度の判定の頻度による。					
③ 温度	JIS A 1156	コンクリートの打込み時の気温が25℃を超える場合又は寒中コンクリートその他必要が生じた場合				
③ 塩化物量	※2	コンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上、かつ、150m ³ 及びその端数につき1回以上				

※1 試料の採取位置は筒先とする。

※2 (一財)国土開発技術研究センターの技術評定を受けた塩化物量測定器により、試験値は同一試料における3回の測定の平均値とする。最初の測定は打込み当初とする。

供試体の養生方法、材齢

試験の目的	養生方法(注)	材 齢
調査管理強度の管理試験用	標準養生	28日
型枠取外し時期の決定用	工事現場における水中養生又は封かん養生	必要に応じて定める

(注) 養生方法は、6.9.3(1)による。

項 目	特 記 事 項													
	供試体の養生方法、材齢													
	<table><tr><th>試験の目的</th><th>養生方法^(注)</th><th>材 齢</th></tr><tr><td rowspan="3">構造体コンクリートの圧縮強度推定用</td><td>工事現場における水中養生</td><td>28日</td></tr><tr><td>工事現場における封かん養生</td><td>28日及び28日を超え91日以内</td></tr><tr><td>標準養生</td><td>28日</td></tr></table>	試験の目的	養生方法 ^(注)	材 齢	構造体コンクリートの圧縮強度推定用	工事現場における水中養生	28日	工事現場における封かん養生	28日及び28日を超え91日以内	標準養生	28日			
	試験の目的	養生方法 ^(注)	材 齢											
	構造体コンクリートの圧縮強度推定用	工事現場における水中養生	28日											
		工事現場における封かん養生	28日及び28日を超え91日以内											
		標準養生	28日											
	(注) 養生方法は、6.9.3(1)による。													
	寒中コンクリートの場合の供試体の養生方法、材齢													
	<table><tr><th>試験の目的</th><th>養生方法^(注)</th><th>材 齢</th></tr><tr><td>調査管理強度の管理試験用</td><td>標準養生</td><td>28日</td></tr><tr><td>構造体コンクリートの圧縮強度推定用</td><td rowspan="3">工事現場における封かん養生を、構造物の内側において行う</td><td>28日及び28日を超え91日以内</td></tr><tr><td>初期養生打ち切り時期の決定用</td><td>状況に応じて定める</td></tr><tr><td>型枠取外し時期の決定用</td><td>必要に応じて定める</td></tr></table>	試験の目的	養生方法 ^(注)	材 齢	調査管理強度の管理試験用	標準養生	28日	構造体コンクリートの圧縮強度推定用	工事現場における封かん養生を、構造物の内側において行う	28日及び28日を超え91日以内	初期養生打ち切り時期の決定用	状況に応じて定める	型枠取外し時期の決定用	必要に応じて定める
	試験の目的	養生方法 ^(注)	材 齢											
調査管理強度の管理試験用	標準養生	28日												
構造体コンクリートの圧縮強度推定用	工事現場における封かん養生を、構造物の内側において行う	28日及び28日を超え91日以内												
初期養生打ち切り時期の決定用		状況に応じて定める												
型枠取外し時期の決定用		必要に応じて定める												
(注) 養生方法は、6.9.3(1)による。														
(6.9.3)	試験回数													
	③ 普通コンクリートの場合、打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ、150m ³ 以下にほぼ均等に分割した単位ごとに行う。 ・ 軽量コンクリートの場合、コンクリートの種類が異なるごとに午前と午後それぞれ1回以上、かつ、コンクリート100m ³ ごと及びその端数に付き1回以上													
	1回の試験の供試体の個数													
	③ 調査管理強度の管理試験用の供試体は打込み日ごと、打込み工区ごとに1台の運搬車の試料から3個採取するものとする。 ③ 構造体コンクリートの圧縮強度推定用の供試体は、1運搬車からまとめて採取するのではなく、適当な間隔をあけた任意の運搬車から1個ずつ、合計3個採取するものとする。													
	高強度コンクリートの試験回数													
	* 調査管理強度の検査では打込み日、かつ300m ³ 毎に1回以上 * 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は打込み日、打込み工区、かつ300m ³ 毎に1回以上													
	高強度コンクリートにおける1回の試験の供試体の個数													
	* 調査管理強度の管理試験用の供試体は、適当な間隔をあけた任意の3台の運搬車から1台につき3個ずつ採取した合計9個採取するものとする。 * 構造体コンクリートの圧縮強度推定試験用の供試体は、適当な間隔をあけた任意の3台の運搬車から1台につき3個ずつ採取した合計9個の供試体を用いる。 * 構造体コンクリートの圧縮強度の試験を標準養生した試験体で行う場合、調査管理強度の管理試験と構造体コンクリートの圧縮強度推定試験の試験結果を兼用することができる。													

項 目	特 記 事 項
	構造体コンクリートの圧縮強度試験機関 ① 公的検査機関 「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条第1項の規定に基づく検査機関（A類検査機関） 「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条第2項の規定に基づく検査機関（B類検査機関）
12. 軽量コンクリート (6.10)	10節 軽 量 コ ン ク リ ー ト 種類 ・ 1種（気乾単位容積質量： ） ・ 2種（気乾単位容積質量： ） セメント ・ 普通ポルトランドセメント ・ 水セメント比 ・ 55%以下 ・ %以下 単位水量 ・ 175kg/m³以下 ・ 185kg/m³以下 単位セメント量 ・ 320kg/m³以上 ・ kg/m³以上 ただし、常時土又は水に直接接する部分に用いる場合は、340kg/m³以上とする。 混和材料 ・ 「標準仕様書」(6.3.1)(4)(a)による ・ JIS A 6202 コンクリート用膨張材
13. 寒中コンクリート (6.11)	11節 寒 中 コ ン ク リ ー ト コンクリート打込み後の養生期間に、コンクリートが凍結するおそれのある場合に施工する寒中コンクリートに適用する。 適用期間 ・ JASS5による 調合管理強度を定める材齢 ・ 28日材齢 調合管理強度の決め方 ・ 所定の設計基準強度（:Fc）が所定の材齢に得られ、かつ、初期凍害の防止に必要な圧縮強度5N/mm²が初期養生期間内に得られるように、「標準仕様書」6.11.4に基づく養生計画に応じて定める。 水セメント比 ・ 60%以下 ・ %以下 初期養生期間 ・ 圧縮強度が5N/mm²に達するまで ・ 打設の日から 日間
⑭. 暑中コンクリート (6.12)	12節 暑 中 コ ン ク リ ー ト 適用期間 ① コンクリート打設時における日平均気温の平年値が25℃を超える期間 荷卸し時のコンクリートの温度 ・ 35℃以下 ② 35℃以上となることが予想される場合は、38℃を上限とし、これに備えて、材料・調合の見直し、施工時間の短縮、養生期間の延長などにより、コンクリートの施工性の確保、構造体コンクリートの品質確保に対する方策を監理者と講じておく。 混和剤 ・ AE減水剤遅延形Ⅰ種 ・ 高性能AE減水剤遅延形Ⅰ種 ・ 流動化コンクリートの場合は、ベースコンクリートにAE減水剤遅延形Ⅰ種を用い、流動化剤は標準形とする。

項 目

特 記 事 項

15. マスコン
クリート
(6. 13)

13節　マスコンクリート

セメント

・ 中熱ポルトランドセメント

・ 低熱ポルトランドセメント

・ 高炉セメントB種

・ フライアッシュセメントB種

・ 普通ポルトランドセメント

監理者と協議の上、ひび割れ目標値を設定し、解析等により目標値以下となることを確認する。
なお、他のセメントを用いて、目標値を満足できることが確認された場合は、監理者と協議の上セメントの種類を変更することができる。

混和材料

・ AE減水剤 (JIS A 6204)

・ 高性能AE減水剤

・ コンクリート用高炉スラグ微粉末の3000若しくは4000 (JIS A 6206)

・ フライアッシュのⅠ種若しくはⅡ種 (JIS A 6201)

調査管理強度を決める材齢　・ 28日以上91日以内

荷卸し時のコンクリートの温度

・ 35℃以下

・

7. 鉄 骨 工 事

項 目	特 記 事 項																																										
① 鉄骨製作工場 (7.1.3) (7.1.4)	1節 一般事項 ② 指定工場：性能評価基準「・J、・R、○M、・H、・Sグレード」と同等以上の工場とする。 施工管理技術者 ② 適用する ・ 適用しない 2節 材 料 使用材の規格・種類は下記により、適用箇所は図示による。 鋼材の規格・種別 <table><tr><th>種 別</th><th>規格番号</th><th>種類の記号</th></tr><tr><td rowspan="3">② 圧延鋼材</td><td>JIS G 3101</td><td>○ SS400 ・ SS540 ・ SS490</td></tr><tr><td>JIS G 3106</td><td>・ SM400A ・ SM490A ・ SM520B ・ SM400B ・ SM490B ・ SM520C</td></tr><tr><td>JIS G 3136</td><td>・ SN400A ・ SN400C ○ SN490C ○ SN400B ○ SN490B</td></tr><tr><td>・ 耐候性鋼材</td><td>JIS G 3114</td><td>・ SMA400AW ・ SMA490AW ・ SMA400AP ・ SMA490AP</td></tr><tr><td rowspan="3">② 圧延棒鋼</td><td>JIS G 3138</td><td>・ SNR400A ・ SNR490B ○ SNR400B</td></tr><tr><td>JIS B 1220</td><td>・ ABR400 ・ ABR490</td></tr><tr><td>JIS B 1221</td><td>・ ABM400 ・ ABM490</td></tr><tr><td>② 軽量形鋼</td><td>JIS G 3350</td><td>○ SSC400</td></tr><tr><td>・ 溶接軽量H形鋼</td><td>JIS G 3353</td><td>・ SWH400 ・ SWH400L</td></tr><tr><td rowspan="3">② 炭素鋼管</td><td>JIS G 3444</td><td>○ STK400 ・ STK490</td></tr><tr><td>JIS G 3475</td><td>・ STKN400W ・ STKN490B ・ STKN400B</td></tr><tr><td>JIS G 3466</td><td>・ STKR400 ・ STKR490</td></tr><tr><td rowspan="3">② 角形鋼管</td><td>認定品</td><td>○ BCR295</td></tr><tr><td rowspan="2">評定 評価基準</td><td>・ BCP235 ・ BCP325</td></tr><tr><td>・ SHC400B ・ SHC490B ・ SHC400C ・ SHC490C</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table> 鋼材の規格 ② 鋼材は規格品とし、規格証明書を監督員に提出し承諾を受ける。上記規格品以外の鋼材は使用箇所、品質、性能、製造会社等について監督員の承諾を受けた場合に限り使用できる。 鋼材の材料 ② 鋼材は、高炉鋼材を使用する。電炉鋼材は使用箇所、品質、性能、製造会社等について監督員の承諾を受けた場合に限り使用できる。	種 別	規格番号	種類の記号	② 圧延鋼材	JIS G 3101	○ SS400 ・ SS540 ・ SS490	JIS G 3106	・ SM400A ・ SM490A ・ SM520B ・ SM400B ・ SM490B ・ SM520C	JIS G 3136	・ SN400A ・ SN400C ○ SN490C ○ SN400B ○ SN490B	・ 耐候性鋼材	JIS G 3114	・ SMA400AW ・ SMA490AW ・ SMA400AP ・ SMA490AP	② 圧延棒鋼	JIS G 3138	・ SNR400A ・ SNR490B ○ SNR400B	JIS B 1220	・ ABR400 ・ ABR490	JIS B 1221	・ ABM400 ・ ABM490	② 軽量形鋼	JIS G 3350	○ SSC400	・ 溶接軽量H形鋼	JIS G 3353	・ SWH400 ・ SWH400L	② 炭素鋼管	JIS G 3444	○ STK400 ・ STK490	JIS G 3475	・ STKN400W ・ STKN490B ・ STKN400B	JIS G 3466	・ STKR400 ・ STKR490	② 角形鋼管	認定品	○ BCR295	評定 評価基準	・ BCP235 ・ BCP325	・ SHC400B ・ SHC490B ・ SHC400C ・ SHC490C	・		
	種 別	規格番号	種類の記号																																								
② 圧延鋼材	JIS G 3101	○ SS400 ・ SS540 ・ SS490																																									
	JIS G 3106	・ SM400A ・ SM490A ・ SM520B ・ SM400B ・ SM490B ・ SM520C																																									
	JIS G 3136	・ SN400A ・ SN400C ○ SN490C ○ SN400B ○ SN490B																																									
・ 耐候性鋼材	JIS G 3114	・ SMA400AW ・ SMA490AW ・ SMA400AP ・ SMA490AP																																									
② 圧延棒鋼	JIS G 3138	・ SNR400A ・ SNR490B ○ SNR400B																																									
	JIS B 1220	・ ABR400 ・ ABR490																																									
	JIS B 1221	・ ABM400 ・ ABM490																																									
② 軽量形鋼	JIS G 3350	○ SSC400																																									
・ 溶接軽量H形鋼	JIS G 3353	・ SWH400 ・ SWH400L																																									
② 炭素鋼管	JIS G 3444	○ STK400 ・ STK490																																									
	JIS G 3475	・ STKN400W ・ STKN490B ・ STKN400B																																									
	JIS G 3466	・ STKR400 ・ STKR490																																									
② 角形鋼管	認定品	○ BCR295																																									
	評定 評価基準	・ BCP235 ・ BCP325																																									
		・ SHC400B ・ SHC490B ・ SHC400C ・ SHC490C																																									
・																																											
③ 高力ボルト (7.2.2) (7.4)	ボルトの種類 ・ JIS形高力ボルト(JIS B 1186) (セツトの種類 ・ 2種(F10T) ・) ② トルシア形高力ボルト(認定品) (セツトの種類 ② 2種(S10T) 認定番号：MBLT-0189 同等品) ② 溶融亜鉛めつき高力ボルト(認定品) (セツトの種類 ○ 1種(F8T相当) 認定番号：MBLT-0050 同等品)																																										

項 目	特 記 事 項
③ 普通ボルト (7.2.3) (7.5)	⊛「標準仕様書」7.2.3、7.5による。 ・
④ アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	アンカーボルトの材質 (構造用) ⊛ JIS G 3138のSNR400B ・ JIS G 3138のSNR490B ・ JIS G 3101のSS400 ⊙ 認定品のSD390(認定番号: MBLT-0197) ⊙ 認定品のSD490(認定番号: MBLT-0199, MBLT-0215) (建方用) ・ JIS G 3138のSNR400B ・ JIS G 3138のSNR490B ・ JIS G 3101のSS400 ・ アンカーボルト及びナットのねじの種類、ねじの等級の規格及び仕上げの程度 (構造用) ・ JIS B 1220のABR ・ JIS B 1221のABM ⊙ 「標準仕様書」表7.2.3 ⊙ 認定品による (建方用) ・ 「標準仕様書」表7.2.3 ・
⑤ ターンバックル (7.2.6)	ターンバックル(JIS A 5540)の種類 ターンバックル胴 ⊛ 割枠式 ・ パイプ式 ターンバックルボルト ⊛ 羽子板ボルト ・ 両ネジボルト ・ アイボルト
⑥ デッキプレート (7.2.7)	デッキプレートの材質・形状及び寸法 ⊛ 図示 ・
⑦ 柱底均しモルタル (7.2.9)	モルタルの種類 ⊛ 無収縮モルタル(「標準仕様書」表7.2.6) ・
	4節 高力ボルト接合
⑧ 摩擦面の性能及び処理 (7.4.2)	⊛「標準仕様書」7.4.2による。 すべり係数試験 ⊛ 行わない ・ 行う(判定基準: $\mu=0.45$以上) 試験の方法、試験片の状態は日本建築学会「高力ボルト接合部設計施工ガイドブック」による。 現場軸力導入確認試験 ・ 行わない ⊛ 行う 未開封のまま現場に搬入され、適切に受け入れ・保管された高力ボルトについては省略可とする。

項 目	特 記 事 項
⑨ 施工管理技術者 (7.6.2)	6節 溶接接合 溶接管理技術者 ⓧ 溶接管理技術者は、「標準仕様書」7.6.2による。
⑩ 技能資格者 (7.6.3)	溶接技能者 ⓧ 溶接工及びスタッド溶接技能者は「標準仕様書」7.6.3による。 溶接技能者の技量付加試験 ⓧ 行わない ・ 行う 試験の目的 ・ 現場溶接部の技量確認試験

項 目	特 記 事 項														
	検査規準 外観・精度検査規準 （＊）JASS 6 「鉄骨精度検査規準」による。 ・ 超音波探傷検査による溶接部の合否判定規準 （＊）日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」の疲労を考慮しない溶接部 （1）溶接部に引張応力が作用する場合による。 放射線試験の規準 ・ JIS Z 3104 の3級以上を合格とする。 検査機関 「標準仕様書」7.6.11によると共に、請負者は検査機関に直接発注方式とする。 外観検査は、WES-8103溶接技術者資格認定試験2級以上の者とする。 検査会社は（社）日本溶接協会 溶接検査認定委員会の認定事業者とする。 検査会社														
	7節 スタッド溶接及びデッキプレート溶接														
⑭ スタッド溶接	スタッド溶接材料 <table><tr><th>種類</th><th>材 質</th><th>径</th><th>備 考</th></tr><tr><td>○頭付きスタッド</td><td>JIS B 1198</td><td>○図示 ・ φ</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ 異形筋スタッド</td><td rowspan="2">機械的性質は、 JIS G 3112の SD345と同等品</td><td>D16以下</td><td>株式会社神戸製鋼所 KSW400 同等以上</td></tr><tr><td>D19以上</td><td>株式会社神戸製鋼所 KSW490 同等以上</td></tr></table> デッキプレート貫通溶接可能箇所 （＊）小梁 ・ 小梁及び大梁	種類	材 質	径	備 考	○頭付きスタッド	JIS B 1198	○図示 ・ φ		・ 異形筋スタッド	機械的性質は、 JIS G 3112の SD345と同等品	D16以下	株式会社神戸製鋼所 KSW400 同等以上	D19以上	株式会社神戸製鋼所 KSW490 同等以上
種類	材 質	径	備 考												
○頭付きスタッド	JIS B 1198	○図示 ・ φ													
・ 異形筋スタッド	機械的性質は、 JIS G 3112の SD345と同等品	D16以下	株式会社神戸製鋼所 KSW400 同等以上												
		D19以上	株式会社神戸製鋼所 KSW490 同等以上												
⑮ デッキプレート溶接 (7.7.8)	溶接の仕様は設計図による。 アーク溶接、アークスポット溶接、スタッド溶接は日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」、「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」に準じて行う。溶接工は薄板溶接に十分な技量を有する者とし、JIS Z 3801（溶接技術検定における試験方法及びその判定基準）の有資格者とする。														
	8節 錆止め塗装														
⑯ 錆止め塗装の範囲 (7.8.2)	（＊）「標準仕様書」7.8.2による。 ・														
⑰ 錆止め塗装の種別 (7.8.4)	○ 鉄骨造部分 （＊）JIS K 5674の製作工場2回塗りとし、塗り種別は表18.3.1より見え掛かり部分をA種、見え隠れ部分はB種とする。 ・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブ内面 ・ JIS K 5674 2回塗りとし、塗り種別は表18.3.1よりA種とする。														

項 目	特 記 事 項																											
⑱ 耐火被覆 (7.9)	9節 耐火被覆 耐火被覆 ⓧ 要(仕様は意匠図による) ・ 不要 防火被覆 * 要(仕様は意匠図による) ○ 不要																											
⑲ アンカーボルト等の設置 (7.10.3)	10節 工事現場施工 アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 <table><tr><th>種 別</th><th>適 用 箇 所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>○ A種</td><td>柱脚全般</td><td></td></tr><tr><td>ⓧ B種</td><td>鉄骨階段等の2次部材</td><td></td></tr><tr><td>・ C種</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 柱底均しモルタルの工法(モルタル厚さは図示による) <table><tr><th>種 別</th><th>適 用 箇 所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>ⓧ A種</td><td>柱脚全般</td><td></td></tr><tr><td>・ B種</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種 別	適 用 箇 所	備 考	○ A種	柱脚全般		ⓧ B種	鉄骨階段等の2次部材		・ C種						種 別	適 用 箇 所	備 考	ⓧ A種	柱脚全般		・ B種					
種 別	適 用 箇 所	備 考																										
○ A種	柱脚全般																											
ⓧ B種	鉄骨階段等の2次部材																											
・ C種																												
種 別	適 用 箇 所	備 考																										
ⓧ A種	柱脚全般																											
・ B種																												
⑳ 建方 (7.10.5)	建方工法及び仮設材 ⓧ 建方は請負者の責任で安全に行う。 ・ 施工時解析を行う。 検査(「標準仕様書」7.10.5による) ⓧ 建入れ検査(建方精度は、日本建築学会「鉄骨精度検査規準」による) ・ たわみ測定(適用箇所：) ⓧ 請負者は、建方が完了した時点で、形状及び寸法精度について確認し、施工管理記録を監督員に提出する。																											
㉑ 亜鉛めっき (7.12.3)	12節 溶融亜鉛めっき工法 適用箇所 ・ 図示 ○ 意匠図による めっき面の素地ごしらえ ○ 「標準仕様書」18.2.4のA種とする。 ・ めっきの種類及び付着量 ○ 溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)のA種(HDZ55) ○ 普通ボルト・ナット類及びアンカーボルト類については溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)のC種(HDZ35) 高力ボルト ○ 高力ボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルト1種A(F8T相当)とする。 ○ 摩擦面の処理は「標準仕様書」7.12.5による。																											
㉒ 梁貫通孔補強	補強方法 ⓧ 図示(既製品による) 補強箇所 ⓧ 該当設備図及び電気図による。 ・ 梁貫通位置図による。																											

8. 令129条の2の3の事項	
項 目	特 記 事 項
	⓪ 建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。 ⓧ 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れがないものとする。 ⓧ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔、その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に緊結する。 ・ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリートブロック造の場合は鋼製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とする。 ・ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造もしくはコンクリートブロック造とする。 ⓧ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 ⓧ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。 ⓧ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずる。 ⓧ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずる。 ⓧ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずる。 ⓧ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。 ⓧ 給湯設備は、風圧、土圧、水圧及び地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。 満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示1388号第5に規定する構造方法による。

§1 一般事項

- 【修正】1. 本配筋標準図(2023年版)は、(一社)日本建設業連合会と(一社)日本建築構造技術者協会が協働で作成した鉄筋コンクリート造の配筋標準図である。
ただし、一部、追記あるいは修正を行っているため、該当箇所にはそれぞれ【追記】【修正】と表記する。
2. 本配筋標準図は、
・「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」
・(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
・「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(2018版)」
・(日本建築学会)
・「建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事(2022年版)」
・(日本建築学会)
・「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021年版)(第2刷)」
・(日本建築学会)
を参考に作成している。
3. 本配筋標準図は表1-1に示すコンクリートおよび鉄筋を使用する鉄筋工事に適用する。
高強度せん断補強筋を使用する場合は、構造図(伏図、軸組図、部材リスト、詳細図等の図面を示す)による。
4. 構造図に記載された事項は、本配筋標準図に優先して適用するものとする。
5. 本配筋標準図において、「監理者に確認」、「監理者に承認」と記載された内容は、監理者が設計者と協議し、設計者が承認した結果を示す。
6. 図表中の寸法の値は最小値を示し、当該寸法以上を確保することを原則とする。
(～程度、～以下、@、Pと表記しているものを除く)
7. 本配筋標準図に【×】印を記した項目は、適用しない。
8. 杭に関する事項は、構造図による。

【追記】9. 鉄筋の記号は表1-2による。

表1-1 適用範囲

1. コンクリート	普通 Fc=18N/mm ² 以上 60N/mm ² 以下 軽量 Fc=18N/mm ² 以上 36N/mm ² 以下 SD390の鉄筋を使用する場合はFc=21N/mm ² SD490の鉄筋を使用する場合はFc=24N/mm ² SD490の鉄筋を使用する部位に軽量コンクリートをを用いない。		
2. 鉄筋	規格番号	規格名称	種類の記号
	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295 SD345、SD390 SD490
		異形鉄筋はD41以下とする。	
3. 溶接金網 および鉄筋格子		溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551 (溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを使用する。	

表1-2 鉄筋の記号および最外径

呼び径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
記号	●	×	×	○	◇	⊠	⊙	⊙	⊗	⊙	⊗
最外径	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

§2 鉄筋加工共通事項

2-1 折曲げ形状、寸法

1. 鉄筋の折曲げ加工は常温加工とする。
2. 折曲げ内法直径を表2-1の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の折曲げ試験を実施するかメーカー発行の性能試験証明書を確認した上で、監理者の承認を得ること。
3. SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。

表2-1 折曲げ形状、寸法

折曲げ形状	折曲げ形状	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180° フック		SD295 SD345	D16以下	3d以上
135° フック			D19～D41	4d以上
90° フック		SD390	D41以下	5d以上
		SD490	D25以下	5d以上
			D29～D41	6d以上

▽は折曲げ開始点を示す。
この開始点位置は、以下の図面において共通とする。

- (注)1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げ内法直径は構造図による。構造図に記載のない場合は、表2-1の90°フックと同じとする。

2-2 鉄筋のフック

1. 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。(図中◎印)
- (1) 柱の四隅または梁の出隅および下端筋の両側にある主筋を重ね継手とする場合(フックの形状は180°フックとする)

(a) 柱

(b) 梁(基礎梁を除く)



図2-2-1 フックが必要な重ね継手

- (2) 柱の四隅にある主筋で最上階(中間階で上に柱のない場合を含む)の柱頭部(フックの形状は180°フックとする)

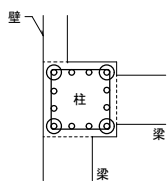


図2-2-2 最上階(上に柱がない場合を含む)の柱頭でフックが必要な主筋

- (3) あばら筋、帯筋(フック形状は2-3による)および幅止め筋(フック形状は図2-2-3による)

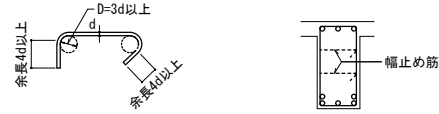
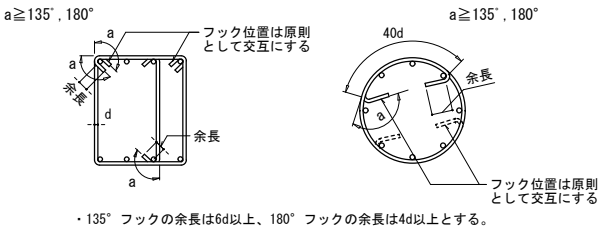


図2-2-3 幅止め筋の形状

- (4) 煙突の鉄筋(フックの形状は180°フックとする)
- (5) 杭基礎のベース筋
単杭の場合は、監理者と協議すること。

2-3 あばら筋および帯筋形状・寸法

1. あばら筋および帯筋のスパイラル筋形状、寸法は、図3-3-41による。



- ・135°フックの余長は6d以上、180°フックの余長は4d以上とする。

図2-3-1 あばら筋、帯筋の形状(末端部がフックの場合)

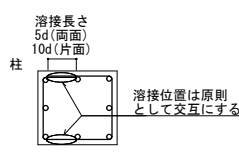
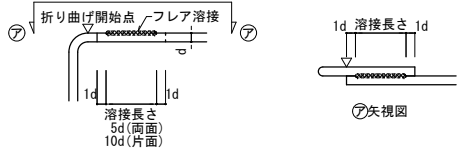


図2-3-2 あばら筋、帯筋の形状(末端部が溶接の場合)



- ・フレア溶接を採用する場合は監理者と協議すること。
- ・ピード形状は表3-1-3による。
- ・フレア溶接は、折曲げ開始点、鉄筋材端から1d以上離すこと。

図2-3-3 あばら筋、帯筋の溶接要領

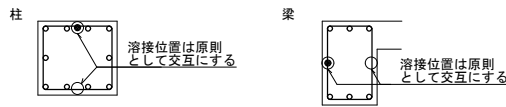
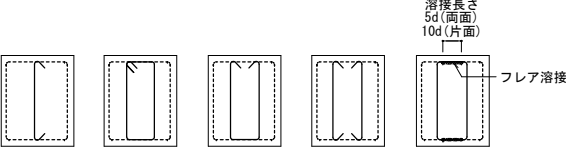


図2-3-4 あばら筋、帯筋の形状(溶接閉鎖形の場合)



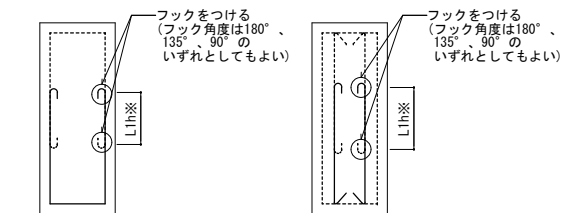
- ・スラブと同時に打ち込むT形、L形梁のキャップタイ末端部は本図によってもよい。
- ・スラブが取り付く側のキャップタイ末端部は、90°フックとしてよい。
- ・スラブ付梁のキャップタイに90°フックを使用する場合、フックの余長は8d以上とする。

図2-3-5 スラブ付梁のあばら筋(末端部がフックの場合)



- ・鉄筋末端部フックは、図2-3-1による。

図2-3-6 副あばら筋、副帯筋の形状



※L1h(フック付重ね継手)は、表3-1-2による。

- ・原則、梁の上下にスラブが取り付く場合、かつ、梁せい1.5m以上の場合、使用可能とする。
- 原則を守れない場合は、監理者と協議すること。

図2-3-7 梁せいの大きな基礎梁など、あばら筋を分割する場合のあばら筋、副あばら筋の形状

2-4 主筋のあき、2段筋の間隔

1. 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍以上とする。
2. 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表2-4に示す。
3. 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、2段筋の間隔の最小値は、監理者に確認すること。
4. 2段筋の間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表2-4による。
5. 2段筋の間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表2-4 主筋のあきaの最小値および2段筋の間隔P2 (単位mm)

呼び名(d)	最外径	主筋のあきaの最小値	2段筋の間隔P2の最小値
D10	11	32	43
D13	15	32	47
D16	19	32	51
D19	22	32	54
D22	26	33	59
D25	29	38	67
D29	33	44	77
D32	37	48	85
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	46	62	109

- (注)1. 鉄筋の最外径は銘柄ごとに異なるため、使用する鉄筋に合わせて適宜判断すること。

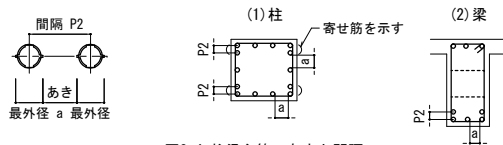


図2-4 柱梁主筋のあきと間隔

2-5 2段筋位置保持金物の形状および配置

- 2段筋がある場合は、原則として2段筋位置保持金物を図2-5-1にない取り付けこと。

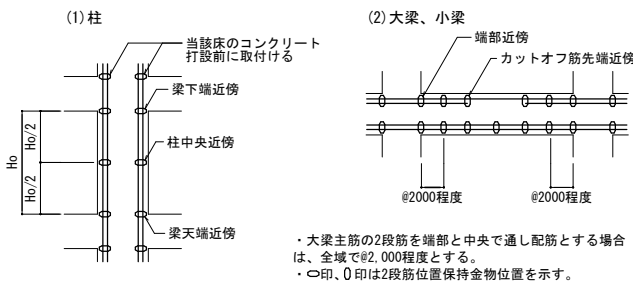


図2-5-1 2段筋位置保持金物の配置例

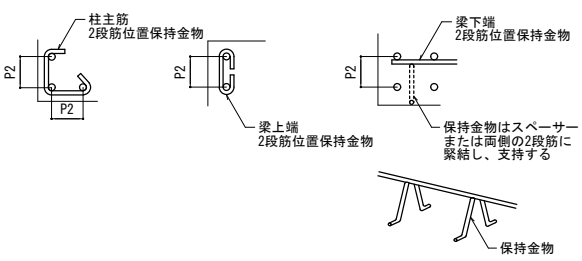


図2-5-2 2段筋位置保持金物の形状例

§3 継手および定着

3-1 継手

- 対象とする継手は重ね継手、ガス圧接継手、フレア溶接継手とし、その他（機械式継手、突合せアーク溶接継手など）の仕様は構造図による。
- 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。
- 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表3-1-1による。
(表3-1-1の記載例：■採用、□不採用)

表3-1-1 直線重ね継手長さの指示

指示欄	構造計算方法	直線重ね継手長さ
■	構造計算を保有水平耐力計算等で実施したため、建築基準法施行令第73条の適用を除外する。	表3-1-2による。
□	上記以外	表3-1-2かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50d)とする。

- D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。
- 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。
- あき重ね継手は、原則としてスラブ筋、基礎スラブ筋、壁筋に適用する。
- その場合、あき重ね継手の継手長さは表3-1-2のL1を確保し、あき重ね継手とする鉄筋の間隔は、0.2L1かつ150mm以下とする。(図3-1-3)
- 梁主筋の重ね継手は水平重ね継手を原則とし、上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。

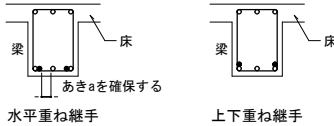


図3-1-1 梁主筋の重ね継手

- ガス圧接およびフレア溶接の形状は、表3-1-3による。
- 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。
- 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。
- フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表3-1-4による。
- 隣り合う継手の位置は、図3-1-2による。ただし、スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合は除く。
- 杭に用いる鉄筋の重ね継手長さは構造図による。

表3-1-2 鉄筋の重ね継手長さ L1, L1h

重ね継手長さ L1：フックなし L1h：フック付	鉄筋 の種類	Fc (N/mm ²)					
		18	21	24 ≧ 27	30 ≧ 36	39 ≧ 45	48 ≧ 60
直線重ね継手の長さ L1 	SD295	45d	40d	35d	35d	30d	30d
	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d
	SD390		50d	45d	40d	40d	35d
	SD490			55d	50d	45d	40d
フック付重ね継手の長さ L1h 180° フックの場合 ※ 	SD295	35d	30d	25d	25d	20d	20d
	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d
	SD390		35d	35d	30d	30d	25d
	SD490			40d	35d	35d	30d

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 継手位置は、各標準図に示す継手の好ましい位置に設けること。

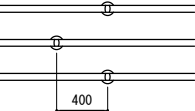
表3-1-3 ガス圧接・フレア溶接の形状

ガス圧接 ()内は、 SD490の場合に 適用する	ふくらみの直径・長さ 圧接面 1. 4d以上 (1. 5d以上) 圧接面のずれ d/4以下 折れ曲がり θ ≦ 2°	片ふくらみ 圧接面 Δh=h1-h2≦d/5以下 鉄筋中心の偏心量 d/5以下	圧接面形状 2mm以下
フレア 溶接 原則として 鉄筋は、 D16以下と する	片面の場合 2d程度 10d以上 2d程度 曲げ加工した鉄筋に使用する場合、折り曲げ開始点からフレア溶接末端を1d以上離すこと	両面の場合 2d程度 5d以上 2d程度	溶接のビード幅
			鉄筋径d 最小値
			10 6
			13 7
			16 8

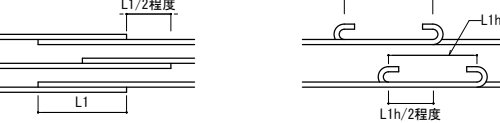
表3-1-4 フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15 YGW16 YGW18 YGW19
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒	

圧接の場合



主筋のあきが確保できる場合の重ね継手の場合



主筋のあきの確保が困難な場合の重ね継手の場合

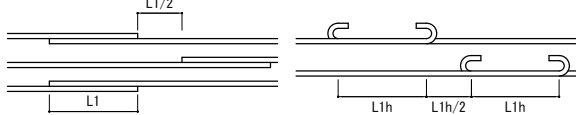


図3-1-2 隣り合う継手位置

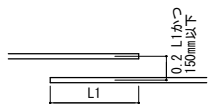


図3-1-3 スラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋のあき重ね継手

3-2 定着

- 異形鉄筋の定着長さは、表3-2-1の鉄筋の定着長さによる。
- ただし、小梁、スラブの下端筋の定着長さは、表3-2-2による。
- 梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。
- 梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せいの3/4倍以上とする。
- 柱梁仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを、表3-2-3に示す長さLa以上とする。
- 大梁内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない小梁及びスラブの場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影長さを、表3-2-3に示す長さLb(かつ、原則として、定着される梁幅の1/2倍)以上とする。

表3-2-1 鉄筋の定着長さ L2, L2h

定着長さ L2：直線定着 L2h：フック付定着	鉄筋 の種類	Fc (N/mm ²)					
		18	21	24 ≧ 27	30 ≧ 36	39 ≧ 45	48 ≧ 60
直線定着長さ L2 	SD295	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
	SD390		40d	40d	35d	35d	30d
	SD490			45d	40d	40d	35d
フック付定着長さ L2h 90° フックの場合※ 	SD295	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d
	SD390		30d	30d	25d	25d	20d
	SD490 <90° フックのみ>		35d	30d	30d	25d	20d

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

表3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3, L3h

下端筋定着長さ L3：直線定着 L3h：フック付定着	鉄筋 部位 の種類	Fc (N/mm ²)	
		18	21
直線定着長さ L3 	SD295	20d	10dかつ150mm
	SD345		
	SD390		
	SD490		
フック付定着長さ L3h 	SD295	10d	—
	SD345		
	SD390		
	SD490		

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 「—」は適用範囲外を示す。
3. < > は片持ち部材の場合を示す。

表3-2-3 折曲げ定着長さ La, Lb

折曲げ定着長さ	鉄筋 の種類	Fc (N/mm ²)					
		18	21	24 ≧ 27	30 ≧ 36	39 ≧ 45	48 ≧ 60
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La L2 La(ただし、柱せいの3/4以上)	SD295	20d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD390		20d	20d	20d	15d	15d
	SD490			25d	25d	20d	20d
小梁及びスラブの上端筋の 梁内折曲げ定着の投影長さ Lb L2 Lb(ただし、梁幅の1/2以上)	SD295	15d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD390		20d	20d	15d	15d	15d
	SD490						

- (注) 1. La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の数値に5dを加えたものとする。

3-3 その他の継手および定着

- 溶接金網の重ね継手は、図3-3-1による。構造図に記載のない場合は、応力伝達用とする。
- 溶接金網の合わせ面は、図3-3-2タイプA、タイプBいずれとしてもよい。
- 溶接金網の定着は、図3-3-3による。
- 帯筋にスパイラル筋を用いる場合の定着、継手要領は、図3-3-4による。
- 鉄筋格子については、3-1 継手、3-2 定着による。

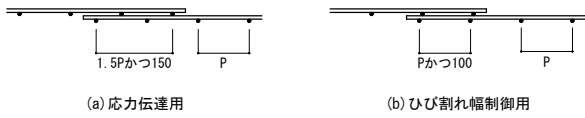


図3-3-1 溶接金網の重ね継手

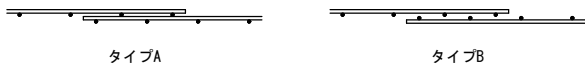


図3-3-2 溶接金網の重ね継手の合わせ面

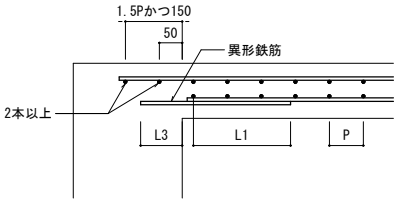
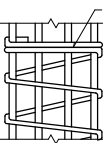
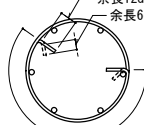


図3-3-3 溶接金網の定着

135° 折曲げ
余長6d

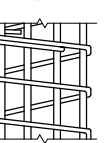


90° 折曲げ余長12d
または135° 折曲げ余長6d



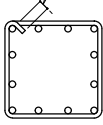
末端定着

(a) 円形スパイラル筋



重ね継手

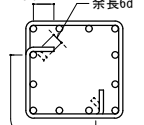
135° 折曲げ
余長6d



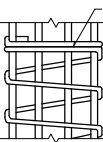
末端定着

(b) 角形スパイラル筋

90° 折曲げ余長12d
または135° 折曲げ余長6d

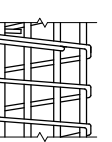


重ね継手



末端定着

(b) 角形スパイラル筋



重ね継手

図3-3-4 スパイラル筋の末端定着・重ね継手要領

- §4 かぶり厚さ
- 4-1 鉄筋のかぶり厚さ
- 鉄筋のかぶり厚さは表4-1による。
 - 柱、梁のかぶり厚さは表4-1を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが表4-1より大きくなる部位があるため、注意すること。
 - 配筋は構造体寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置にて行う。
 - 耐久性上有効な仕上がりがある場合、表4-1の※1の値を10mm減じてよい。
耐久性上有効な仕上がり例
・タイル張り
・モルタル塗り(10mm以上)
・打増し(10mm以上)
 - ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地、化粧目地等がある場合は、目地からのかぶり厚さを確保する。
 - 柱、梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さを打増しとする。この打増しは上記4.により、耐久性上有効な仕上がりと考えることができる。
 - 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。
 - 計画供用期間の級が「超長期」の場合は表4-1の※5の値に10mmを加えた値とする。
ただし、非耐力壁の内、計画供用期間中に維持保全を行う部材は除く。

表4-1 鉄筋のかぶり厚さ (単位mm)				
部 位		設計 ※2	最小 ※3	分類記号
		かぶり厚さ	かぶり厚さ	
土に接しない部分	スラブ	屋内	30 ※5	a
		屋外	40 ※1※5	b
	柱・梁	屋内	40	c
		屋外	50 ※1	d
	非耐力壁	屋内	30 ※5	e
		屋外	40 ※1※5	f
土に接する部分	煙突内面		60	g
	擁壁・基礎スラブ		50	h
	柱・梁・壁・スラブ連続基礎の立上り部分		50	i
	基礎スラブ・擁壁		70	j
基礎		70	60	k

- ※2 設計かぶり厚さ
施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。
- ※3 最小かぶり厚さ
建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。

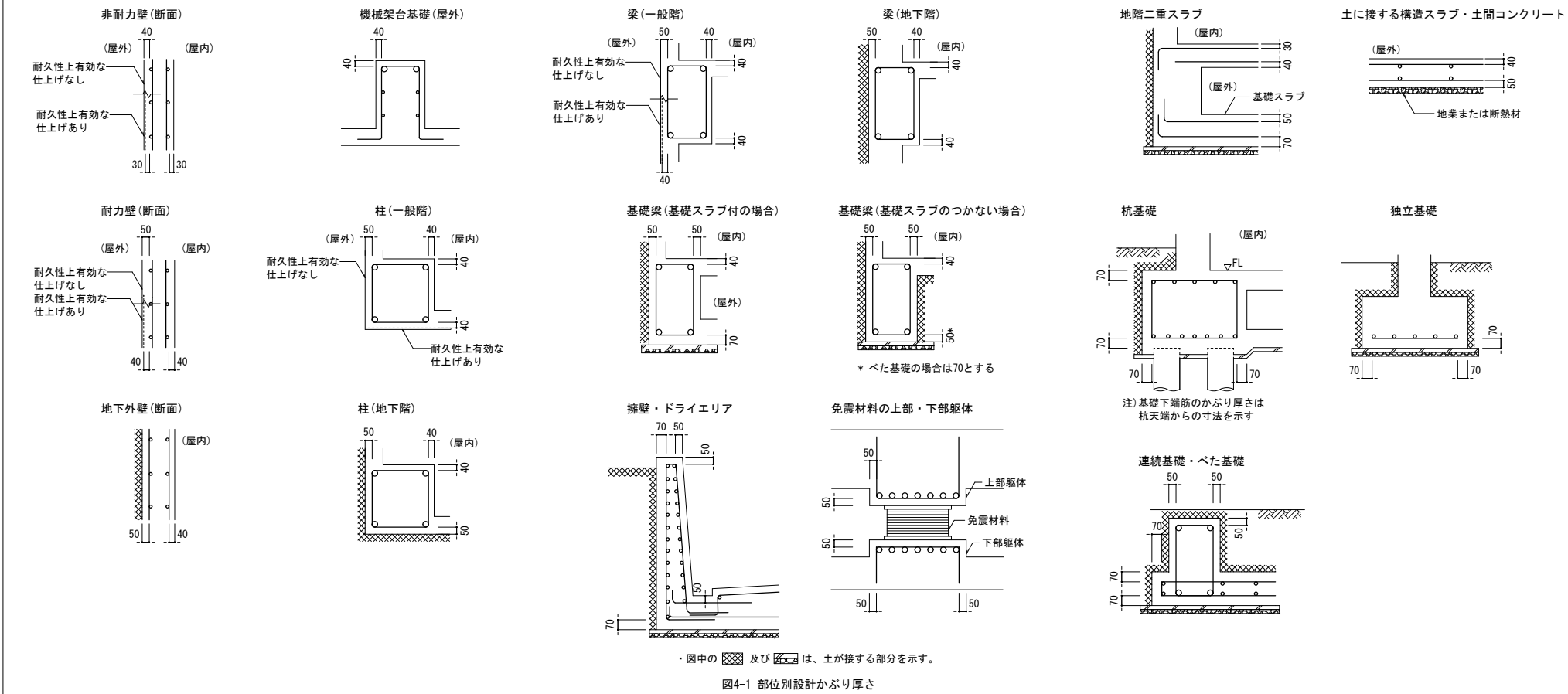
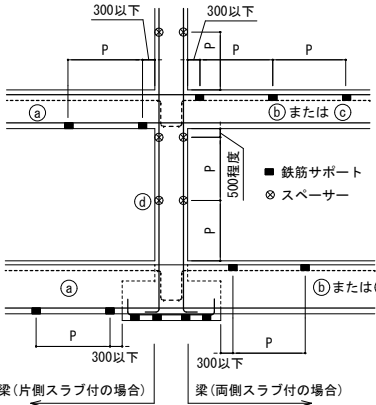


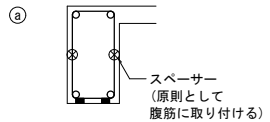
図4-1 部位別設計かぶり厚さ

- 4-2 鉄筋サポート・スぺーサー・結束線
- 鉄筋サポート、スぺーサーのサイズは設計かぶり厚さを満足するものを使用する。
 - 鉄筋サポート、スぺーサーの種類は設計基準強度以上のコンクリート製、モルタル製または鋼製を使用する。柱・梁・基礎・基礎梁・壁・地下外壁の側面のスぺーサーはプラスチック製でもよい。
 - 鉄筋サポート、スぺーサーの数量、配置は図4-2-1、図4-2-2、図4-2-3、図4-2-4による。
 - スぺーサー(ドーナツ形)は縦使いを原則とする。梁の側面の場合、スぺーサーを設置する腹筋と近傍のあばら筋を動かぬよう緊結させる。
 - 断熱材打込み時の鉄筋サポートは断熱材用の製品(プレート付き)を使用するか、または鉄筋サポート下に樹脂パットを設置し、断熱材にめりこまないようにする。
 - 鋼製鉄筋サポートは在来型枠との接触面に防錆処理を施した製品を使用する。
 - 結束線は内側に折り曲げることを原則とする。

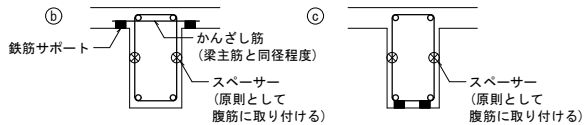
柱・梁
Pは1500程度とする。



(a) 梁(片側スラブ付の場合)



(b) 梁(両側スラブ付の場合) ② または ③ いずれとしてもよい。



(c) 柱

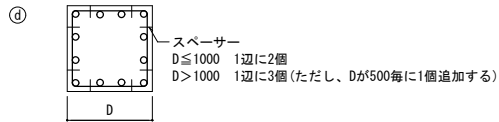


図4-2-1 柱・梁の鉄筋サポート・スぺーサーの取付け要領

壁
Pは縦、横共1500程度とする。
壁前後のスぺーサー位置は、縦方向、横方向のいずれかの間隔を200程度とすればよい。

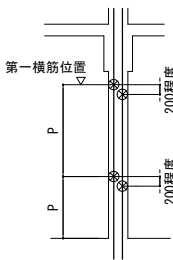


図4-2-2 壁のスぺーサーの取付け要領

基礎

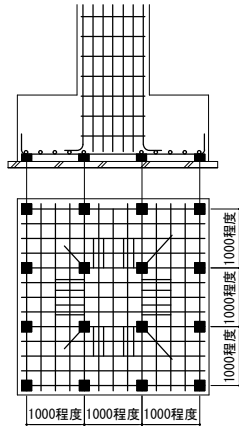


図4-2-3 基礎の鉄筋サポートの取付け要領

スラブ

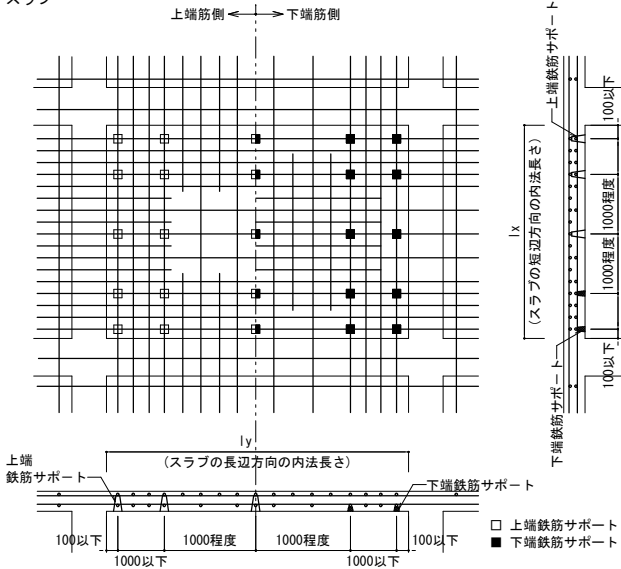


図4-2-4 スラブの鉄筋サポートの取付け要領

§5 基礎
5-1 独立基礎

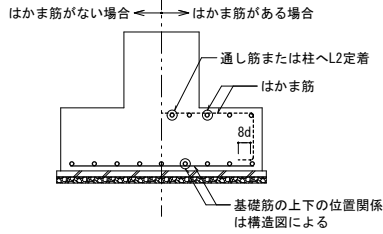


図5-1 独立基礎

5-2 連続基礎

1. 連続基礎の側柱交差部は、外周部の基礎主筋を連続して配置する。
2. 中柱交差部における基礎主筋を連続する方向は構造図による。
3. 隅柱交差部は、両方向の基礎主筋を連続して配置する。

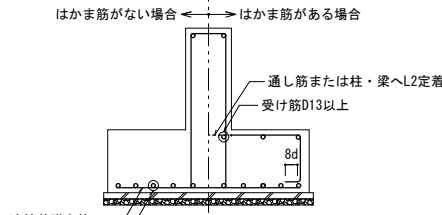
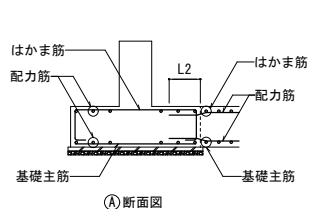
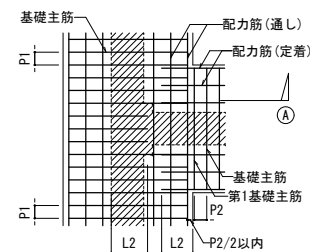


図5-2-1 連続基礎

(1) 側柱交差部



(2) 中柱交差部

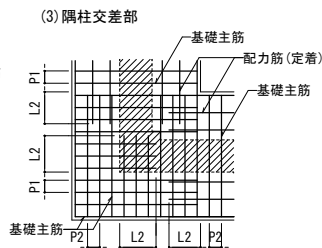
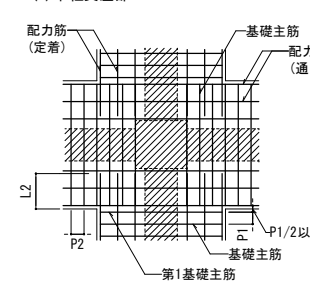


図5-2-2 連続基礎(交差部)

5-3 杭基礎

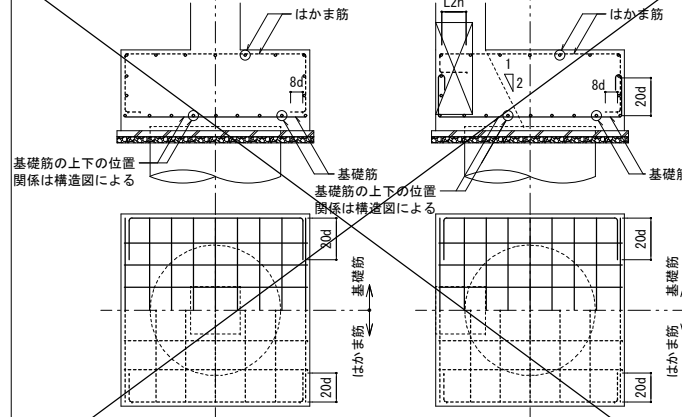


図5-3-1 1本杭の場合

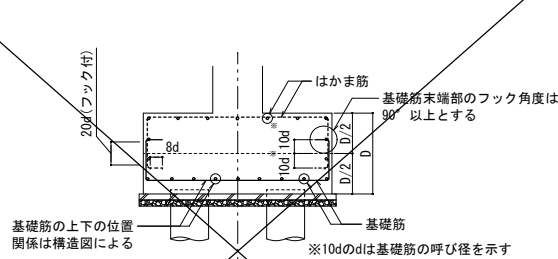
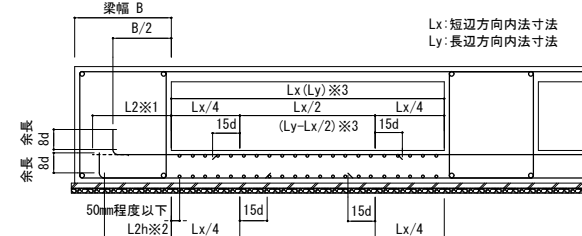


図5-3-2 2本杭以上の場合

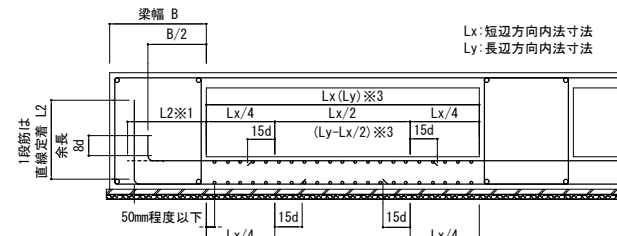
5-4 基礎スラブの定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、浮き上がりが生じる場合はA2とし、配置は構造図による。
2. 基礎スラブの第1鉄筋は基礎梁のコンクリート面より50mm程度の位置とする。



- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA1)



- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 下端1段筋の定着は、曲げ上げ後定着(L2)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(b) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

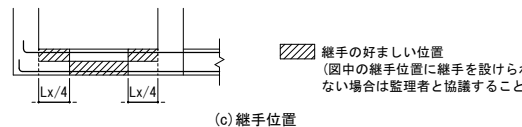
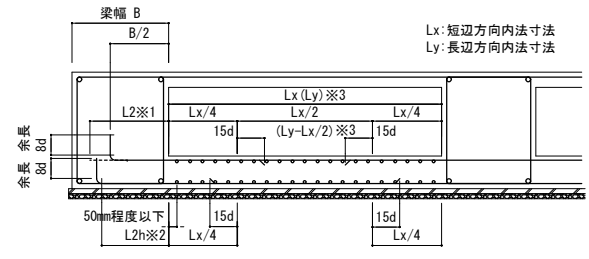


図5-4-1 ベた基礎の耐圧スラブなどの場合(タイプA1・タイプA2)



- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※2 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみこみ長さ)をB/2以上確保する。
- ※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a) 定着およびカットオフ筋長さ

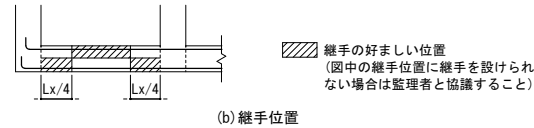
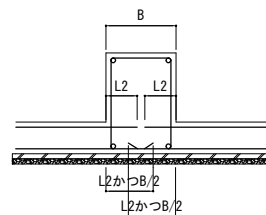


図5-4-2 その他の基礎スラブの場合(タイプB1)



- ・基礎スラブの配筋が左で同じ場合、通し配筋としてよい。

図5-4-3 基礎スラブが梁で連続する場合の定着

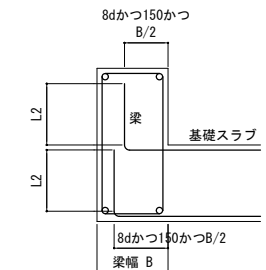
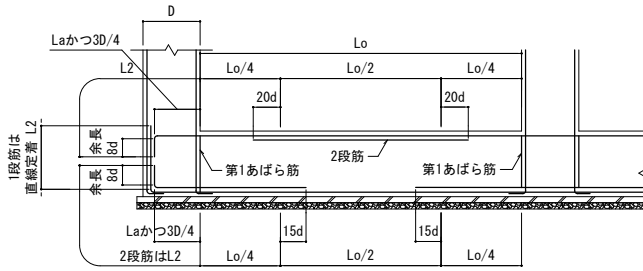


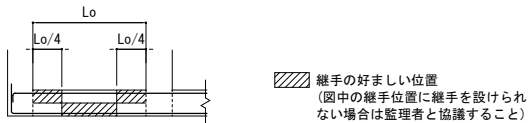
図5-4-4 幅の小さい梁への定着要領
(L2hが確保できない場合)

§6 基礎梁

- 6-1 基礎大梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置
1. 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、C1、浮き上がりが生じる場合はA1、B2、C2とし、配置は構造図による。
 2. 柱を介して連続する基礎梁の主筋本数が異なる場合は、通し筋以外の基礎梁主筋を柱内に定着する。または柱コンクリート面より定着長をとって反対側の梁内に定着する。
 3. カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-1-1、図6-1-2、図6-1-3による。

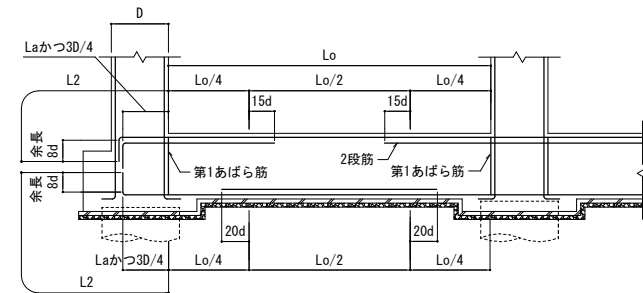


(a) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプA1)

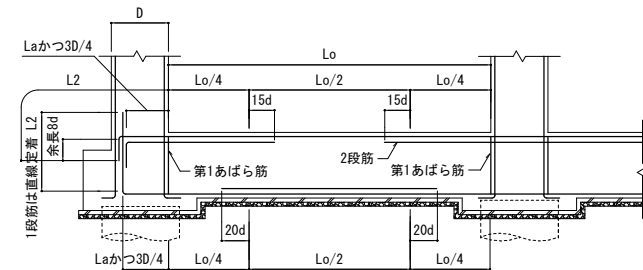


(b) 継手位置

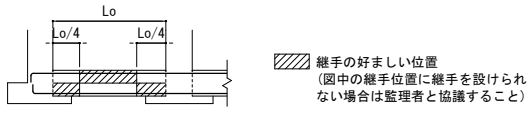
図6-1-1 ベた基礎・連続基礎の場合(タイプA1)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプB1)

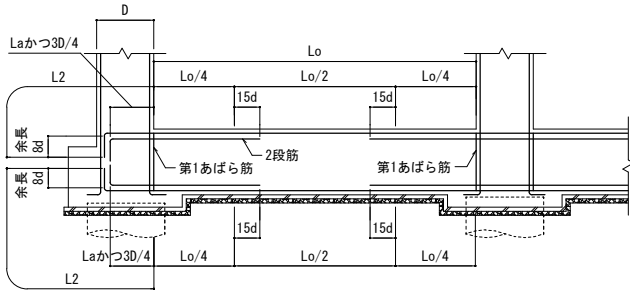


(b) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプB2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

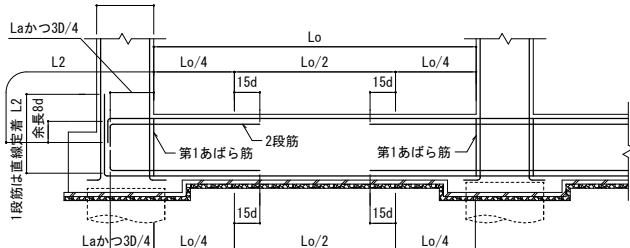


(c) 継手位置

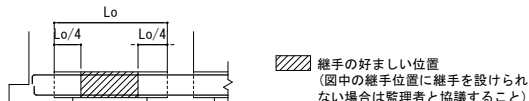
図6-1-2 杭基礎・独立基礎の場合(タイプB1・タイプB2)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプC1)



(b) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプC2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

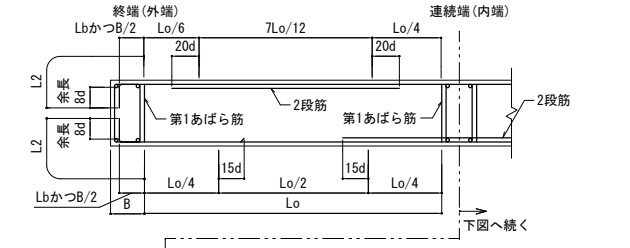


(c) 継手位置

図6-1-3 杭基礎・独立基礎の場合(タイプC1・タイプC2)

6-2 基礎小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎小梁が連続する場合はA1、B1、連続しない場合はA2、B2とし、配置は構造図による。

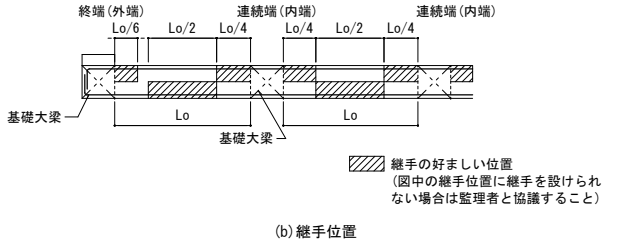


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

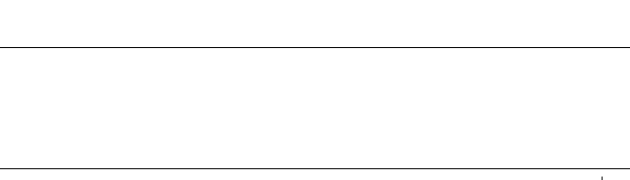


(b) 継手位置

図6-2-1 基礎小梁が連続梁の場合(タイプA1)

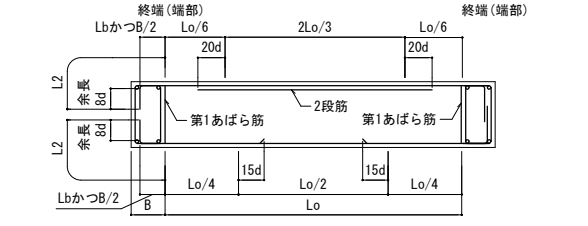


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

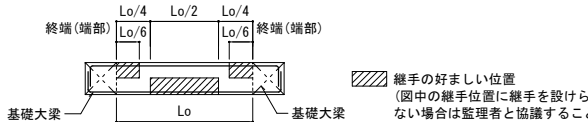


(b) 継手位置

図6-2-2 基礎小梁が連続梁の場合(タイプA1)

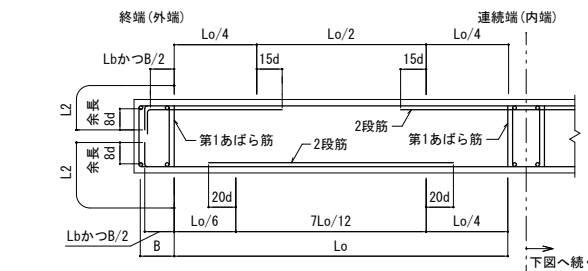


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

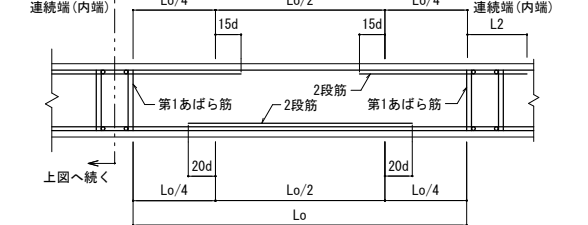


(b) 継手位置

図6-2-2 基礎小梁が単独梁の場合(タイプA2)

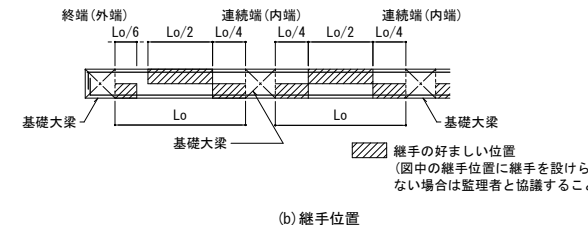


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

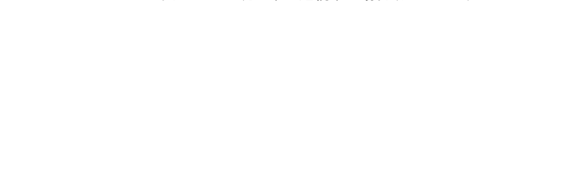


(b) 継手位置

図6-2-3 基礎小梁が連続梁の場合(タイプB1)

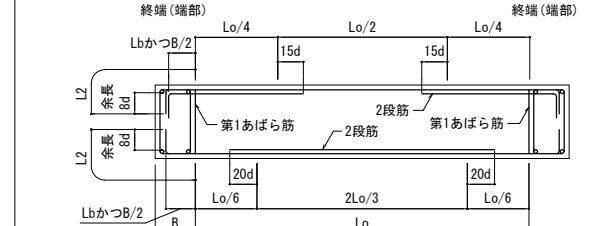


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

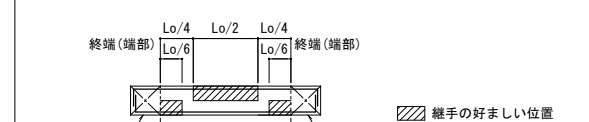


(b) 継手位置

図6-2-3 基礎小梁が連続梁の場合(タイプB1)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図6-2-4 基礎小梁が単独梁の場合(タイプB2)

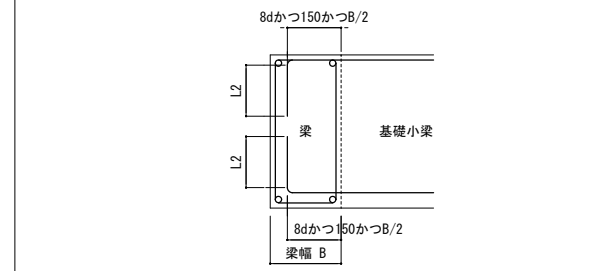


図6-2-5 幅の小さい梁への定着要領
(Lbが確保できない場合)

6-3 基礎梁と基礎の取合い部補強要領

1. 基礎梁と基礎の取合い部補強要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-3による。
2. 取合い部補強の幅は、基礎梁と同じとする。

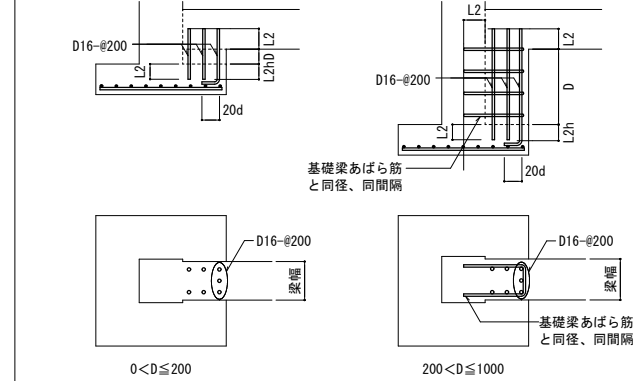


図6-3 取合い部補強要領

6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

- 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-4による。

- (1) 基礎大梁幅が柱幅より大きい柱脚の場合 (2) 基礎大梁幅が柱幅より小さい柱脚の場合

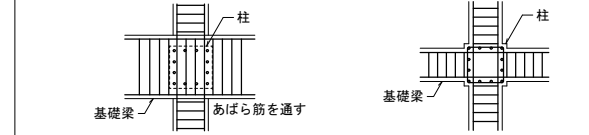


図6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

§7 柱

- 7-1 柱の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置
1. 継手はガス圧接、重ね継手をし、それ以外の継手の仕様は構造図による。
 2. H_o は柱の最大内法高さとする。
 3. 柱主筋の定着は以下による。
 - (1) 柱頭主筋の定着：柱に取り付け最も高い梁下端から L_2 以上かつ最も高い梁天端から $15d$ 以上とする。
 - (2) 柱脚主筋の定着：柱に取り付け最も低い梁天端から L_2 以上かつ最も低い梁下端から $15d$ 以上とする。
 4. カットオフ筋長さは以下による。
 - (1) 柱頭カットオフ筋長さ：柱に取り付け最も低い梁下端から $H_o/2+15d$ 以上とする。
 - (2) 柱脚カットオフ筋長さ：柱に取り付け最も高い梁天端から $H_o/2+15d$ 以上とする。

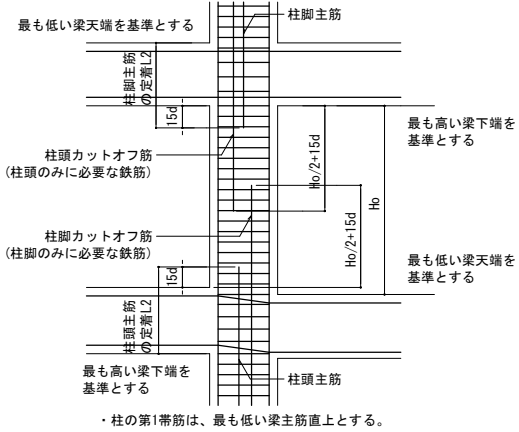


図7-1-1 柱主筋の定着およびカットオフ筋長さ

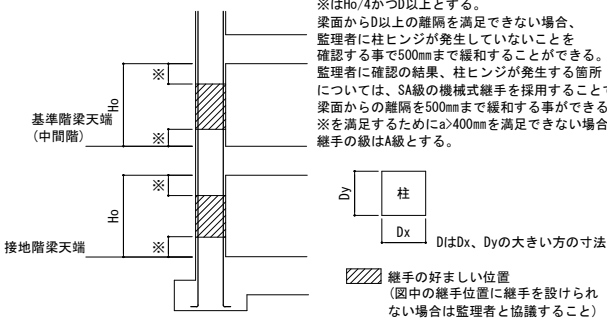


図7-1-2 継手位置

修正

7-2 柱の仕口部(柱・梁接合部)

1. 柱の仕口部の範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付け全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。(図7-2-1)
2. 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、仕口部帯筋配筋は適用しない。(図7-2-2)
3. 柱の仕口部帯筋の範囲は、図7-2-3による。
4. 柱の仕口部帯筋の配筋要領は構造図による。

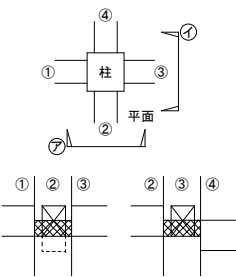


図7-2-1 柱の仕口部の範囲

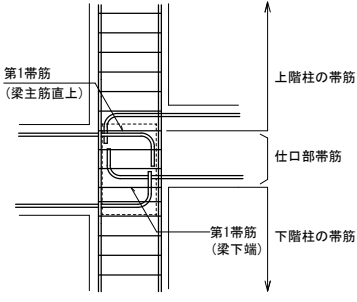


図7-2-3 仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置

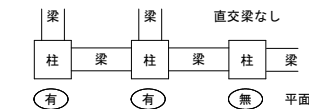


図7-2-2 柱仕口部範囲の有無

7-3 定着

- 修正
1. 柱部の定着は図7-3-1、図7-3-1Aによる。
 2. 柱脚部の定着は図7-3-2、図7-3-3による。

(1) 四隅の主筋

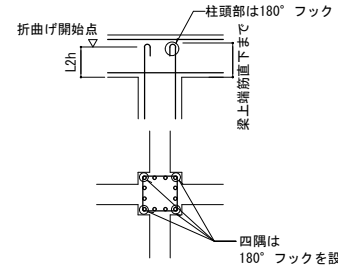


図7-3-1 最上階の柱の場合(中間階で上に柱のない場合)

(2) 四隅以外の鉄筋

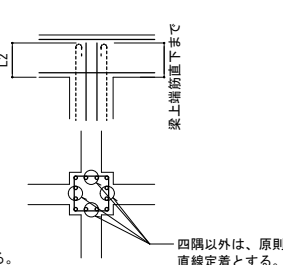


図7-3-1A 最上階の柱の場合(中間階で上に柱のない場合)

(1) 四隅の主筋

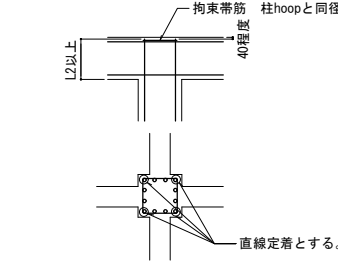
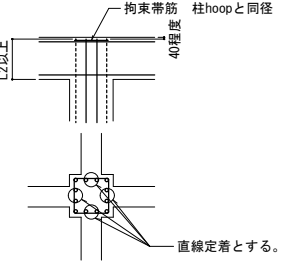


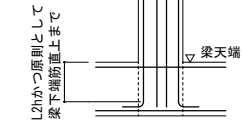
図7-3-2 最下階の柱の場合

(2) 四隅以外の鉄筋



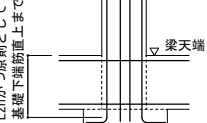
追記

(1) ベタ基礎・連続基礎



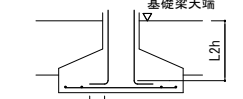
・梁内の柱帯筋の有無、仕様は構造図による。

(2) 独立基礎



・柱の主筋が垂直に定着長さが確保できない場合には、左図による。

(1) 柱主筋を基礎筋上に自立させる場合



(2) 柱主筋の支持方法を別途考慮する場合

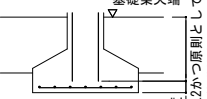
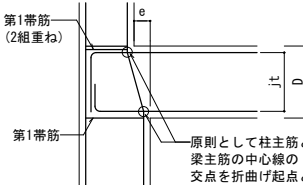


図7-3-3 最下階の柱主筋の定着と支持方法

7-4 柱主筋の折曲げ位置および帯筋

1. 柱主筋の折曲げ位置は、梁の主筋間隔内とする。(図7-4-1)
2. 柱主筋を折り曲げて通し筋とする場合(図7-4-1)の梁上第1帯筋は、上階柱帯筋と同径の帯筋を2組重ねる。



・上下階の鉄筋かぶり厚さが異なる場合、寸法eは上下階の柱主筋位置の水平距離とすること

図7-4-1 柱主筋を折り曲げて通し筋とする場合(柱のしほり勾配 $e/jt \leq 1/6$ の場合)

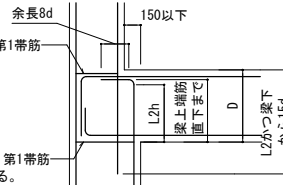
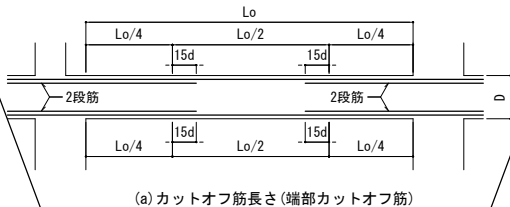


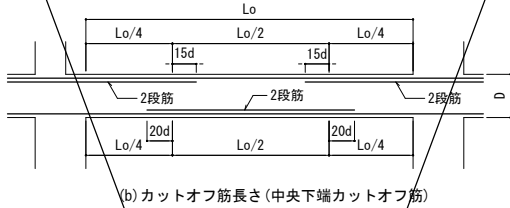
図7-4-2 柱主筋を通し筋としない場合(柱のしほり寸法が150mm以下の場合)

§8 大梁

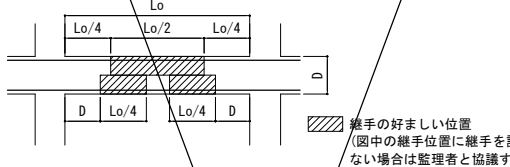
- 8-1 大梁カットオフ筋長さおよび継手位置
1. カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-1による。
 2. 大梁継手位置は、図8-1による。



(a) カットオフ筋長さ(端部カットオフ筋)



(b) カットオフ筋長さ(中央下端カットオフ筋)



・中央部で両側カットオフ筋が重なる場合は通し筋としてもよい。

(c) 継手位置

図8-1 大梁のカットオフ筋長さおよび継手位置

8-2 梁主筋の柱への定着

1. 梁主筋の柱への定着は原則として折曲げ定着とし、定着要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-2-1、図8-2-2による。
2. 下端筋の定着は、曲上げを原則とする。曲上げ筋がおさまらず、曲下げとする場合(図中の破線)は、監理者と協議すること。

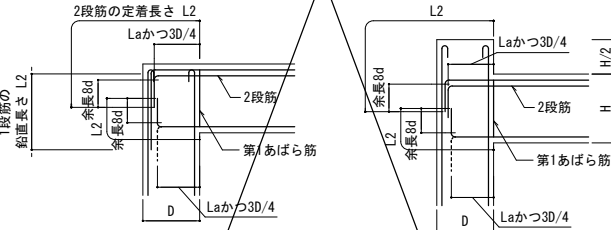


図8-2-1 最上階の場合(上に柱のない場合)

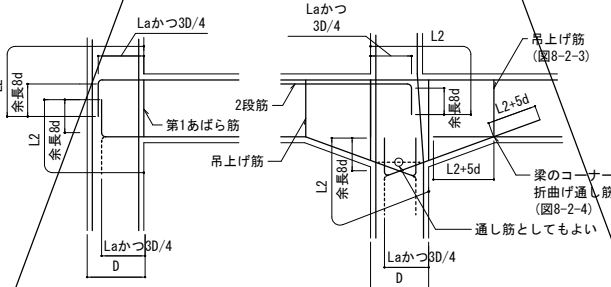


図8-2-2 中間階の場合



図8-2-3 吊上げ筋の形状

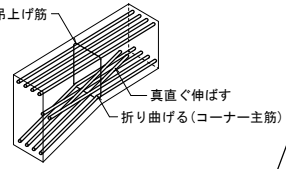
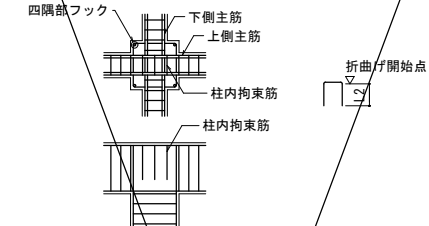


図8-2-4 ハンチ部配筋

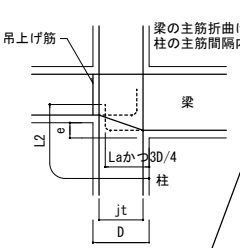


・あばら筋と同径φ200以下に設け、交差部は上側となる梁主筋に設ける。

図8-2-5 最上階柱頭補強(上に柱のない場合)

- 8-3 梁主筋が真直ぐ通らない場合のおさまり
- 梁主筋は原則として通し筋とするが、鉄筋のあき寸法が確保できる場合は折曲げ定着としてもよい。直線定着とする場合は、監理者と協議すること。

(1) $e/jt \leq 1/6$ の場合



(2) $e/jt > 1/6$ の場合

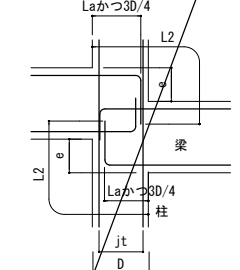
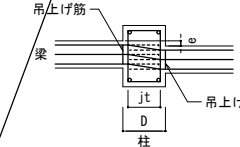


図8-3-1 鉛直方向にずれのある場合

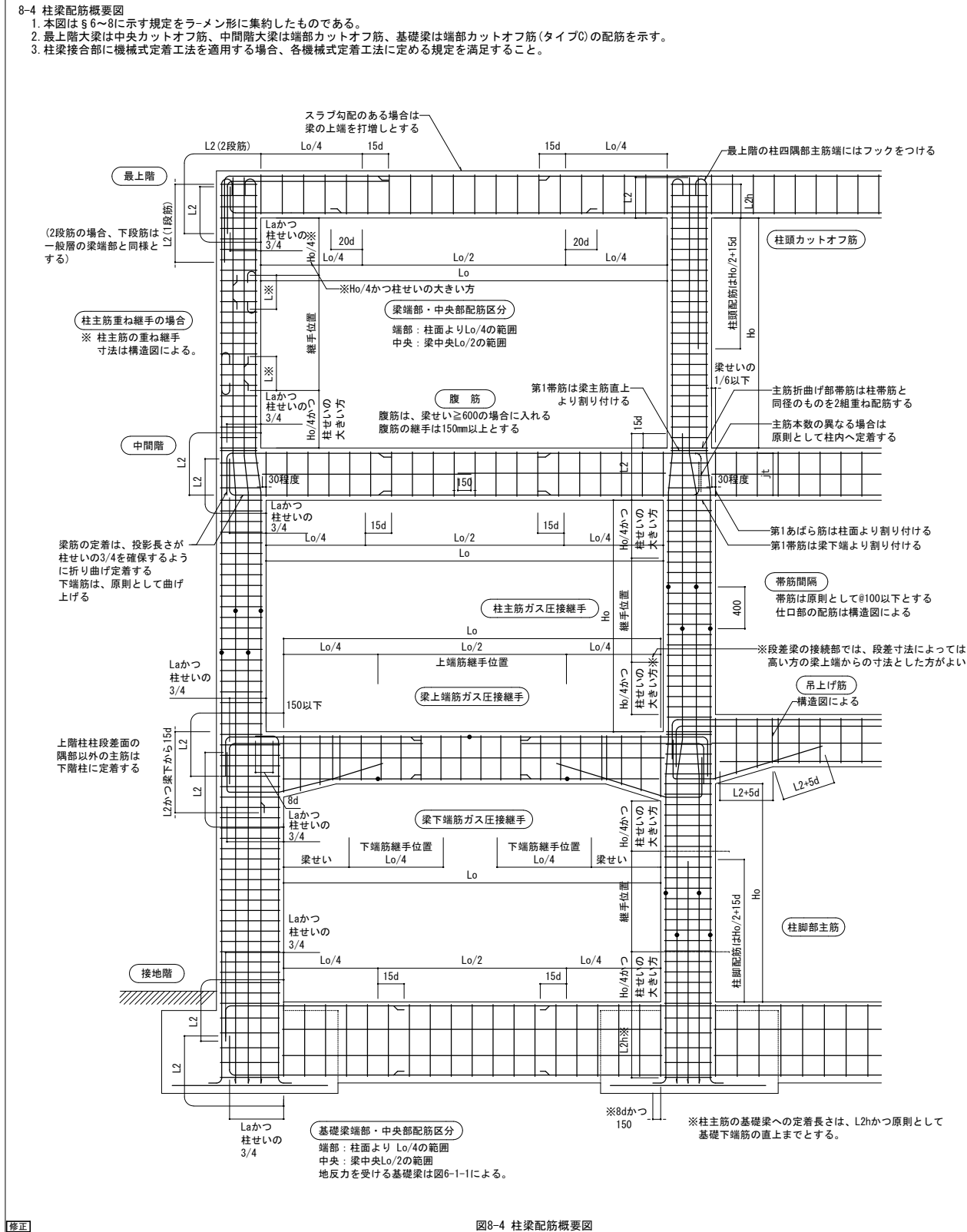
(1) $e/jt \leq 1/6$ の場合



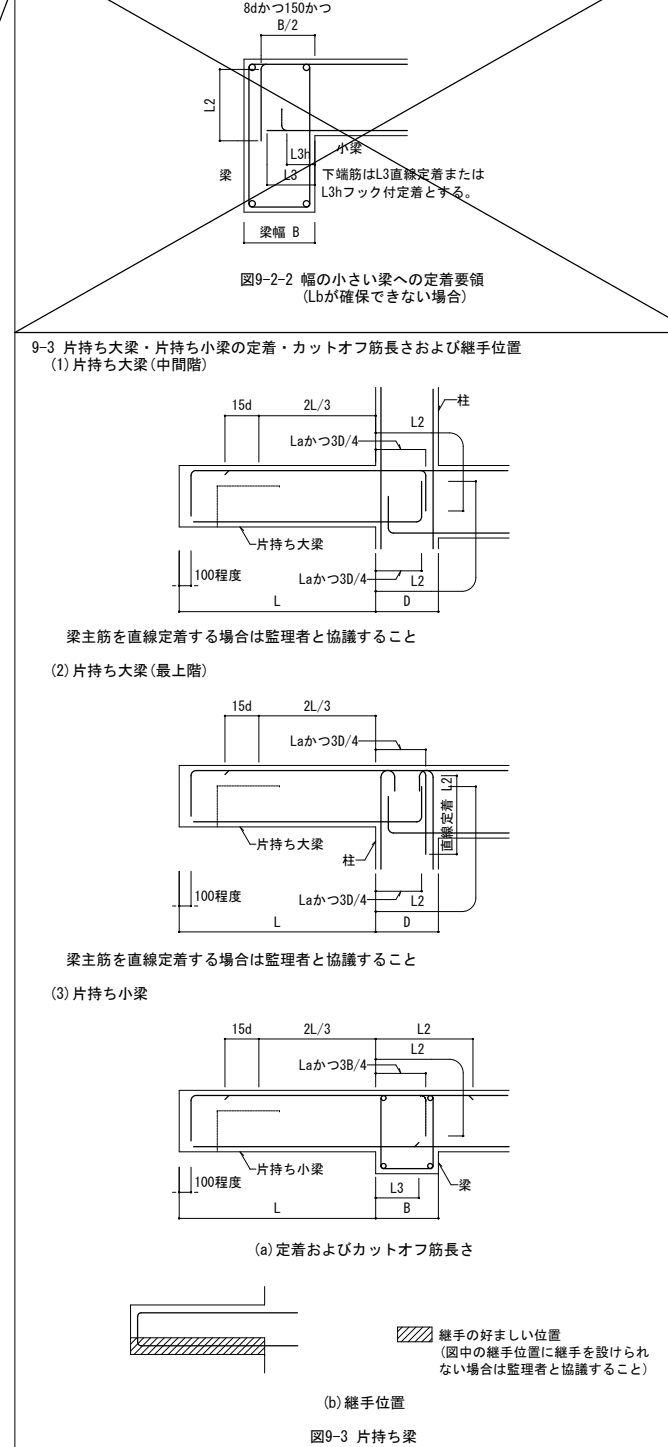
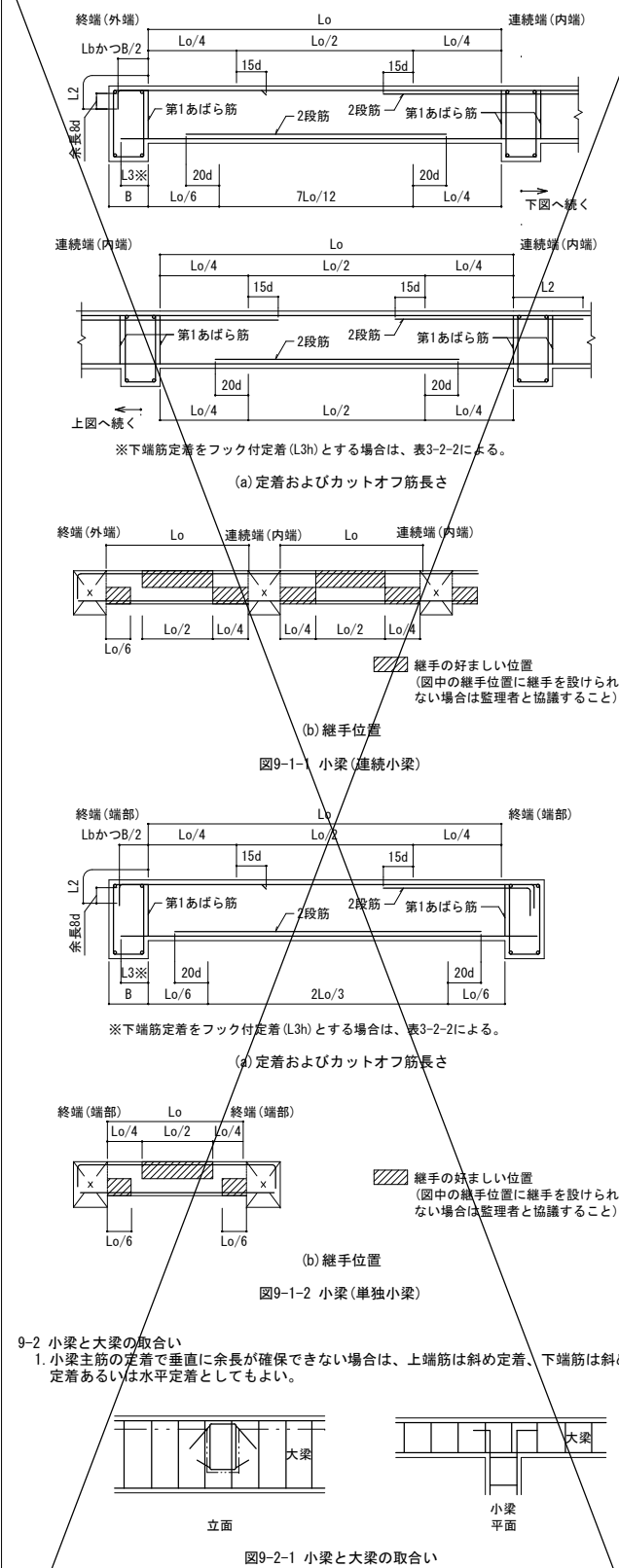
-----は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。

・柱の両側の鉄筋かぶり厚さが異なる場合、寸法eは柱の両側の柱主筋位置の水平距離とすること

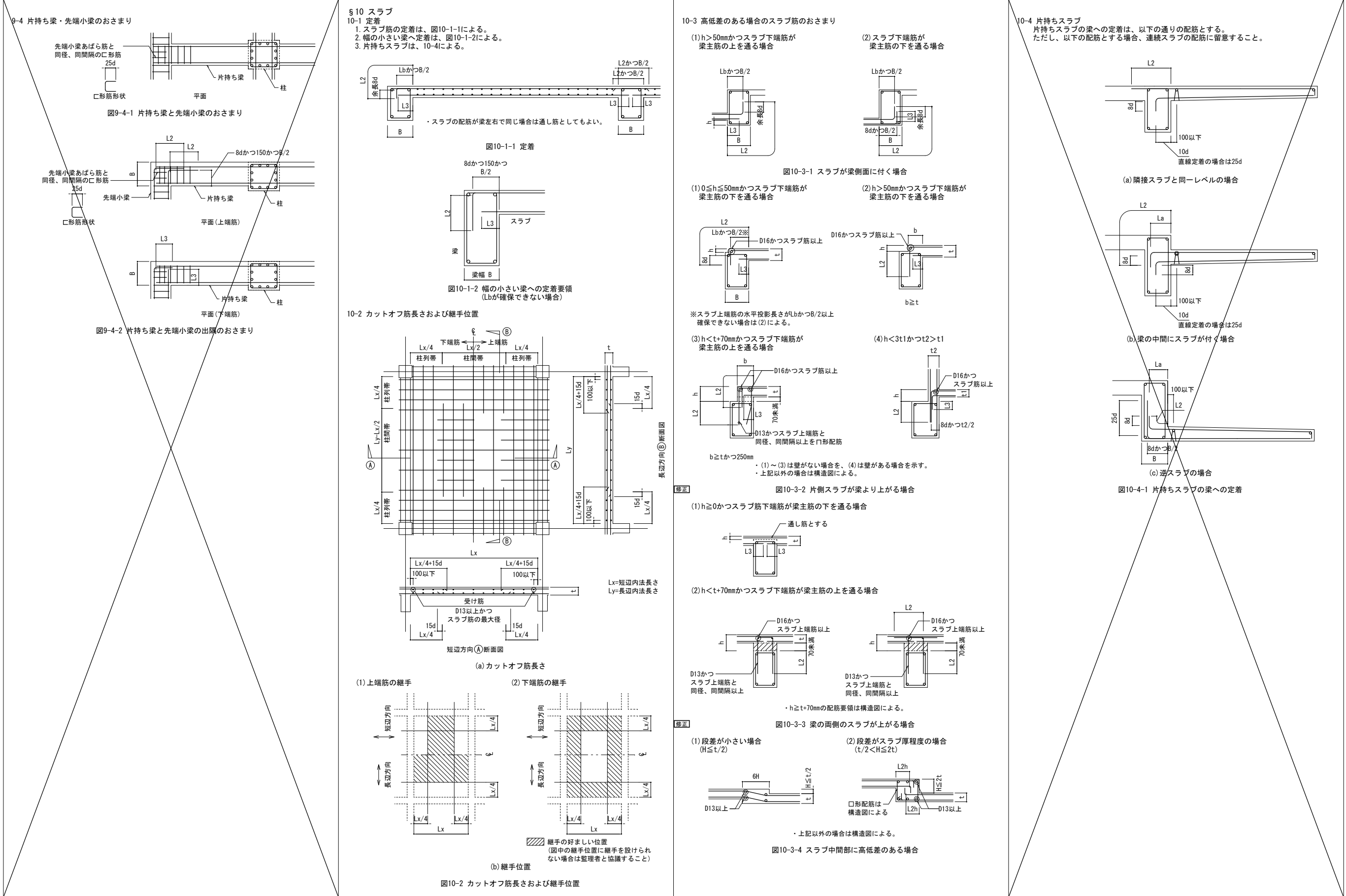
図8-3-2 水平方向にずれのある場合



§ 9 小梁・片持ち梁
9-1 小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

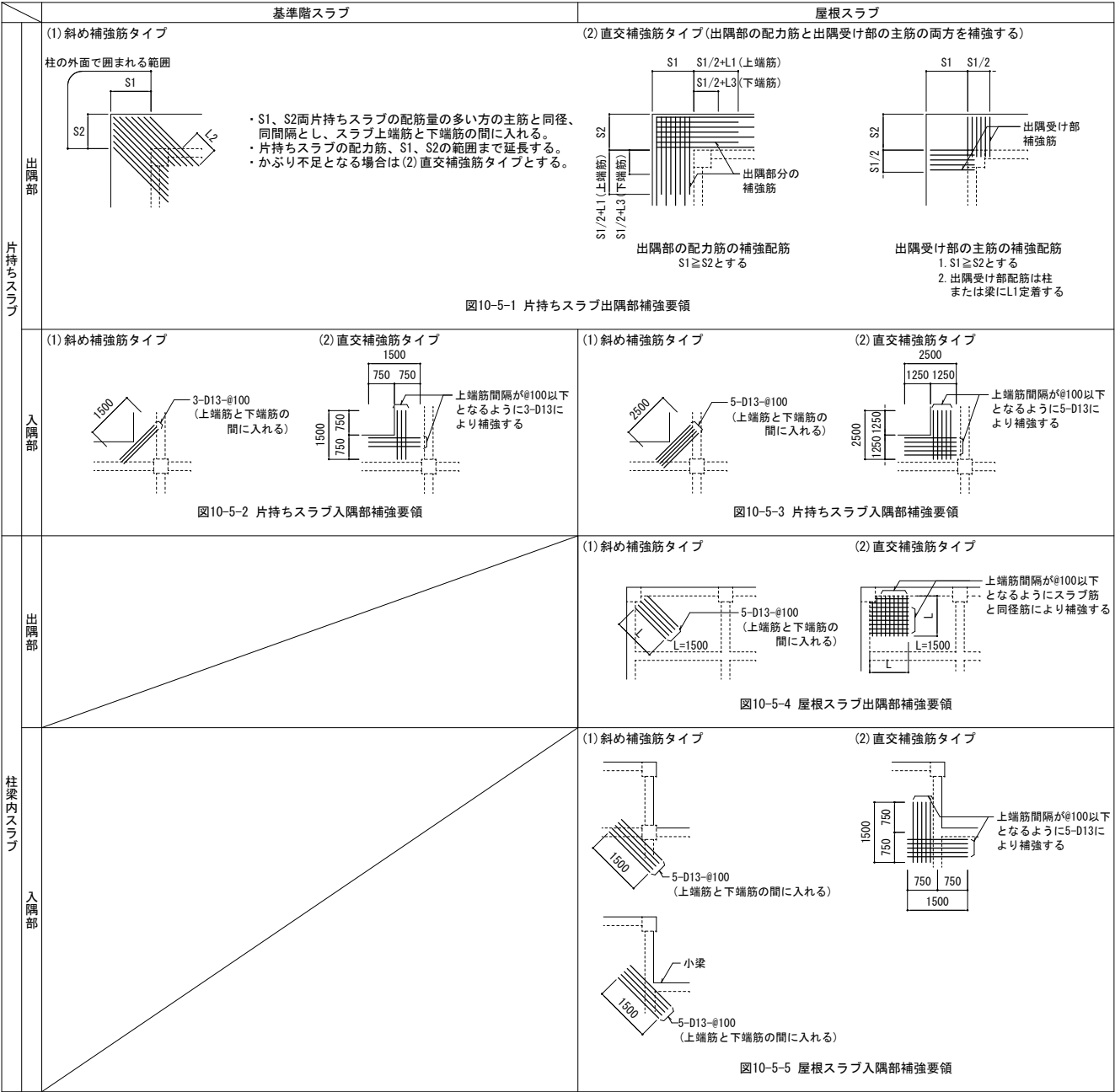


修正



10-5 補強筋

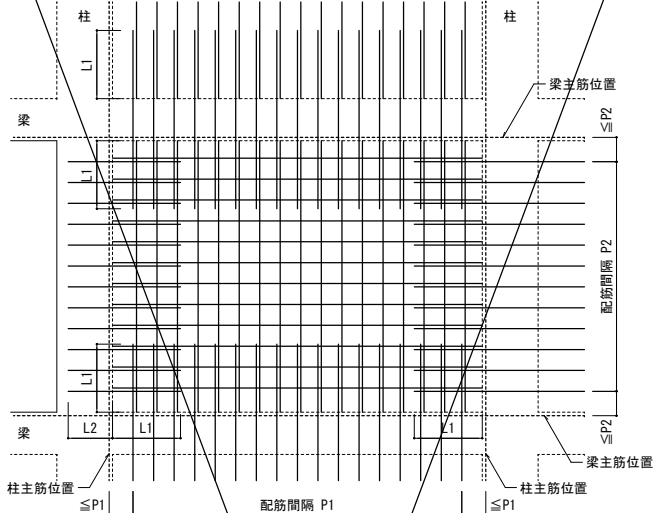
1. 片持ちスラブの出隅部および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-1、図10-5-2、図10-5-3による。
2. 屋根スラブの出隅部および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-4、図10-5-5による。



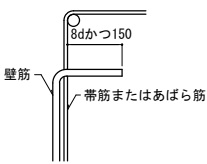
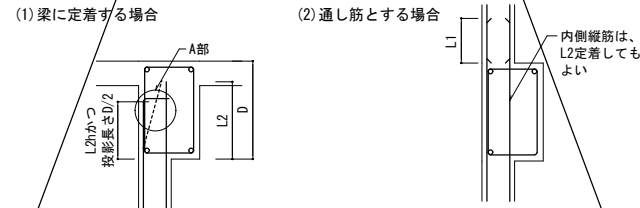
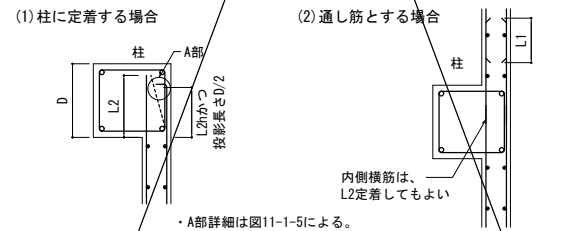
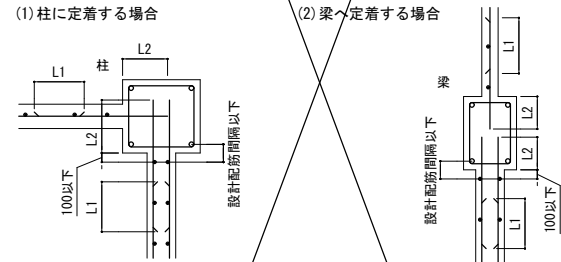
S11 壁

11-1 壁と柱・梁とのおさまり

1. 壁筋の継手は、壁内とし、柱、梁内に設けない。
2. 壁筋の柱、梁内の定着方法は、図11-1-2、図11-1-3、図11-1-4による。
3. 壁の第1横筋と縦筋は、柱面、梁面から100mm以下かつ柱主筋、梁主筋から設計間隔以内に配置する。



- ・図中のP1、P2は、壁筋の間隔を示す。
・壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。
・幅止め筋は、縦横ともD10-@1000程度とする。
・原則として、下階縦筋を上階まで引き通すこと。

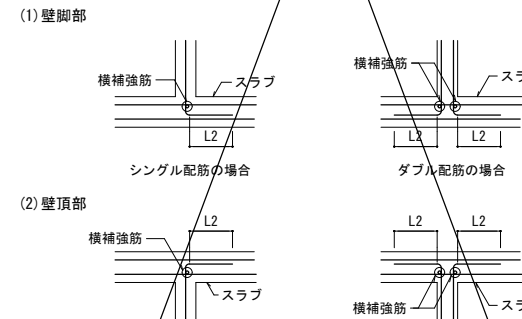
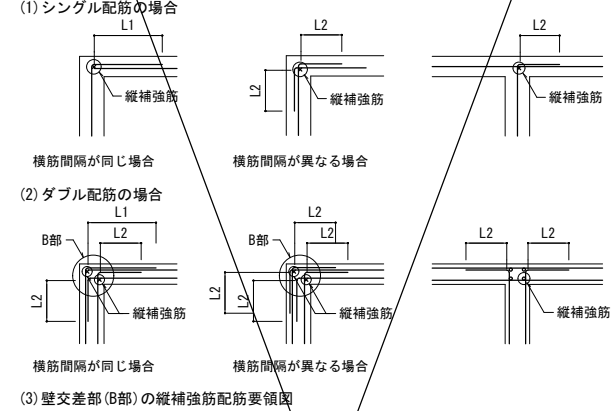


- ・壁筋が帯筋、あばら筋から離れた位置となる場合は、90° フックの余長部分を8dかつ150以上、帯筋、あばら筋内に定着する。

図11-1-5 A部鉄筋折曲げ形状と寸法

11-2 壁と壁・スラブとのおさまり

1. 縦補強筋は、D13以上かつ壁縦筋最大径以上とする。
2. 横補強筋は、D13以上かつ壁横筋最大径以上とする。



11-3 壁端部・開口部小口補強

	コ形補強筋が外側の場合	コ形補強筋が内側の場合	壁筋にフックを設けた場合
耐力壁			

- (注) 1. 耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径、同間隔とする。
2. L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。
3. 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

図11-3 壁端部・開口部小口補強

1. 地下外壁壁筋の定着は、図11-4-1、図11-4-2、図11-4-3、図11-4-4による。
2. 地下外壁の壁筋の継手は、地下外壁内とし、柱、梁に設けなし。(図11-4-5)
3. e1は壁外面と柱外面のずれ、e2は壁外面と梁外面のずれを示し、e1、e2寸法は構造図による。
e1、e2が70mm以上の打増し部補強は、表13-1、表13-2-1及び表13-2-2による。
4. 土に接する側の縦筋、横筋は原則として柱、梁主筋の外側を通す。

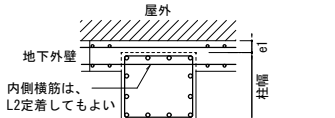


図11-4-1 柱とのおさまり

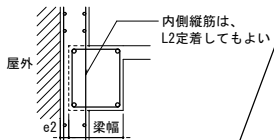


図11-4-2 梁とのおさまり

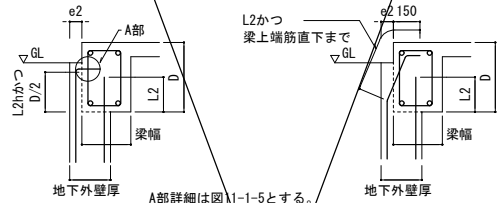


図11-4-3 壁上部のおさまり

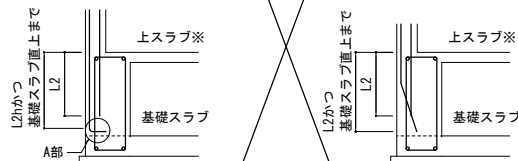


図11-4-4 地下外壁と基礎梁の接合部おさまり

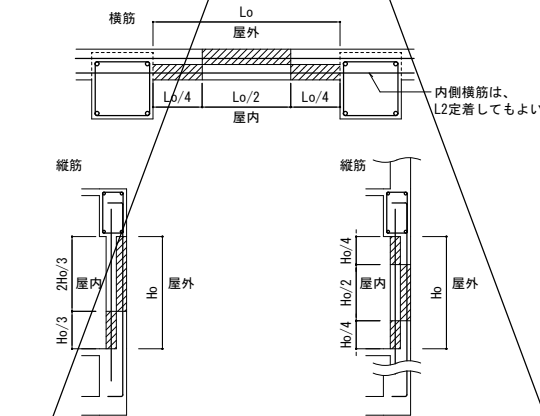


図11-4-5 継手位置

§ 12 開口補強

12-1 スラブおよび非耐力壁

1. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対するスラブ補強は、図12-1-1による。
2. 開口が連続するスラブの場合および片持ちスラブに開口を設ける場合の補強は構造図による。
3. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下ですらすることにより補強筋を省略することができます。ただし、開口部から設計かりを確保すること。
4. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対する非耐力壁の内壁の壁間口補強は、図12-1-2による。
5. 耐力壁、非耐力壁の外壁および開口が連続する壁の壁間口補強は構造図による。
6. 耐力壁、スラブ開口が柱または梁に接する場合、接する柱、梁の部分には補強筋を省略できる。(図12-1-4、図12-1-5)
7. 壁開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下ですらすることにより補強筋を省略することができます。ただし、開口部から設計かりを確保すること。

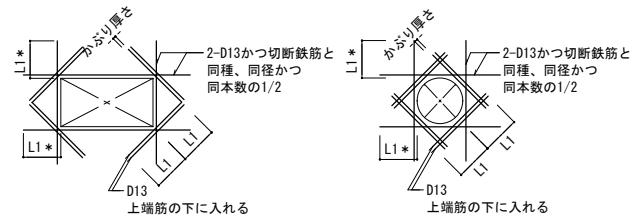


図12-1-1 スラブ開口補強

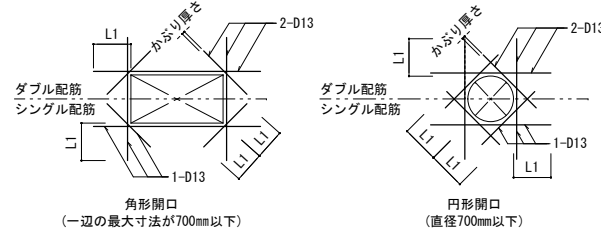


図12-1-2 非耐力壁の内壁開口補強

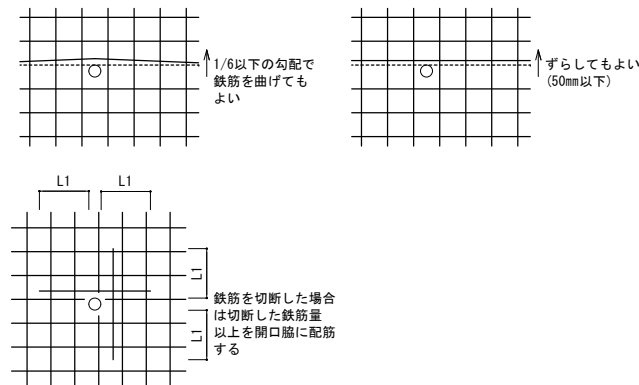


図12-1-3 単独円形小開口の配筋要領
(開口の大きさが、床壁の配筋間隔以下の場合)

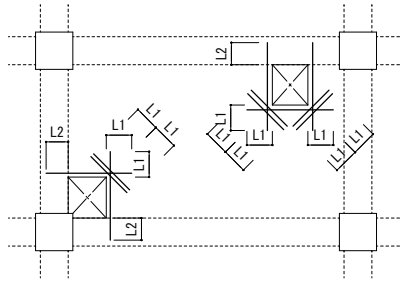


図12-1-4 スラブ開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

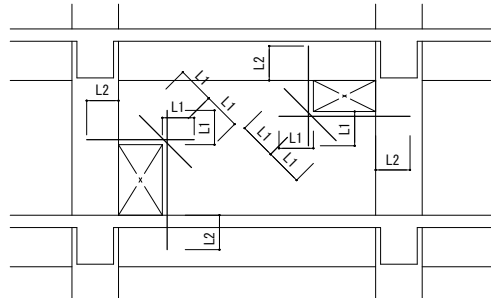


図12-1-5 壁開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

- §13 柱・梁・壁・スラブ打増し部配筋要領
1. 構造図に記載のない打増しを行う場合は事前に監理者と協議すること。
 2. 柱、梁の打増し部に耐力壁が取り付く場合の打増し配筋要領は構造図による。
 3. 打増し寸法a、a1、a2が70mm未満の場合は補強筋不要とする。
 3. 打増し寸法a、a1、a2が70mm≦a≦200mmの場合の打増し部補強要領は図13-1-1～図13-3-2による。
 4. 打増し寸法a、a1、a2が200mmを超える場合の打増し部詳細事項は構造図による。
 4. 斜線部は打増しコンクリートを示す。
 5. ※部の打増し補強筋の定着長さについては、監理者に確認すること。

- 13-1 柱
1. 梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、柱躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。
 2. 柱の打増し部配筋要領は表13-1、図13-1-1、図13-1-2による。

表13-1 柱補強筋 (耐力壁が取り付く場合の要領は構造図による)	
補強主筋	D16-@300程度
補強帯筋	D13-@100程度

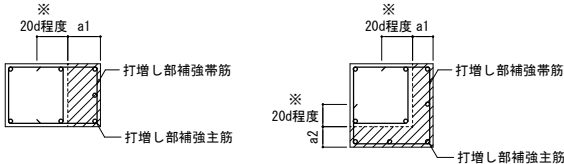


図13-1-1 柱の打増し要領

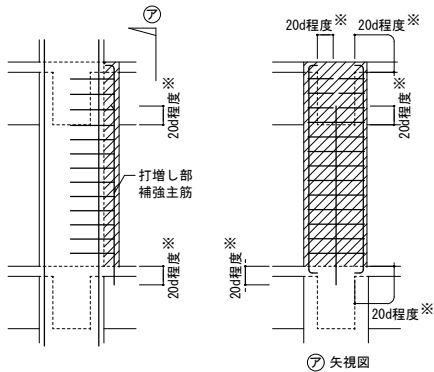
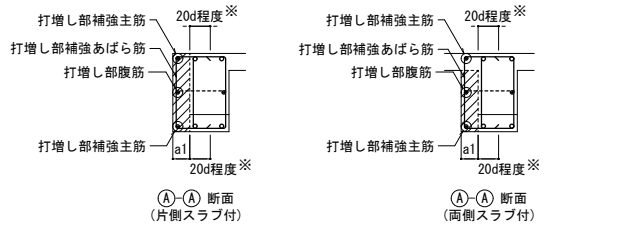


図13-1-2 柱打増し部の補強主筋の定着

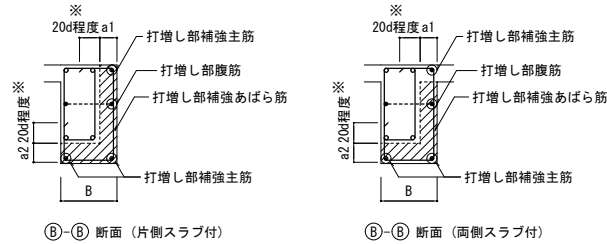
- 13-2 梁
1. 小梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、梁躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。
 2. 梁の打増し部配筋要領は表13-2-1、表13-2-2、図13-2-2、図13-2-1による。
 3. 打増し部腹筋は梁と同径、同段数とする。

表13-2-1 梁側面補強筋 (耐力壁が取り付く場合の要領は構造図による)		表13-2-2 梁上下面補強筋 (耐力壁・スラブが取り付く場合の要領は構造図による)	
補強主筋	D16	梁幅	B≦350mm 350mm<B
補強あばら筋	梁あばら筋と同径、 間隔200mm以下	補強主筋	2-D16 D16-@250以下
		補強あばら筋	梁あばら筋と同径、間隔200mm以下

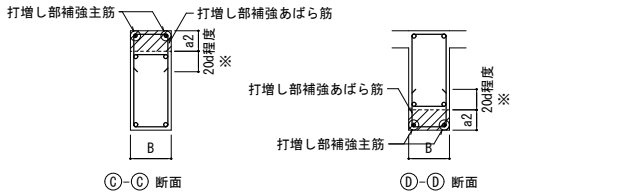
- (1) 梁側面を打増しする場合



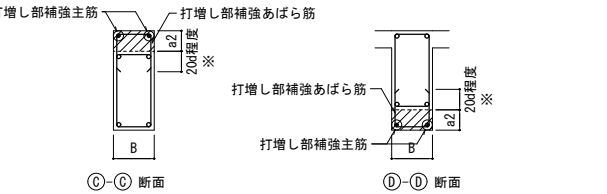
- (2) 梁側面および梁下面を打増しする場合



- (3) 梁上面を打増しする場合(スラブなし)



- (4) 梁下面を打増しする場合



・スラブが取付く場合は図10-3-2、図10-3-3を参照。

図13-2-1 梁の打増し要領

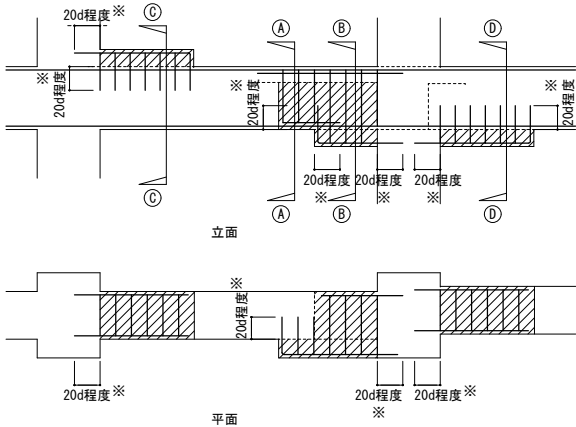


図13-2-2 梁打増し部の補強主筋の定着

- 13-3 壁・スラブ
1. 壁およびスラブの打増し部配筋要領は図13-3-1、図13-3-2による。

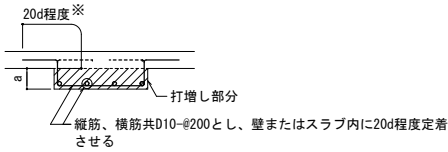


図13-3-1 壁の打増し要領

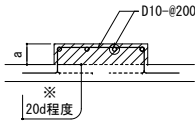
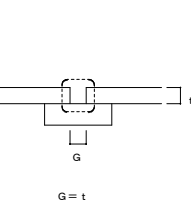
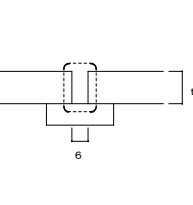
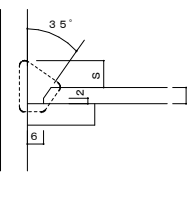
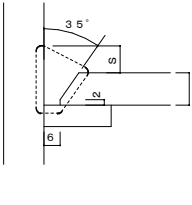
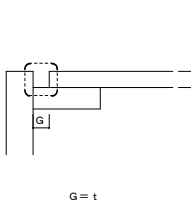
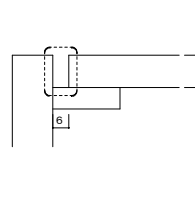
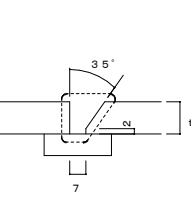
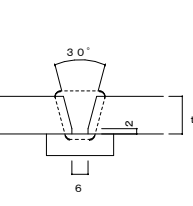
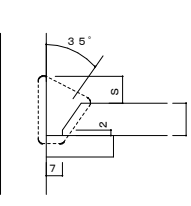
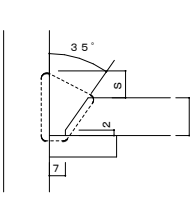
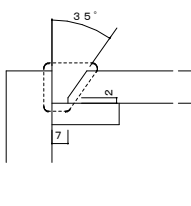
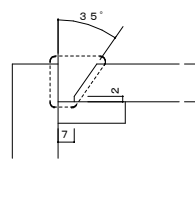
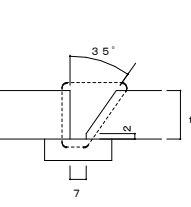
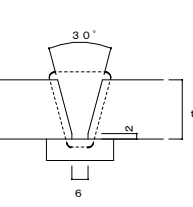
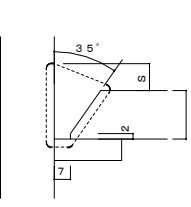
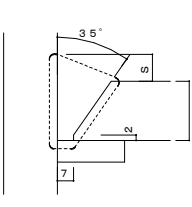
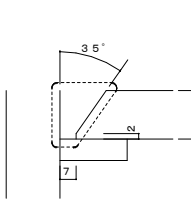
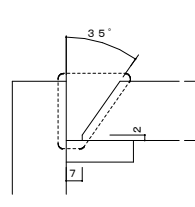
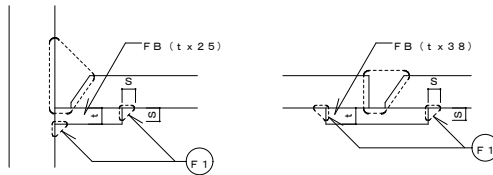


図13-3-2 スラブの打増し要領

1. 溶接継手基準（1）																									
（1）完全溶込み溶接																									
B 突き合わせ継手（別図3. 2） （単位mm）				T T形継手（別図3. 3） （単位mm）				L かど継手（別図3. 5） （単位mm）																	
H アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接		A サブマージアーク自動溶接		H アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接		A サブマージアーク自動溶接		H アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接		A サブマージアーク自動溶接															
1.（片面溶接）	2.（両面溶接）	1.（片面溶接）	2.（両面溶接）	1.（片面溶接）	2.（両面溶接）	1.（片面溶接）	2.（両面溶接）	1.（片面溶接）	2.（両面溶接）	1.（片面溶接）	2.（両面溶接）														
t ≤ 6		t ≤ 12		t ≤ 6		t ≤ 12		t ≤ 6		t ≤ 12															
																									
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22		6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22		6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19															
																									
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40															
																									
D1 = 2 (t - 2) / 3 D2 = (t - 2) / 3		D1 = (t - 6) / 2 D2 = (t - 6) / 2		1 / 4 t ≤ S ≤ 10		D1 = 2 (t - 2) / 3 D2 = (t - 2) / 3 1 / 4 t ≤ S ≤ 10		D1 = (t - 6) / 2 D2 = (t - 6) / 2 1 / 4 t ≤ S ≤ 10		D1 = 2 (t - 2) / 3 D2 = (t - 6) / 2 1 / 4 t ≤ S ≤ 10															
（注） 裏あて金および裏はつり （1）完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏あて金は、原則として、フランジの内側に設置し、取り付け方法は、図1-1による。裏あて金の組立溶接は接合部に悪影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1 / 4の位置に行う。 （2）裏あて金の厚さ及びすみ肉溶接のサイズは表1-1及び表1-2により、材質は、原則として母材と同等以上のものとする。 （3）完全溶込み溶接を両面溶接とする場合は、裏溶接の前に裏はつりを行う。 裏はつりは、健全な溶着部分が現れるまではつり取るものとする。ただし、自動溶接において、完全な溶込みが得られたことが確認できる場合には、裏はつりを省略することができる。 図1-1 裏あて金の溶接（別図3. 10）  表1-1 裏あて金の長さ（別表3. 5）（mm） <table><tr><th>溶 接 工 法</th><th>t</th></tr><tr><td>手溶接</td><td>6以上</td></tr><tr><td>半自動溶接</td><td>9以上</td></tr><tr><td>自動溶接</td><td>12以上</td></tr></table> 表1-2 溶接のサイズ（別表3. 6）（mm） <table><tr><th>裏あて金の厚さ</th><th>S</th></tr><tr><td>t ≤ 9</td><td>5</td></tr><tr><td>t > 9</td><td>9</td></tr></table>												溶 接 工 法	t	手溶接	6以上	半自動溶接	9以上	自動溶接	12以上	裏あて金の厚さ	S	t ≤ 9	5	t > 9	9
溶 接 工 法	t																								
手溶接	6以上																								
半自動溶接	9以上																								
自動溶接	12以上																								
裏あて金の厚さ	S																								
t ≤ 9	5																								
t > 9	9																								
項目欄の（ ）内の数字は「建設大臣官房官庁営繕部監修建築鉄骨設計基準及び同解説平成10年度版」の該当項目番号を示す。																									

項目欄の（ ）内の数字は「建設大臣官房官庁営繕部監修建築鉄骨設計基準及び同解説平成10年度版」の該当項目番号を示す。

1. 溶接継手基準（2）

2. 溶接施工

(2) すみ肉溶接（別図3. 6、3. 15）		(3) 部分溶込み溶接（別図3. 7）	
F	すみ肉溶接（単位mm）	P	部分溶込み溶接（単位mm）
	アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接		アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接
	1.（片面溶接）		1.（片面溶接）
	$t \leq 16$		$12 < t \leq 40$
H	4.（鋼管と鋼管）		2.（両面溶接）
	適用管厚 $3.2 \leq t \leq 12$ 交角 $30^\circ \leq \theta \leq 150^\circ$ 主管外径は支管外径より大径のものを使用する。		$16 < t \leq 40$
	2.（両面溶接）		$t \leq 16$
	$t \leq 16$		
	$16 < t \leq 40$		$16 < t \leq 40$
	$16 < t \leq 40$		$16 < t \leq 40$
	3.（アングル）		5.（鋼管とプレート）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		3.（軽量形鋼V形溶接）
	5.（鋼管とプレート）		4.（軽量形鋼レ形溶接）

エポコラム工法特記仕様書

1 工事概要

本地業は、セメントスラリーを用いた機械式攪拌深層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、原地盤を固化する方法によって地盤改良を行うものである。

2 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「2018年度版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（（財）日本建築センター、以下指針という）による。

3 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
- (2) 中間層としてレンズ状または互層状に分布するN値40～50程度の砂礫及び玉石混じり層（混入率30%程度以下）固結した砂質土及び、中間層に転石（φ300mm程度以下）、コンクリート塊が点在する場合でも削孔・攪拌改良施工を可能であることについて、公的機関で証明を受けた工法とする。
- (3) コラムの設計基準強度はF_c=1650kN/m²、設計時想定する変動係数の推定値を25%以下であることについて、公的機関で証明を受けた工法とする。
- (4) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- (5) セメントスラリーを用いた機械式攪拌深層混合処理工法の専門工事会社を本工事施工業者とする。
- (6) 固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができ、相対攪拌装置を装備する施工機械を用いる。
- (7) 工法の選定においては、上記の内容について公的機関における性能評定を有する工法（エポコラム工法同等以上）を選定する。

4 配合管理

- (1) セメントスラリーに使用する固化材および推定配合量は下記とするが、事前に現状土による室内配合試験を実施し配合量を決定する。
- (2) 配合強度
- 配合管理目標変動係数を想定し、「5 品質検査」に規定する抜き取り個所数Nから表1を用いて α を決め、配合強度Xを設定する。
- $X = F_c \times \alpha$
X₁：配合強度
F_c：設計基準強度
 α ：割り増し係数

表 1 割り増し係数（L₅₀=80%, σ_v =25%の場合）

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
配合管理目標変動係数 σ_v						
25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

- (3) W/Cと固化材量
- 室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。
- $X = X_{室内} \times \alpha_{現場}$
X_{室内}：室内配合強度
X_{現場}：配合強度
 $\alpha_{現場}$ ：現場/室内強度比

※固化材および添加量は、下記を暫定配合とする
(事前に現状土による室内配合試験を実施し、配合量を決定する。)

固化材料：特殊土用セメント系固化材（GS2000・TL-3E 同等品）
水（飲料水・工業用水等）

配合：W/C=70%
使用量：添加量は400kg/m³

5 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数
- ① 検査対象層は（盛土）であり設計対象層を（盛土）とする。
- ② 検査手法は強度のパラツキを想定する場合は検査手法Aによる。その場合は、選定工法による改良体の強度のパラツキデータを添付すること。

③ 調査ヶ所数

表 2 調査ヶ所数			
∴採取箇所数N=8箇所			
検査手法	供試体の採取方法	調査箇所数	1箇所あたり必要供試体数
検査手法A	頭部17試験	4箇所	3本(材齢28日試験)
	全長17試験	4箇所	上中下各3本(材齢28日試験)

- (2) 合否の判定
- ① 設計対象層についての抜取ヶ所数をNとする。1ヶ所あたり3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
- ② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
- ③ 検査手法Aによる品質検査
- 合否の判定は設計対象層におけるNヶ所（抜取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。
- $$X_N \geq X = F_c + k \times \sigma_v = F_c + k \{ F_c \times \sigma_v / (1+1.3 \sigma_v) \}$$

X_N：Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値
X₁：合格判定値
F_c：設計基準強度
k₁：合格判定係数
 σ_v ：標準偏差 $\sigma_v = \sqrt{\sum (x_i - \bar{x})^2 / (n - 1)}$
V₁：変動係数、品質確認書より想定する

表 3 合格判定係数

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数 k ₁	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

- (3) コア採取率による調査
- コアボーリング調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。
コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%、深さ1m毎に、粘性土で85%、砂質土で90%以上であることを確認する。礫等を有する地層はサンプリング時のサンプラーの回転切削により固化部分が崩れるので、コア採取率による連続性の判定は、上述の目安値と地盤条件などを加味して総合的に行う。
- (4) 六価クロム溶出試験
- 国土交通省 国官技第16号、国営建第1号（平成13年4月20日）「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領（案）」による六価クロム溶出試験を実施し、試験結果を提出するものとする。

事前配合試験段階 1検体

角形鋼管

□-150×150 ～ □-800×800 用

(一財) 日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0335-01」 (2024年1月26日付)

ベースバック柱脚工法 設計施工標準図

1/3

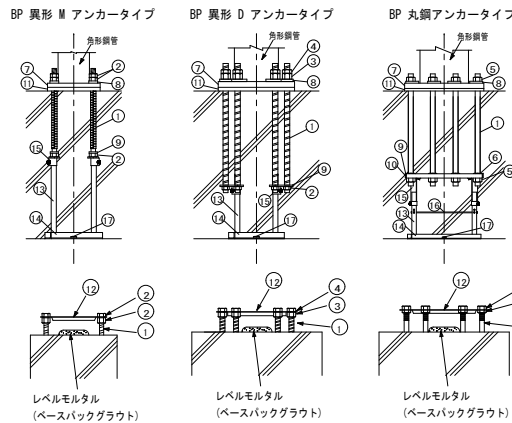
- ベースバック柱脚工法の設計は「ベースバック柱脚工法設計ハンドブック」による。
- 本標準図は1/3～3/3で構成されている。

岡部株式会社 旭化成建材株式会社
TEL:03 (3624) 5336 TEL:03 (3296) 3515

改訂:2026. 3. 26

1. 工法概要

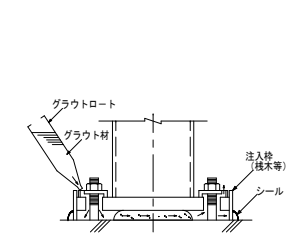
1. 1 構成部材



- ①アンカーボルト
- ②BP M ナット
- ③BP D ナット
- ④BP D ナット(S)
- ⑤BP 丸鋼ナット
- ⑥BP 位置決めナット
- ⑦ベースプレート
- ⑧BP 注入座金
- ⑨BP 定着板/BP 連結定着板
- ⑩BP 定着ベルト
- ⑪ベースバックグラウト
- ⑫テンプレート
- ⑬フレームポスト
- ⑭フレームベース
- ⑮BP 受け金物
- ⑯振れ止め金物
- ⑰ステコンアンカー

(注)上記①～⑪の構成部材はベースバック構成部品として供給される。
(注)上記⑫～⑰は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1. 2 柱脚の定着方法概要



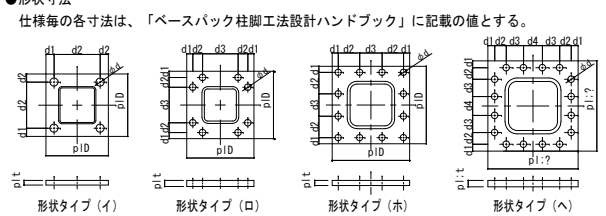
2. 柱

F値 (N/mm ²)	鋼種	採用
235	BCP235 STKR400 SHC400	
295	JBCR295 TSC295 BCP325 STKR490 SHC490 BSH325	
325	UBCR365 JBCR385 BCP385	

3. 構成部材・寸法

3. 1 ベースプレート

- 材質
SN490B【JIS G 3136】、TMCP385B【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
- 形状寸法
仕様毎の各寸法は、「ベースバック柱脚工法設計ハンドブック」に記載の値とする。



3. 2 アンカー用ボルトセット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

3. 2. 1 アンカーボルト



呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b	呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b
M27	490	4	695	M48	600	1100	140
M30	490	4	665	M52	600	1195	155
M33	490	4	690	M56	600	1275	160
M36	490	4	770	M60	600	1350	170
M39	490	4	830	M64	600	1430	175

呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b	呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b
D35H	490	1030	60	M48	600	1100	140
D38H	490	1085	60	M52	600	1195	155
D41H	490	1110	60	M56	600	1275	160
D45H	490	1220	70	M60	600	1350	170

3. 2. 2 ナット

呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b	呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b
M27	490	4	695	M48	600	1100	140
M30	490	4	665	M52	600	1195	155
M33	490	4	690	M56	600	1275	160
M36	490	4	770	M60	600	1350	170
M39	490	4	830	M64	600	1430	175

呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b	呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b
D35H	490	1030	60	M48	600	1100	140
D38H	490	1085	60	M52	600	1195	155
D41H	490	1110	60	M56	600	1275	160
D45H	490	1220	70	M60	600	1350	170

呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b	呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b
M27	490	4	695	M48	600	1100	140
M30	490	4	665	M52	600	1195	155
M33	490	4	690	M56	600	1275	160
M36	490	4	770	M60	600	1350	170
M39	490	4	830	M64	600	1430	175

呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b	呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b
M27	490	4	695	M48	600	1100	140
M30	490	4	665	M52	600	1195	155
M33	490	4	690	M56	600	1275	160
M36	490	4	770	M60	600	1350	170
M39	490	4	830	M64	600	1430	175

呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b	呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b
M27	490	4	695	M48	600	1100	140
M30	490	4	665	M52	600	1195	155
M33	490	4	690	M56	600	1275	160
M36	490	4	770	M60	600	1350	170
M39	490	4	830	M64	600	1430	175

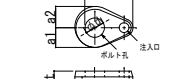
呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b	呼び	基準強度 (N/mm ²)	L	b
M27	490	4	695	M48	600	1100	140
M30	490	4	665	M52	600	1195	155
M33	490	4	690	M56	600	1275	160
M36	490	4	770	M60	600	1350	170
M39	490	4	830	M64	600	1430	175

3. 3 定着部材

3. 3. 1 BP 定着ベルト

ベースバック記号	D	E
35-25F3	565	395
35-19F4	575	375
40-22F3	625	425
40-23F3	630	430
45-19F3	675	475
45-28F3	680	480
45-29F3	700	500
45-28F3	714	514
50-19F3	730	530
50-22F3	750	550
50-25F3	774	574
50-28F3	774	574
55-19F3	790	590
55-22F3	814	614
55-19F4	814	614

3. 2. 3 BP 注入座金



記号	a1	a2	c	t	Φd
PM27	32	42	101	18	28
PM30	32	42	101	18	31
PM33	35	45	110	18	34
PM36	35	45	110	18	37
PM39	38	48	118	18	40

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

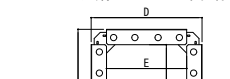
記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

3. 3 定着部材

3. 3. 1 BP 定着ベルト

ベースバック記号	D	E
35-25F3	565	395
35-19F4	575	375
40-22F3	625	425
40-23F3	630	430
45-19F3	675	475
45-28F3	680	480
45-29F3	700	500
45-28F3	714	514
50-19F3	730	530
50-22F3	750	550
50-25F3	774	574
50-28F3	774	574
55-19F3	790	590
55-22F3	814	614
55-19F4	814	614

BP 丸鋼アンカー16本仕様



記号	a1	a2	c	t	Φd
PM27	32	42	101	18	28
PM30	32	42	101	18	31
PM33	35	45	110	18	34
PM36	35	45	110	18	37
PM39	38	48	118	18	40

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41	95	128	22	45
PE51	116	147	22	58

記号	a	c	t	Φd
PE35	85	118	18	40
PE41				

採用	RC柱 柱符号数量として設計※1	ベースバック 記号 mm	柱		ベースプレート									アンカーボルト			コンクリート柱型（側・隅柱、中柱用）※2													コンクリート柱型（独立柱用）※2										最低 h寸法 mm	J寸法 mm		
			外径 mm	板厚 mm	材質	形状 タイプ mm	寸法							本数	呼び mm	埋込長さ N/mm ²	F _c 下限値	標準断面 寸法cD	柱型拡張上限※3		フープ筋 (SD295)	立上り筋本数										F _c 下限値	標準断面 寸法cD	柱型拡張上限※3		フープ筋 (SD295)	立上り筋本数						
							pD	pl t	d1	d2	d3	d4	φd						側・隅柱用※4	中柱用※5		側面寸法	片側拡張量	D16 (SD295)	D19 (SD345)	D22 (SD345)	D25 (SD345)	D29 (SD390)	D16 (SD295)	D19 (SD345)	D22 (SD345)			D25 (SD345)	D29 (SD390)		D16 (SD295)	D19 (SD345)	D22 (SD345)			D25 (SD345)	D29 (SD390)

		□	15-12F2	□150	≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	-	45	4	MD27	357	21	500	-	-	D13@100	12	-	-	-	-	12	-	-	-	-	21	500	-	-	D13@100	12	-	-	-	-	550	135
		□	17-12F2	□175	≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	-	45	4	MD30	397	21	530	-	-	D13@100	12	-	-	-	-	12	-	-	-	-	21	530	-	-	D13@100	12	-	-	-	-	600	135
		□	20-09F2	□200	≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	-	45	4	MD30	397	21	560	-	-	D13@100	16	12	-	-	-	16	12	-	-	-	21	560	-	-	D13@100	16	12	-	-	-	600	135
		□	20-12F2	□200	≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	-	50	4	MD33	430	21	560	-	-	D13@100	16	12	-	-	-	16	12	-	-	-	21	560	-	-	D13@100	16	12	-	-	-	600	135
		□	25-09F2	□250	≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	-	55	4	MD36	460	21	610	-	-	D13@100	-	16	12	12	-	-	12	12	12	-	21	610	-	-	D13@100	-	16	12	12	-	650	150
		□	25-12F2	□250	≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	-	55	4	MD39	495	21	630	-	-	D13@100	-	16	12	12	-	-	12	12	12	-	21	630	-	-	D13@100	-	20	12	12	-	650	150
		□	25-16F2	□250	≦16	SN490B	(ロ)	450	32	50	80	190	-	50	8	MD33	485	21	650	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	20	16	12	-	21	730	-	-	D13@100	-	24	16	-	-	610	135	
		□	30-09F2	□300	≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	-	55	4	MD39	495	21	680	-	-	D13@100	-	16	12	12	-	-	16	12	12	-	21	680	-	-	D13@100	-	12	12	-	-	650	150
		□	30-12F2	□300	≦12	SN490B	(ロ)	520	32	50	80	260	-	50	8	MD30	450	21	700	720	10	D13@100	-	-	16	16	-	-	16	12	12	-	21	710	720	5	D13@100	-	24	16	-	-	570	135
		□	30-16F2	□300	≦16	SN490B	(ロ)	520	40	50	80	260	-	55	8	MD36	600	21	730	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	24	16	16	-	21	770	-	-	D13@100	-	24	-	-	-	720	150	
		□	30-19F2	□300	≦19	SN490B	(ロ)	550	50	50	80	290	-	55	8	MD36	600	21	760	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	24	16	16	-	21	790	-	-	D13@100	-	24	-	-	-	720	150	
		□	35-12F2	□350	≦12	SN490B	(ロ)	580	36	50	95	290	-	55	8	D35H	620	21	810	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	-	20	16	-	21	840	-	-	D13@100	-	28	-	-	-	750	170	
		□	35-16F2	□350	≦16	SN490B	(ロ)	610	45	50	95	320	-	55	8	D35H	620	21	830	-	-	D13@100	-	-	-	20	-	-	20	16	-	21	870	-	-	D13@100	-	28	-	-	-	750	170	
		□	35-19F2	□350	≦19	SN490B	(ロ)	610	45	60	95	300	-	60	8	D38H	750	21	820	1090	135	D13@100	-	-	24	20	-	-	20	16	-	21	880	1090	105	D13@100	-	-	20	-	-	880	190	
		□	35-22F2	□350	≦22	TMCP385B	(ロ)	610	45	60	95	300	-	65	8	D41H	800	21	850	1090	120	D13@100	-	-	24	20	-	-	24	20	-	21	910	1090	90	D13@100	-	24	20	-	-	930	195	
		□	35-25F3	□350	≦25	TMCP385B	(ホ)	600	50	60	160	160	-	60	12	D38H	750	21	850	1080	115	D16@100	-	-	24	20	-	-	24	20	-	21	910	1080	85	D16@100	-	28	20	-	-	1090	190	
		□	40-16F3	□400	≦16	TMCP385B	(ロ)	670	45	55	95	370	-	60	8	D38H	750	21	870	1160	145	D13@100	-	-	24	20	-	-	24	20	-	21	910	1160	125	D13@100	-	24	20	-	-	880	190	
		□	40-19F3	□400	≦19	TMCP385B	(ホ)	680	50	60	95	370	-	65	8	D41H	800	21	900	1160	130	D13@100	-	-	28	20	-	-	28	20	-	21	950	1160	105	D13@100	-	28	20	-	-	930	195	
		□	40-22F3	□400	≦22	TMCP385B	(ホ)	650	55	55	160	220	-	60	12	D38H	750	21	920	1140	110	D16@100	-	-	28	20	-	-	28	20	-	21	970	1140	85	D16@100	-	28	24	-	-	1090	190	
		□	40-25F3	□400	≦25	TMCP385B	(ホ)	670	55	65	160	220	-	65	12	D41H	800	21	970	1140	85	D16@100	-	-	32	24	-	-	32	24	-	21	1000	1140	70	D16@100	-	32	24	-	-	1140	195	
		□	45-16F3	□450	≦16	TMCP385B	(ロ)	740	45	65	95	420	-	65	8	D41H	800	21	950	1210	130	D16@100	-	-	24	20	-	-	24	20	-	21	950	1210	130	D16@100	-	28	20	-	-	930	195	
		□	45-19F3	□450	≦19	TMCP385B	(ホ)	710	45	60	160	270	-	60	12	D38H	750	21	1000	1190	95	D16@100	-	-	28	24	-	-	28	20	-	21	1020	1190	85	D16@100	-	28	24	-	-	1090	190	
		□	45-22F3	□450	≦22	TMCP385B	(ホ)	710	50	60	160	270	-	65	12	D41H	800	21	1010	1190	90	D16@100	-	-	32	24	-	-	32	24	-	21	1080	1190	55	D16@100	-	32	28	-	-	1140	195	
		□	45-25F3	□450	≦25	TMCP385B	(ホ)	750	55	70	160	290	-	65	12	D41H	800	24	1020	1210	95	D16@100	-	-	32	28	-	-	32	28	-	24	1080	1210	65	D16@100	-	36	28	-	-	1140	195	
		□	45-28F3	□450	≦28	TMCP385B	(ホ)	750	55	70	200	210	-	75	12	D51L	790	24	1020	1210	95	■D16@100	-	-	36	28	-	-	36	28	-	24	1080	1210	65	■D16@100	-	36	28	-	-	1130	220	
		□	50-19F3	□500	≦19	TMCP385B	(ホ)	760	50	60	160	320	-	65	12	D41H	800	24	1040	1240	100	D16@100	-	-	36	28	-	-	36	28	20	24	1090	1240	75	D16@100	-	36	28	-	-	1140	195	
		□	50-22F3	□500	≦22	TMCP385B	(ホ)	810	55	75	160	340	-	65	12	D41H	800	24	1060	1260	100	D16@100	-	-	36	28	-	-	36	28	20	24	1100	1260	80	D16@100	-	36	28	-	-	1140	195	
		□	50-25F3	□500	≦25	TMCP385B	(ホ)	810	55	70	200	270	-	75	12	D51L	790	24	1070	1270	100	■D16@100	-	-	40	28	-	-	40	28	20	24	1100	1270	85	■D16@100	-	40	32	-	-	1130	220	
		□	50-28F3	□500	≦28	TMCP385B	(ホ)	810	60	70	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1180	1270	45	■D16@100	-	-	48	36	24	-	48	36	24	24	1180	1270	45	■D16@100	-	48	36	-	-	1230	230	
		□	50-32F3	□500	≦32	TMCP385B	(ホ)	810	60	70	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1180	1270	45	■D16@100	-	-	48	36	24	-	48	36	24	24	1180	1270	45	■D16@100	-	48	36	28	-	1230	230	
		□	50-36F3	□500	≦36	TMCP385B	(ホ)	840	65	85	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1200	1270	35	■D16@100	-	-	48	36	24	-	48	36	24	24	1200	1270	35	■D16@100	-	48	36	28	-	1230	230	
		□	55-19F3	□550	≦19	TMCP385B	(ホ)	850	50	75	160	380	-	65	12	D41H	800	24	1100	1300	100	D16@100	-	-	36	28	-	-	36	28	20	24	1140	1300	80	D16@100	-	36	28	-	-	1140	195	
		□	55-22F3	□550	≦22	TMCP385B	(ホ)	850	55	70	200	310	-	75	12	D51L	790	24	1100	1310	105	■D16@100	-	-	40	32	-	-	40	32	24	24	1140	1310	85	■D16@100	-	40	32	-	-	1130	220	
		□	55-25F3	□550	≦25	TMCP385B	(ホ)	850	60	70	200	310	-	75	12	D51H	890	24	1180	1310	65	■D16@100	-	-	48	40	-	-	48	40	28	24	1250	1310	30	■D16@100	-	48	40	28	-	1230	230	
		□	55-28F3	□550	≦28	TMCP385B	(ホ)	850	60	70	200	310	-	75	12	D51H	890	24	1200	1310	55	■D16@100	-	-	48	40	28	-	48	40	28	24	1250	1310	30	■D16@100	-	48	40	28	-	1230	230	
		□	55-32F3	□550	≦32	TMCP385B	(ホ)	900	65	70	250	260	-	75	12	M56	970	24	1200	1360	80	■D16@100	-	-	40	28	-	-	40	28	24	1250	1360	55	■D16@100	-	40	28	-	-	1360	170		
		□	55-36F3	□550	≦36	TMCP385B	(ホ)	900	7																																			

※1 コンクリート柱型をRC柱として設計する場合は、独立柱用の仕様を下回らないこと。

※2 立上り高さが50mm以下（BP丸鋼アンカータイプの場合は200mm以下）の場合に適用できる。

ただし、いずれの場合でも、ブレースが接合する方向の立上り高さが50mmを超える場合には適用できない。

※3 柱型は、補強鉄筋(鉄筋径、本数、ピッチ及び強度)が上表の通りであることを条件に、柱型拡幅上限まで拡幅することができる。

なお、断面寸法は柱心と柱型心が一致する場合の最大値であり、方向別の拡幅上限は片側拡幅量以内とする。

※4 基礎梁が直交する2方向から取り付き、かつ立上げ部段差が50mm以下（BP丸鋼アンカータイプの場合は200mm以下）の場合は側・隅柱用を選択できる。

ただし、□350以上においては側・隅柱であっても、取り付く基礎梁内のスタラップ筋の径がD13より小さくなる場合は、独立柱用による。

※5 基礎梁が4方向から取り付き、かつ立上げ部段差が50mm以下（BP丸鋼アンカータイプの場合は200mm以下）の場合は中柱用を選択できる。

ただし、中柱であっても、取り付け基礎梁内のスタラップ筋がD13より小さくなる場合、もしくはピッチが200mmを超える場合は、独立柱用による。

双葉町立新校整備事業基本設計・実施設計業務	アーキシップ・鈴木弘人設計業務共同企業体 一級建築士 第112708号 飯田善彦	横浜市中央区白田4-9 TEL045・326-6611 FAX045-326-6617 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第10568号	株式会社 構造計画プラス・ワン 総務部〒千代田区佃町8番地3 吉野ビル3階 TEL045・317209 構造設計一級建築士 第8450号 早稲倉幸樹 一級建築士事務所登録 東京都知事登録 第30886号	日付	2026. 7	図面名称	ベースパック柱脚工法標準仕様書(2)	縮尺	S=— (A1) S=— (A3)	図番	S-1-26
------------------------------	---	--	--	-----------	----------------	-------------	---------------------------	-----------	------------------------------	-----------	---------------

ベースバック

角形鋼管

□-150×150 ～ □-800×800 用

(一財) 日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0335-01」

(2024年1月26日付)

ベースバック柱脚工法

設計施工標準図

3 / 3

●ベースバック柱脚工法の設計は「ベースバック柱脚工法設計ハンドブック」による。

●本標準図は1 / 3 ～ 3 / 3 で構成されている。

岡部株式会社

旭化成建材株式会社

TEL:03 (3624) 5336

TEL:03 (3296) 3515

改訂:2026. 3. 26

採用		RC柱	ベースバック	柱		ベースプレート							アンカーボルト			コンクリート柱型（側・隅柱、中柱用）※2															コンクリート柱型（独立柱用）※2										最低	J寸法			
柱符号	数量	として設計	※1 記号	外径	板厚	材質	形状 タイプ	寸法							本数	呼び	埋込長さ	Fc 下限値	標準断面 寸法cD	柱型拡張上限※3		フープ筋	立上り筋本数										Fc 下限値	標準断面 寸法cD	柱型拡張上限※3		フープ筋	立上り筋本数					h寸法	mm	mm
								pID	pl t	d1	d2	d3	d4	φd						側・隅柱用※4	中柱用※5					側面寸法	片側拡張量	側面寸法	片側拡張量	D16	D19	D22			D25	D29									
																					(SD295)		(SD345)	(SD345)	(SD345)													(SD390)	(SD295)	(SD345)	(SD345)	(SD345)			
		□	35-16F4	□350	≦16	TMCP385B	(□)	610	45	60	95	300	-	65	8	D41H	800	21	850	1090	120	D13@100	-	-	24	20	-	-	-	24	20	-	21	890	1090	100	D13@100	-	-	28	20	-	930	195	
		□	35-19F4	□350	≦19	TMCP385B	(※)	610	50	60	160	170	-	60	12	D38H	750	21	870	1090	110	D16@100	-	-	24	20	-	-	-	24	20	-	21	910	1090	90	D16@100	-	-	28	20	-	1090	190	
		□	35-22F4	□350	≦22	TMCP385B	(※)	610	50	60	160	170	-	60	12	D38H	750	24	850	1090	120	D16@100	-	-	24	20	-	-	-	24	20	-	24	910	1090	90	D16@100	-	-	28	20	-	1090	190	
		□	40-16F4	□400	≦16	TMCP385B	(※)	650	55	55	160	220	-	60	12	D38H	750	21	920	1140	110	D16@100	-	-	28	20	-	-	-	28	20	-	21	980	1140	80	D16@100	-	-	28	24	-	1090	190	
		□	40-19F4	□400	≦19	TMCP385B	(※)	670	55	65	160	220	-	65	12	D41H	800	21	980	1140	80	D16@100	-	-	32	24	-	-	-	32	24	-	21	1000	1140	70	D16@100	-	-	32	24	-	1140	195	
		□	40-22F4	□400	≦22	TMCP385B	(※)	670	55	65	160	220	-	65	12	D41H	800	24	930	1140	105	D16@100	-	-	32	24	-	-	-	32	24	-	24	980	1140	80	D16@100	-	-	32	24	-	1140	195	
		□	45-16F4	□450	≦16	TMCP385B	(※)	710	50	60	160	270	-	60	12	D38H	750	21	1000	1190	95	D16@100	-	-	28	24	-	-	-	28	20	-	21	1020	1190	85	D16@100	-	-	32	24	-	1090	190	
		□	45-19F4	□450	≦19	TMCP385B	(※)	710	50	60	160	270	-	65	12	D41H	800	24	1000	1190	95	D16@100	-	-	32	24	-	-	-	32	24	-	24	1040	1190	75	D16@100	-	-	36	28	-	1140	195	
		□	45-22F4	□450	≦22	TMCP385B	(※)	750	55	70	200	210	-	75	12	D51L	790	24	1000	1210	105	▦D16@100	-	-	36	28	-	-	-	36	28	-	24	1040	1210	85	▦D16@100	-	-	36	28	-	1130	220	
		□	45-25F4	□450	≦25	TMCP385B	(※)	750	60	70	200	210	-	75	12	D51H	890	24	1100	1210	55	▦D16@100	-	-	44	36	-	-	-	44	32	-	24	1120	1210	45	▦D16@100	-	-	44	36	-	1230	230	
		□	50-19F4	□500	≦19	TMCP385B	(※)	810	55	70	200	270	-	75	12	D51L	790	24	1050	1270	110	▦D16@100	-	-	40	32	-	-	-	40	32	20	24	1050	1270	110	▦D16@100	-	-	40	36	-	1130	220	
		□	50-22F4	□500	≦22	TMCP385B	(※)	810	60	70	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1180	1270	45	▦D16@100	-	-	48	36	24	-	-	48	36	24	24	1200	1270	35	▦D16@100	-	-	48	36	28	1230	230	
		□	50-25F4	□500	≦25	TMCP385B	(※)	810	60	70	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1180	1270	45	▦D16@100	-	-	48	36	24	-	-	48	36	24	24	1200	1270	35	▦D16@100	-	-	48	36	28	1230	230	
		□	50-28F4	□500	≦28	TMCP385B	(※)	850	65	90	200	270	-	75	12	D51H	890	24	1200	1270	35	▦D16@100	-	-	48	36	24	-	-	48	36	24	24	1200	1270	35	▦D16@100	-	-	48	36	28	1230	230	
		□	55-19F4	□550	≦19	TMCP385B	(※)	850	60	70	200	310	-	75	12	D51H	890	24	1160	1310	75	▦D16@100	-	-	52	40	-	-	-	52	40	28	24	1250	1310	30	▦D16@100	-	-	48	40	28	1230	230	
		□	55-22F4	□550	≦22	TMCP385B	(※)	850	60	70	200	310	-	75	12	D51H	890	24	1200	1310	55	▦D16@100	-	-	52	40	28	-	-	52	40	28	24	1250	1310	30	▦D16@100	-	-	48	40	28	1230	230	
		□	55-25F4	□550	≦25	TMCP385B	(※)	900	65	70	250	260	-	75	12	M56	970	24	1200	1360	80	▦D16@100	-	-	-	40	28	-	-	-	40	28	24	1260	1360	50	▦D16@100	-	-	-	40	28	1360	170	
		□	55-28F4	□550	≦28	TMCP385B	(※)	900	70	70	250	260	-	80	12	M60	1030	24	1280	1360	40	▦D16@100	-	-	-	48	36	-	-	-	48	36	24	1320	1360	20	▦D16@100	-	-	-	48	36	1430	180	
		□	55-32F4	□550	≦32	TMCP385B	(※)	910	70	75	250	260	-	80	12	M60	1030	24	1280	1360	40	▦D16@100	-	-	-	48	36	-	-	-	48	36	24	1320	1360	20	▦D16@100	-	-	-	48	36	1430	180	
		□	60-19F4	□600	≦19	TMCP385B	(※)	920	60	65	210	370	-	75	12	M52	900	24	1200	1390	95	▦D16@100	-	-	-	40	28	-	-	-	40	28	24	1230	1390	80	▦D16@100	-	-	-	40	28	1290	165	
		□	60-22F4	□600	≦22	TMCP385B	(※)	940	65	70	250	300	-	75	12	M56	970	24	1250	1400	75	▦D16@100	-	-	-	44	32	-	-	-	44	32	24	1250	1400	75	▦D16@100	-	-	-	44	32	1360	170	
		□	60-25F4	□600	≦25	TMCP385B	(※)	940	70	70	250	300	-	80	12	M60	1030	24	1330	1400	35	▦D16@100	-	-	-	52	36	-	-	-	52	36	24	1340	1400	30	▦D16@100	-	-	-	52	36	1430	180	
		□	60-28F4	□600	≦28	TMCP385B	(※)	950	75	75	250	300	-	85	12	M64	1100	24	1380	1400	10	▦D16@100	-	-	-	56	40	-	-	-	56	40	24	1400	-	-	▦D16@100	-	-	-	56	40	1500	185	
		□	60-32F4	□600	≦32	TMCP385B	(※)	980	75	90	250	300	-	85	12	M64	1100	24	1390	1400	5	▦D16@100	-	-	-	56	40	-	-	-	56	40	24	1400	-	-	▦D16@100	-	-	-	56	40	1500	185	
		□	65-22F4	□650	≦22	TMCP385B	(※)	1000	70	75	250	350	-	80	12	M60	1030	24	1350	1450	50	▦D16@100	-	-	-	52	36	-	-	-	52	36	24	1400	1450	25	▦D16@100	-	-	-	52	36	1430	180	
		□	65-25F4	□650	≦25	TMCP385B	(※)	1000	70	75	250	350	-	80	12	M60	1030	24	1450	-	-	▦D16@100	-	-	-	52	36	-	-	-	52	36	24	1450	-	-	▦D16@100	-	-	-	52	36	1430	180	
		□	65-28F4	□650	≦28	TMCP385B	(※)	1050	80	100	250	350	-	85	12	M64	1100	24	1450	-	-	▦D16@100	-	-	-	56	40	-	-	-	56	40	24	1490	-	-	▦D16@100	-	-	-	56	40	1500	185	
		□	65-32F4	□650	≦32	TMCP385B	(△)	1050	75	80	135	200	220	80	16	M60	1150	24	1490	-	-	▦D16@100	-	-	-	64	44	-	-	-	64	44	24	1590	-	-	▦D16@100	-	-	-	60	44	1500	185	
		□	70-22F4	□700	≦22	TMCP385B	(※)	1050	70	80	250	390	-	80	12	M60	1030	24	1430	1490	30	▦D16@100	-	-	-	52	36	-	-	-	52	36	24	1460	1490	15	▦D16@100	-	-	-	52	40	1430	180	
		□	70-25F4	□700	≦25	TMCP385B	(※)	1090	75	90	250	410	-	85	12	M64	1100	24	1500	1510	5	▦D16@100	-	-	-	60	44	-	-	-	60	44	24	1560	-	-	▦D16@100	-	-	-	60	40	1500	185	
		□	70-28F4	□700	≦28	TMCP385B	(△)	1100	75	80	135	210	250	80	16	M60	1150	24	1560	-	-	▦D16@100	-	-	-	64	44	-	-	-															

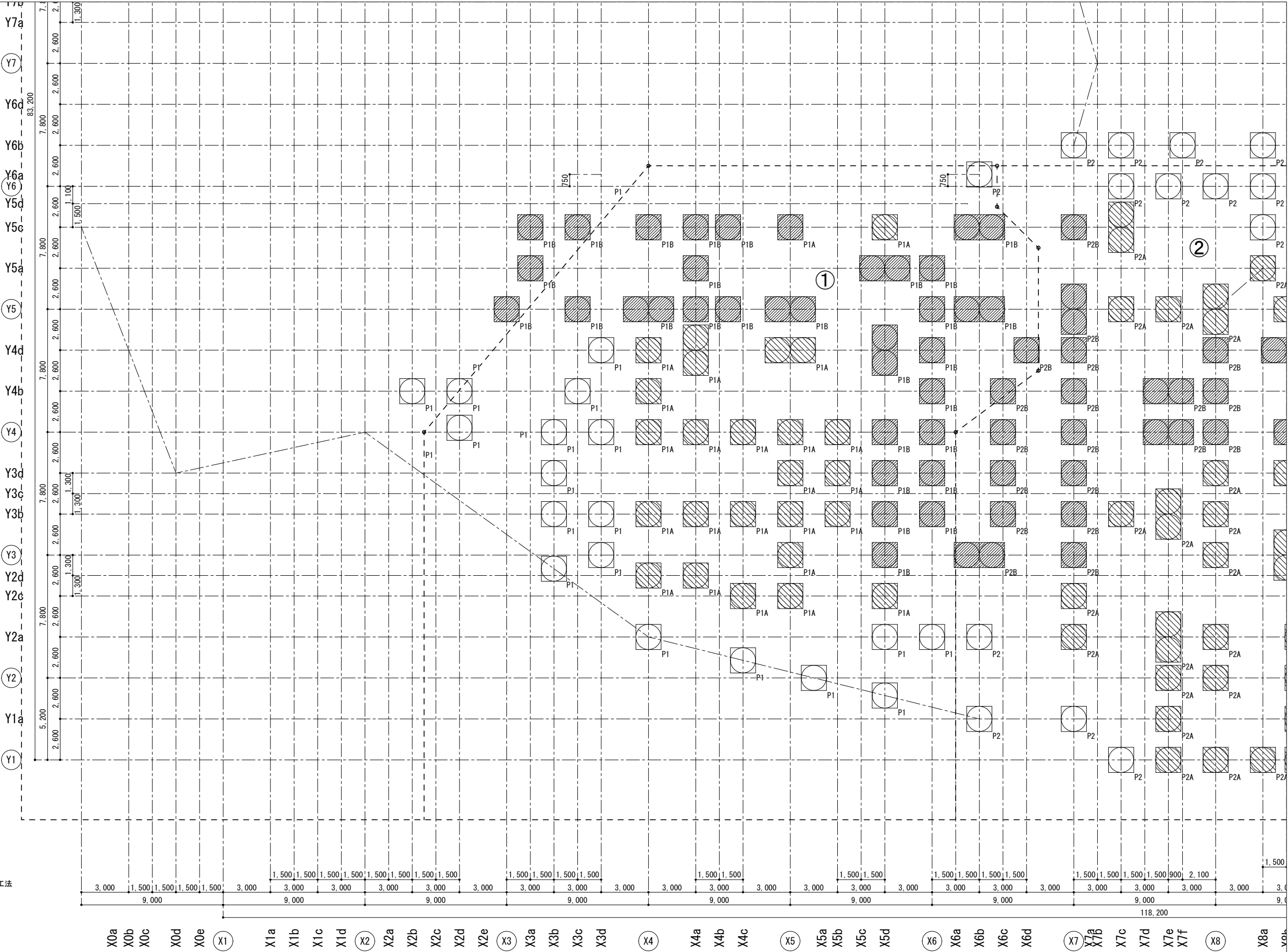
基礎下端レベル凡例

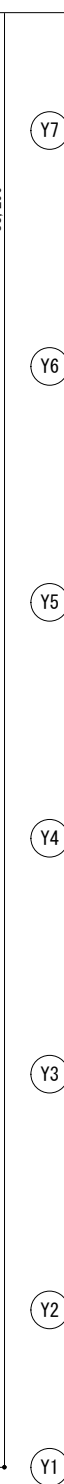
ゾーン	符 号	改良天端	改良下端	改良長
①	P1	GL-1, 850	GL-5, 150	3. 30m
	P1A	GL-2, 350		2. 80m
	P1B	GL-2, 850		2. 30m
②	P2	GL-1, 850	GL-5, 600	3. 75m
	P2A	GL-2, 350		3. 25m
	P2B	GL-2, 850		2. 75m
③	P3	GL-1, 850	GL-5, 700	3. 85m
	P3A	GL-2, 350		3. 35m
	P3B	GL-2, 850		2. 85m
④	P4	GL-1, 850	GL-7, 400	5. 55m
	P4A	GL-2, 350		5. 05m
	P4B	GL-2, 850		4. 55m
⑤	P5	GL-1, 850	GL-8, 100	6. 25m
	P5A	GL-2, 350		5. 75m
	P5B	GL-2, 850		5. 25m
⑥	P6	GL-1, 850	GL-10, 500	8. 65m
	P6A	GL-2, 350		8. 15m
	P6B	GL-2, 850		7. 65m
⑦	P7	GL-1, 850	GL-11, 100	9. 25m
	P7A	GL-2, 350		8. 75m
	P7B	GL-2, 850		8. 25m
⑧	P8	GL-1, 850	GL-11, 300	9. 45m
	P8A	GL-2, 350		8. 95m
	P8B	GL-2, 850		8. 45m

改良体伏図 (1)

【注記事項】特記なき限り以下による。

- 設計GL: H=28. 7m とする。
- 改良体の仕様は以下による。
工法: エボコラムTaf工法 (技審証第202005号) 同等工法
コラム径: φ1, 600
支持層: 泥岩層
支持力: 625kN/m²
設計基準強度: Fc=1, 800kN/m²
- 施工前に六価クロム溶出試験を行う。





ゾーン	符 号	改良天端	改良下端	改良長
①	P1	GL-1,850	GL-5,150	3.30m
	P1A	GL-2,350		2.80m
	P1B	GL-2,850		2.30m
②	P2	GL-1,850	GL-5,600	3.75m
	P2A	GL-2,350		3.25m
	P2B	GL-2,850		2.75m
③	P3	GL-1,850	GL-5,700	3.85m
	P3A	GL-2,350		3.35m
	P3B	GL-2,850		2.85m
④	P4	GL-1,850	GL-7,400	5.55m
	P4A	GL-2,350		5.05m
	P4B	GL-2,850		4.55m
⑤	P5	GL-1,850	GL-8,100	6.25m
	P5A	GL-2,350		5.75m
	P5B	GL-2,850		5.25m
⑥	P6	GL-1,850	GL-10,500	8.65m
	P6A	GL-2,350		8.15m
	P6B	GL-2,850		7.65m
⑦	P7	GL-1,850	GL-11,100	9.25m
	P7A	GL-2,350		8.75m
	P7B	GL-2,850		8.25m
⑧	P8	GL-1,850	GL-11,300	9.45m
	P8A	GL-2,350		8.95m
	P8B	GL-2,850		8.45m

- 設計GL:H=28.7m とする。
- 改良土の仕様は以下による。
工法：エポコラムTaf工法(技審証第202005号) 同等工法
コラム径：φ1,600
支持層：泥岩層
支持力：625kN/m²
設計基準強度：Fc=1,800kN/m²
- 施工前に六価クロム溶出試験を行う。

改良体伏図 (3)

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。

2. 改良体の仕様は以下による。
工法: エボコラムTaf工法 (技書証第202005号) 同等工法
コラム径: φ1,600
支持層: 泥岩層
支持力: 625kN/m²
設計基準強度: Fc=1,800kN/m²

3. 施工前に六価クロム溶出試験を行う。

基礎下端レベル凡例

ゾーン	符 号	改良天端	改良下端	改良長
①	P1	GL-1,850	GL-5,150	3.30m
	P1A	GL-2,350		2.80m
	P1B	GL-2,850		2.30m
②	P2	GL-1,850	GL-5,600	3.75m
	P2A	GL-2,350		3.25m
	P2B	GL-2,850		2.75m
③	P3	GL-1,850	GL-5,700	3.85m
	P3A	GL-2,350		3.35m
	P3B	GL-2,850		2.85m
④	P4	GL-1,850	GL-7,400	5.55m
	P4A	GL-2,350		5.05m
	P4B	GL-2,850		4.55m
⑤	P5	GL-1,850	GL-8,100	6.25m
	P5A	GL-2,350		5.75m
	P5B	GL-2,850		5.25m
⑥	P6	GL-1,850	GL-10,500	8.65m
	P6A	GL-2,350		8.15m
	P6B	GL-2,850		7.65m
⑦	P7	GL-1,850	GL-11,100	9.25m
	P7A	GL-2,350		8.75m
	P7B	GL-2,850		8.25m
⑧	P8	GL-1,850	GL-11,300	9.45m
	P8A	GL-2,350		8.95m
	P8B	GL-2,850		8.45m

Y12b

Y12a

Y12

Y11c

Y11b

Y11a

Y11

Y10e

Y10d

Y10c

Y10b

Y10a

Y10

Y9c

Y9a

Y9

Y8d

Y8b

Y8

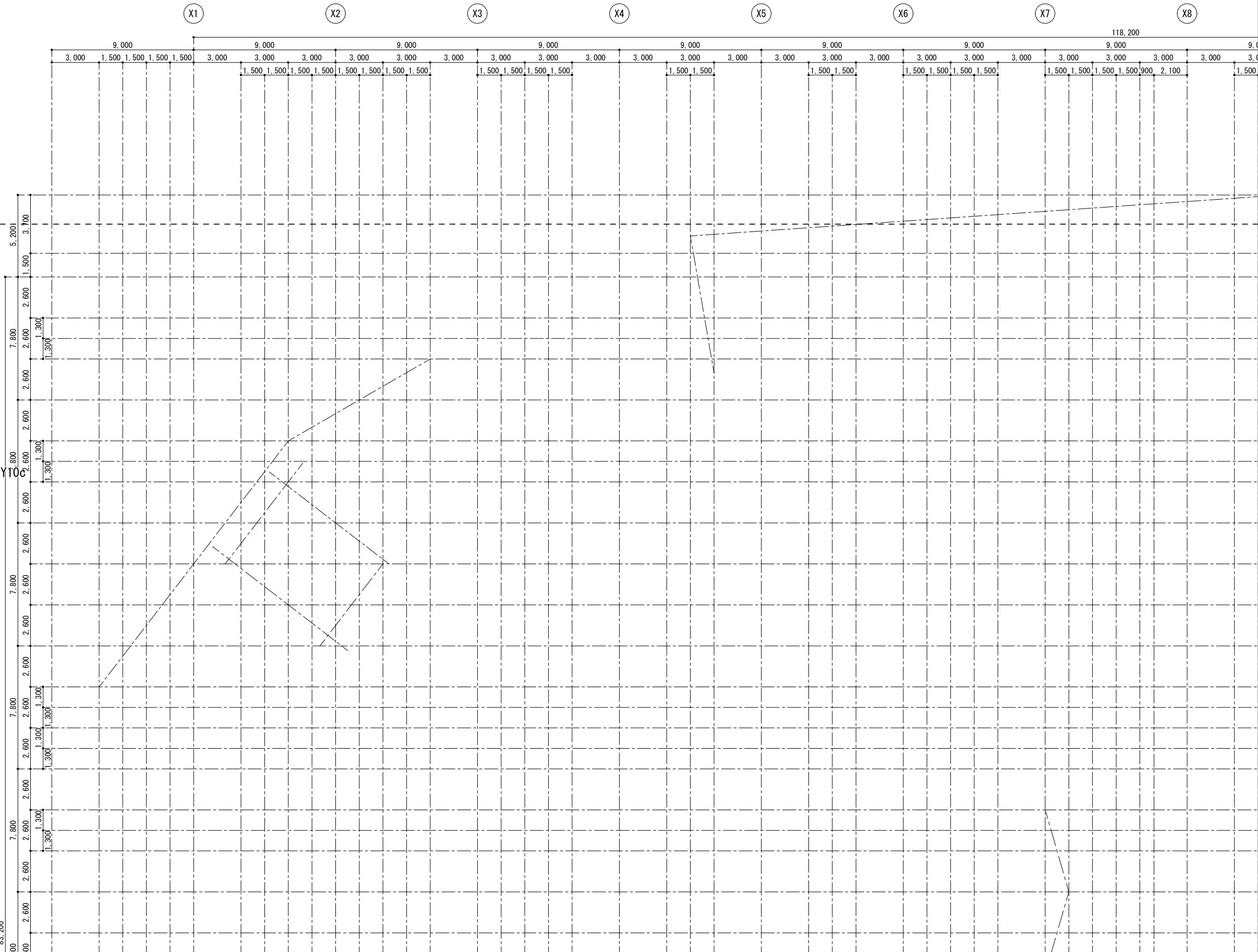
Y7c

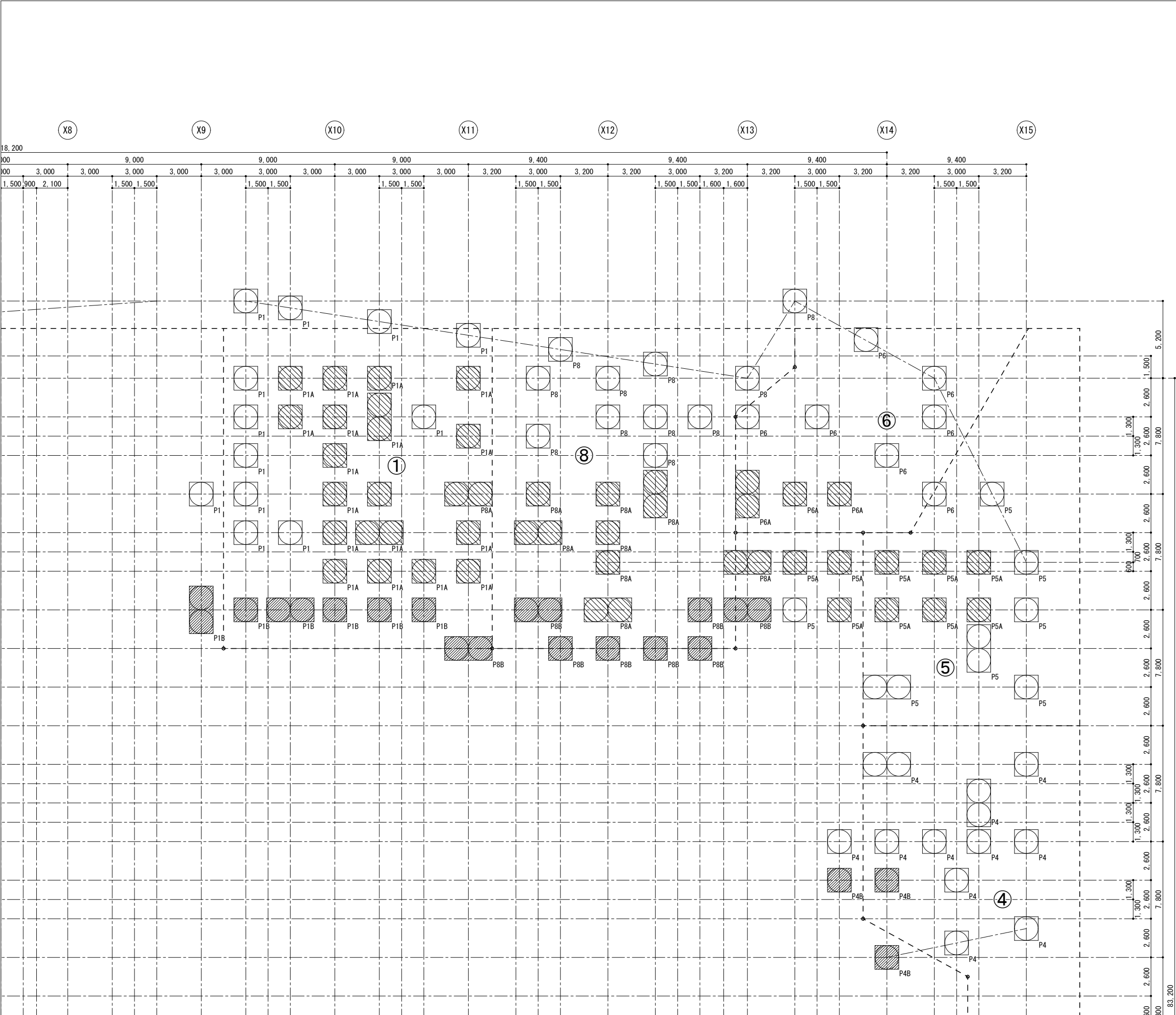
Y7b

Y7a

Y7

Y6d

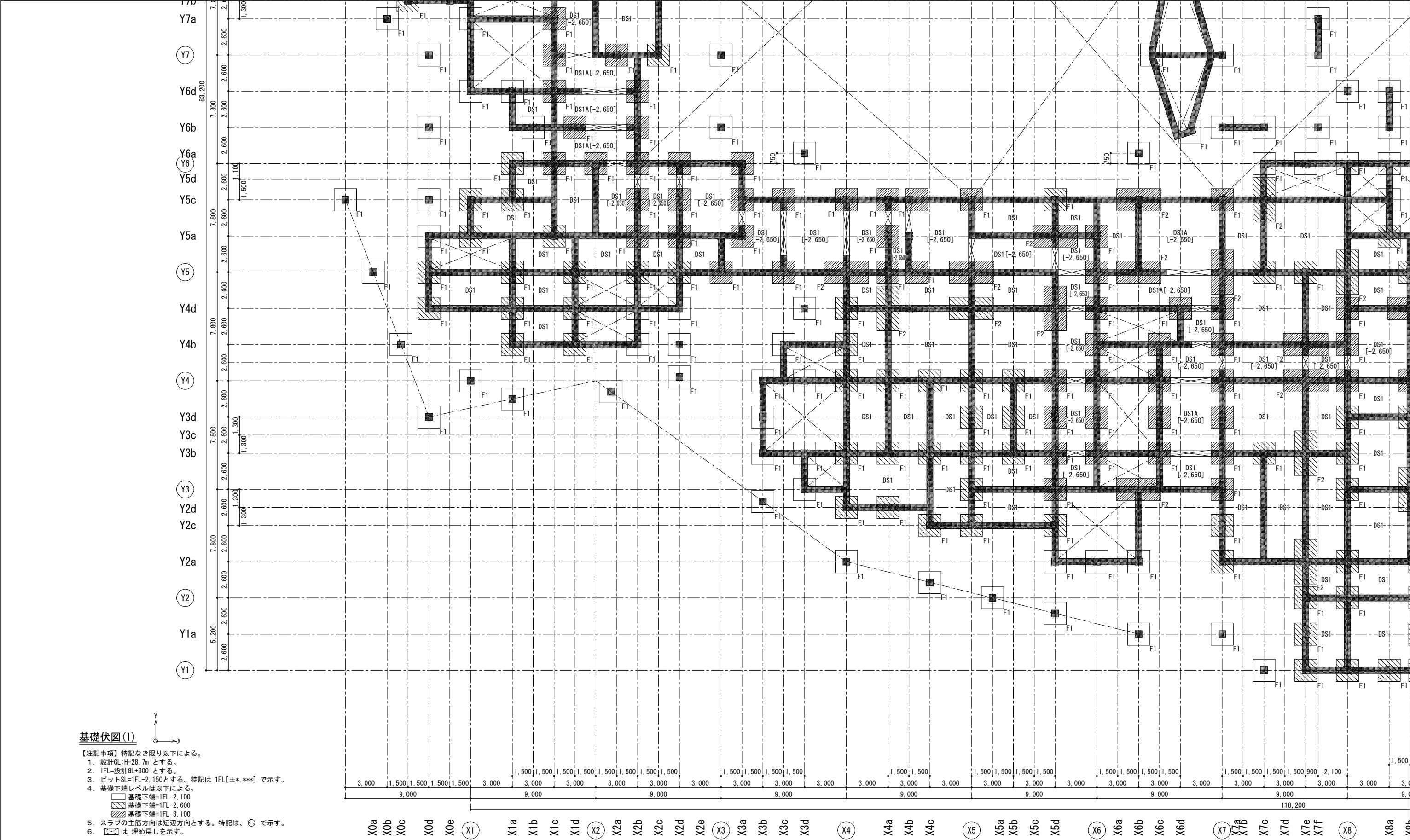




改良伏図(4)

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - 改良体の仕様は以下による。
工法: エボコラムTaf工法(技審証第202005号) 同等工法
コラム径: φ1,600
支持層: 泥岩層
支持力: 625kN/m²
設計基準強度: F₀=1,800kN/m²
 - 施工前に六価クロム溶出試験を行う。

基礎下端レベル凡例				
ゾーン	符 号	改良天端	改良下端	改良長
①	P1	GL-1,850	GL-5,150	3.30m
	P1A	GL-2,350		2.80m
	P1B	GL-2,850		2.30m
②	P2	GL-1,850	GL-5,600	3.75m
	P2A	GL-2,350		3.25m
	P2B	GL-2,850		2.75m
③	P3	GL-1,850	GL-5,700	3.85m
	P3A	GL-2,350		3.35m
	P3B	GL-2,850		2.85m
④	P4	GL-1,850	GL-7,400	5.55m
	P4A	GL-2,350		5.05m
	P4B	GL-2,850		4.55m
⑤	P5	GL-1,850	GL-8,100	6.25m
	P5A	GL-2,350		5.75m
	P5B	GL-2,850		5.25m
⑥	P6	GL-1,850	GL-10,500	8.65m
	P6A	GL-2,350		8.15m
	P6B	GL-2,850		7.65m
⑦	P7	GL-1,850	GL-11,100	9.25m
	P7A	GL-2,350		8.75m
	P7B	GL-2,850		8.25m
⑧	P8	GL-1,850	GL-11,300	9.45m
	P8A	GL-2,350		8.95m
	P8B	GL-2,850		8.45m



基礎伏図(1)

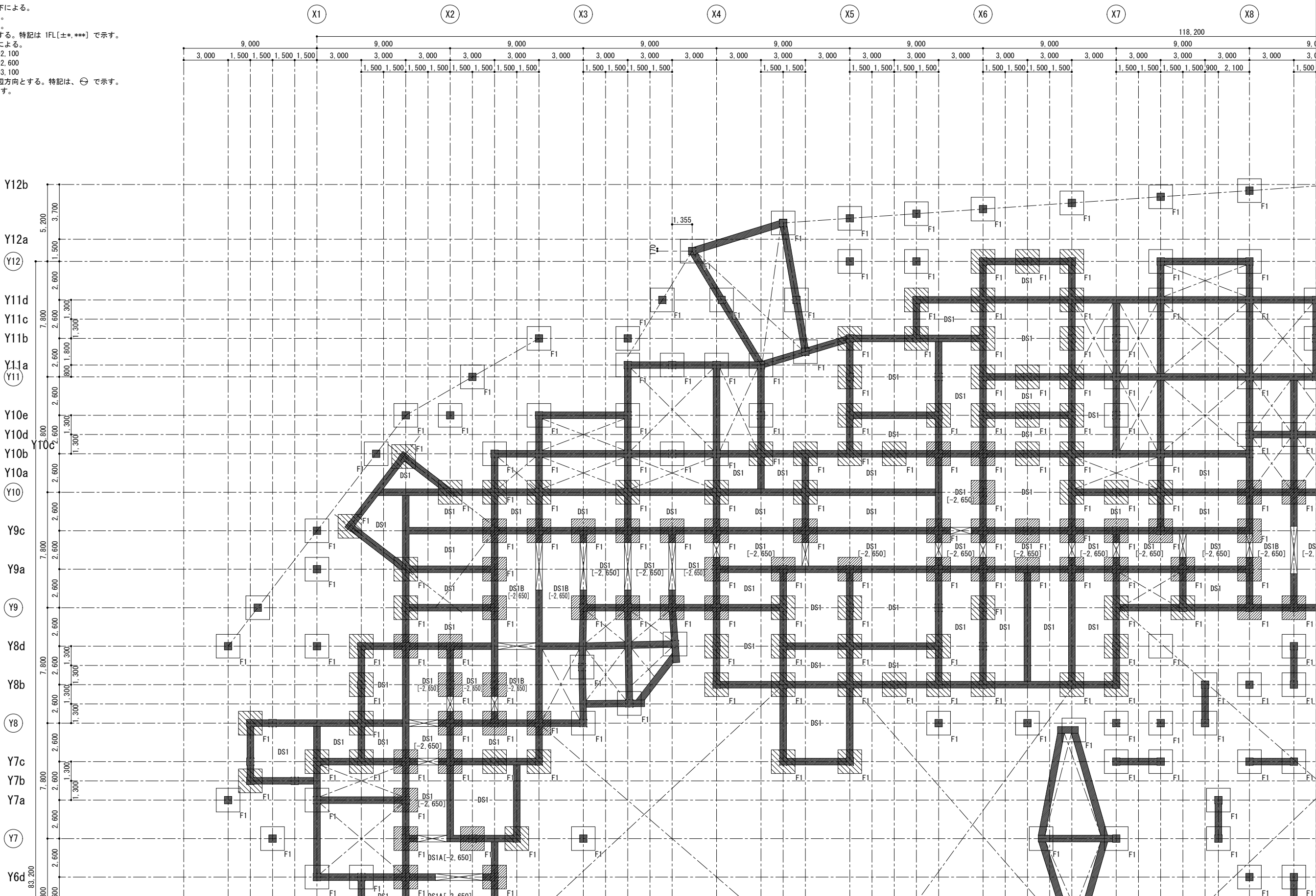
- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - 1FL=設計GL+300 とする。
 - ピットSL=1FL-2,150とする。特記は 1FL[±*, **] で示す。
 - 基礎下端レベルは以下による。
 - 基礎下端=1FL-2,100
 - ▨ 基礎下端=1FL-2,600
 - ▩ 基礎下端=1FL-3,100
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、⊙ で示す。
 - ▨は 埋め戻しを示す。

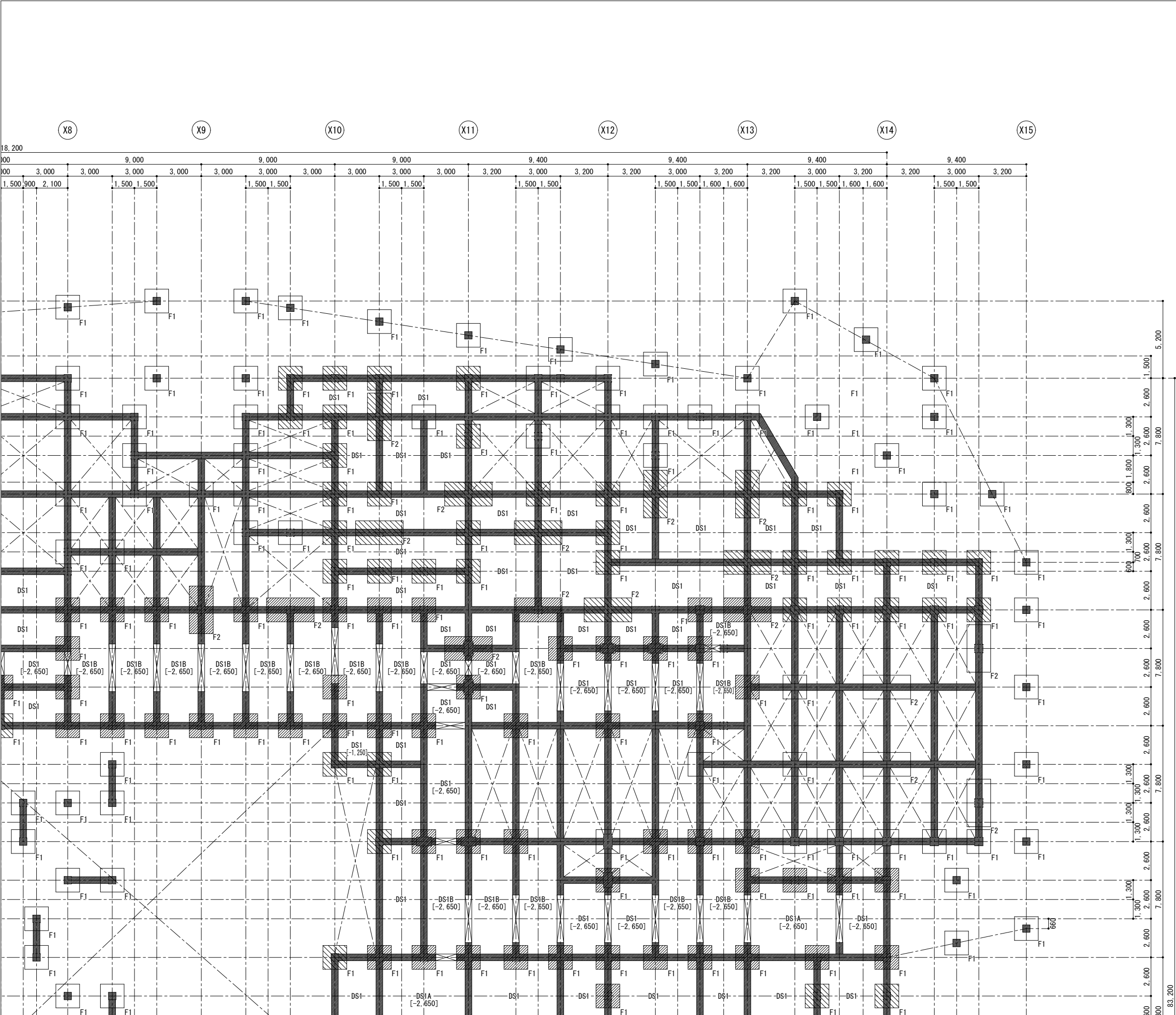


縮 尺	S=1/125 (A1) S=1/250 (A3)	図 番	S-2-06
--------	------------------------------	--------	--------

基礎伏図(3)

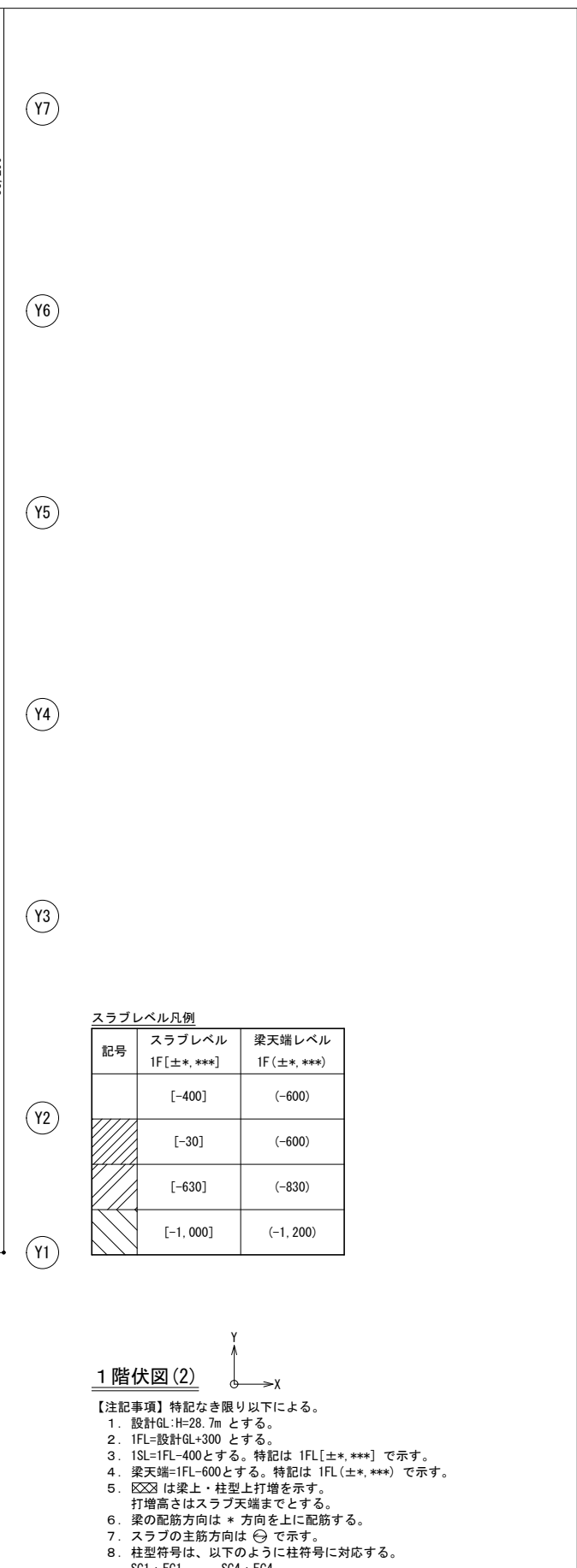
- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - 1FL=設計GL+300 とする。
 - ピットSL=1FL-2,150とする。特記は 1FL[±*,**] で示す。
 - 基礎下端レベルは以下による。
 - 基礎下端=1FL-2,100
 - 基礎下端=1FL-2,600
 - 基礎下端=1FL-3,100
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、⊖ で示す。
 - ⊡は 埋め戻しを示す。





基礎伏図 (4)

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 1FL=設計GL+300 とする。
 3. ピットSL=1FL-2,150とする。特記は 1FL[±*,***] で示す。
 4. 基礎下端レベルは以下による。
 - 基礎下端=1FL-2,100
 - ▨ 基礎下端=1FL-2,600
 - ▩ 基礎下端=1FL-3,100
 5. スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、⊖ で示す。
 6. ≧≦ は 埋め戻しを示す。



1 階伏図 (2)

【注記事項】 特記なき限り以下による。

- 設計GL:H=28.7m とする。
- 1FL:設計GL+300 とする。
- 1SL=1FL-400とする。特記は 1FL[±*,***] で示す。
- 梁先端=1FL-600とする。特記は 1FL(±*,***) で示す。
- ☒☒は 梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ先端までとする。
- 梁の配筋方向は * 方向を上上に配筋する。
- スラブの主筋方向は ⊙ で示す。
- 柱型符号は、以下のように柱符号に対応する。
SC1 : FC1 SC4 : FC4
SC2 : FC2 SC5 : FC5
SC3 : FC3 SP1 : FC1A
- H形鋼の柱は、強軸がX方向の場合は x、Y方向の場合は y を柱符号の後ろに添える。

1階伏図(3)

【注記事項】特記なき限り以下による。

- 設計GL・H=28.7m とする。
- IFL=設計GL+300 とする。
- ISL=IFL-400とする。特記は 1FL[±*,***] で示す。
- 梁天端=IFL-600とする。特記は 1FL(±*,***) で示す。
- ☒☒ は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
- 梁の配筋方向は * 方向を上配筋する。
- スラブの主筋方向は ⊕ で示す。
- 柱型符号は、以下のように柱符号に対応する。
SC1 : FC1 S04 : FC4
SC2 : FC2 S05 : FC5
SC3 : FC3 SP1 : FC1A
- H形鋼の柱は、強軸がX方向の場合は x、Y方向の場合は y を
柱符号の後ろに添える。

スラブレベル凡例

記号	スラブレベル 1F[±*,***]	梁天端レベル 1F(±*,***)
	[~400]	(~600)
	[~30]	(~600)
	[~630]	(~830)
	[~1,000]	(~1,200)

Y12b

Y12a

Y12

Y11c

Y11b

Y11a

Y11

Y10e

Y10d

Y10b

Y10a

Y10

Y9c

Y9a

Y9

Y8d

Y8b

Y8

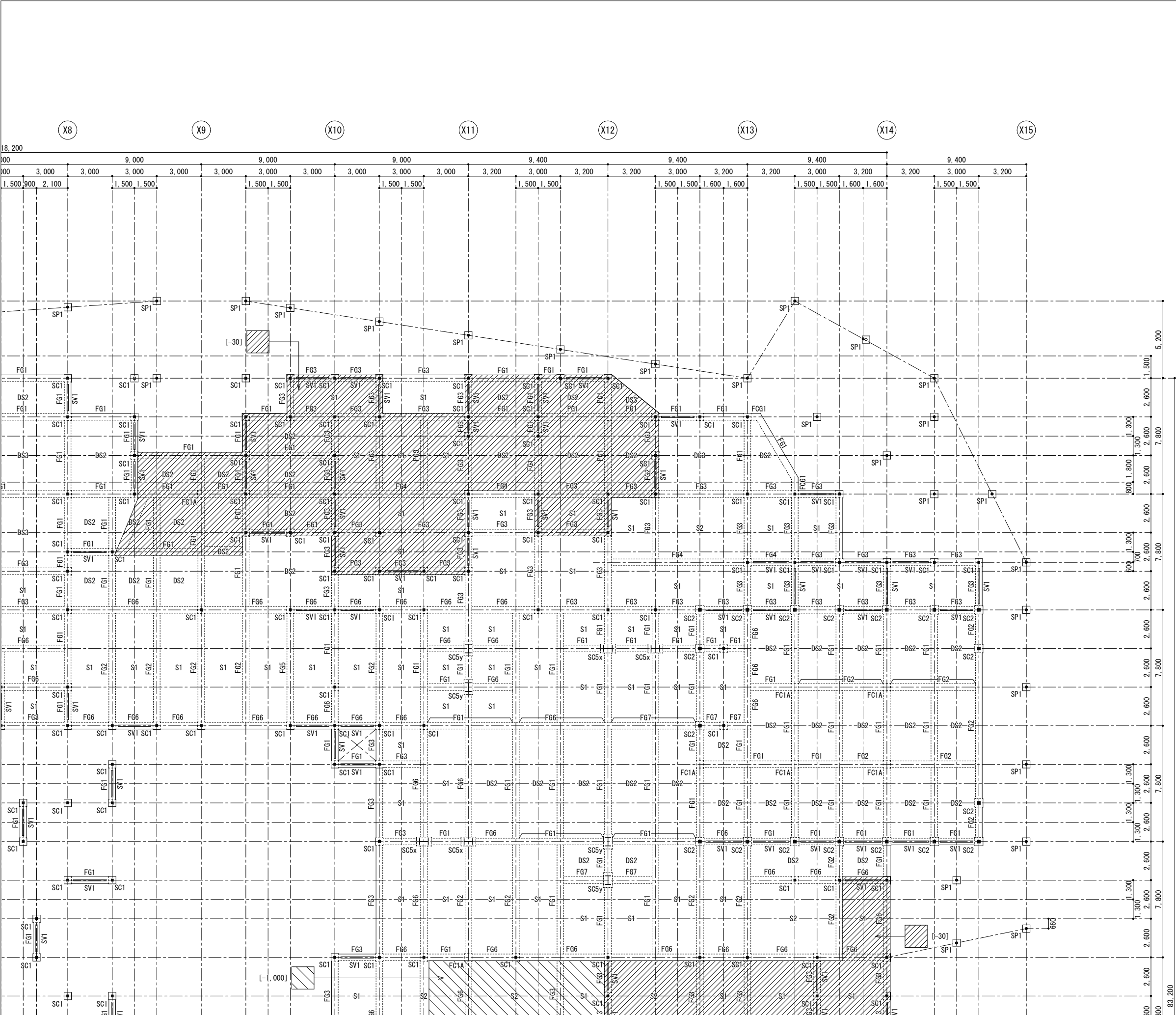
Y7c

Y7b

Y7a

Y7

Y6d

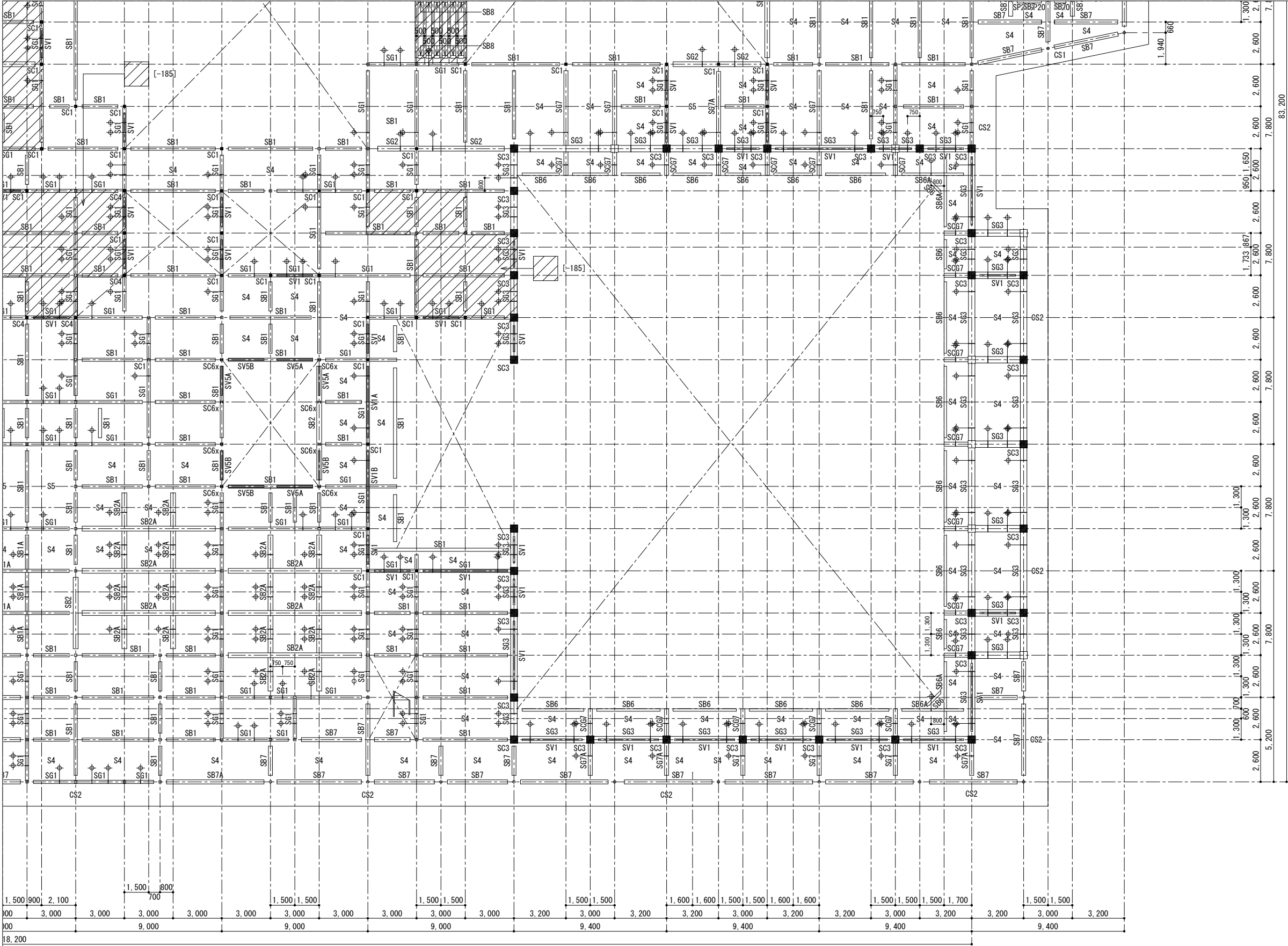


1階伏図 (4)

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - 1FL=設計GL+300 とする。
 - 1SL=1FL-400とする。特記は 1FL[±*, **] で示す。
 - 梁天端=1FL-600とする。特記は 1FL(±*, ***) で示す。
 - ☒☒ は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 梁の配筋方向は * 方向を上配筋する。
 - スラブの主筋方向は ☉ で示す。
 - 柱型符号は、以下のように柱符号に対応する。
SC1 : FC1 SC4 : FC4
SC2 : FC2 SC5 : FC5
SC3 : FC3 SP1 : FC1A
 - H形鋼の柱は、強軸がX方向の場合は x、Y方向の場合は y を柱符号の後ろに添える。

スラブレベル凡例

記号	スラブレベル 1F[±*, **]	梁天端レベル 1F(±*, ***)
	[-400]	(-600)
☒☒	[-30]	(-600)
☒☒☒	[-630]	(-830)
☒☒☒☒	[-1,000]	(-1,200)



Y7

Y6

Y5

Y4

Y3

Y2

Y1

スラブレベル凡例

記号	スラブレベル
	1F [±*, ***]
	[-300]
	[-185]
	[-480]

2階伏図 (2)



- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - 2FL=設計GL+4.300 とする。
 - 2SL=2FL-300 とする。特記は 2FL [±*, ***] で示す。
 - 梁天端=2FL-455 とする。特記は 2FL (±*, ***) で示す。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は ⊙ で示す。
 - 梁継手は ⊕ で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。
 - 特記なきスラブは SS1 とする。
 - H形鋼の柱は、強軸がX方向の場合は x、Y方向の場合は y を柱符号の後ろに添える。

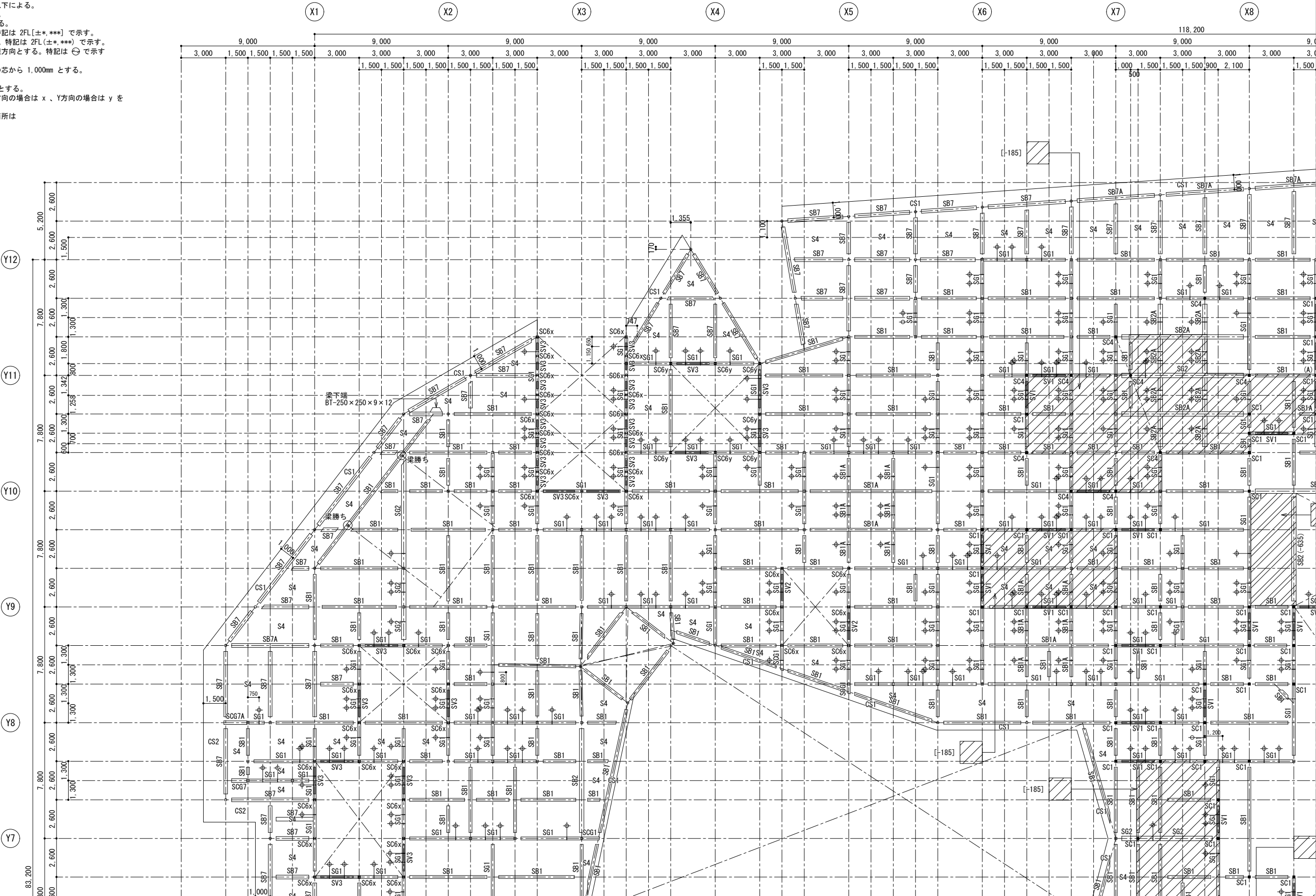
2階伏図(3)

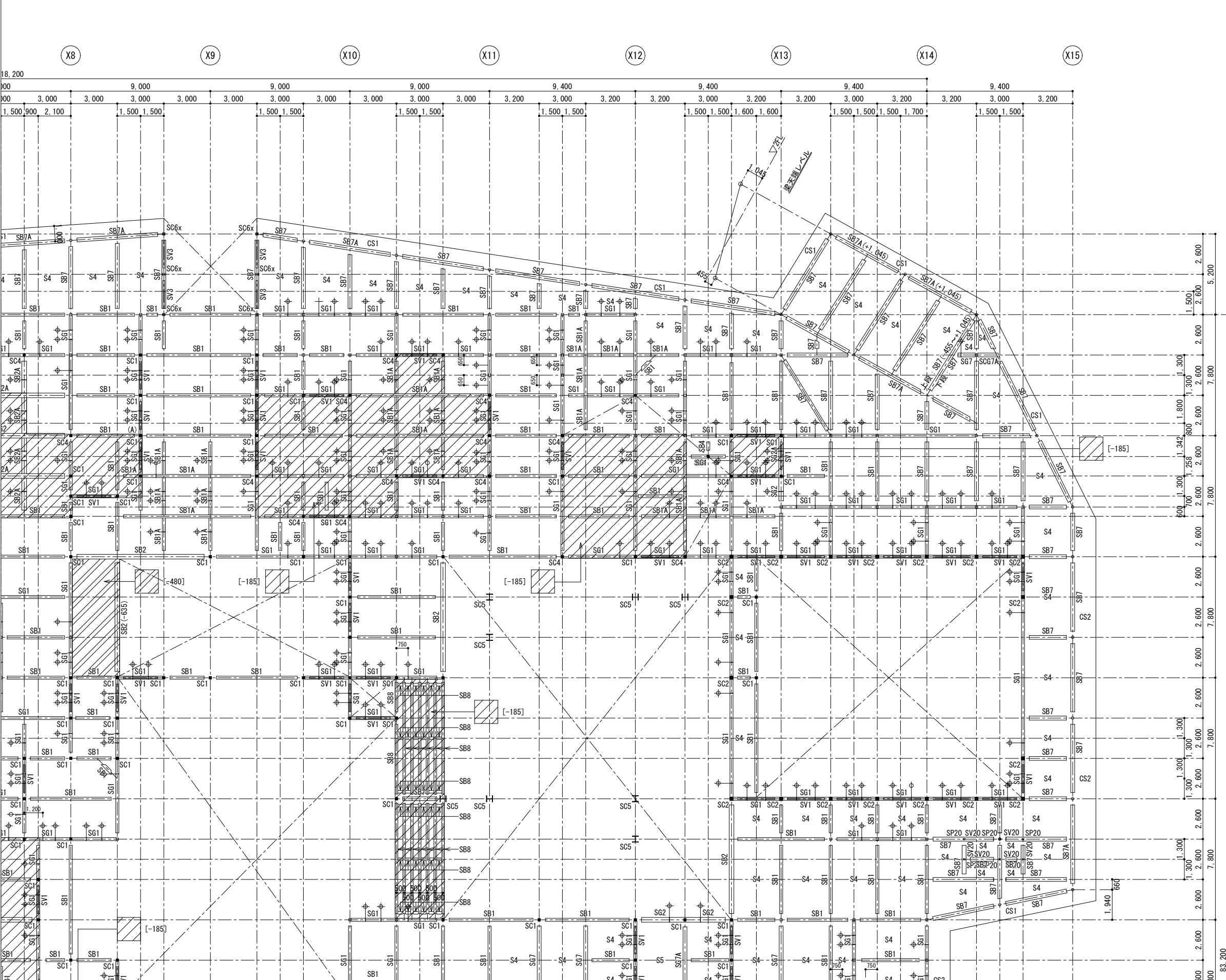
【注記事項】 特記なき限り以下による。

- 設計GL: H=28.7m とする。
- 2FL=設計GL+4,300 とする。
- 2SL=2FL-300 とする。特記は 2FL[±*,**] で示す。
- 梁天端=2FL-455 とする。特記は 2FL(±*,***) で示す。
- スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は ⊙ で示す。
- 梁継手は ⊕ で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。
- 特記なきスラブは SS1 とする。
- H形鋼の柱は、強軸がX方向の場合は x、Y方向の場合は y を
柱符号の後ろに添える。
- スラブレベルのハッチ箇所は

スラブレベル凡例

記号	スラブレベル 1F[±*,**]
	[-300]
	[-185]
	[-480]





2階伏図(4)

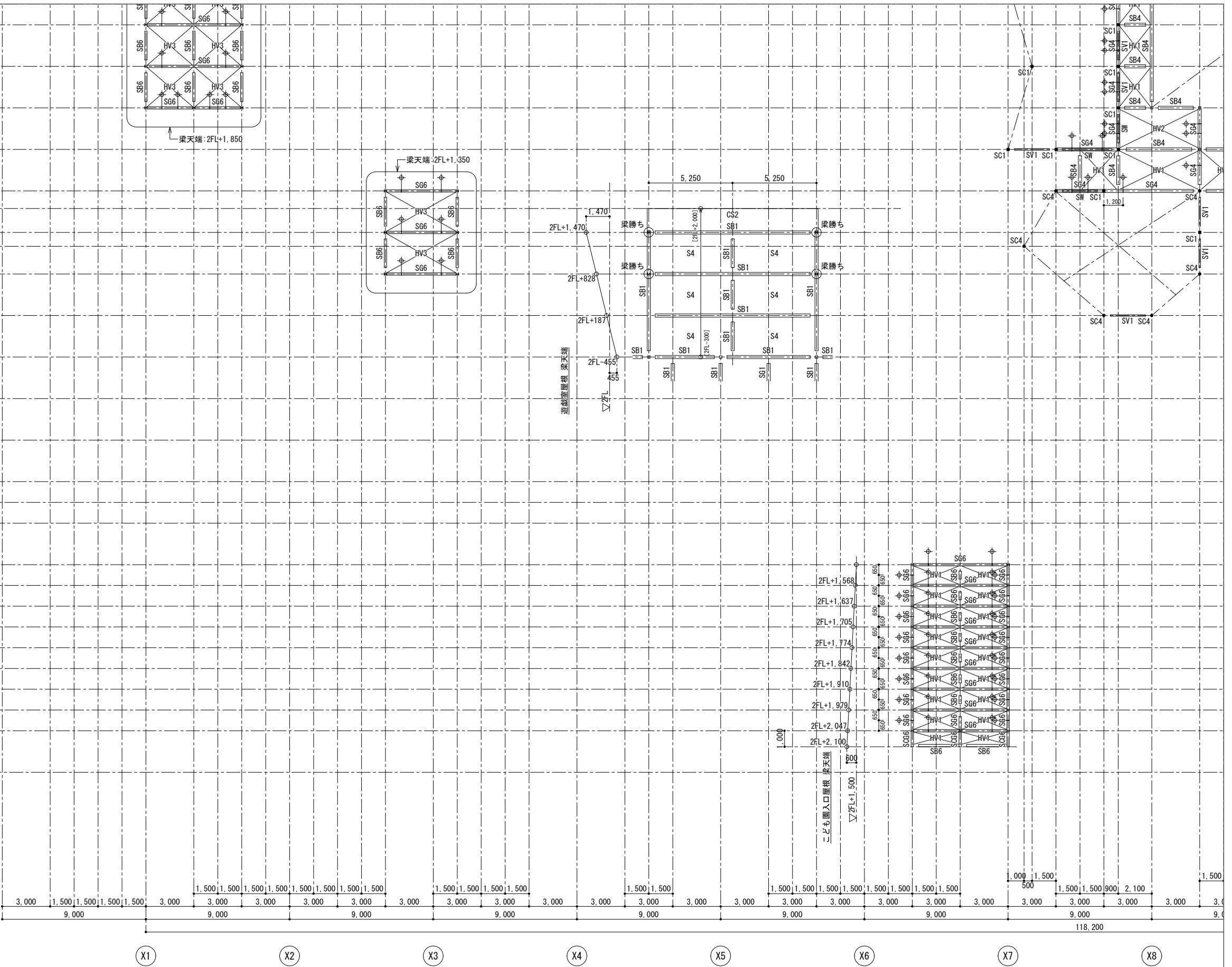
- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 2FL=設計GL+4,300 とする。
 3. 2SL=2FL-300 とする。特記は 2FL[±*,***] で示す。
 4. 梁天端=2FL-455 とする。特記は 2FL(±*,***) で示す。
 5. スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は ⊙ で示す。
 6. 梁継手は ⊕ で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。
 7. 特記なきスラブは SS1 とする。
 8. H形鋼の柱は、強軸がX方向の場合は x、Y方向の場合は y を
柱符号の後ろに添える。

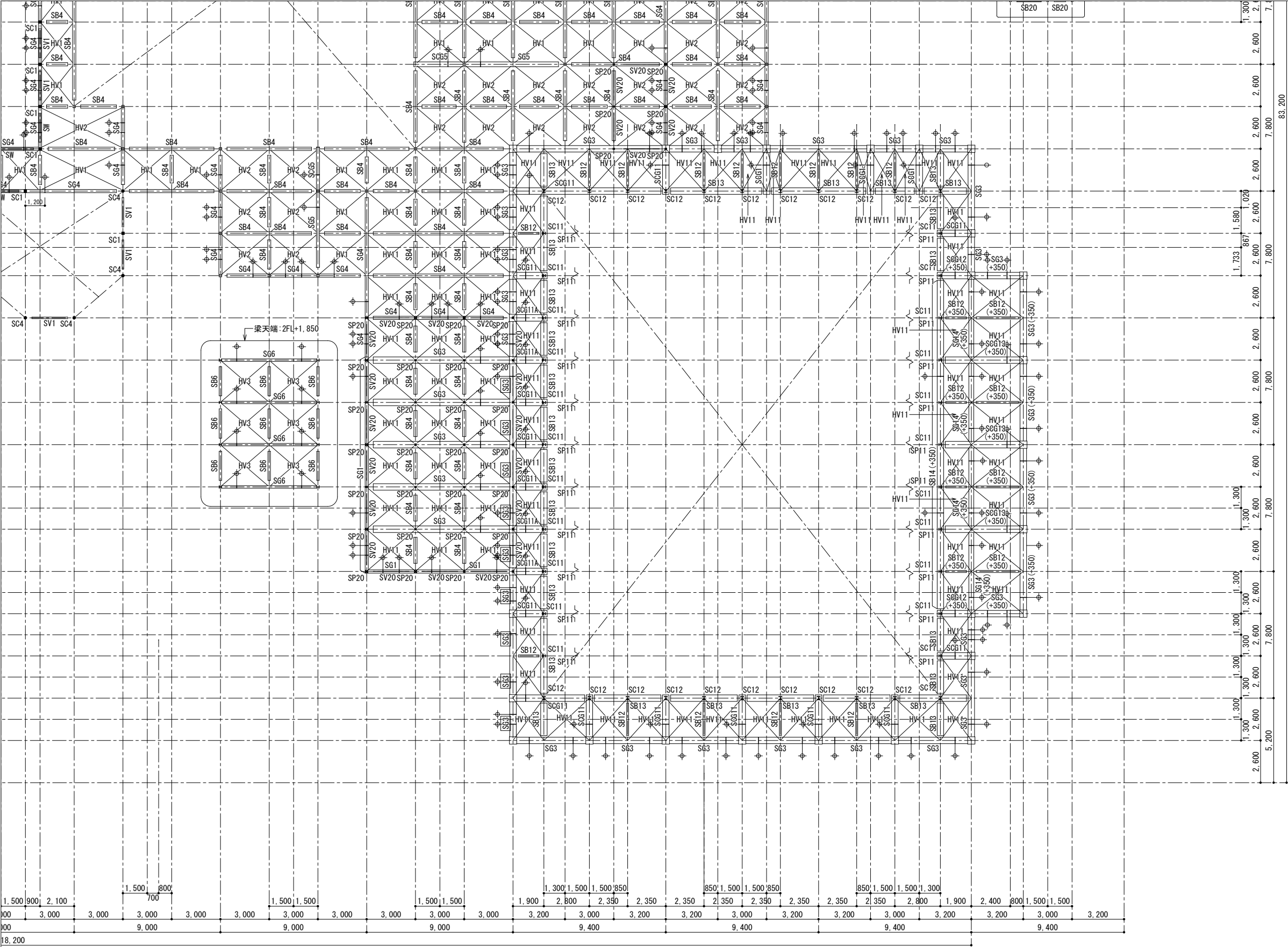
スラブレベル凡例

記号	スラブレベル 1F[±*,***]
	[-300]
	[-185]
	[-480]



1. 設計GL:H=28.7m とする。
2. 1RFL=設計GL+7,650 とする。
3. 梁末端=1RFL-300 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
4. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



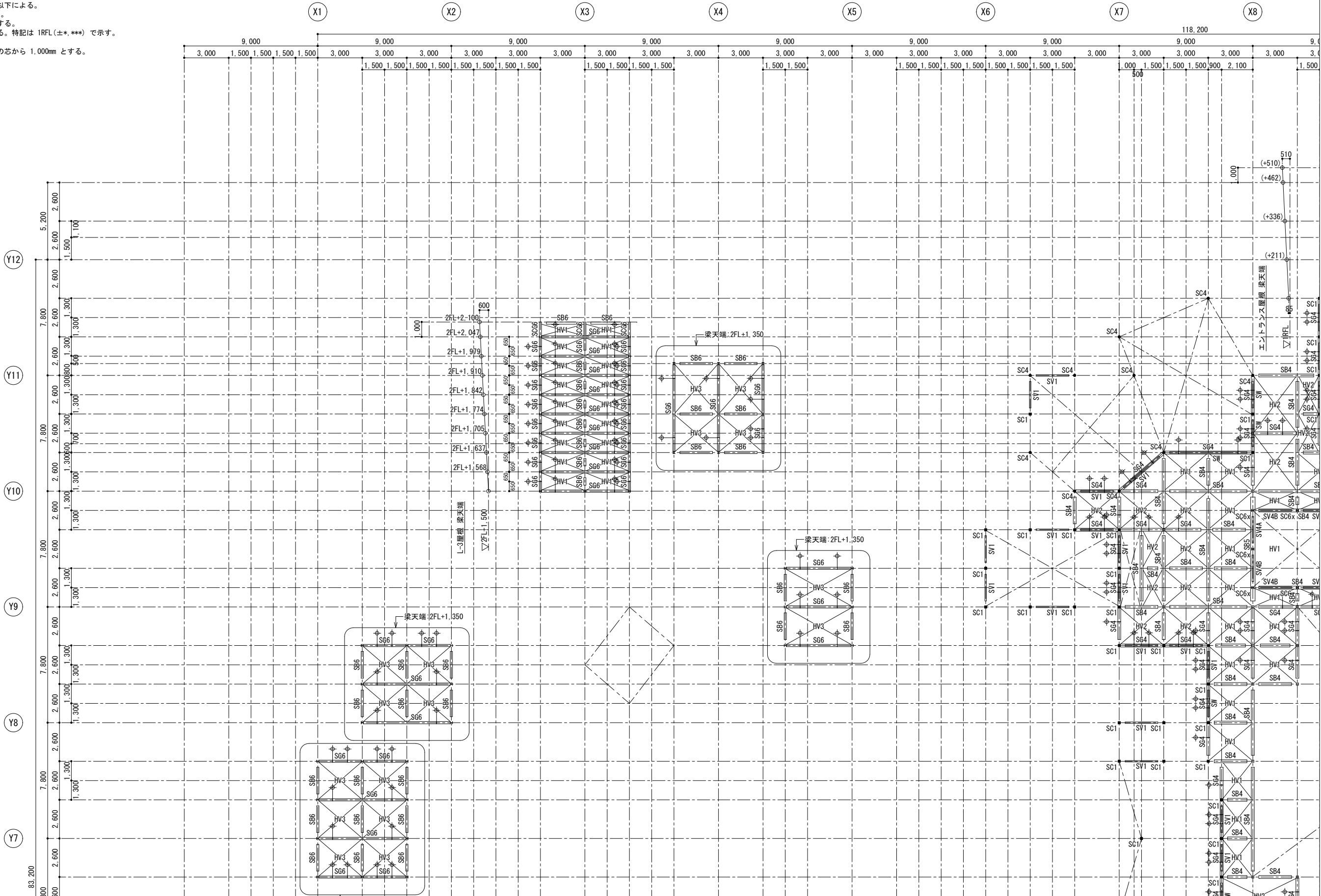


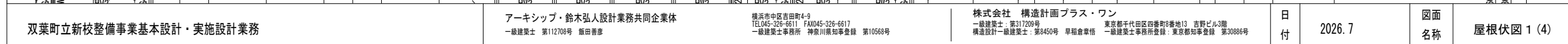
屋根伏図 1 (2)

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 1RFL=設計GL+7.650 とする。
 3. 梁天端=1RFL-300 とする。特記は 1RFL(±*, ***) で示す。
 4. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。

屋根伏図 1 (3)

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - IRFL=設計GL+7,650 とする。
 - 梁天端=IRFL-300 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
 - 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。





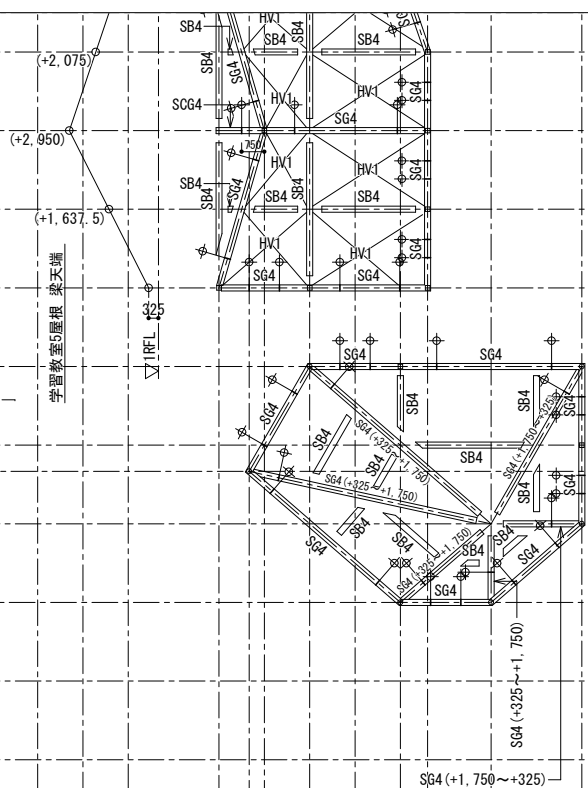
【注意事項】 特記なき限り以下による。

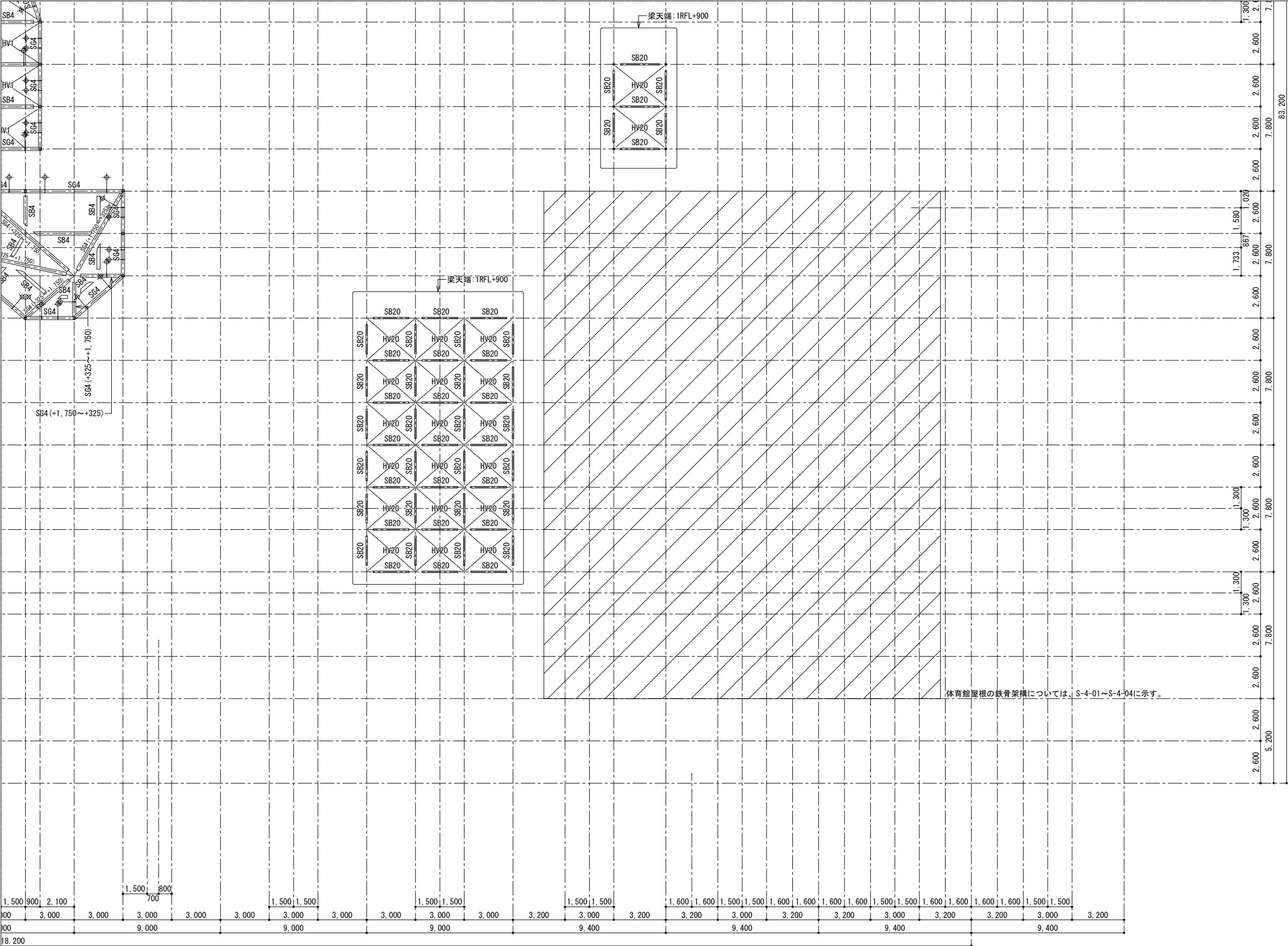
1. 設計GL:H=28.7m とする。
2. 1RFL=設計GL+7.650 とする。
3. 梁先端=1RFL-300 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
4. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。





1. 設計GL:H=28.7m とする。
2. 1RFL=設計GL+7,650 とする。
3. 梁先端=1RFL+325 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
4. 梁継手は  で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。





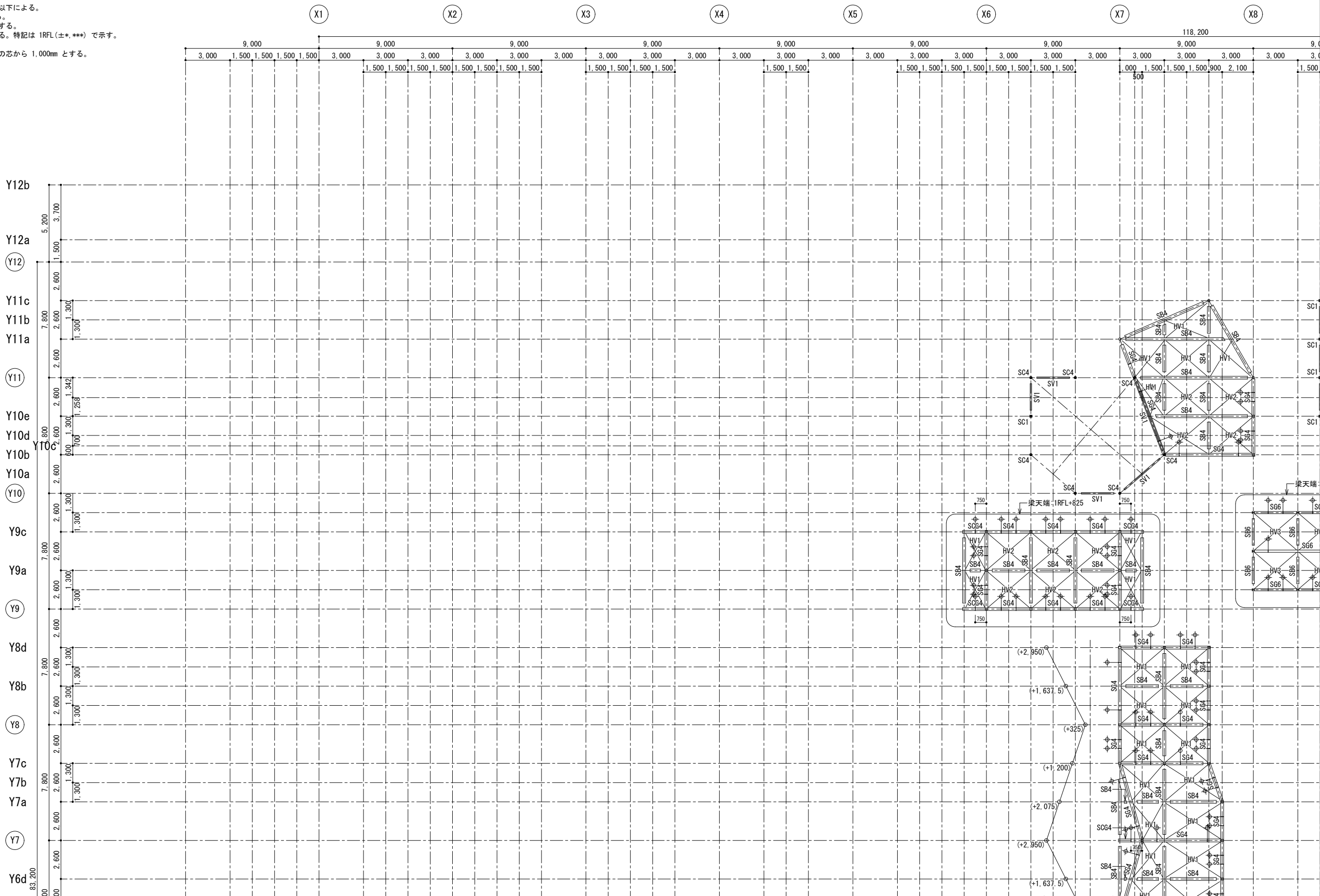
屋根伏図 2 (2)

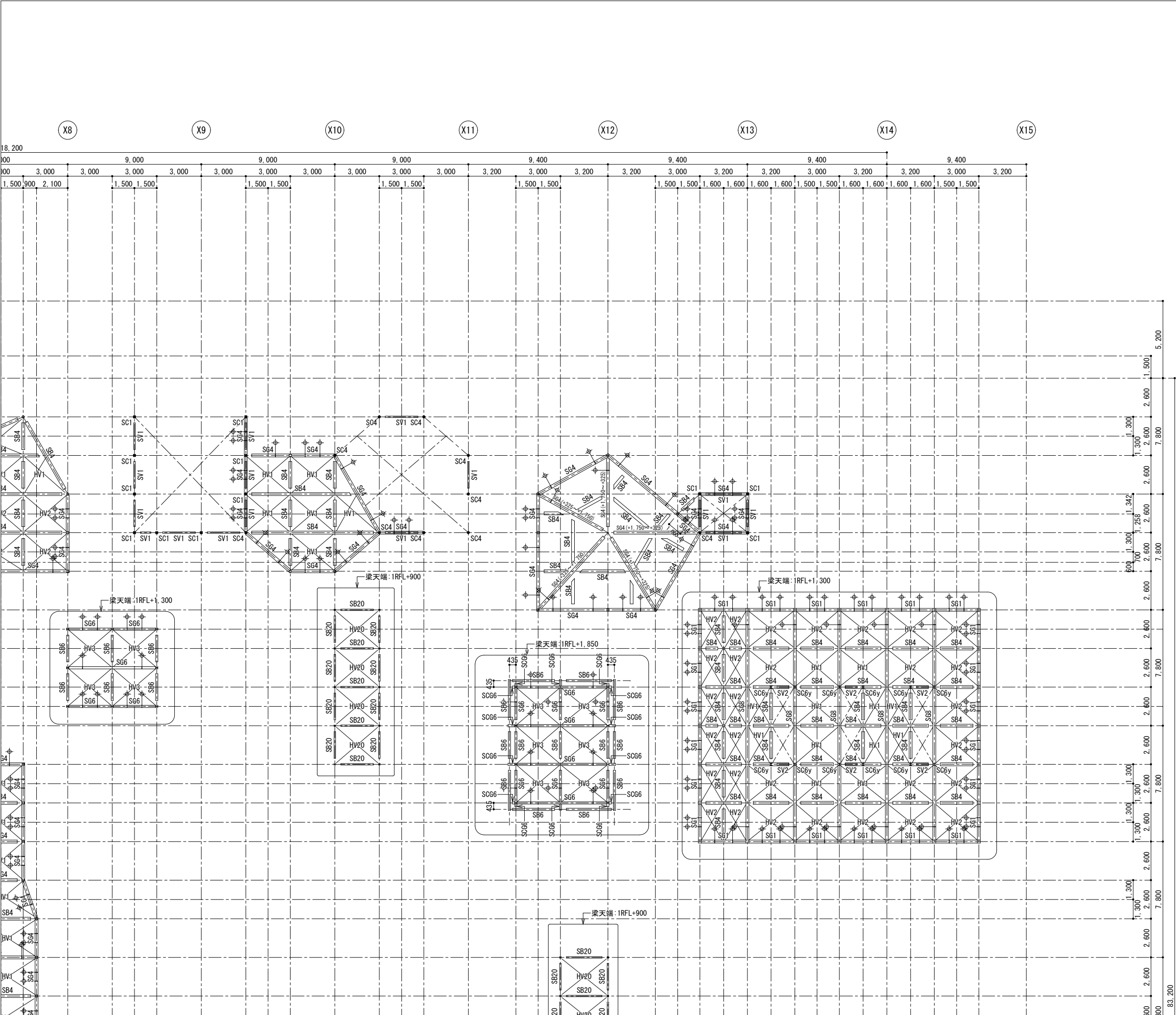
【注記事項】 特記なき限り以下による。

1. 設計GL: H=28.7m とする。
2. 1RFL=設計GL+7.650 とする。
3. 梁天端=1RFL+325 とする。特記は 1RFL(±*, ***) で示す。
4. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。

A diagram showing a coordinate system with a vertical Y-axis and a horizontal X-axis. The Y-axis is labeled 'Y' at the top, and the X-axis is labeled 'X' at the right. The origin is marked with a small circle.

- 設計GL:H=28.7m とする。
- 1RFL=設計GL+7,650 とする。
- 梁末端=1RFL+325 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
- 梁継手は ϕ で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



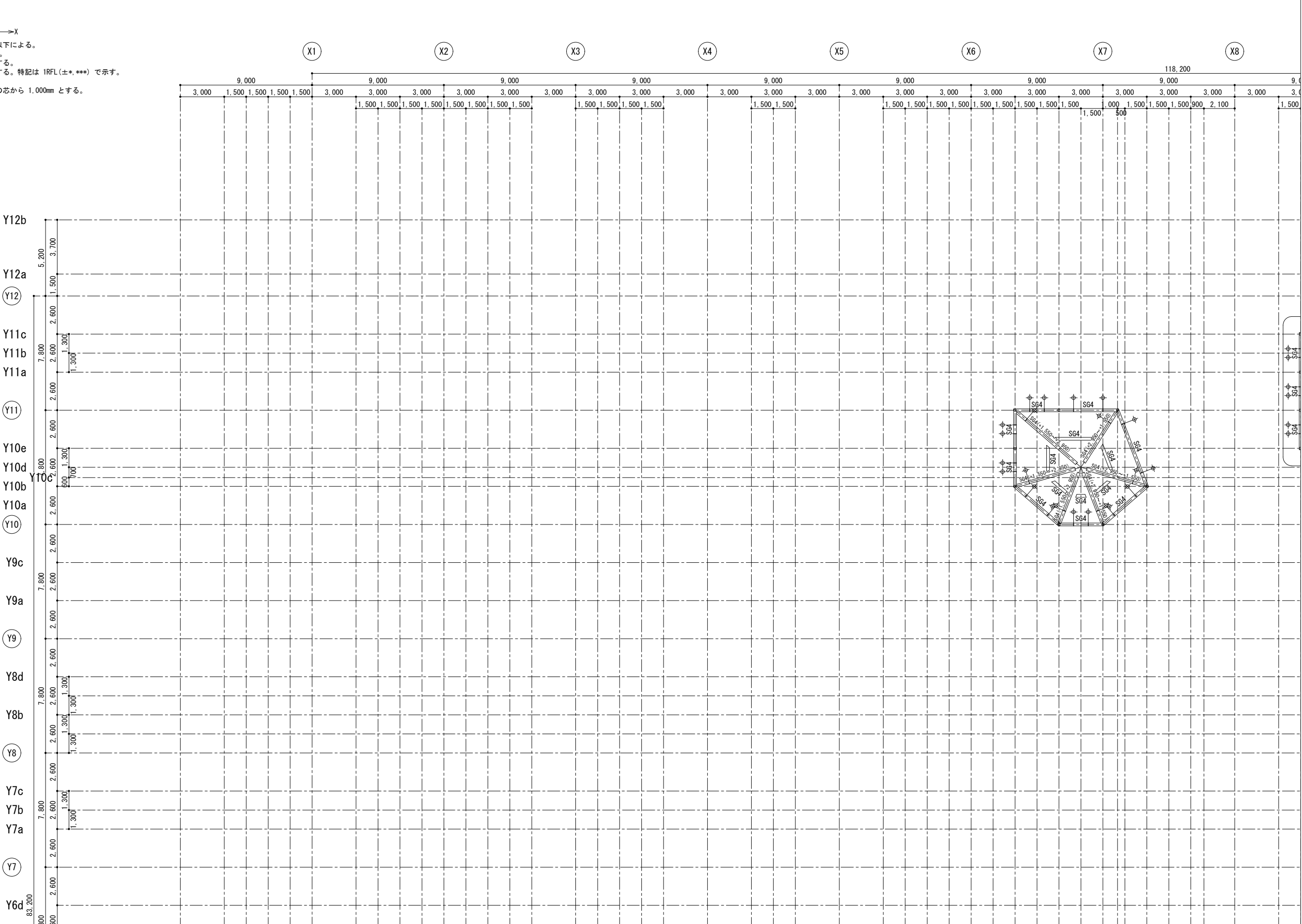


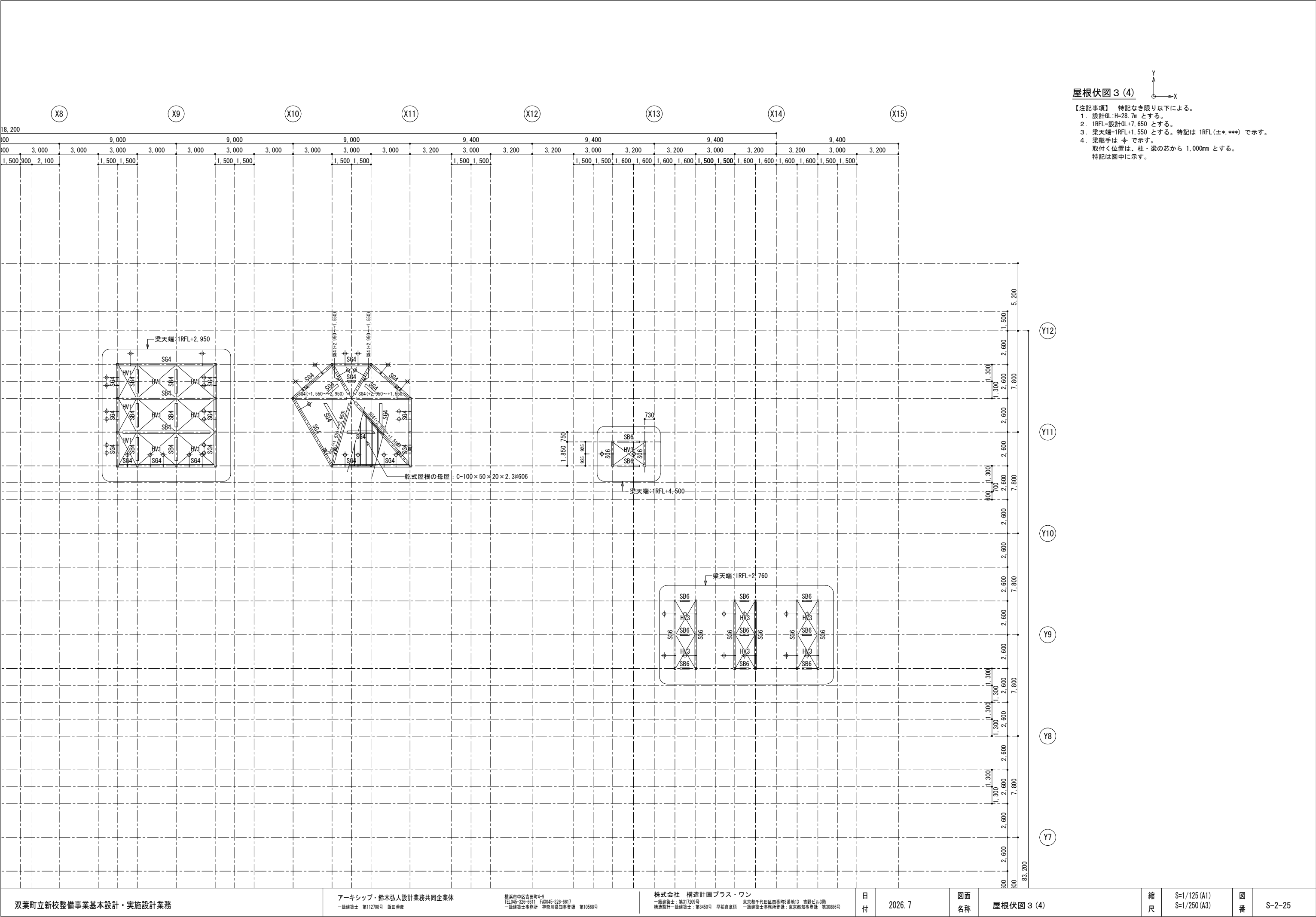
屋根伏図 2 (4)

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 1RFL=設計GL+7.650 とする。
 3. 梁天端=1RFL+325 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
 4. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。

屋根伏図 3 (3)

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 1RFL=設計GL+7,650 とする。
 3. 梁天端=1RFL+1,550 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
 4. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。





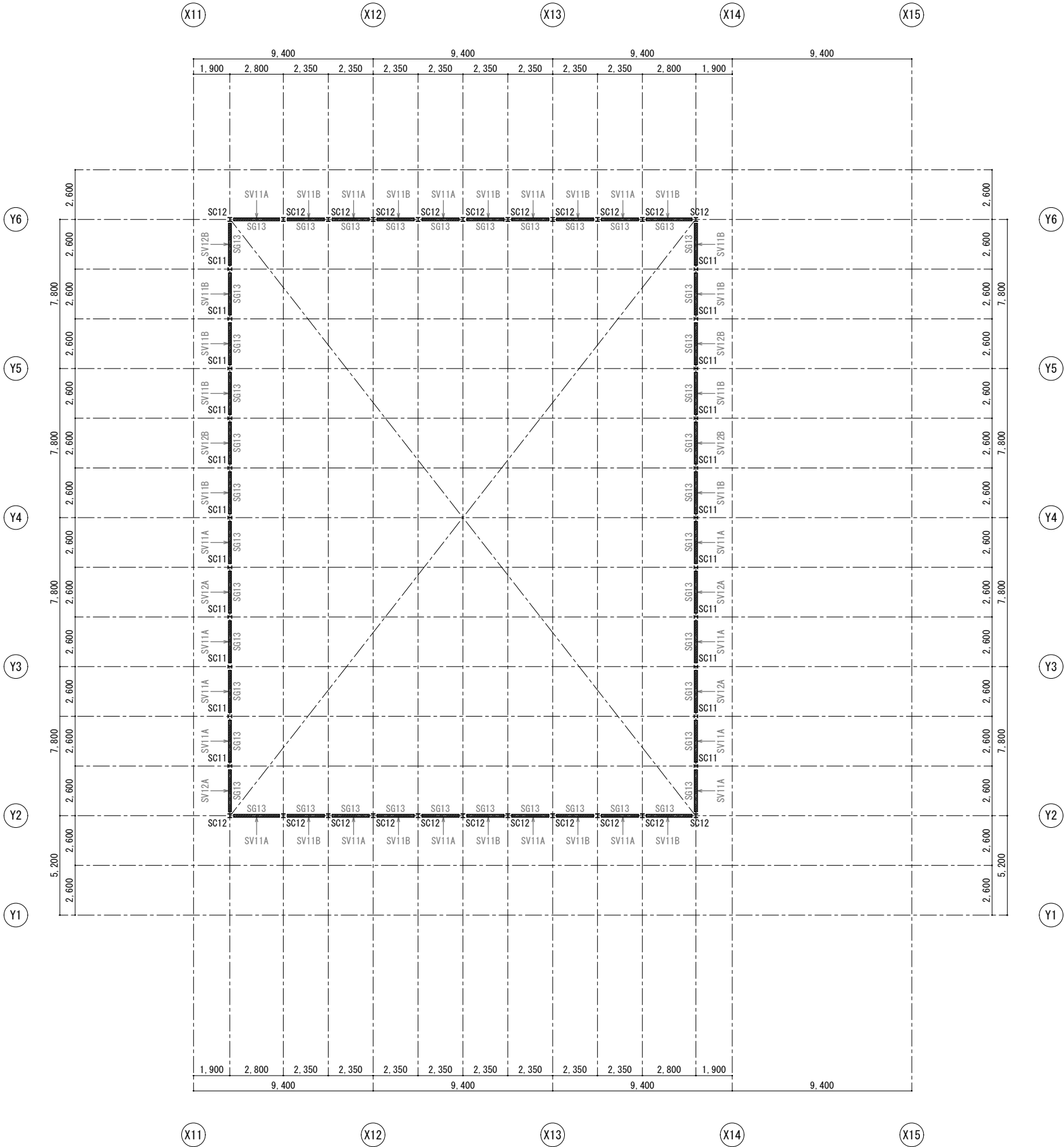
屋根伏図 3 (4)



- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 1RFL=設計GL+7.650 とする。
 3. 梁天端=1RFL+1.550 とする。特記は 1RFL(±*, ***) で示す。
 4. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。

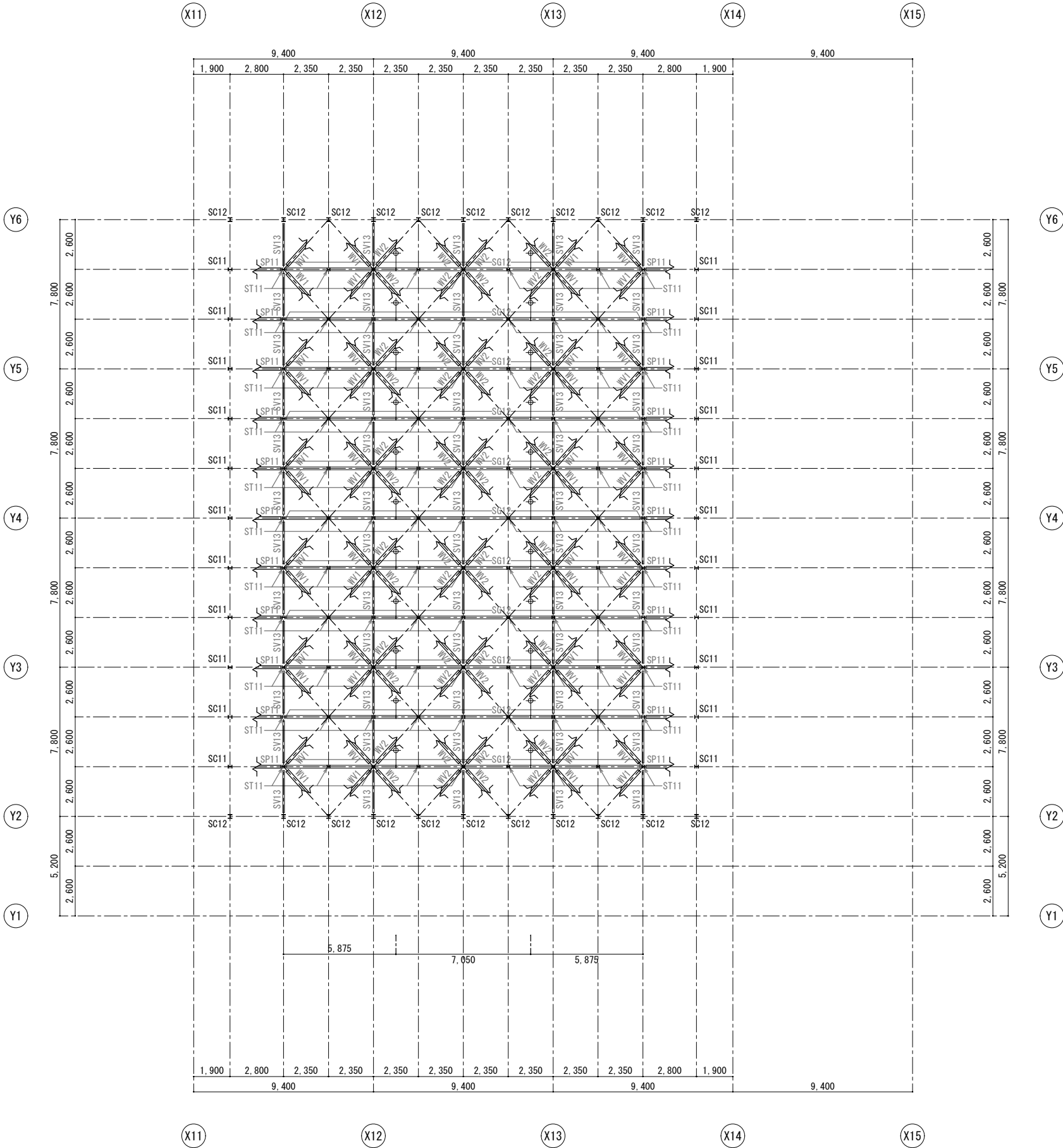
体育館屋根 伏図(1) 1RF+1,950

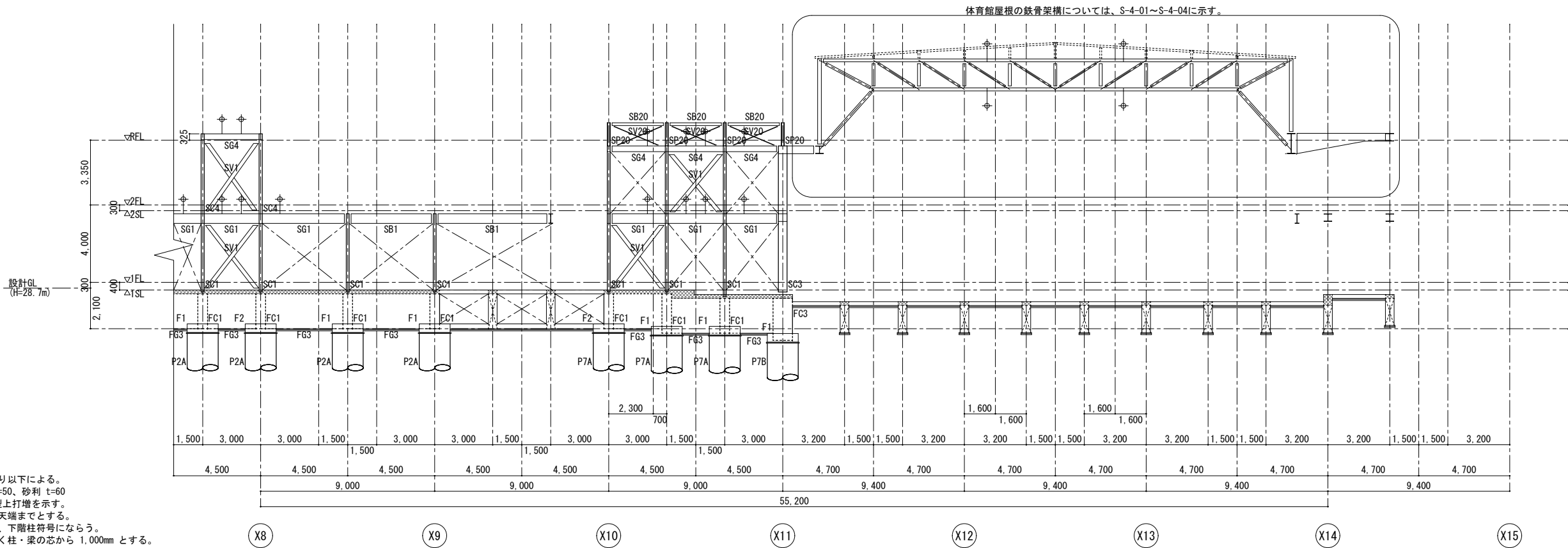
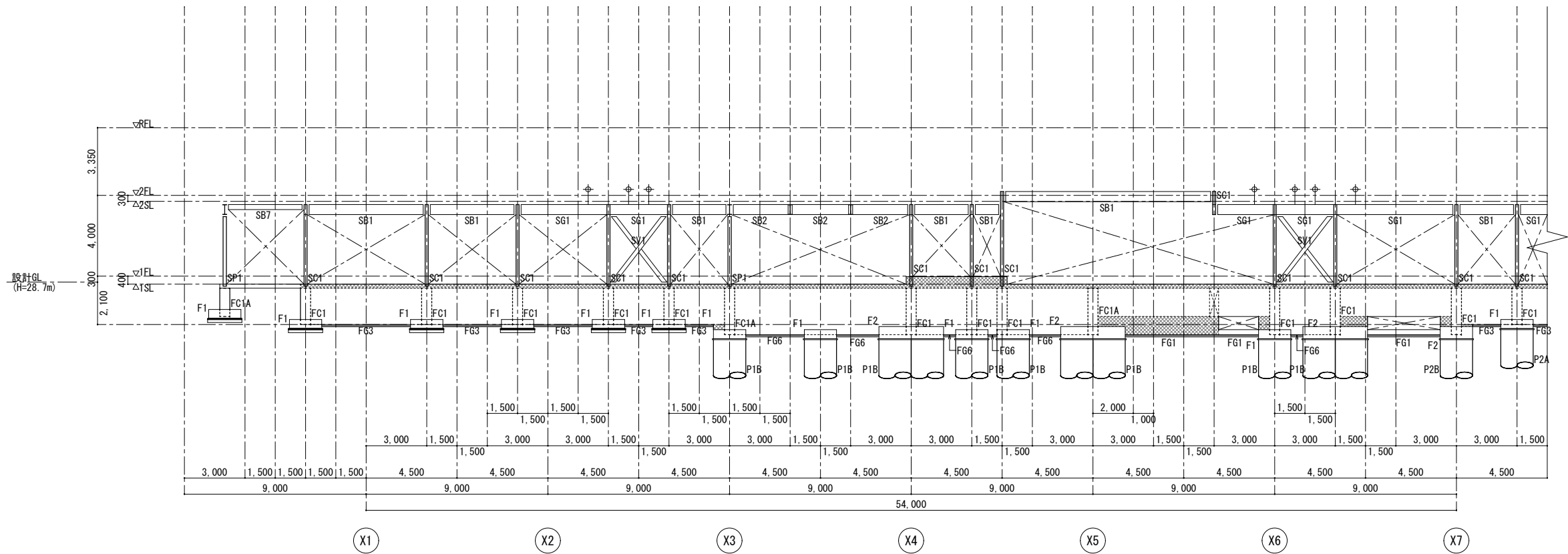
- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - 1RFL=設計GL+7,650 とする。
 - 梁天端=1RFL+2,625 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
 - 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



体育館屋根 伏図(2) 1RF+2,625

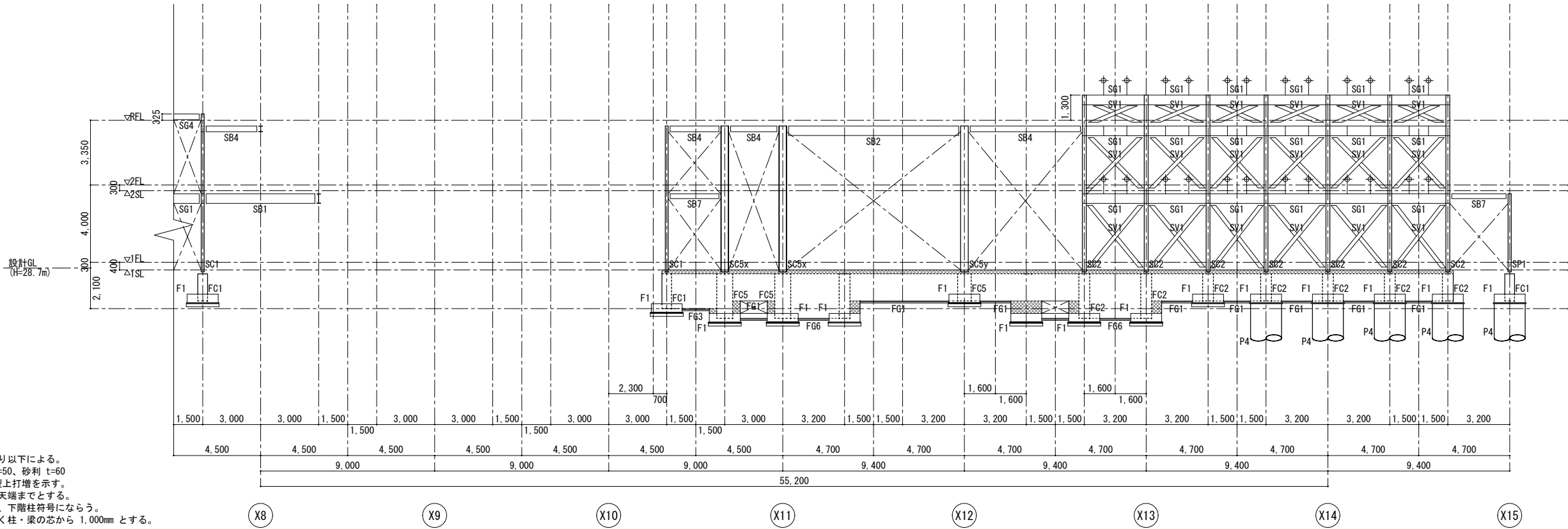
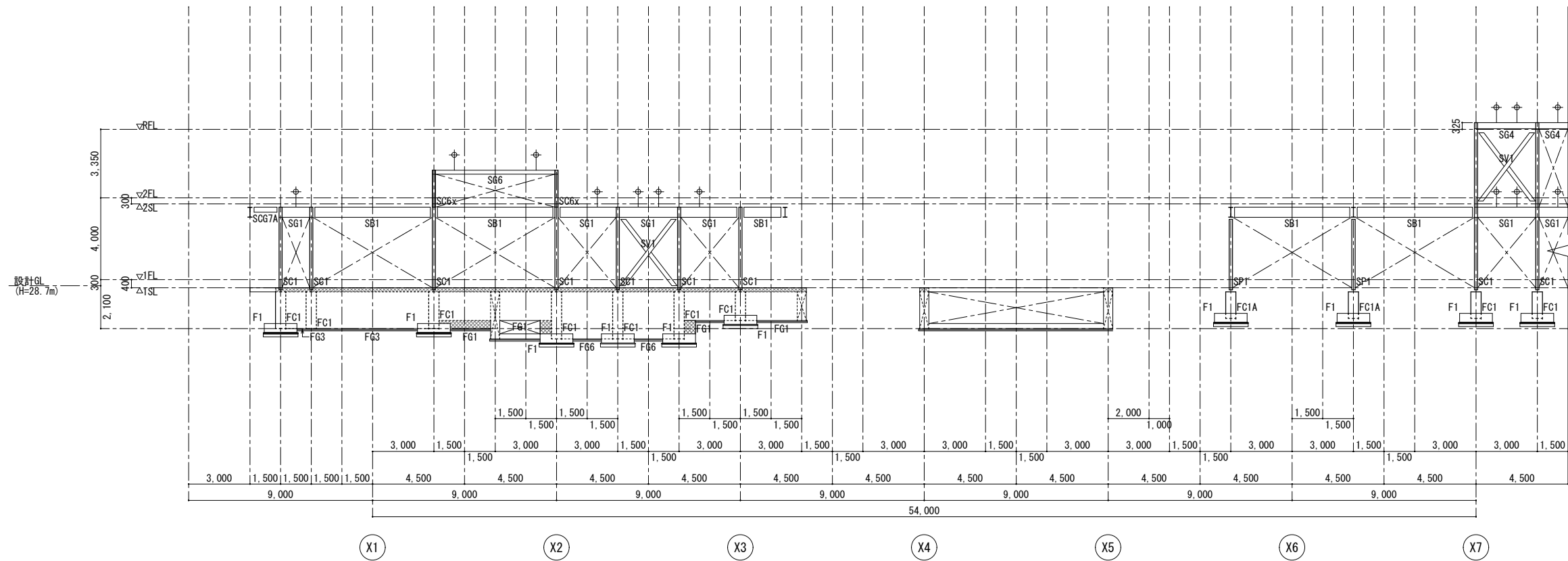
- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - 1RFL=設計GL+7,650 とする。
 - 梁天端=1RFL+2,625 とする。特記は 1RFL(±*,***) で示す。
 - 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。





Y 5通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 地業：捨てコン t=50、砂利 t=60
 2. は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
 4. 梁継手位置は取付く柱・梁の芯から1,000mm とする。
特記は で示す。



Y 8 通り軸組図

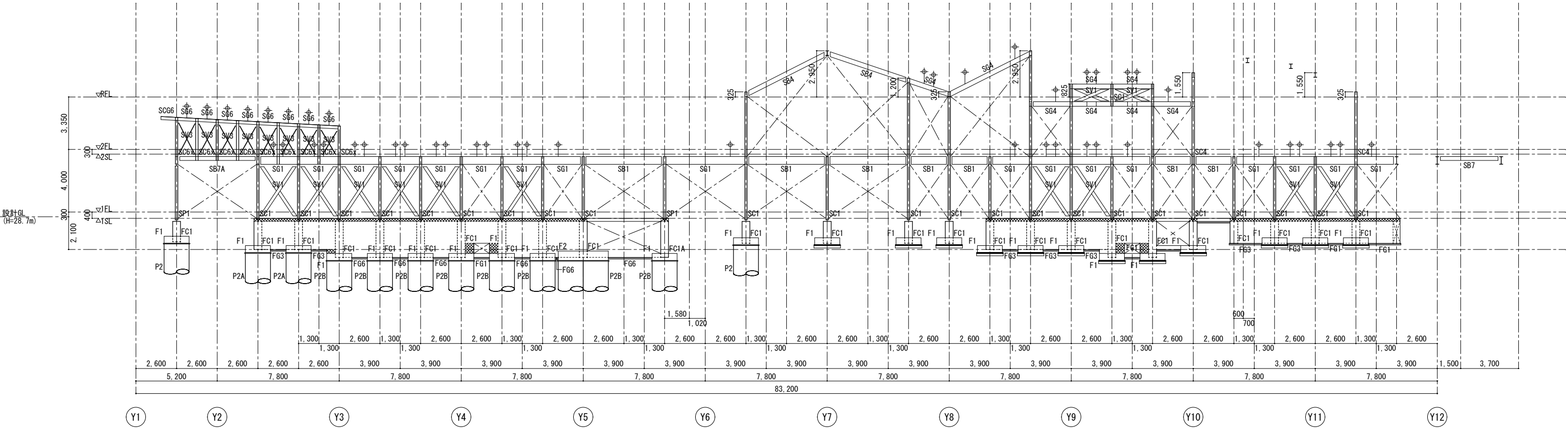
【注記事項】特記なき限り以下による。

1. 地業：捨てコン t=50、砂利 t=60

2. は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。

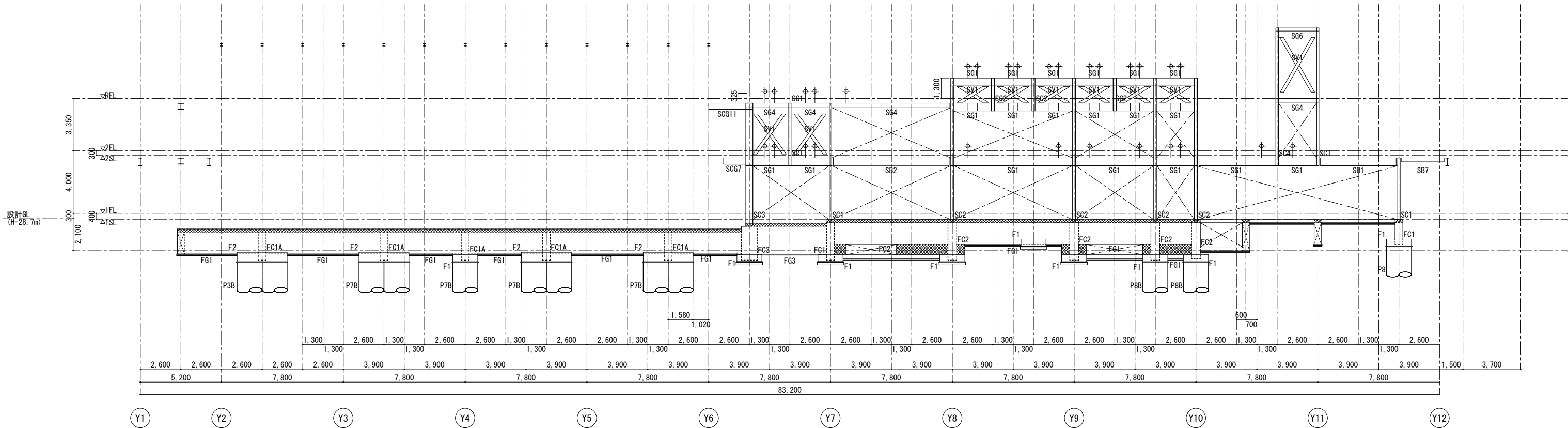
3. 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。

4. 梁継手位置は取付く柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は で示す。



X 7 通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 地業：捨てコン t=50、砂利 t=60
 2. $\boxtimes\boxtimes$ は梁上・柱上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
 4. 梁継手位置は取付く柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は $\oplus$ で示す。

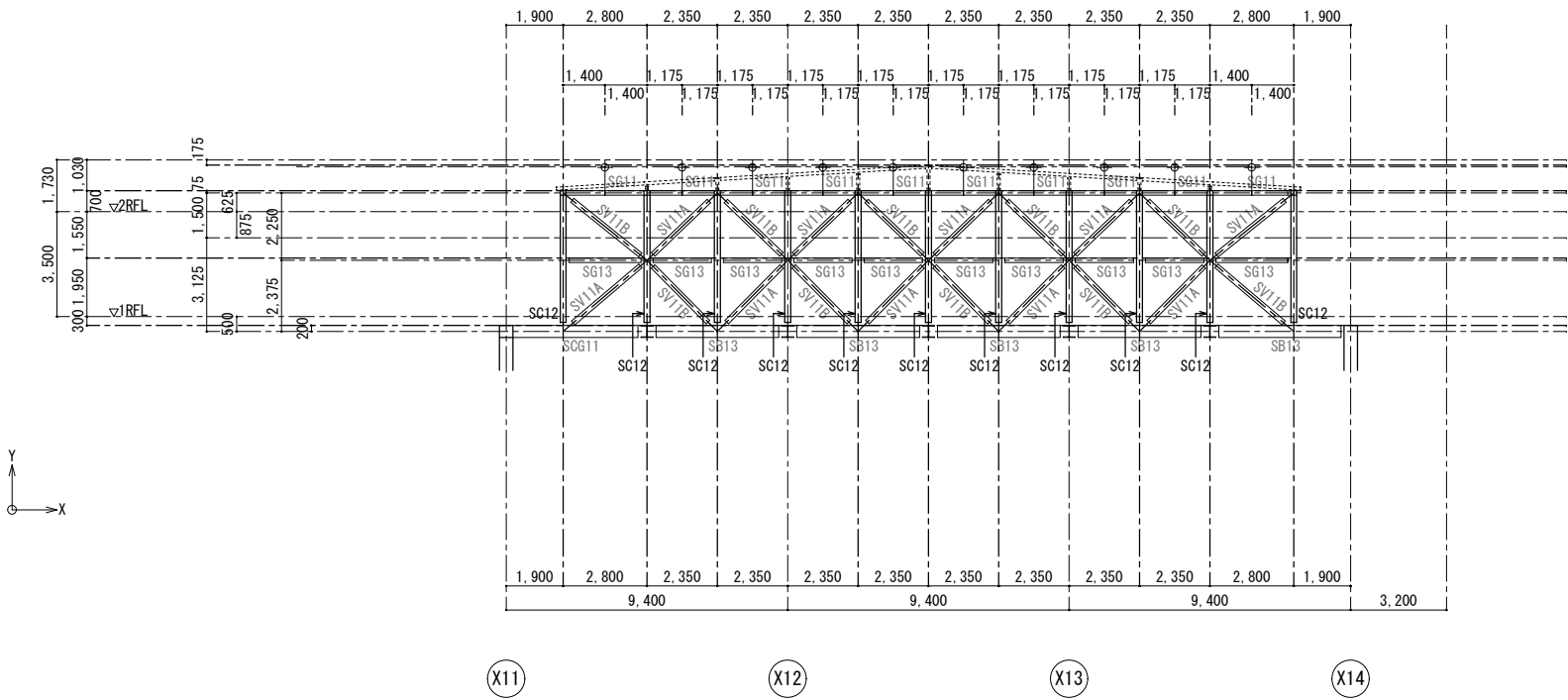


X 1 2 + 6, 2 0 0 通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 地業：捨てコン t=50、砂利 t=60
2. 区画は梁上・柱上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
3. 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
4. 梁継手位置は取付く柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は 中 で示す。

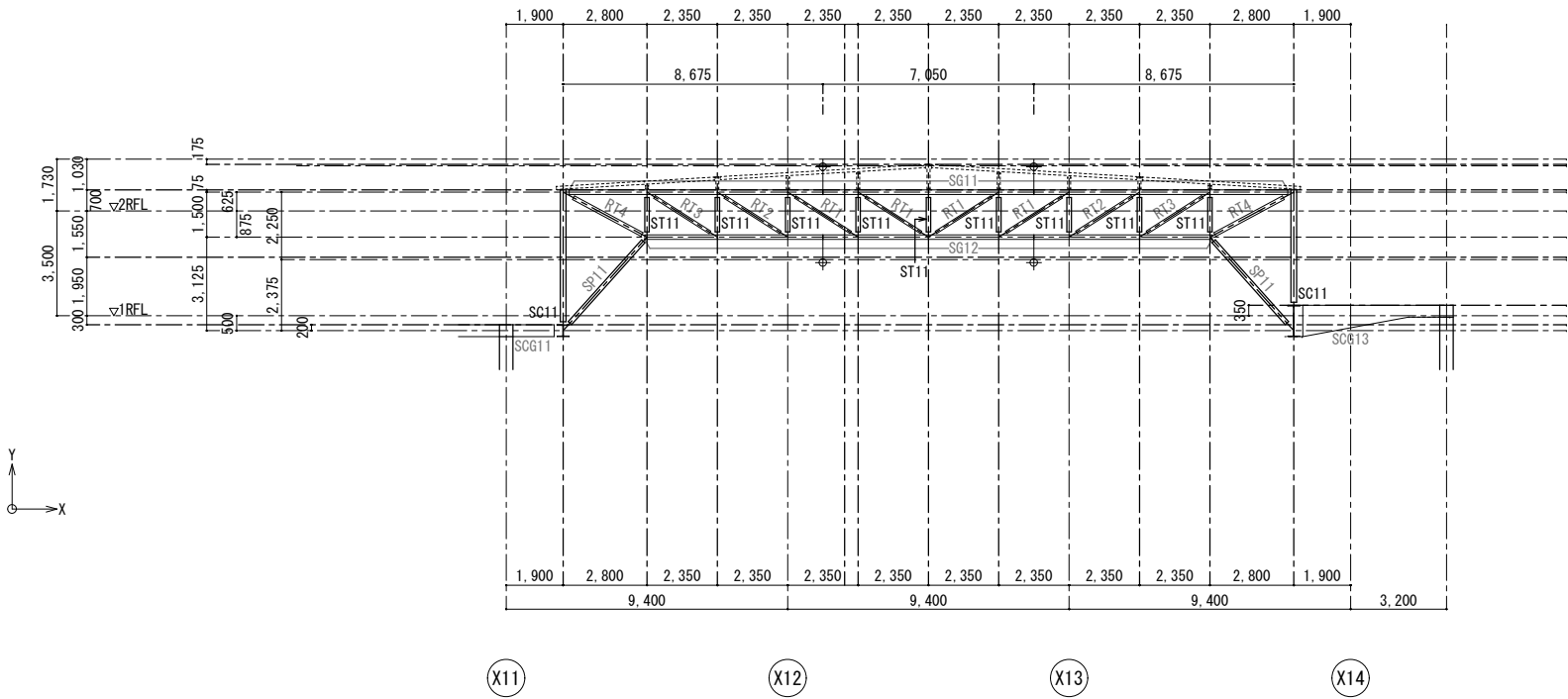
体育館屋根 Y2通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
 2. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



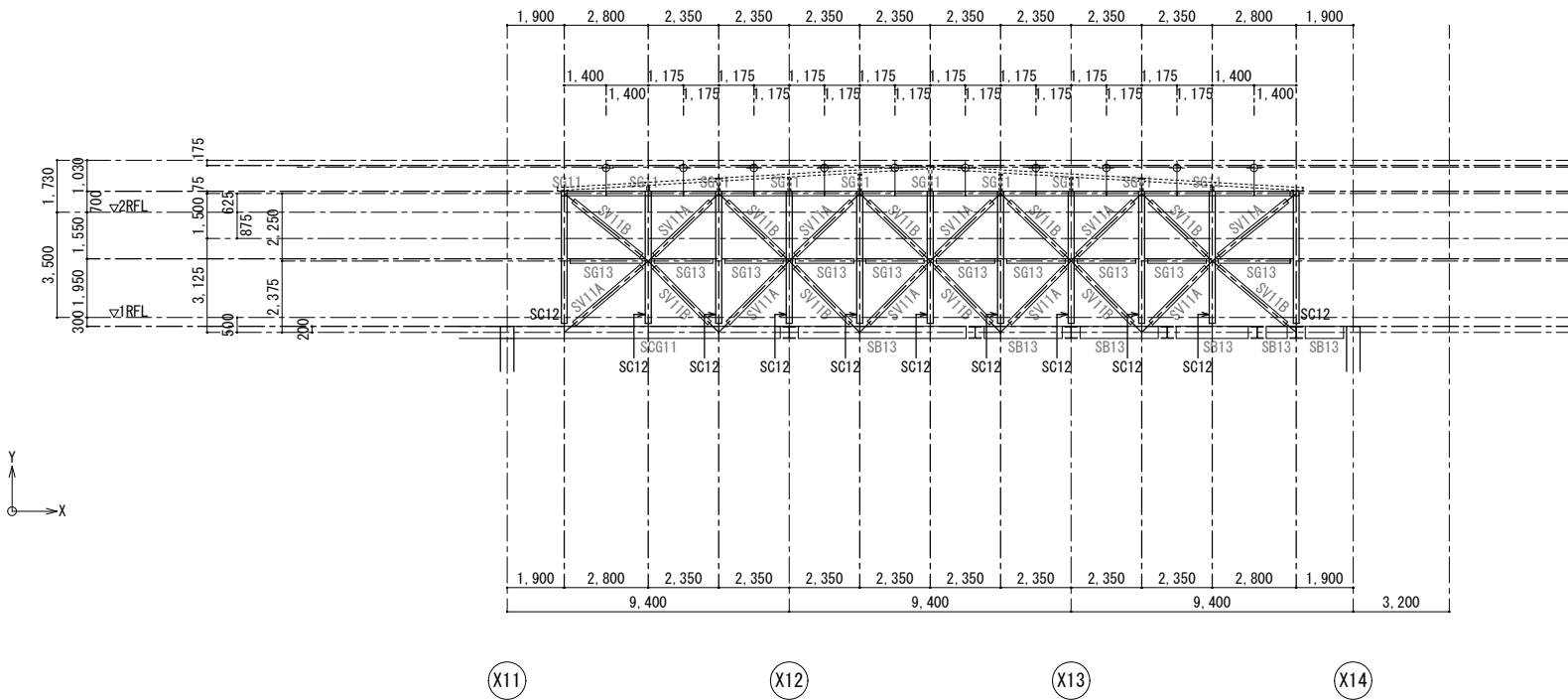
体育館屋根 Y3+2,600通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
 2. 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



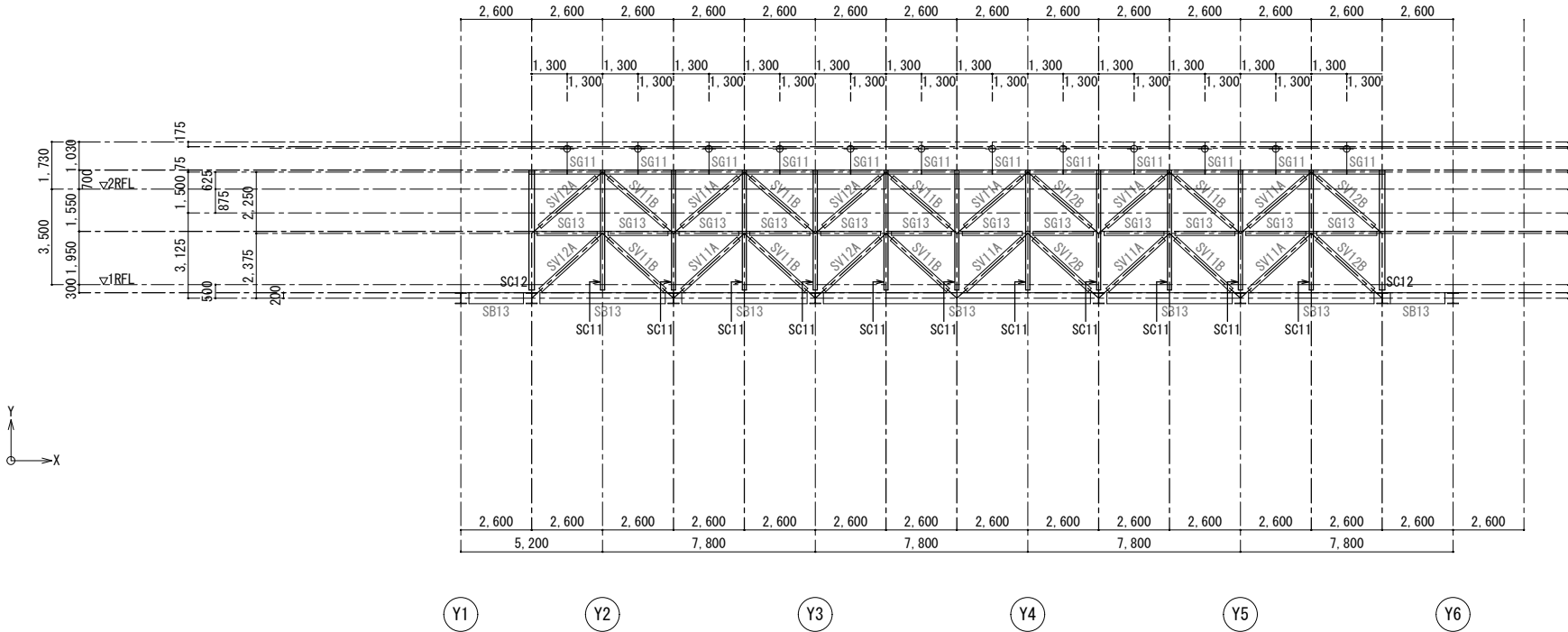
体育館屋根 Y2+5,200通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
- 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
 - 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



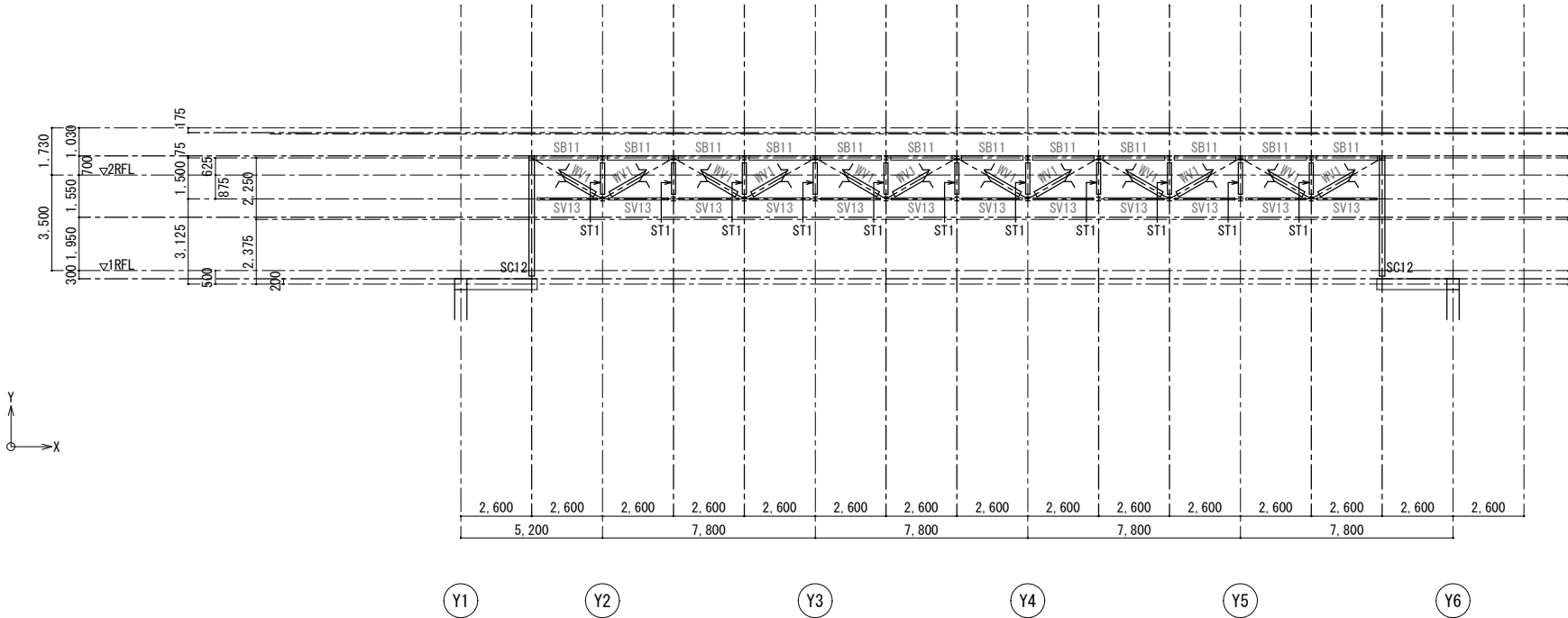
体育館屋根 X11+1,900通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
- 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
 - 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



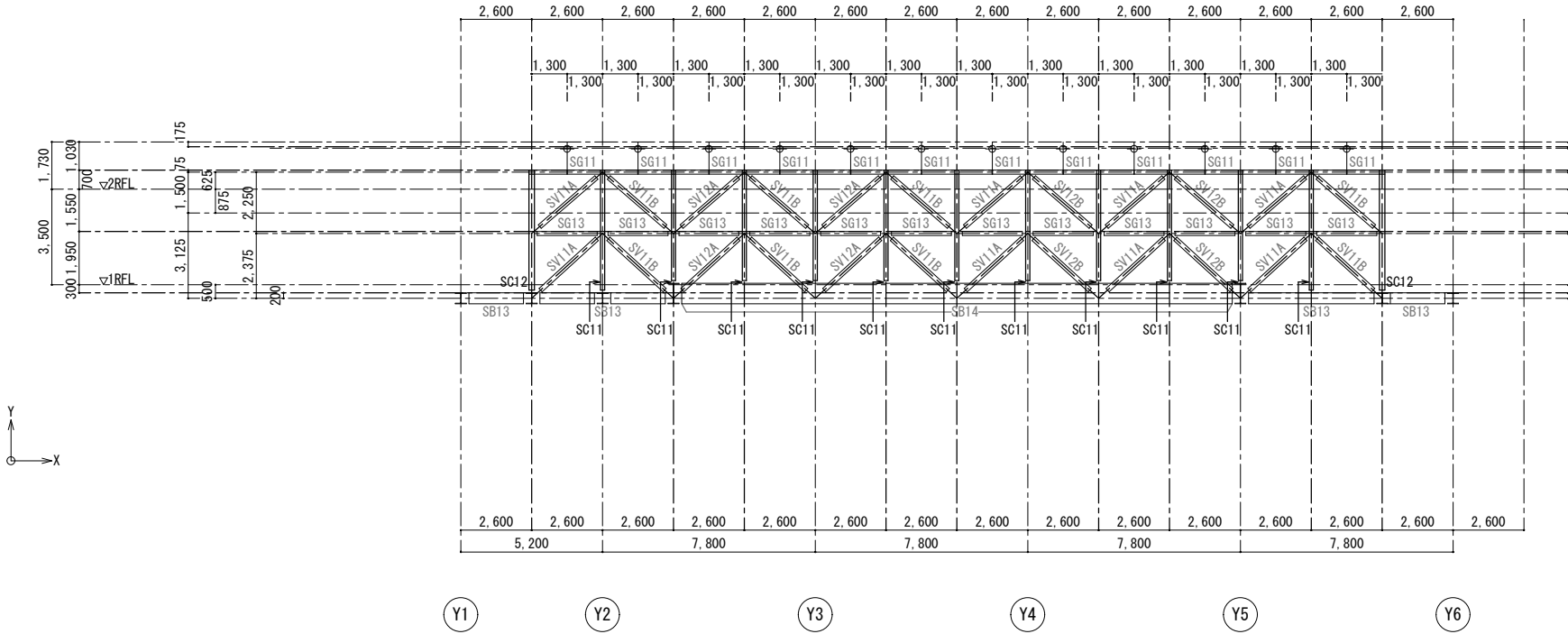
体育館屋根 X12通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
- 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
 - 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



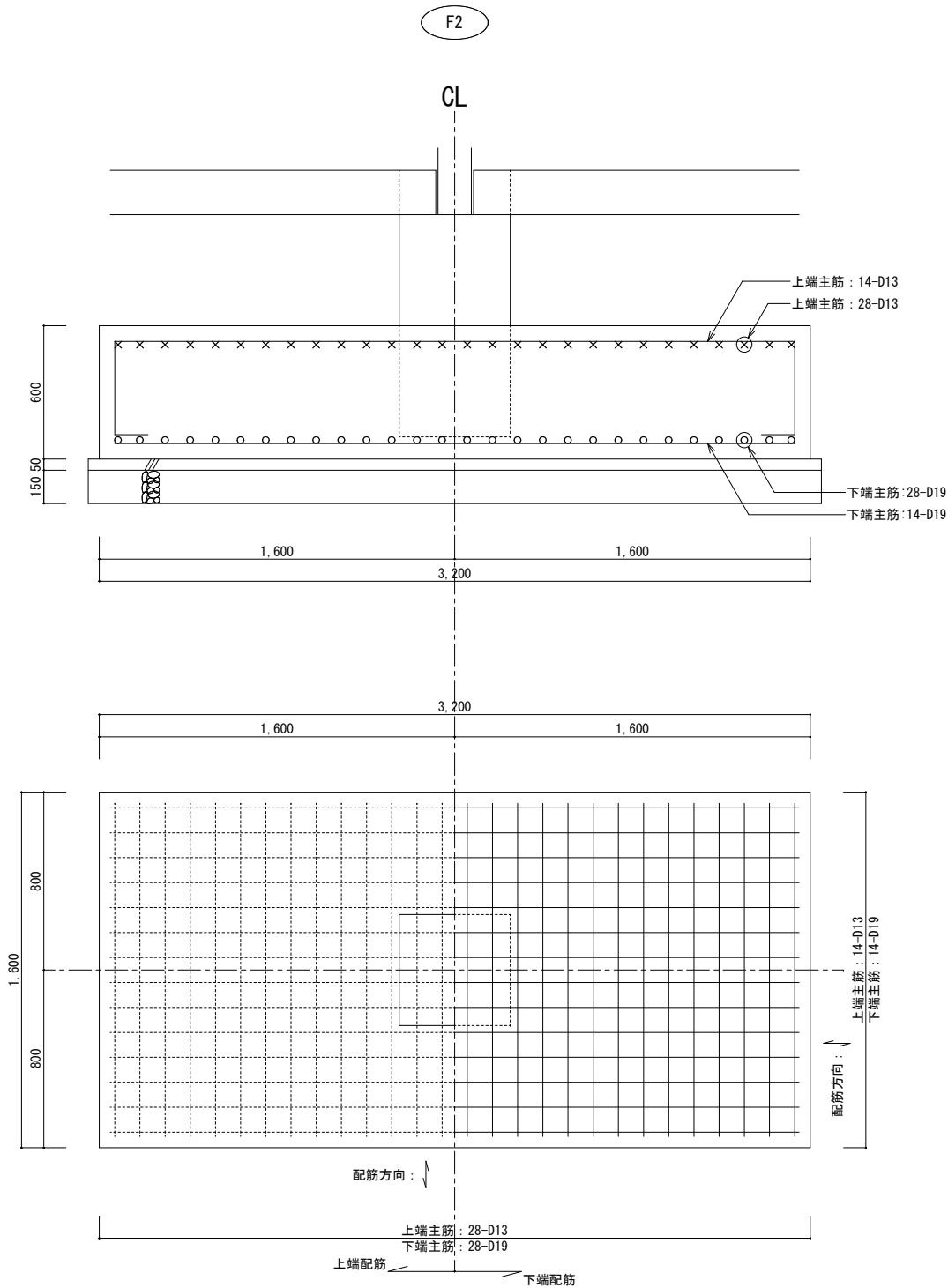
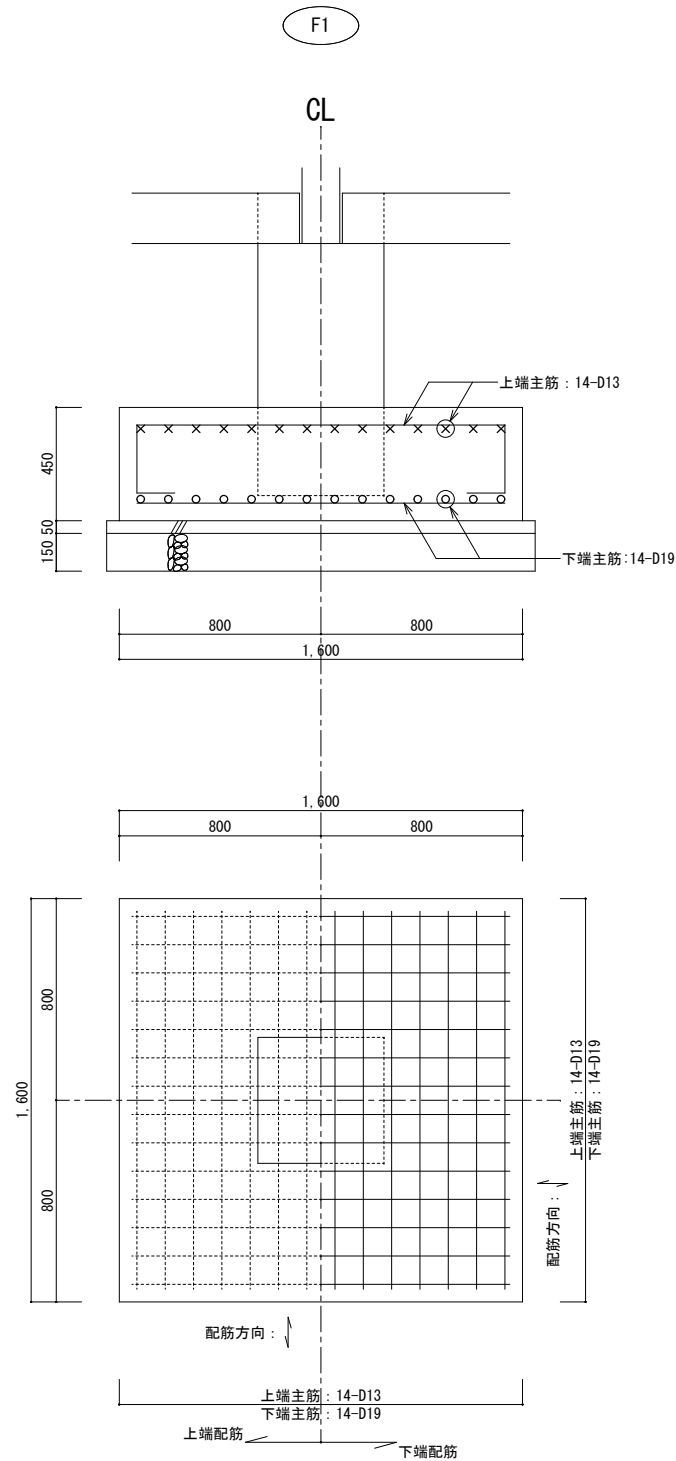
体育館屋根 X14-1,900通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
- 特記なき柱符号は、下階柱符号にならう。
 - 梁継手は 中 で示す。
取付く位置は、柱・梁の芯から 1,000mm とする。
特記は図中に示す。



基礎リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295 2. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=150mm
D19～D25 SD345



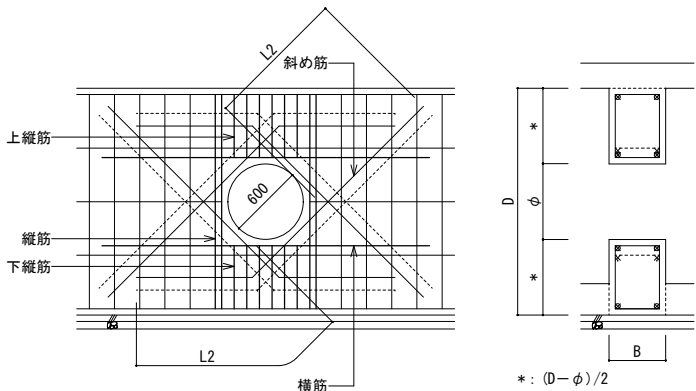
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
D19～D25 SD345
2. 腹筋：4-D13 (2段)
3. 幅止筋：D10@1,000 以内
4. 段受け筋：D10@1,000 以内
段受け筋の代わりとなる鉄筋支持金物を採用してよい。
5. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm

基礎梁断面リスト

符 号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6	FG7	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面								
	B×D	450×1,400	450×1,400	450×1,800	450×1,800	450×1,400	450×2,300	450×2,300
	上端主筋	4-D25	5-D25	4-D25	6-D25	8-D25	4-D25	6-D25
	下端主筋	4-D25	5-D25	4-D25	6-D25	8-D25	4-D25	6-D25
	stp	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@200
腹 筋			6-D13 (3段)	6-D13 (3段)		8-D13 (4段)	8-D13 (4段)	
備 考								

符 号	FCG1	FCG2	FB1			
位 置	全断面	全断面	全断面			
断 面						
B×D	450×1,400	450×1,800	400×600			
上端主筋	4-D25	4-D25	2-D25			
下端主筋	4-D25	4-D25	2-D25			
stp	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200			
腹筋		6-D13 (3段)				
備 考	片持ち梁	片持ち梁	小梁			

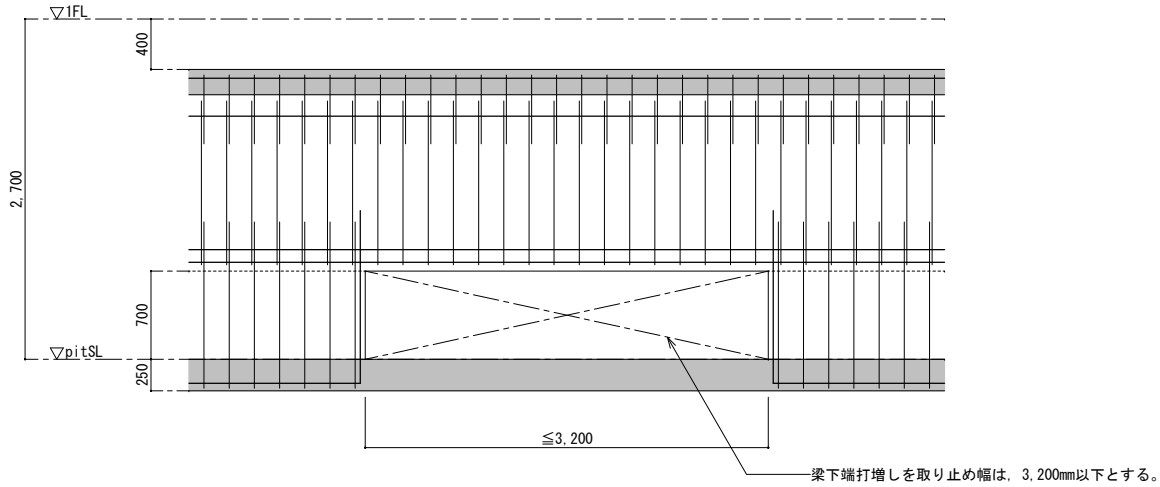
基礎梁人通孔補強図



* 縦筋、上下縦筋は、stp形状とする。
斜め筋は多段配筋にしてもよい。

符 号	F63	F64	F66
梁せい H	1,800	1,800	2,300
梁幅 B	450	450	450
人通孔径 φ	600	600	600
横 筋	2×2—D22	2×2—D22	2×2—D22
斜め筋	4×4—D29	4×4—D29	4×4—D29
縦 筋	2×2×□ —D13	2×2×□ —D13	2×2×□ —D13
上縦筋	□ —D13@200	□ —D13@200	□ —D13@200
下縦筋	□ —D13@200	□ —D13@200	□ —D13@200
備 考			

基礎梁下端の開口部配筋要領図

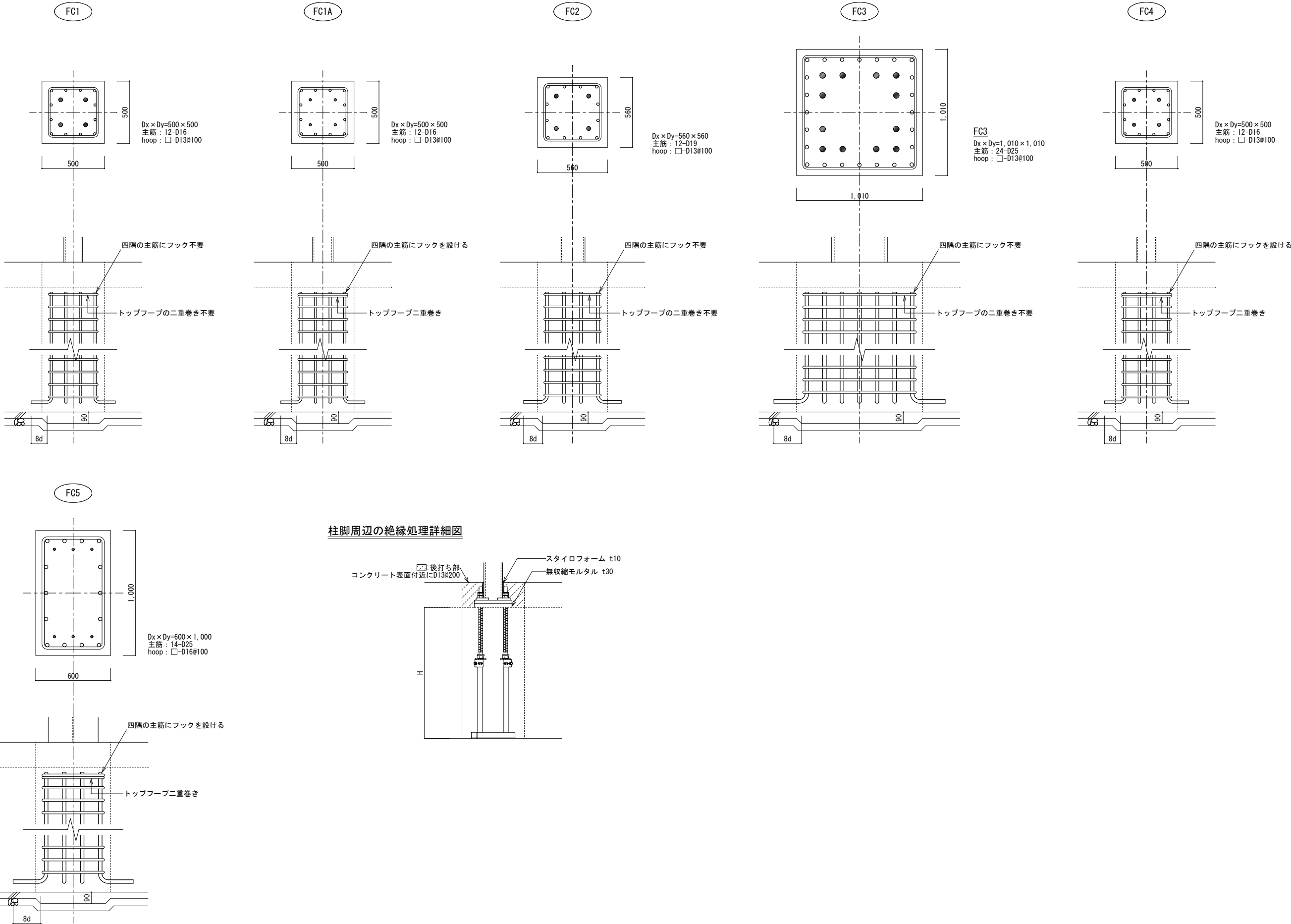


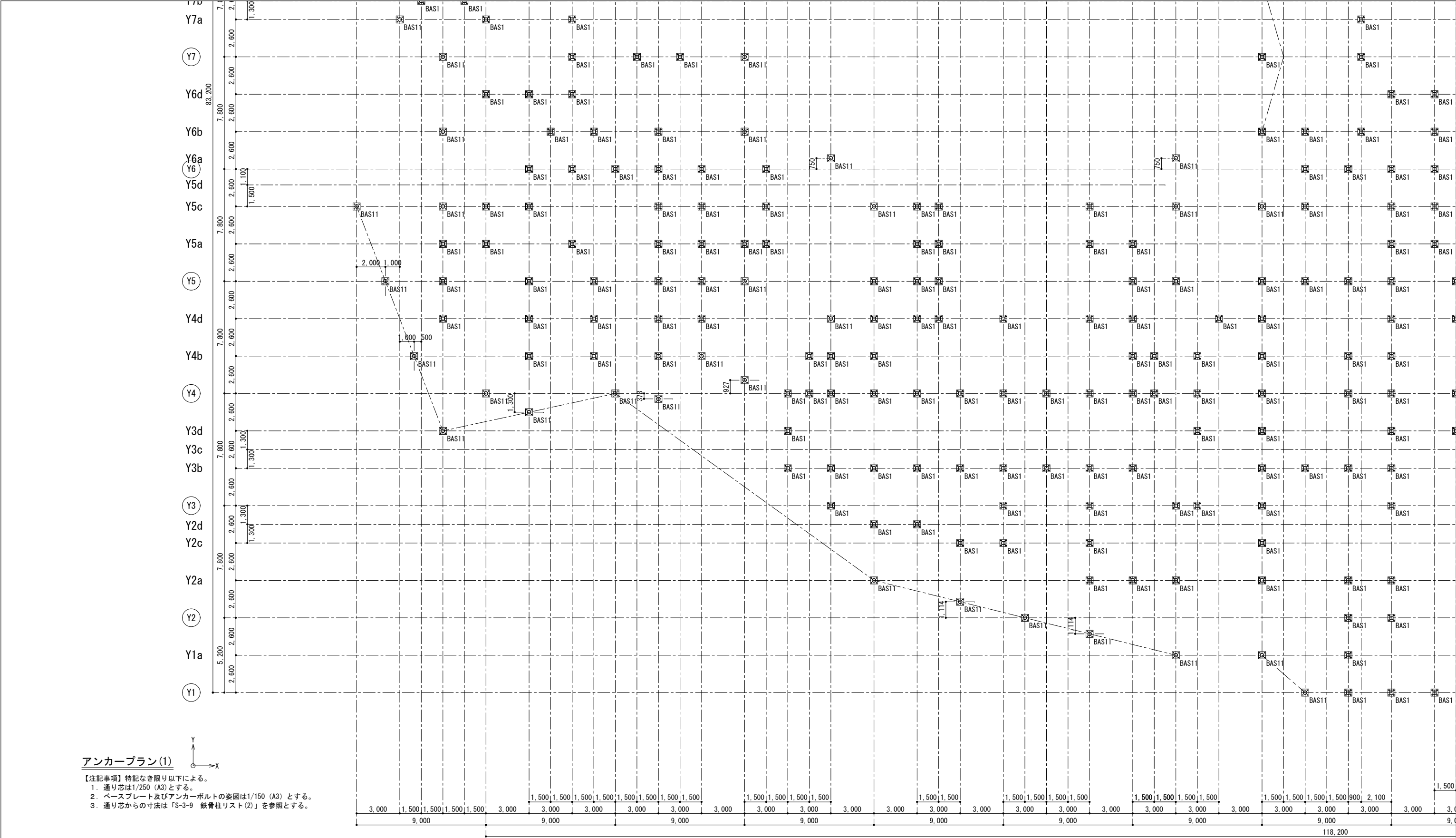
柱型リスト

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
D19～D25 SD345

2. 柱型上の後打ち部は床開口扱いとし、柱型に定着できないスラブ筋本数を開口両端に振り分けて補強を行う。

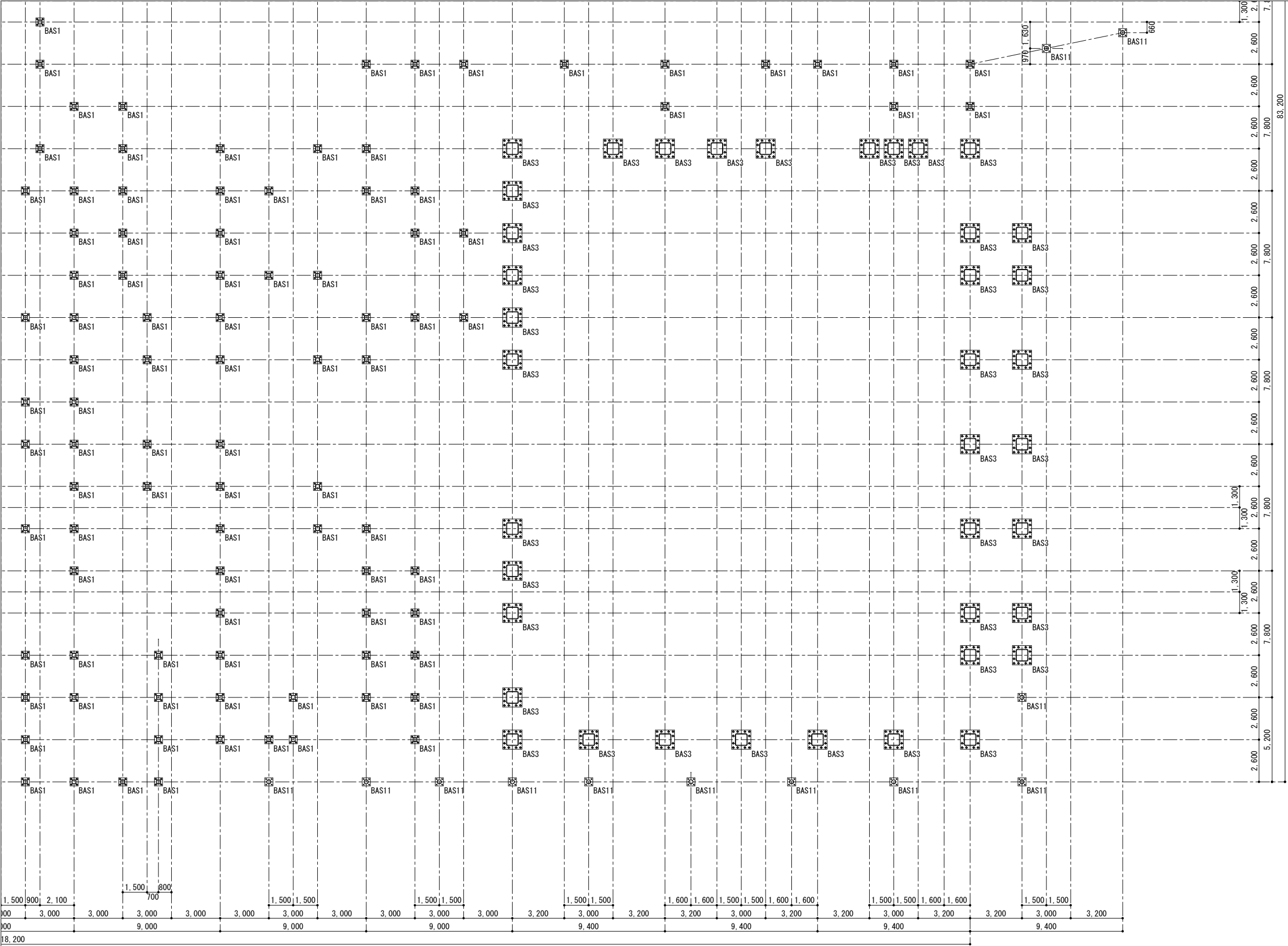
3. 鉄骨柱と後打ち部の間には、スタイロフォームを挟んで絶縁処理を行う。





アンカープラン(1)

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 通り芯は1/250 (A3) とする。
 2. ベースプレート及びアンカーボルトの姿図は1/150 (A3) とする。
 3. 通り芯からの寸法は「S-3-9 鉄骨柱リスト(2)」を参照とする。



アンカープラン (2)

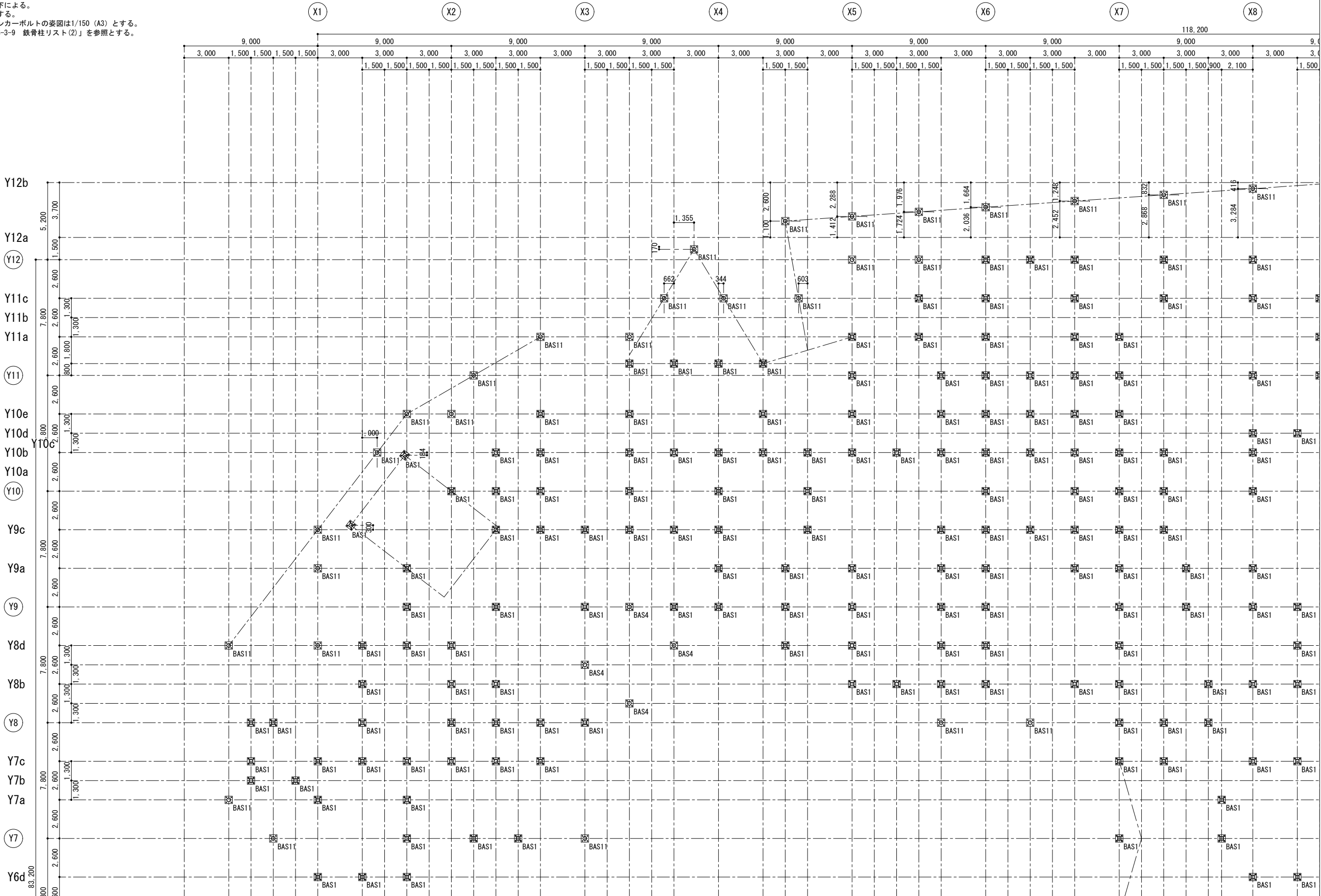
- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 通り芯は1/250 (A3) とする。
 2. ベースプレート及びアンカーボルトの姿図は1/150 (A3) とする。
 3. 通り芯からの寸法は「S-3-9 鉄骨柱リスト (2)」を参照とする。

アンカープラン(3)



【注記事項】特記なき限り以下による。

1. 通り芯は1/250 (A3) とする。
2. ベースプレート及びアンカーボルトの姿図は1/150 (A3) とする。
3. 通り芯からの寸法は「S-3-9 鉄骨柱リスト(2)」を参照とする。



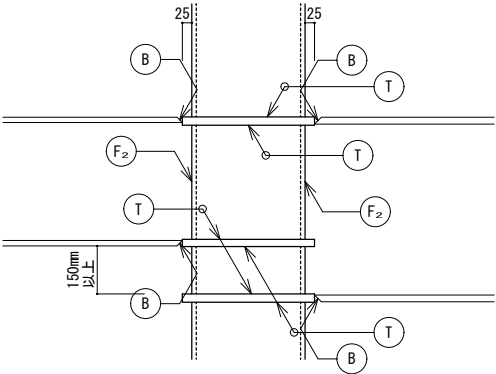
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：BCR295
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

鉄骨柱リスト

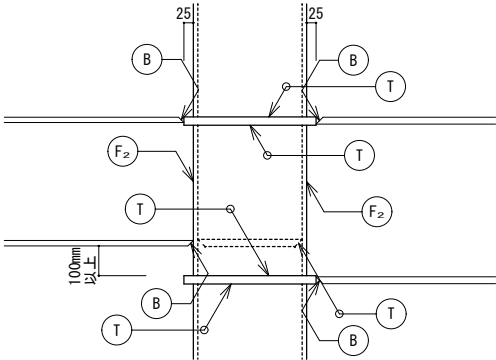
符 号	階	断 面	材 質	柱 脚	継 手	備 考
SC1	1～RF	□-150×150×12		BAS1	CJ1	
SC2	1～RF	□-200×200×12		BAS2	—	
SC3	1～RF	□-450×450×22		BAS3	—	
SC4	1～RF	φ165.2×11.0	STK400	BAS4	—	
SC5	1～RF	BH-600×400×12×16	SN400B	BAS5	—	
SC6	2～RF	H-150×150× 7×10	SN400B	—	CJ6	
SP1	1～RF	φ165.2×11.0	STK400	BAS11	—	
SP20	1～RF	H-148×100×6×9	SS400	—	CJ20	

柱・梁接合部標準図 S=—

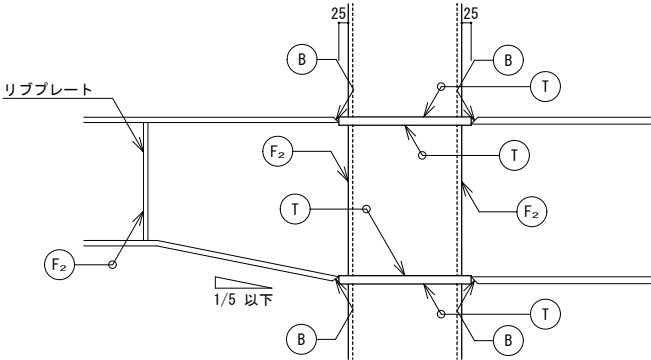
通しダイヤフラム形式



内ダイヤフラム形式

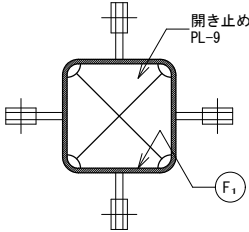
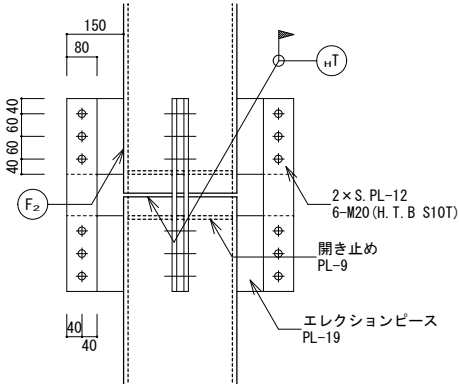


鉛直ハンチ形式



- ・通しダイヤフラム形式を標準とする。梁がRにかからない場合は、内ダイヤフラム形式としてもよい。
- ・梁段差によるダイヤフラム間の寸法は、原則として通しダイヤフラム形式で 150 mm 以上、内ダイヤフラム形式で 100 mm 以上とする。ただし、UT検査が可能な場合はその限りではない。
- ・通しダイヤフラムの板厚は取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズUP、かつ柱フランジ厚以上とする。
- ・通しダイヤフラムの材質は SN490C とする。
- ・板厚が 40 mm を超える場合は TMCP鋼（C種）とする。
- ・内ダイヤフラムの板厚は取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズUP以上とする。
- ・内ダイヤフラムの材質は SN490B とする。
- ・仕口パネルの板厚は上下の柱の板厚かつ梁のウェブ厚以上とする。
- ・内ダイヤフラム形式の場合は上記かつ梁フランジの1サイズDOWN以上とする。
- ・仕口パネルの材質は上下柱の材質のうち高強度のものと同等以上とする。
- ・内ダイヤフラム形式の場合は上記かつ梁の材質と同等以上とする。
- ・鉛直ハンチ形式とする場合、梁ハンチ勾配は原則として1／5以下とする。
- ・鉛直ハンチ形式のリブプレートは、フランジ板厚の1／2かつ梁ウェブ板厚以上とする。
- ・ダイヤフラムに取り付く梁ハンチ端部は裏あて金をテーバー加工する。

角形鋼管柱継手標準図 S=—



- ・エレクションピース、S, PLの材質は SS400 とする。
- ・エレクションピース等は建方解析により安全を確認する。
- ・安全が確認された場合は、監督員の承諾を得て変更してもよい。
- ・エレクションピースは、溶接後切断し、グラインダー掛けにより平滑に仕上げる。

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 材種：B. PL SN490C
A. Bit ABR400

2. 在来工法のアンカーボルトはダブルナットとする。
3. 在来工法のアンカーボルトの定着長は 25d とする。

4. 定着板と材質とサイズは監督員の承諾を得た場合、
同等以上のものに変更してよい。

5. 無収縮モルタル t=30

ベースプレートリスト

符 号	BAS1	BAS2	BAS3	BAS4	BAS5	BAS11
部 材	□-150×150×12	□-200×200×12	□-450×450×22	φ 165.2×11.0	BH-600×400×12×16	φ 165.2×11.0
姿 図						
B. PL	B. PL-28×300×300 (SN490B)	B. PL-32×360×360 (SN490B)	B. PL-45×630×630 (SN490B)	B. PL-22×300×300	B. PL-25×500×800	B. PL-16×300×300
A. Bit	A. Bit: 4-M27 (BPM-SD490)	A. Bit: 4-M33 (BPM-SD490)	A. Bit: 8-D38 (BPD-SD390)	4-M27	6-M20	4-M20
定着板	—	—	—	PL-16×90×90	PL-12×60×60	PL-12×60×60
備 考	ベースバック15-12F2 同等品	ベースバック20-12F2 同等品	ベースバック45-22F3 同等品			

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 取付くプレート等は母材と同材とする。

2. ボルト：H. T. B S10T

3. 肌腫が生じる場合にはフィラープレートにより調節する。

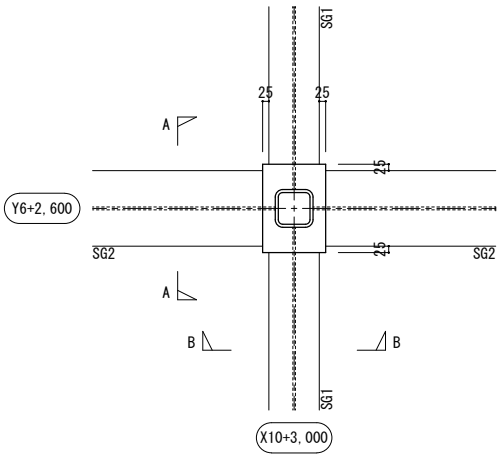
4. H形鋼の片側に取付く場合は、反対側にガセットプレートと同厚のリブプレート进行ける。

鉄骨柱継手リスト (ピン接合)

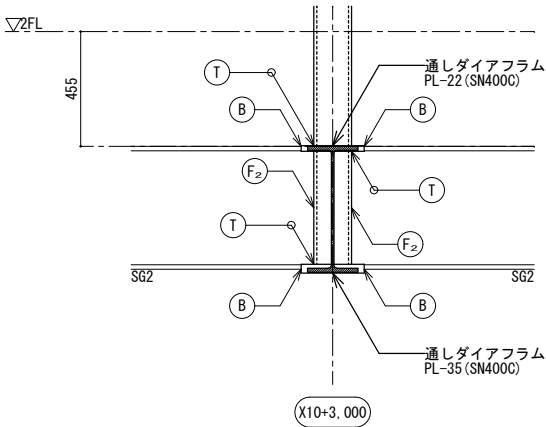
符 号	CJ20	CJ6				
部 材	H-148×100×6×9	H-150×150× 7×10				
姿 図						
材 質	SS400					
継 手	PL-12					
ボルト	2-M16					
備 考						

柱梁接合部詳細図 (Y6+2, 600/X10+3, 000通り)

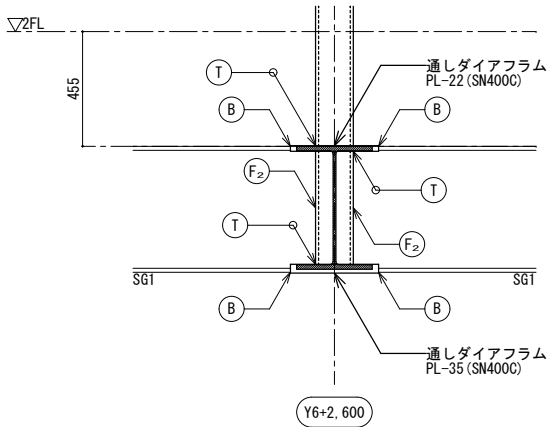
・ Y6+2, 600/X10+3, 000通り



A-A矢視図



B-B矢視図



鉄骨大梁リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SN400B
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SG1	全断面	H-500×200×10×16		GJ1	BJ1	
SG2	全断面	H-488×300×11×18		GJ2	BJ2	
SG3	全断面	H-400×400×13×21		GJ3	BJ3	
SG4	全断面	H-294×200× 8×12		GJ4	BJ4	
SG5	全断面	H-300×300×10×15		GJ5	BJ5	
SG6	全断面	H-194×150× 6× 9		GJ6	BJ6	
SG7	全断面	H-250×250×9×14		GJ7	BJ7	
SG7A	全断面	BH-250×250×12×19		GJ7A	BJ7A	
SG8	全断面	HH-500×300×12×25		GJ8	BJ8	

鉄骨片持ち梁リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SN400B
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SCG1	全断面	H-500×200×10×16		CGJ1		
SCG4	全断面	H-294×200× 8×12		CGJ4		
SCG5	全断面	H-300×300×10×15		CGJ5		
SCG6	全断面	H-194×150× 6× 9		CGJ6		
SCG7	全断面	H-250×250×9×14		CGJ7		
SCG7A	全断面	BH-250×250×12×19		—	—	

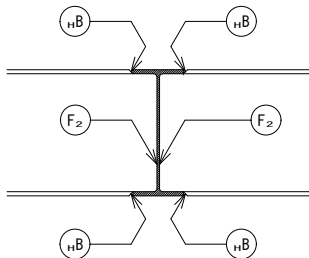
鉄骨小梁リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SS400
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SB1	全断面	H-500×200×10×16		—	BJ101	
SB1A	全断面	H-500×200×10×16	SN400B	GJ101A	BJ101A	
SB2	全断面	H-488×300×11×18		—	BJ102	
SB2A	全断面	H-488×300×11×18	SN400B	GJ102A	BJ102A	
SB3	全断面	H-400×400×13×21		—	BJ103	
SB4	全断面	H-294×200× 8×12		—	BJ104	
SB5	全断面	H-300×300×10×15		—	BJ105	
SB6	全断面	H-194×150× 6× 9		—	BJ106	
SB6A	全断面	H-194×150× 6× 9	SN400B	GJ106A	BJ106	
SB7	全断面	H-250×250×9×14		—	BJ107	
SB7A	全断面	BH-250×250×12×19	SN400B	—	BJ107A	
SB8	全断面	H-175×175×7.5×11		—	BJ108	
SB20	全断面	H-148×100×6×9		—	BJ200	

梁・梁接合部標準詳細図

(1) 取付く梁のせいが同じ場合

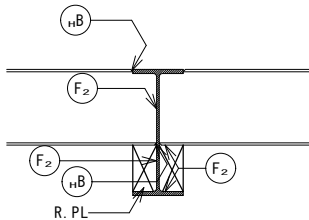


- ・仕口はブラケット型とする。
- ・ノンスカラップ工法とする。ただし、溶融亜鉛メッキ処理を行う場合はスカラップ工法とする。

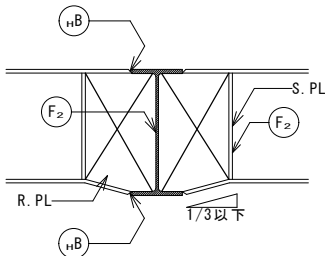
(2) 取付く梁のせいが違う場合

(2-1) 取付く梁のせいが左右で変わらない場合

a. 取付く梁との段差が100mm以上の場合



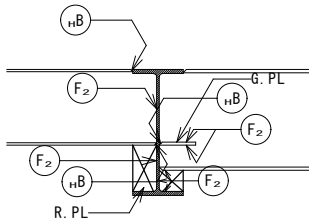
b. 取付く梁との段差が100mm未満の場合



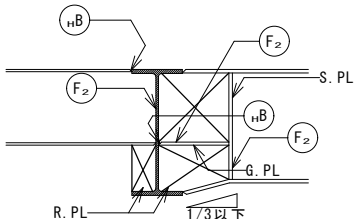
- ・仕口はブラケット型とする。
- ・ノンスカラップ工法とする。ただし、溶融亜鉛メッキ処理を行う場合はスカラップ工法とする。
- ・R. PLの板厚はブラケットを出す梁のウェブ厚さの1サイズアップとする。
- ・S. PLの板厚は取付く梁のフランジ厚さの半分の厚さ以上とする。

(2-2) 取付く梁のせいが左右で変わる場合

a. 取付く梁との段差が100mm以上の場合



b. 取付く梁との段差が100mm未満の場合



- ・仕口はブラケット型とする。
- ・ノンスカラップ工法とする。ただし、溶融亜鉛メッキ処理を行う場合はスカラップ工法とする。
- ・G. PLの板厚はせいが低い方の取付く梁のフランジ厚さの1サイズアップとする。
- ・R. PLの板厚はブラケットを出す梁のウェブ厚さの1サイズアップとする。
- ・S. PLの板厚は取付く梁のフランジ厚さの半分の厚さ以上とする。

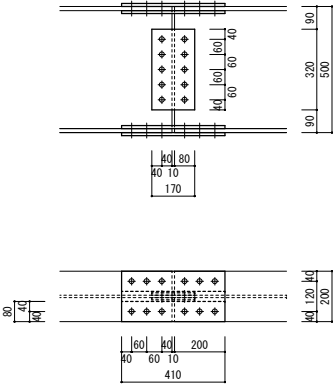
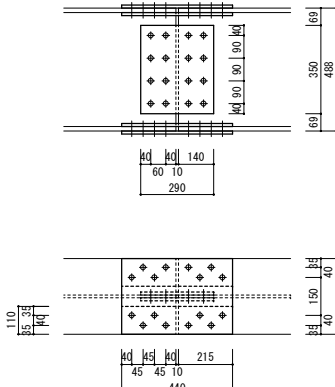
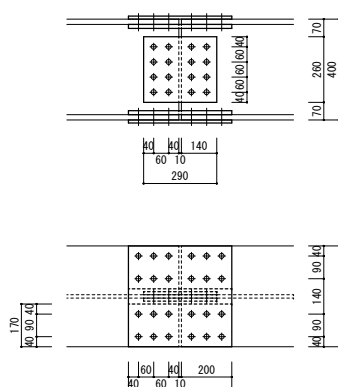
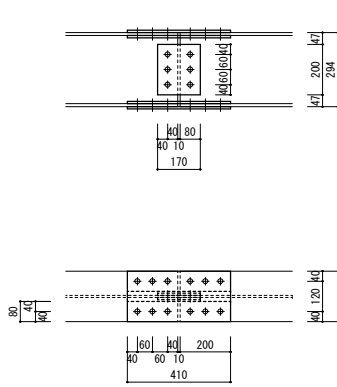
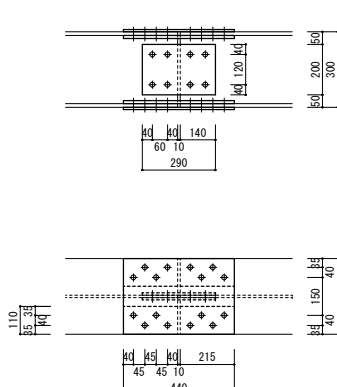
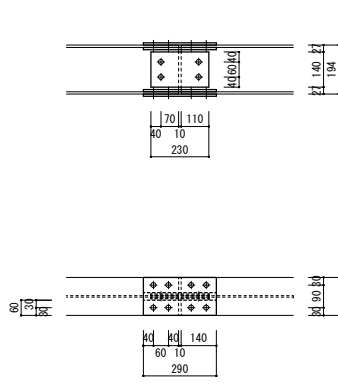
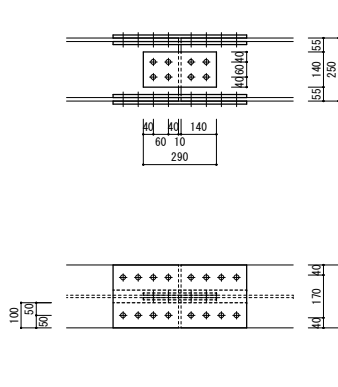
- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 取付くプレート等は母材と同材とする。

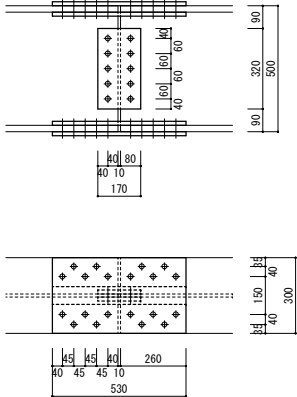
2. ボルト：H.T.B S10T

3. G.PL等が干渉する場合はフランジ溶接継手とする。

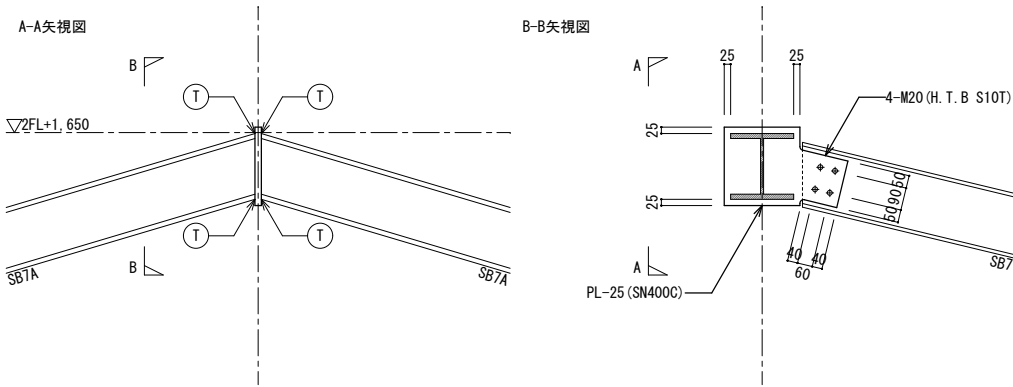
4. 肌隙が生じる場合にはフィラープレートにより調節する。

鉄骨梁継手リスト(剛接合)

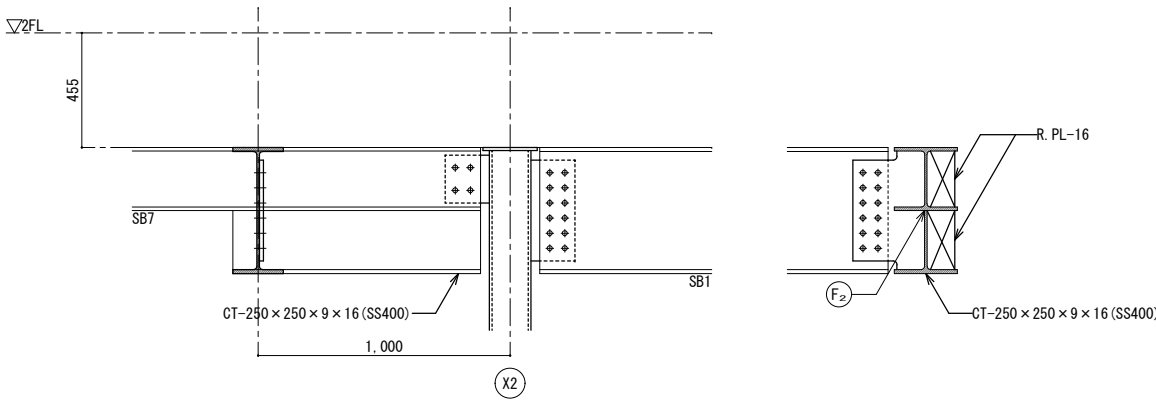
符 号	GJ1, CG1, GJ101A	GJ2, GJ102A	GJ3	GJ4, CGJ4	GJ5, CGJ5	GJ6, CGJ6, GJ106	CGJ7
部 材	H-500×200×10×16	H-488×300×11×18	H-400×400×13×21	H-294×200× 8×12	H-300×300×10×15	H-194×150× 6× 9	H-250×250×9×14
姿 図							
材 質	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B
継 手	フランジ 外PL	2PL-12×200×410	2PL-12×300×440	2PL- 9×200×410	2PL- 9×300×440	2PL- 9×150×290	2PL-12×250×530
	内PL	4PL-12×80×410	4PL-12×110×440	4PL- 9× 80×410	4PL-12×110×440	4PL- 9× 60×290	4PL-12×100×530
	ボルト	24-M20	32-M20	48-M20	24-M20	32-M20	32-M20
	ウェーブ PL	2PL-9×320×170	2PL-12×350×290	2PL-12×260×290	2PL- 9×200×170	2PL- 9×200×290	2PL- 9×140×290
	ボルト	10-M20	16-M20	16-M20	6-M20	8-M20	8-M20
備 考							

符 号	GJ8						
部 材	HH-500×300×12×25						
姿 図							
材 質	SN400B						
継 手	フランジ 外PL	2PL-16×300×530					
	内PL	4PL-16×110×530					
	ボルト	40-M22					
	ウェーブ PL	2PL-12×320×170					
	ボルト	5-M22					
備 考							

勾配折れ点周り詳細図

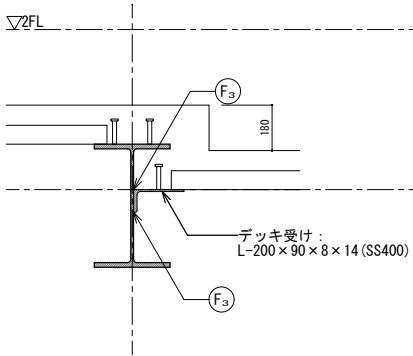


梁接合部詳細図 (2階 Y10+5.200通 り)

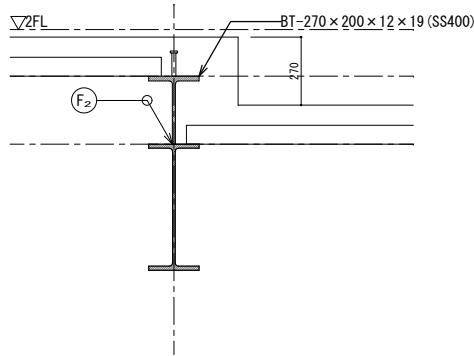


スラブ段差部補強要領

スラブ段差180mmの場合



スラブ段差270mmの場合

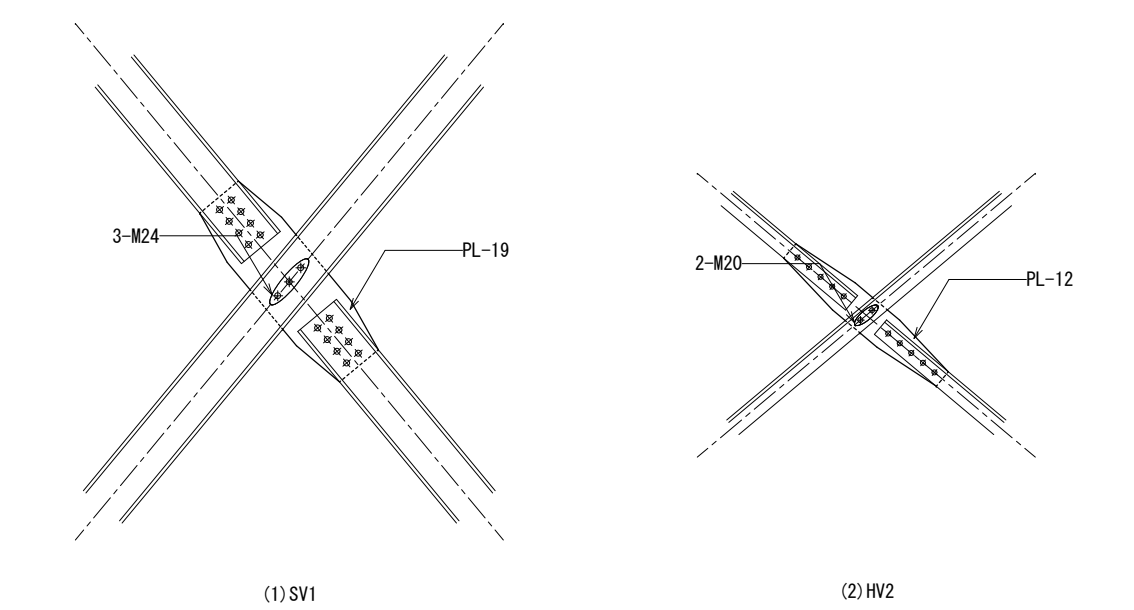


【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材種：SS400
2. 取り付くP L等は母材と同等とする。

鉄骨ブレースリスト

符 号	階	断 面	材質	継 手	備 考
鉛直ブレース					
SV1	1～2	2[-200×90×8×13.5		VJ1	×型
SV1A	1～2	2[-200×90×8×13.5		VJ1	／型
SV1B	1～2	2[-200×90×8×13.5		VJ1	＼型
SV2	2	M20 (JISブレース)	SNR400B	VJ2	×型、ターンバックル付
SV3	2	M27 (JISブレース)	SNR400B	VJ3	×型、ターンバックル付
SV4A	2	φ28 (テンションロッド)		VJ4	／型、フォークエンド接合
SV4B	2	φ28 (テンションロッド)		VJ4	＼型、フォークエンド接合
SV5A	2	φ32 (テンションロッド)	NHT690	VJ5	／型、フォークエンド接合
SV5B	2	φ32 (テンションロッド)	NHT690	VJ5	＼型、フォークエンド接合
SV20	2～R	M20 (JISブレース)	SNR400B	VJ20	×型、ターンバックル付
水平ブレース					
HV1	R	M22 (JISブレース)	SNR400B	HJ1	×型、ターンバックル付
HV2	R	L-75×75×12		HJ2	×型
HV3	R	M18 (JISブレース)	SNR400B	HJ3	×型、ターンバックル付
HV20	2～R	M20 (JISブレース)	SNR400B	HJ20	×型、ターンバックル付

ブレース交差部詳細図



【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 取り付くプレート等はSS400とする。
2. ボルト H.T.B S10T
3. 所定の隅肉サイズが確保できない場合は、監督員との協議の上、必要溶接長さを割り増す。

ブレース継手リスト

符 号	VJ1	VJ2	VJ3	VJ4	ガセットプレートの種類	
部 材	2[-200×90×8×13.5	1-M20	1-M27	1-φ28 (SS400)		
姿 図					T Y P E 1	
					T Y P E 2	
					T Y P E 3	
					æt	9 1 2 1 9 2 2 2 5
ボルト	8-M24	1-M20	2-M20	1-φ35 (SS400)	S	7 9 1 1 1 3 1 5
G. PL (æt×B)	19×280	9×80	9×100	22×R45		
必要溶接長 l (mm)	TYPE 1: - TYPE 2: 580 TYPE 3: 600	100 65 80	120 80 90	- 90 120		
備 考				国土交通大臣認定番号 MTRN-0002		

符 号	VJ5	HJ1	HJ2	HJ3
部 材	1-φ32 (NHT690)	1-M22	L-75×75×12	1-M18
姿 図				
ボルト	1-φ38 (S45C-N)	1-M22	5-M20	1-M20
G. PL (æt×B)	25×R50 (SN490B)	9×90	12×140	9×80
必要溶接長 l (mm)	TYPE 1: - TYPE 2: 140 TYPE 3: 170	100 65 80	350 200 220	100 65 80
備 考	国土交通大臣認定番号 MTRN-0002			

符 号	VJ20	VJ21	HJ20	
部 材	1-M20	FB-90×12	1-M20	
姿 図				
ボルト	1-M20	3-M20	1-M20	
G. PL (æt×B)	9×80	12×90	9×80	
必要溶接長 l (mm)	TYPE 1: 100 TYPE 2: 65 TYPE 3: 80	202 121 141	100 65 80	
備 考				

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295

スラブリスト

符 号	版 厚		位 置	主筋方向		配力筋方向		備 考
	元端	先端		端 部	中 央	端 部	中 央	
DS1	250		上端配筋	D13@200		D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D13@200		D13@200		
DS1A	250		上端配筋	D13@100		D13@100		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D13@100		D13@100		
DS1B	250		上端配筋	D13@100		D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D13@100		D13@200		
DS2	200		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10@200		D10@200		
DS3	200		上端配筋	D13@200		D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		
S1	200		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		
			下端配筋	D10@200		D10@200		
S2	200		上端配筋	D13@200		D13@200		
			下端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		
S3	200		上端配筋	D13@150		D13@150		
			下端配筋	D10, D13@150		D10, D13@150		
S4	155		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		JFデッキ：JF100-12 同等品
			下端配筋	D10@200		D10@200		支保工なし
S5	155		上端配筋	D13@200		D13@200		JFデッキ：JF100-12 同等品
			下端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		支保工なし

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295

片持ちスラブリスト

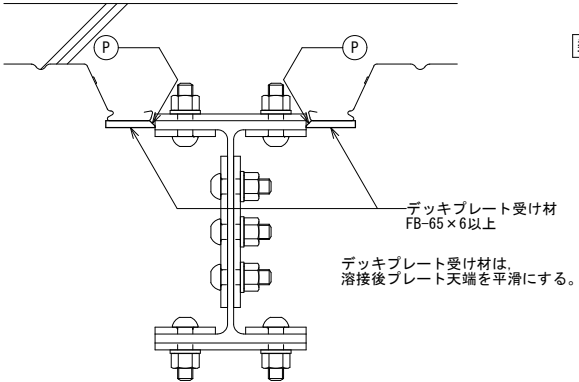
符 号	版 厚		位 置	主筋方向		配力筋方向		備 考
	元端	先端		端 部	中 央	端 部	中 央	
CS1	155		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		
			下端配筋	D10@200		D10@200		
CS2	155		上端配筋	D13@200		D10, D13@200		
			下端配筋	D10, D13@200		D10@200		

【注記事項】 特記なき限り下記による
1. 材 種 主筋 D10～D16 SD295
2. 同等品を使用する場合は、同等以上の性能を有することを確認し、監理者の承諾を得る。
3. スラブを打増す場合は、打増後のデッキ山上厚さに対して、0.2%以上の鉄筋量を確保する。

合成スラブリスト

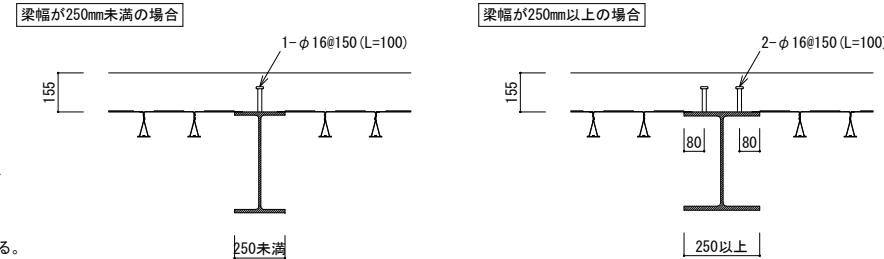
設 計	合成スラブ記号		SS1（認定番号：FP060FL-0079）		
	デッキプレート	種 類	☐ QL99-50	☒ QL99-75	
		板 厚 (mm)	☐ 1.2	☒ 1.6	
		表面処理	☒ Z12 ☐ Z27 ☐ 無し ☐ [] ☐ 塗装（JIS K5621 3種相当品／一次塗装：表面のみ）		
	コンクリート	種 類	☒ 普通 ☐ 軽量1種 ☐ 軽量2種		
		設計基準強度 (N/mm ²)	☐ 18 ☐ 21	☒ 24	
		デッキ山上厚さ (mm)	☐ 70 ☒ 80 ☐ 85 ☐ 90 ☐ 95 ☐ 100 ☐ []		
	溶接金網または異形鉄筋	溶接金網（JIS G3551）	☐ φ6-150 ☐ φ6-100 ☐ []		
		異形鉄筋（JIS G3112, 3117）	☒ D10-200 ☐ []		
	デッキプレート端部仕様		☒ インパ ☒ 小口ﾌｾﾞｯﾄ		
梁との接合形式		種 類	☒ 頭付きスタッド		
		注 記	径、長さ、ピッチは断面詳細図による。 梁とデッキとの接合は アークスポット溶接等による。 （焼抜き栓溶接は不要）	☐ 焼抜き栓溶接 ☐ SPW：標準溶接径 18mm以上 ☐ PW・APW：標準溶接径 25mm ※溶接位置等は特記による	☐ びょう打ち 接合位置は特記による。 構造認定を受けた免射打込みびょう を使用すること。
その他					

梁継手部のデッキ受部材接合要領 S=－

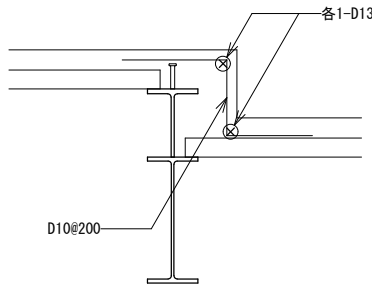
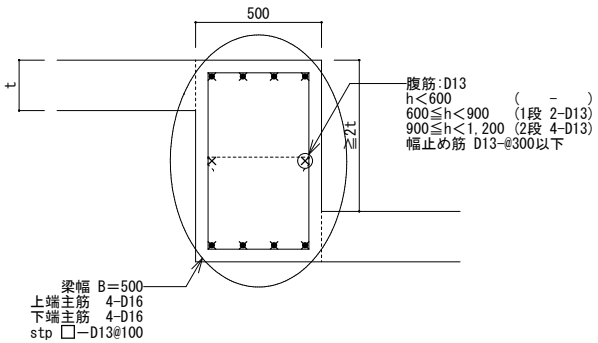


頭付スタッド施工要領 S=－

- ・梁幅が250未満の場合は、頭付スタッドは1列とする。
- ・梁幅が250以上の場合は、頭付スタッドは2列とする。
- ・鉄骨梁継手のスプライスプレート等と干渉し不足する本数は、最小ピッチ以内となるよう溶接可能な箇所で調整し、所定の本数を溶接する。

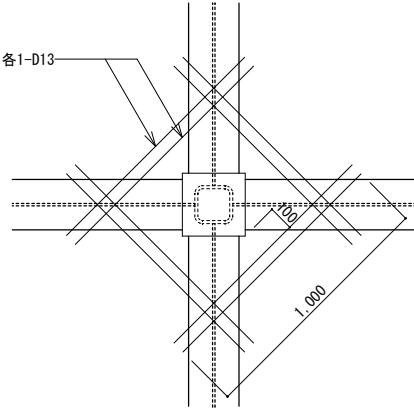


スラブ段差部補強要領 S=－

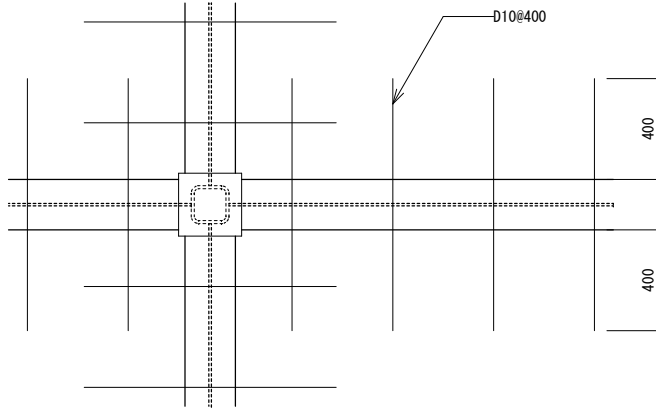


ひび割れ防止筋補強要領 S=－

柱周りのひび割れ補強



梁上のひび割れ補強



鉄骨柱リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SN400B
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	柱脚	ピン接合	備 考
SC11	全断面	H-194×150×6×9		CJ11	CJ11	
SC12	全断面	H-200×200×8×12		CJ12	CJ12	

鉄骨大梁リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SN400B
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SG11	全断面	H-150×150×7×10		GJ11	BJ11	
SG12	全断面	H-150×150×7×10		GJ11	BJ12	弱軸使いとする
SG13	全断面	H-300×150×6.5×9		GJ11	BJ13	
SG14	全断面	HY-650×300×12×19		GJ12	—	

鉄骨片持ち梁リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SN400B
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SCG11	全断面	H-400×400×13×21		CGJ1	—	
SCG12	全断面	BH-1050×400×19×25		CGJ2	—	
SCG13	X14-1900	BH-1050×400×19×25		—	CBJ3	
	X14+3, 200	BH-400×400×19×25		CGJ3	—	

鉄骨小梁リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SS400
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SB11	全断面	H-150×150×7×10		—	BJ111	
SB12	全断面	H-250×125×6×9		—	BJ112	
SB13	全断面	H-400×400×13×21		—	BJ113	
SB14	全断面	H-1050×400×19×25	SN400B	GJ114	BJ114	

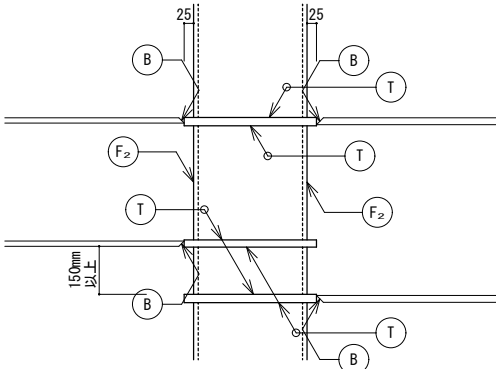
トラス部材リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SS400
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SP11	全断面	H-150×150×7×10	SN490	—	詳細図による	
ST11	全断面	H-150×150×7×10		—	詳細図による	
RT1	全断面	Φ89.1×3.2	STK400	—	詳細図による	
RT2	全断面	Φ101.6×4.0	STK400	—	詳細図による	
RT3	全断面	Φ101.6×5.7	STK400	—	詳細図による	
RT4	全断面	Φ139.8×4.5	STK400	—	詳細図による	

柱・梁接合部標準図 S=—

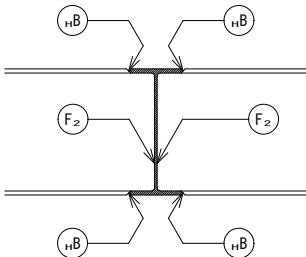
通しダイアフラム形式



- ・通しダイアフラム形式を標準とする。梁がRにからない場合は、内ダイアフラム形式としてもよい。
- ・梁段差によるダイアフラム間の寸法は、原則として通しダイアフラム形式で 150 mm 以上、内ダイアフラム形式で 100 mm 以上とする。ただし、UT検査が可能な場合はその限りではない。
- ・通しダイアフラムの板厚は取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズUP、かつ柱フランジ厚以上とする。
- ・通しダイアフラムの材質は SN490C とする。板厚が 40 mm を超える場合は TMCP鋼（C種）とする。
- ・内ダイアフラムの板厚は取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズUP以上とする。
- ・内ダイアフラムの材質は SN490B とする。
- ・仕口パネルの板厚は上下の柱の板厚かつ梁のウェブ厚以上とする。内ダイアフラム形式の場合は上記かつ梁フランジの1サイズDOWN以上とする。
- ・仕口パネルの材質は上下柱の材質のうち高強度のものと同等以上とする。内ダイアフラム形式の場合は上記かつ梁の材質と同等以上とする。
- ・鉛直ハンチ形式とする場合、梁ハンチ勾配は原則として1／5以下とする。
- ・鉛直ハンチ形式のリブプレートの板厚は、フランジ板厚の1／2かつ梁ウェブ板厚以上とする。
- ・ダイアフラムに取り付く梁ハンチ端部は裏あて金をデーパー加工する。

梁・梁接合部標準詳細図

(1) 取付く梁のせいが同じ場合

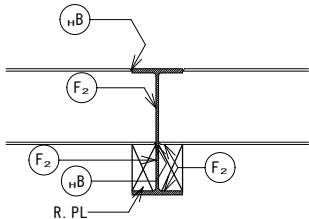


- ・仕口はブラケット型とする。
- ・ノンスカラップ工法とする。ただし、溶融垂鉛メッキ処理を行う場合はスカラップ工法とする。

(2) 取付く梁のせいが違う場合

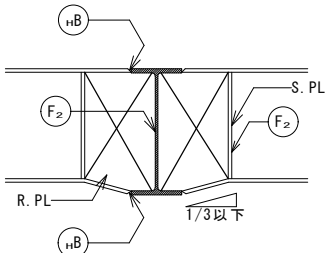
(2-1) 取付く梁のせいが左右で変わらない場合

a. 取付く梁との段差が100mm以上の場合



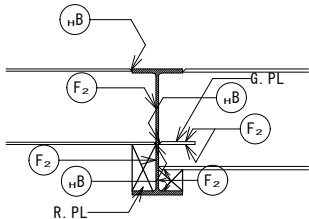
- ・仕口はブラケット型とする。
- ・ノンスカラップ工法とする。ただし、溶融垂鉛メッキ処理を行う場合はスカラップ工法とする。
- ・R. PLの板厚はブラケットを出す梁のウェブ厚さの1サイズアップとする。
- ・S. PLの板厚は取付く梁のフランジ厚さの半分の厚さ以上とする。

b. 取付く梁との段差が100mm未満の場合



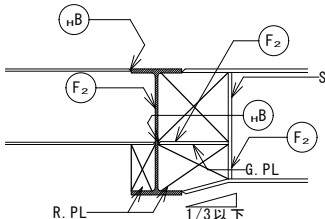
(2-2) 取付く梁のせいが左右で変わる場合

a. 取付く梁との段差が100mm以上の場合



- ・仕口はブラケット型とする。
- ・ノンスカラップ工法とする。ただし、溶融垂鉛メッキ処理を行う場合はスカラップ工法とする。
- ・G. PLの板厚はせいが低い方の取付く梁のフランジ厚さの1サイズアップとする。
- ・R. PLの板厚はブラケットを出す梁のウェブ厚さの1サイズアップとする。
- ・S. PLの板厚は取付く梁のフランジ厚さの半分の厚さ以上とする。

b. 取付く梁との段差が100mm未満の場合

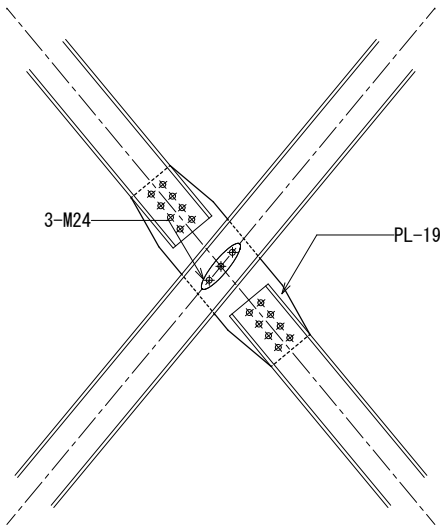


鉄骨ブレースリスト

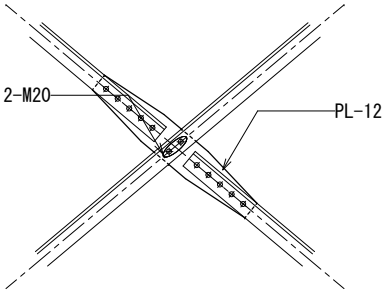
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材種：SS400
2. 取り付く P L等は母材と同等とする。

符 号	階	断 面	材質	継 手	備 考
鉛直ブレース					
SV11A	R	φ 165. 2×6. 0	STK400	VJ1	／型
SV11B	R	φ 165. 2×6. 0	STK400	VJ1	＼型
SV12A	R	φ 165. 2×9. 3	STK400	VJ2	／型
SV12B	R	φ 165. 2×9. 3	STK400	VJ2	＼型
SV13	R	φ 89. 1×5. 5	STK400	VJ3	トラス下弦材 繋ぎ材
水平ブレース					
HV11	R	L-100×100×7		HJ1	× 型
HV12	R	2L-90×90×10		HJ2	× 型

ブレース交差部詳細図



(1) SV1



(2) HV2

木部材リスト

【注記事項】 特記なき限り下記による。
1.

符 号	位 置	断 面 (B×D)	材 質		接合金物		備 考
			等 級	材 質	継 手	端 部	
WV1	全断面	180×210	対称異等級集成材 E95-F270	からまつ	—	詳細図による	
WV2	全断面	180×210	対称異等級集成材 E95-F270	からまつ	—	詳細図による	

ブレース継手リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 取り付くプレート等はSS400とする。
2. ボルト H.T.B S10T
3. 所定の隅肉サイズが確保できない場合は、監督員との協議の上、必要溶接長さを割り増す。

符 号	VJ1	VJ2	VJ3	HJ1	HJ2	ガセットプレートの種類												
部 材	φ 165.2×6.0		φ 165.2×9.3		φ 89.1×5.5		L-100×100×7		2L-90×90×10									
姿 図											T Y P E 1							
											T Y P E 2							
	ボルト		4-M20		6-M20		2-M20		4-M20		5×2-M20		T Y P E 3					
	G. PL (t×B)		19×200		22×230		19×120		9×135		9×330		S I 					

鉄骨梁継手リスト(剛接合)

【注記事項】 特記なき限り以下による。

1. 取付くプレート等は母材と同材とする。

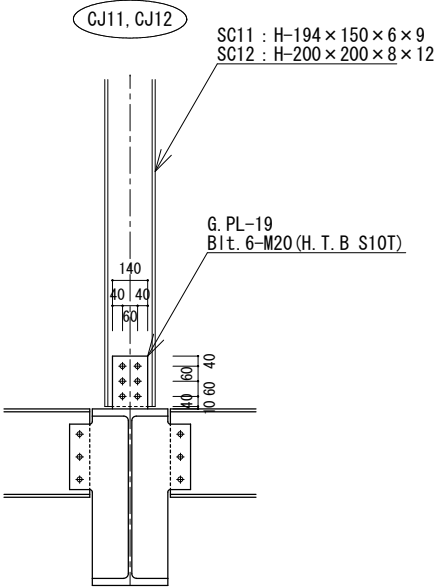
2. ボルト：H.T.B S10T

3. G.PL等が干渉する場合はフランジ溶接継手とする。

4. 肌隙が生じる場合にはフィラープレートにより調節する。

符 号		GJ11	GJ12	CGJ1	CGJ2, GJ14	CGJ3
部 材		H-150×150×7×10	HY-650×300×12×19	H-400×400×13×21	H-1050×400×19×25	H-400×400×19×25
姿 図						
材 質		SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B
継 手	フ ラ ン ジ	外PL 2PL－ 9×150×290 内PL 4PL－ 9× 60×290	2PL-16×400×620 4PL-12×170×620	2PL-12×400×410 4PL-16×170×410	2PL-16×400×650 4PL-16×170×650	2PL-16×400×410 4PL-16×170×410
	ボ ル ト	16－M20	48－M22	48－M20	80－M22	48－M22
	ウ ェ ブ	PL 2PL－ 9× 80×350 ボルト 4－M20	2PL-19×460×290 20-M22	2PL-12×260×290 16-M20	2PL-16×800×290 36-M22	2PL-16×260×290 16-M22
	備 考					

柱ピン接合部リスト



鉄骨梁継手リスト(ピン接合)

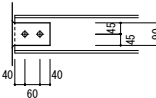
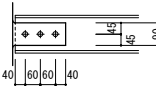
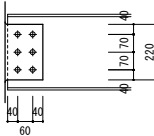
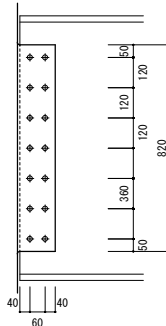
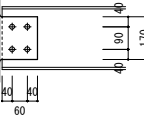
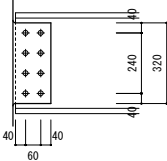
【注記事項】 特記なき限り以下による。

1. 取付くプレート等は母材と同材とする。

2. ボルト：H.T.B S10T

3. 肌隙が生じる場合にはフィラープレートにより調節する。

4. H形鋼の片側に取り付く場合は、反対側にガセットプレートと同厚のリブプレート进行。

符 号		BJ11, BJ111	BJ12	BJ13	CBJ3, BJ114	BJ112	BJ113
部 材		H-150×150×7×10	H-150×150×7×10	H-300×150×6.5×9	H-1050×400×19×25	H-250×125×6×9	H-400×400×13×21
姿 図							
材 質							
継手	PL	PL－16	PL－19	PL－12	PL－25	PL－12	PL－19
	ボルト	2－M20	3－M20	6－M20	14－M20	4－M20	8－M20
備 考		G. PLの溶接方法は突き合わせ溶接とする	G. PLの溶接方法は突き合わせ溶接とする				

トラス部材接合部リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。

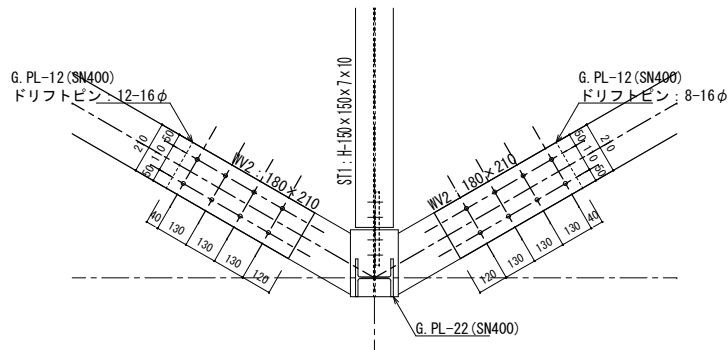
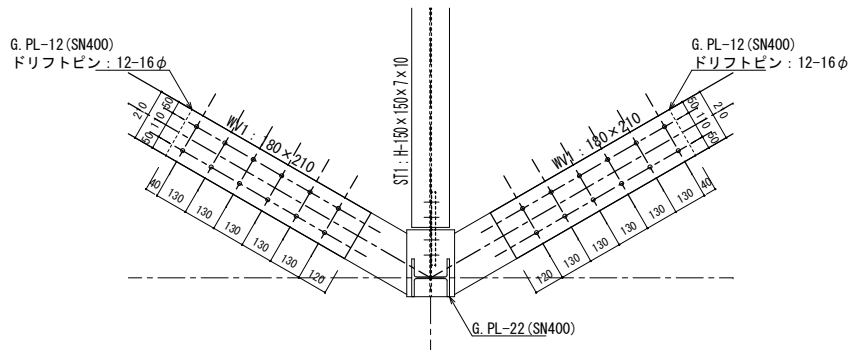
1. 取り付くプレート等はSS400とする。
2. ボルト H.T.B S10T

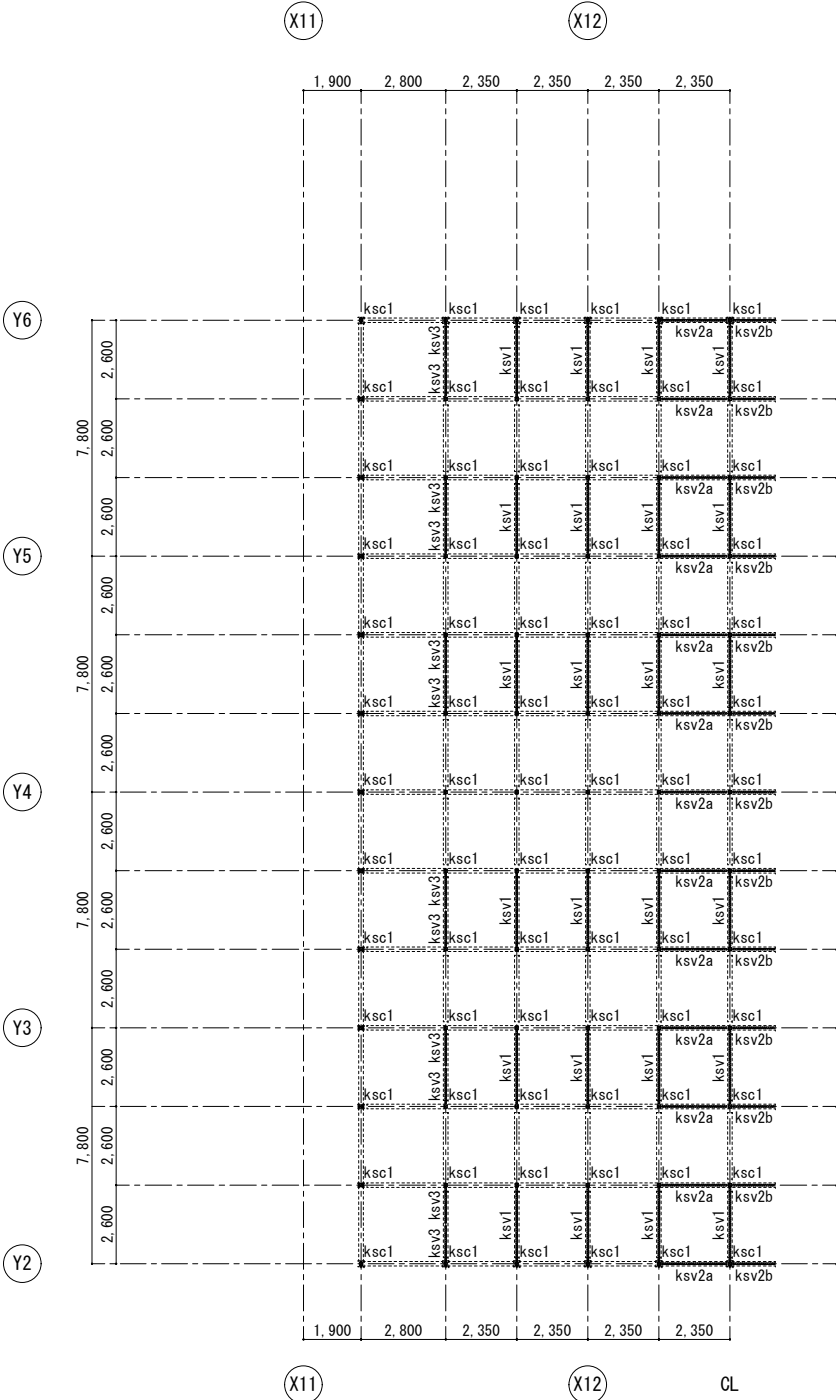
3. 所定の隅肉サイズが確保できない場合は、監督員との協議の上、必要溶接長さを割り増す。

符 号	SP11	ST11	RT1	RT2	RT3	RT4	ガセットプレートの種類					
部 材	H-150×150×7×10	H-150×150×7×10	Φ89.1×3.2	Φ101.6×4.0	Φ101.6×5.7	Φ139.8×4.5						
姿 図							T Y P E 1					
							T Y P E 2					
							T Y P E 3					
	ボルト	2—M20	3—M20	2—M20	2—M20	4—M20	4—M20					
	G. PL (長×B)	PL—16	PL—19	16×120	16×140	16×160	16×180					
必要 溶接長 l (mm)	TYPE 1	—	—	—	—	—						
	TYPE 2	150	220	160	210	270						
	TYPE 3	—	—	—	—	—						
備 考			S. PL : 2×PL-12	S. PL : 2×PL-12	S. PL : 2×PL-12	S. PL : 2×PL-12	αt	9	12	19	22	25
							S	7	9	11	13	15

木部材接合部リスト

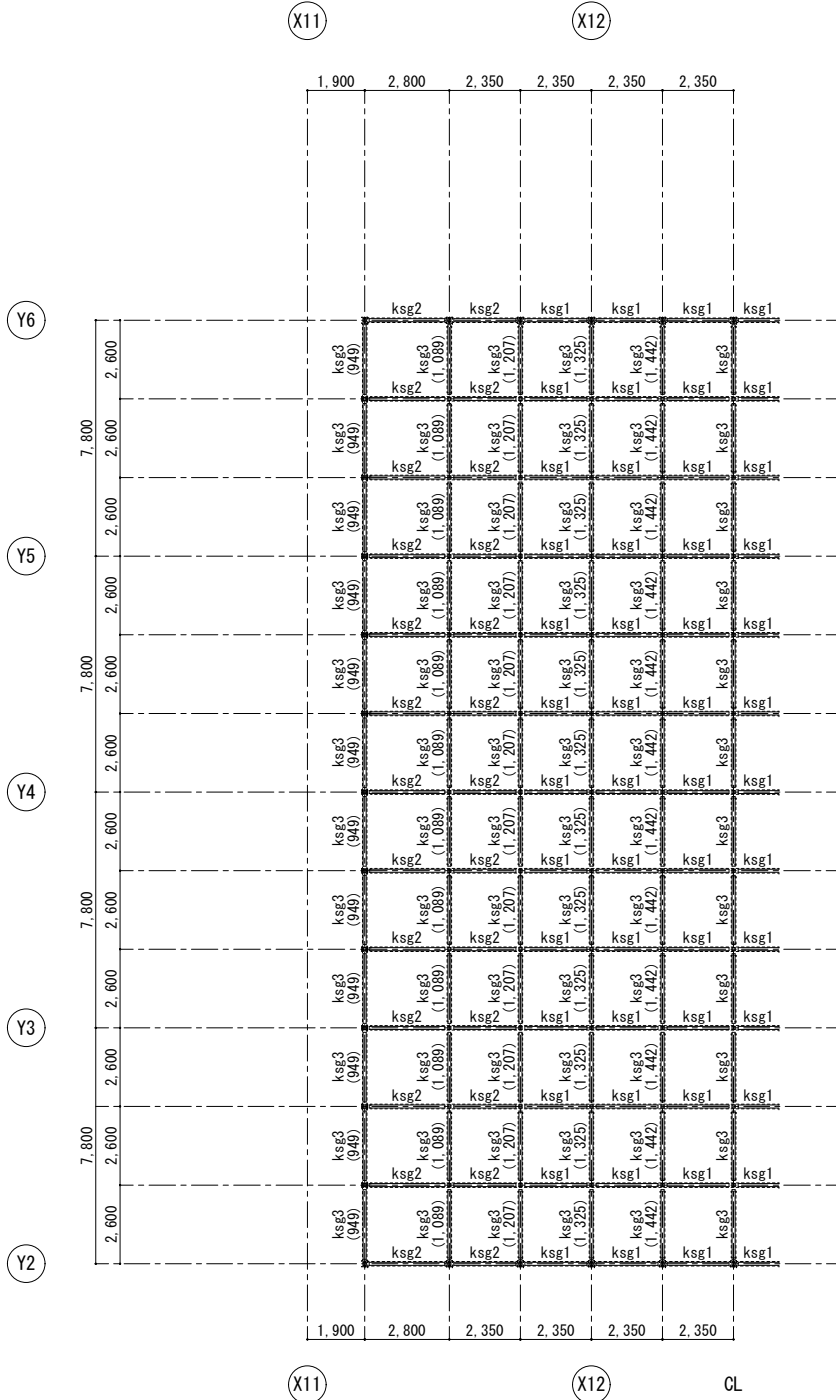
ラチス部材がWV2の場合





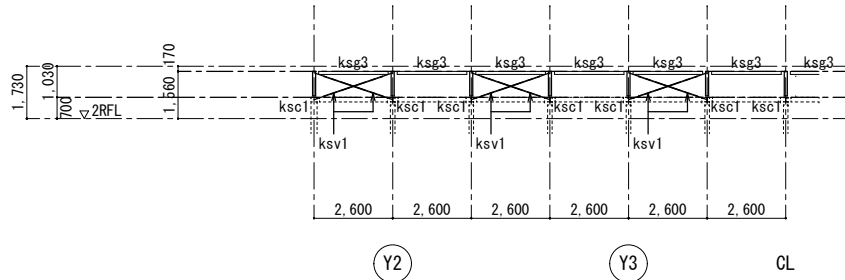
大アリーナ屋根 小屋組伏図 (1)

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 2RFL=設計GL+11,150 とする。
 3. 梁天端=2RFL+700 とする。特記は 2RFL(±*,***) で示す。
 4. 部材配置はCLを中心に左右対称とする。

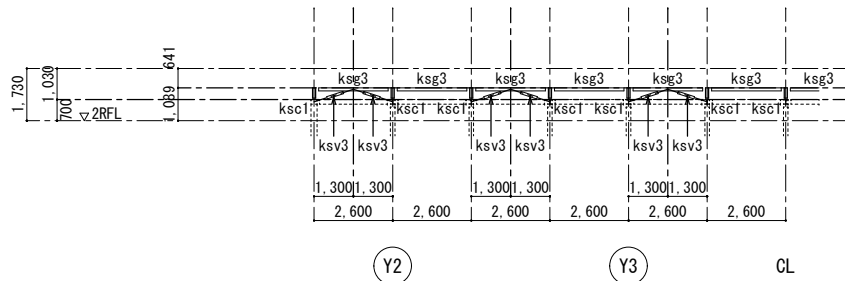


大アリーナ屋根 小屋組伏図 (2)

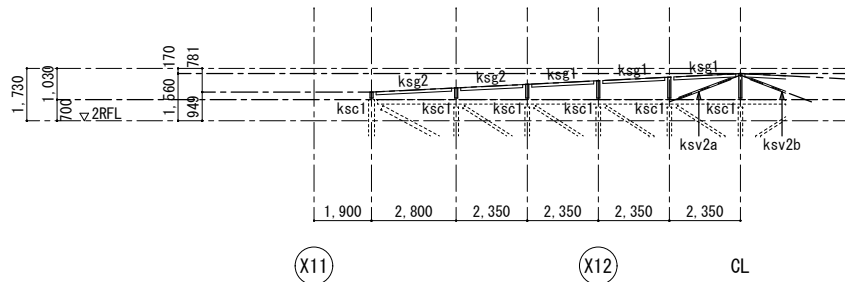
- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 2RFL=設計GL+11,150 とする。
 3. 梁天端=2RFL+1,560 とする。特記は 2RFL(±*,***) で示す。
 4. 部材配置はCLを中心に左右対称とする。



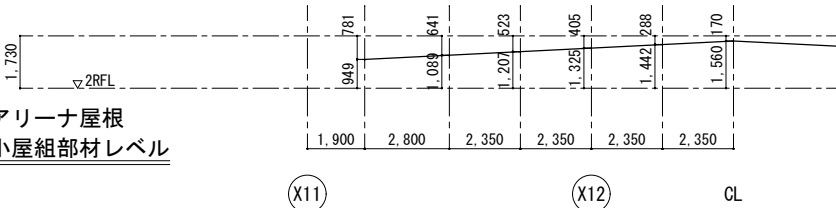
(a) X12+4700通り軸組図
(各部材配置はX11+7,050通り、X12通り、X12+2,350通りも同様とする)



(b) X11+4700通り軸組図



(c) Y2通り軸組図
(各部材配置はY2+2,600通り、Y2+5,200通り、Y3通り、Y3+2,600通り、Y3+5,200通り、Y4通り、Y4+2,600通り、Y4+5,200通り、Y5通り、Y5+2,600通り、Y5+5,200通り、Y6通りも同様とする)



大アリーナ屋根
小屋組部材レベル

大アリーナ屋根 小屋組伏図 (2)

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 2RFL=設計GL+11,150 とする。
 3. 部材配置はCLを中心に左右対称とする。

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材質：SN400B
2. 取付くプレート等は母材と同材とする。

小屋組 鉄骨部材リスト

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
ksc1	全断面	□-100×100×2.3	STKR400	－	kj1	
ksg1	全断面	□-100×100×2.3	STKR400	－	kj2	
ksg2	全断面	□-100×100×3.2	STKR400	－	kj2	
ksg3	全断面	2C-100×50×20×2.3	SSC400	－	kj3	リップみぞ形鋼 2丁合わせ

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄骨材種：SS400
2. 取り付くP L等は母材と同等とする。

小屋組 鉄骨ブレースリスト

符 号	階	断 面	材質	継 手	備 考
鉛直ブレース					
ksv1	小屋組	M22 (JISブレース)		kvj1	X型, ターンバックル付
ksv2a	小屋組	L-65×65×6		kvj2	／型
ksv2b	小屋組	L-65×65×6		kvj2	＼型
ksv3	小屋組	L-65×65×6		kvj2	方杖形式

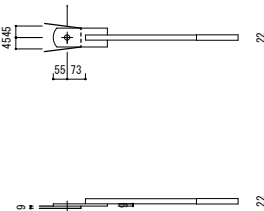
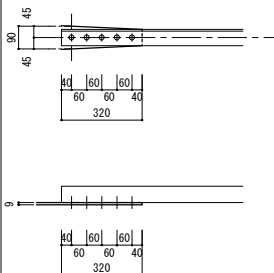
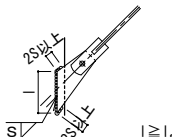
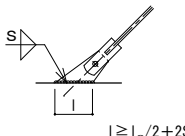
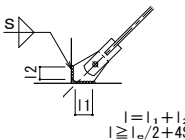
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 取付くプレート等は母材と同材とする。
2. ボルト：H.T.B S10T
3. 肌腱が生じる場合にはフィラープレートにより調節する。
H形鋼の片側に取り付く場合は、反対側にガセットプレートと同厚のリブプレート进行ける。

鉄骨梁継手リスト(ピン接合)

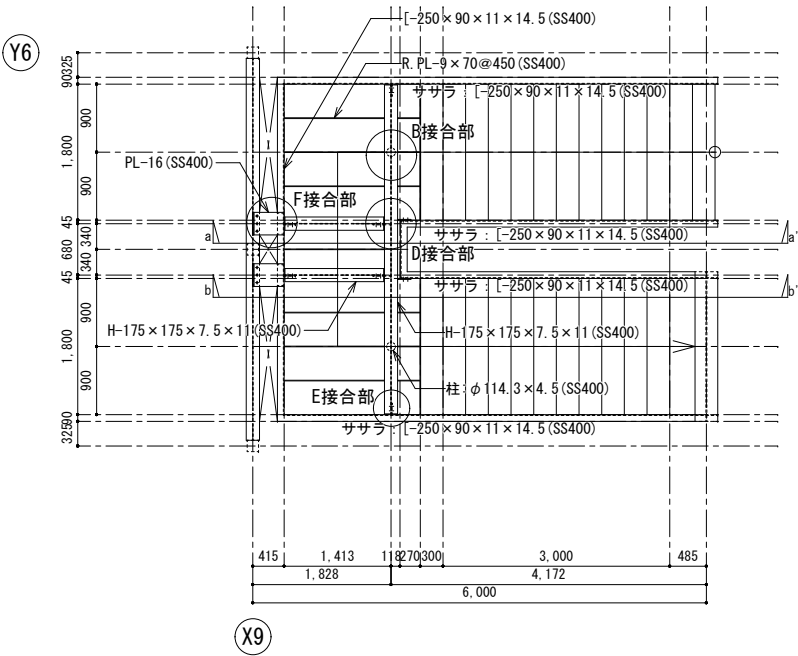
符 号	kj1		kj2		kj3	
部 材	□-100×100×2.3		□-100×100×2.3、□-100×100×3.2		2C-100×50×20×2.3	
姿 図						
材 質	SN400B		SN400B		SN400B	
継手	PL	PL－9	PL－9		PL－9	
	ボルト	2－M16	2－M16		2－M16	
備 考						

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 取り付くプレート等はSS400とする。
2. ボルト H.T.B S10T
3. 所定の隅肉サイズが確保できない場合は、監督員との協議の上、必要溶接長さを割り増す。

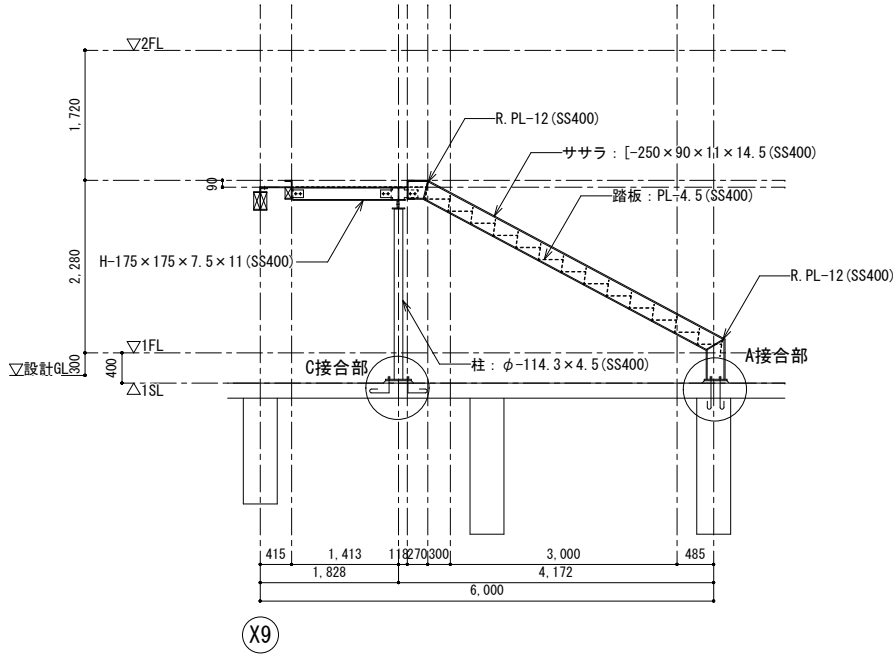
ブレース継手リスト

符 号	kvj1	kvj2	ガセットプレートの種類						
部 材	1-M22	L-65×65×6							
姿 図			T Y P E 1						
				T Y P E 2					
					T Y P E 3				
	ボルト	1-M22	5-M16						
G. PL (×t×B)	9×90	9×90							
必要 溶接長 l (mm)	TYPE 1	100	170						
	TYPE 2	65	101						
	TYPE 3	80	117						
備 考			μt	9	12	19	22	25	
			S	7	9	11	13	15	

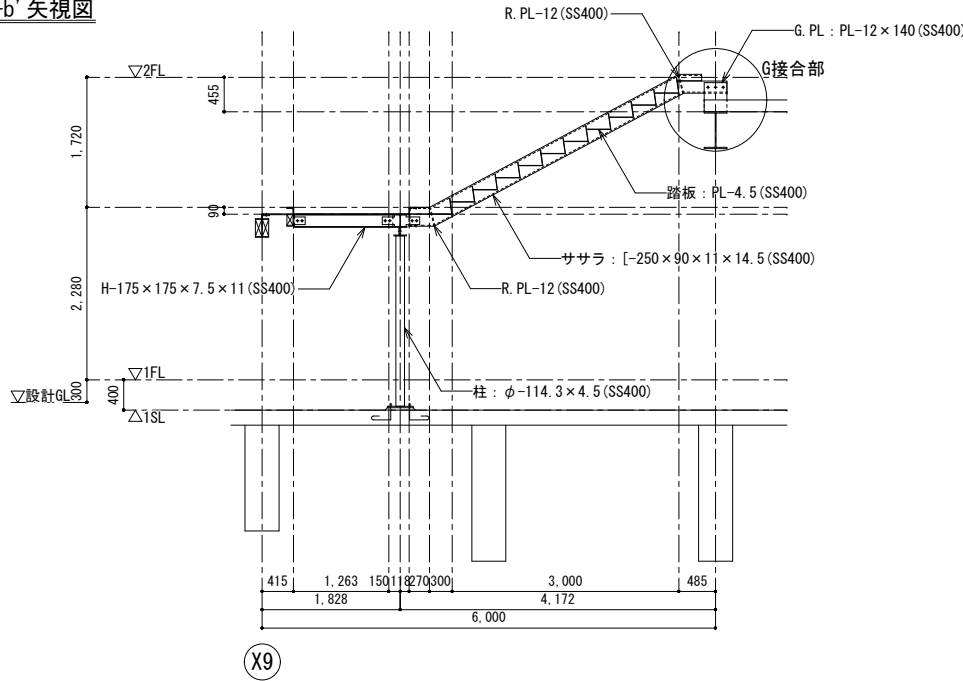
鉄骨階段1 1階～2階 (A1:1/50, A3:1/100)



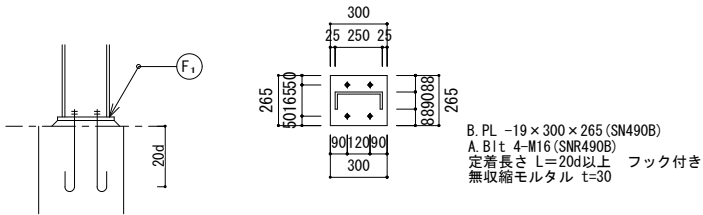
a-a' 矢視図



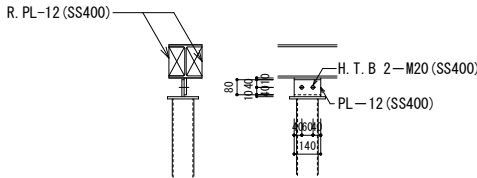
b-b' 矢視図



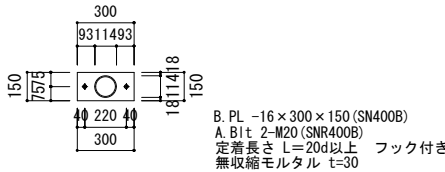
A部詳細図 1/20 (A1), 1/40 (A3)



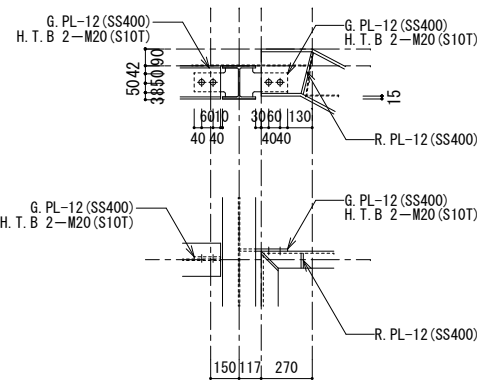
B部詳細図 1/20 (A1), 1/40 (A3)



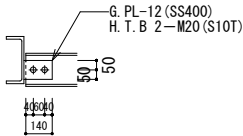
C部詳細図 1/20 (A1), 1/40 (A3)



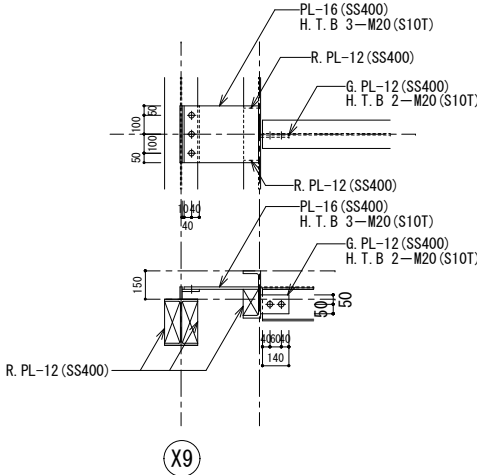
D部詳細図 1/20 (A1), 1/40 (A3)



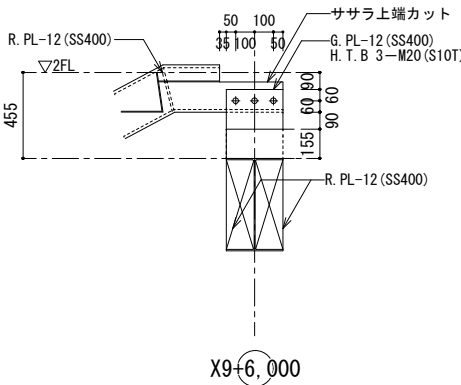
E部詳細図 1/20 (A1), 1/40 (A3)



F部詳細図 1/20 (A1), 1/40 (A3)



G部詳細図 1/20 (A1), 1/40 (A3)



Structural drawing of a steel frame section (Y9-X9) showing dimensions and member specifications.

Dimensions:

- Overall width: 6,000
- Overall height: 4,863
- Horizontal dimensions (from left): 400, 1,350, 675, 1,350, 675, 400
- Vertical dimensions (from bottom): 400, 1,350, 675, 1,350, 675, 400

Members and Specifications:

- Columns: 柱 : $\phi - 139.8 \times 6$ (SS400)
- Beams: H-300 $\times$ 300 $\times$ 10 $\times$ 15 (SS400)
- Diagonal Bracing: H-250 $\times$ 250 $\times$ 9 $\times$ 14 (SS400)

Section Labels:

- Y9 (Left)
- X9 (Bottom)

Technical drawing showing a cross-section of a roof structure. The roof is supported by a wall. The roof slope is 12 degrees. The wall height is 400. The roof thickness is 200. The roof is labeled "R. PL-12 (SS400)". A force F_1 is applied at the peak. The drawing is labeled "X9+3.000".

A diagram of a beam of total length $40d$ supported at its center. A force F_1 is applied at a distance $20d$ from the center support. The beam is shown in cross-section with a central support and two end supports. The distance from the center support to each end support is $20d$. The force F_1 is applied at the right end support. The beam is shown in cross-section with a central support and two end supports. The distance from the center support to each end support is $20d$. The force F_1 is applied at the right end support.

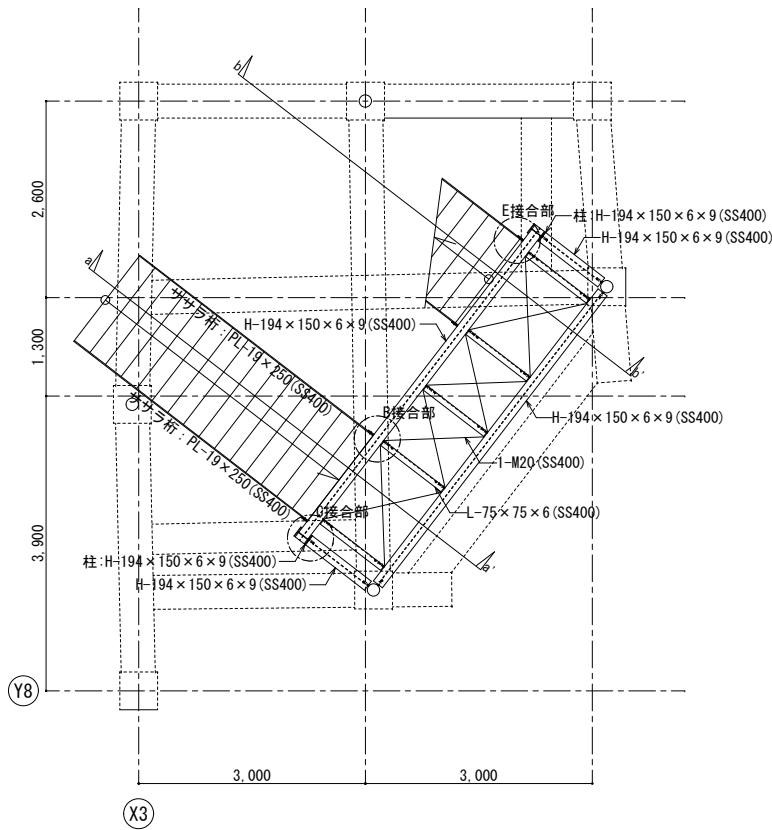
Technical drawing of a rectangular mold. The overall dimensions are 400 (width) x 350 (height). The width is divided into three sections: 50, 300, and 50. The height is divided into three sections: 170, 10, and 170. The mold has four vertical pins, each with a diameter of 115. The distance between the pins is 170. The mold is labeled B. PL-19 x 400 x 350 (SN400B). The material is A. B1t 4-M20 (SNR400B). The mold is equipped with a fixed length L=20d or more and a fixed length t=30. The mold is equipped with a fixed length L=20d or more and a fixed length t=30. The mold is equipped with a fixed length L=20d or more and a fixed length t=30.

250
50 150 50
250
50 150 50
55.1 139.8 55.1
55.1 139.8 55.1

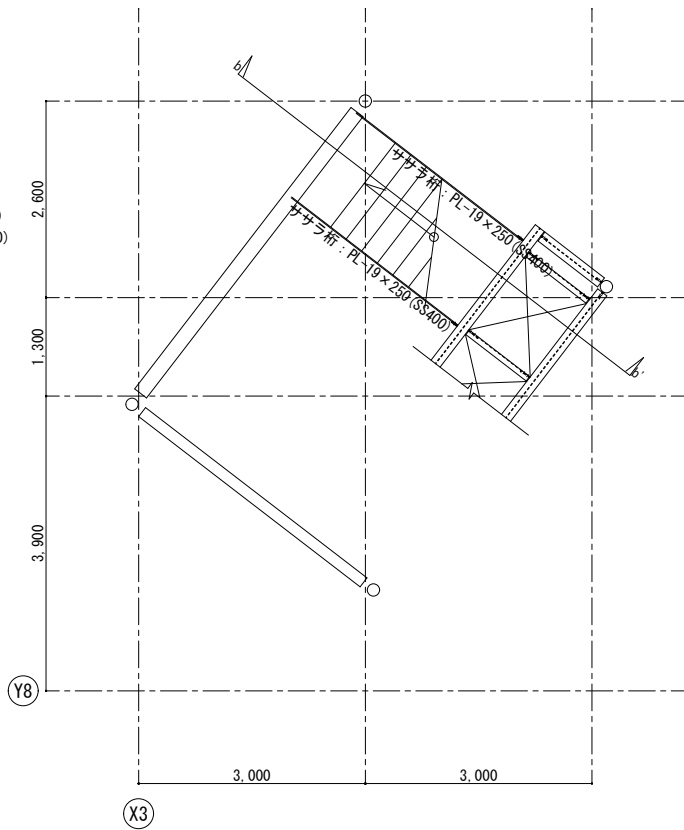
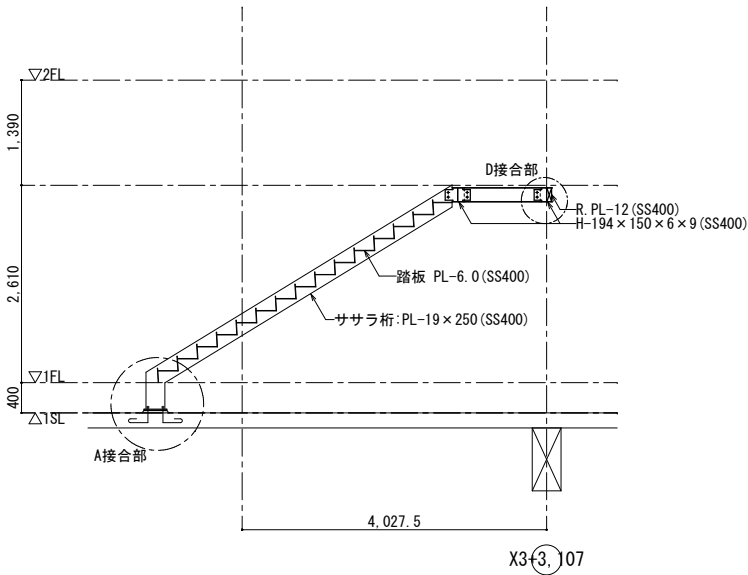
B. PL-12 $\times$ 250 $\times$ 250 (SN400B)
H. T. B: 4-M16 (S10T)

合部詳細図 (A1:1/10, A3:1/20)

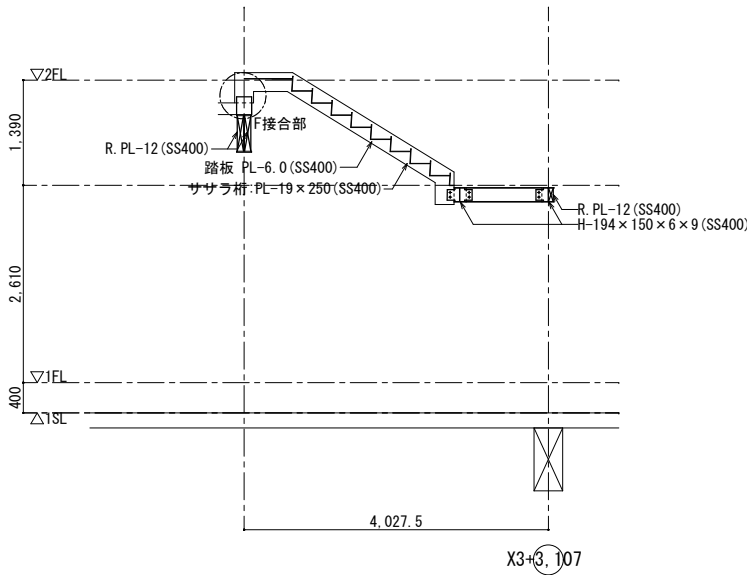
鉄骨階段3 1階～2階 (A1:1/50, A3:1/100)



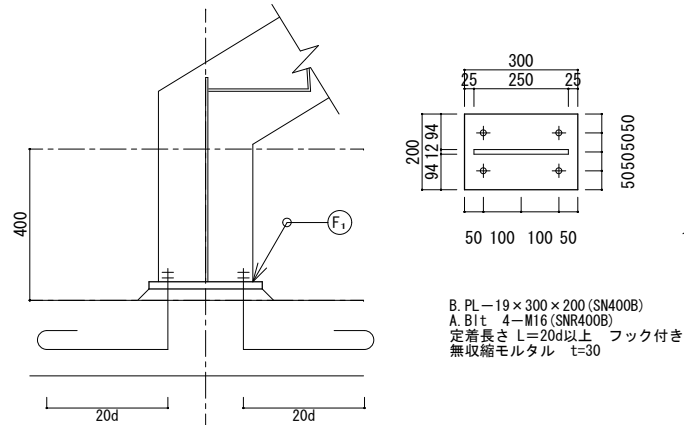
a-a' 矢視図



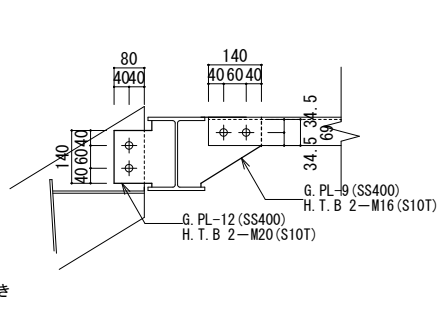
b-b' 矢視図



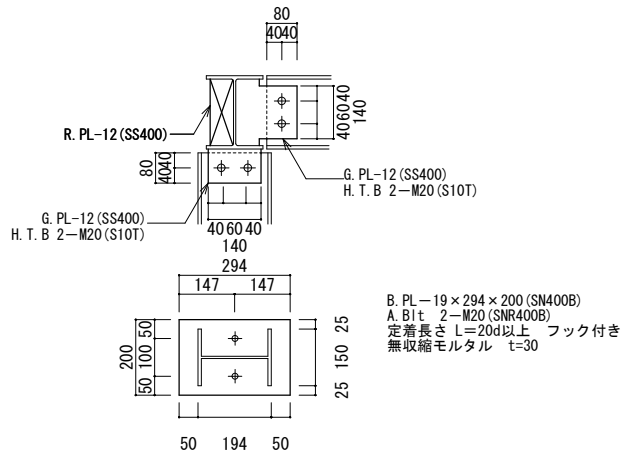
A 接合部詳細図 (A1:1/10, A3:1/20)



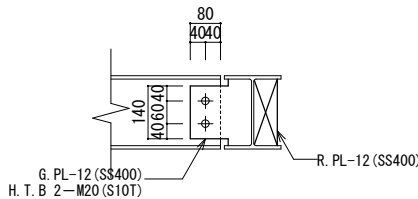
B 接合部詳細図 (A1:1/10, A3:1/20)



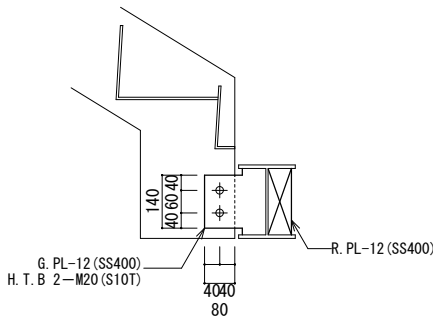
C 接合部詳細図 (A1:1/10, A3:1/20)



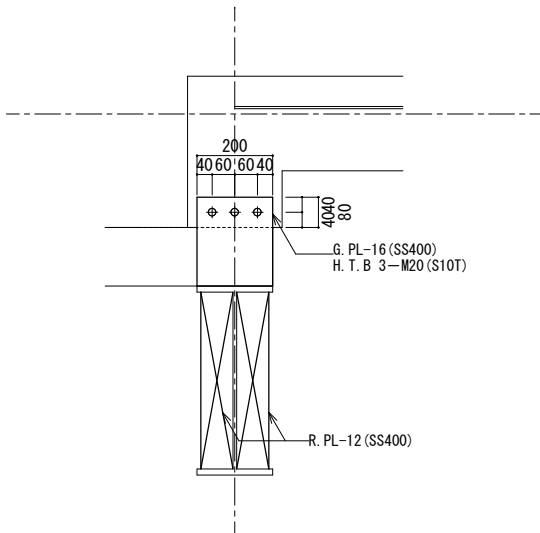
D 接合部詳細図 (A1:1/10, A3:1/20)



E 接合部詳細図 (A1:1/10, A3:1/20)



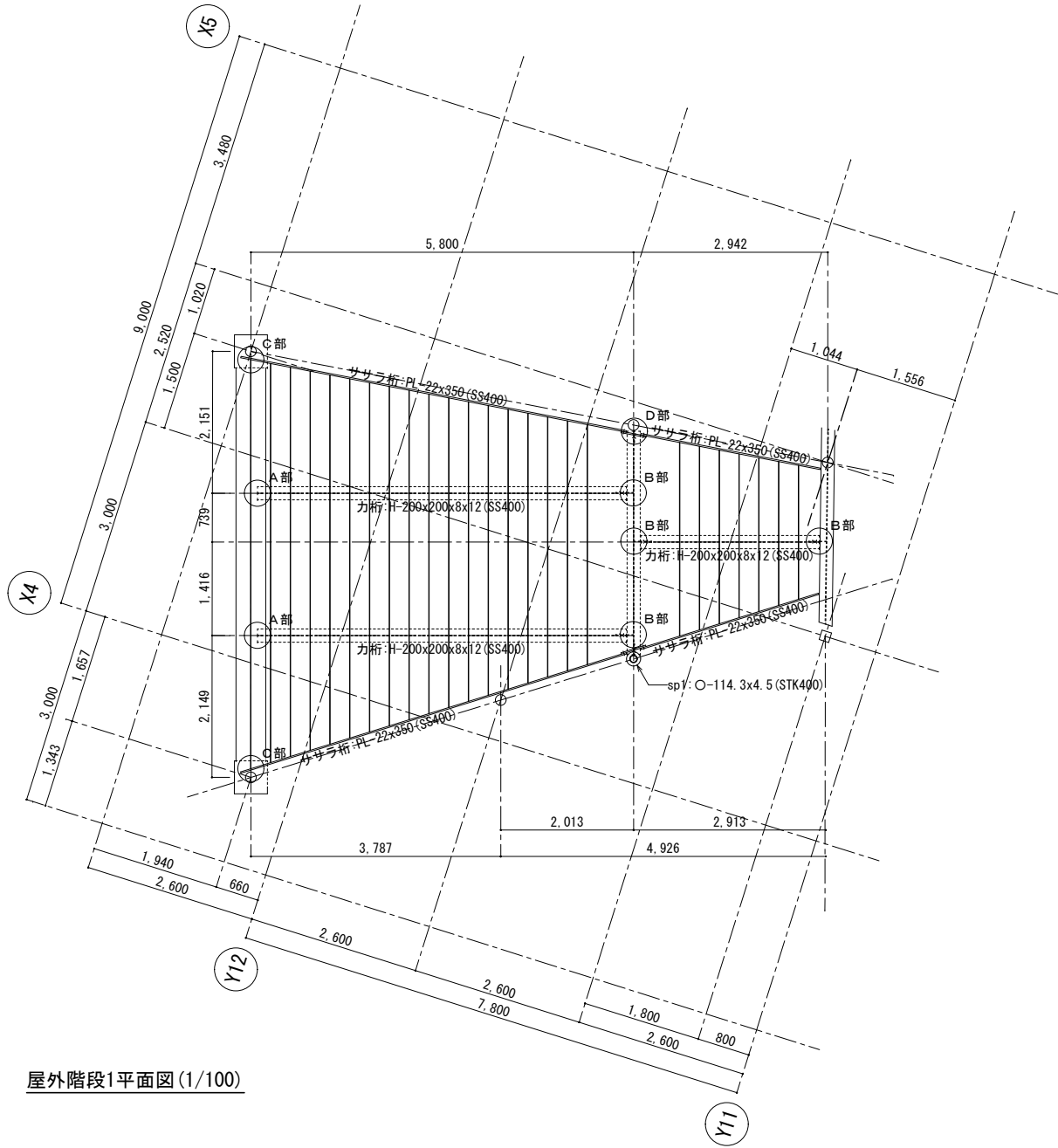
F 接合部詳細図 (A1:1/10, A3:1/20)



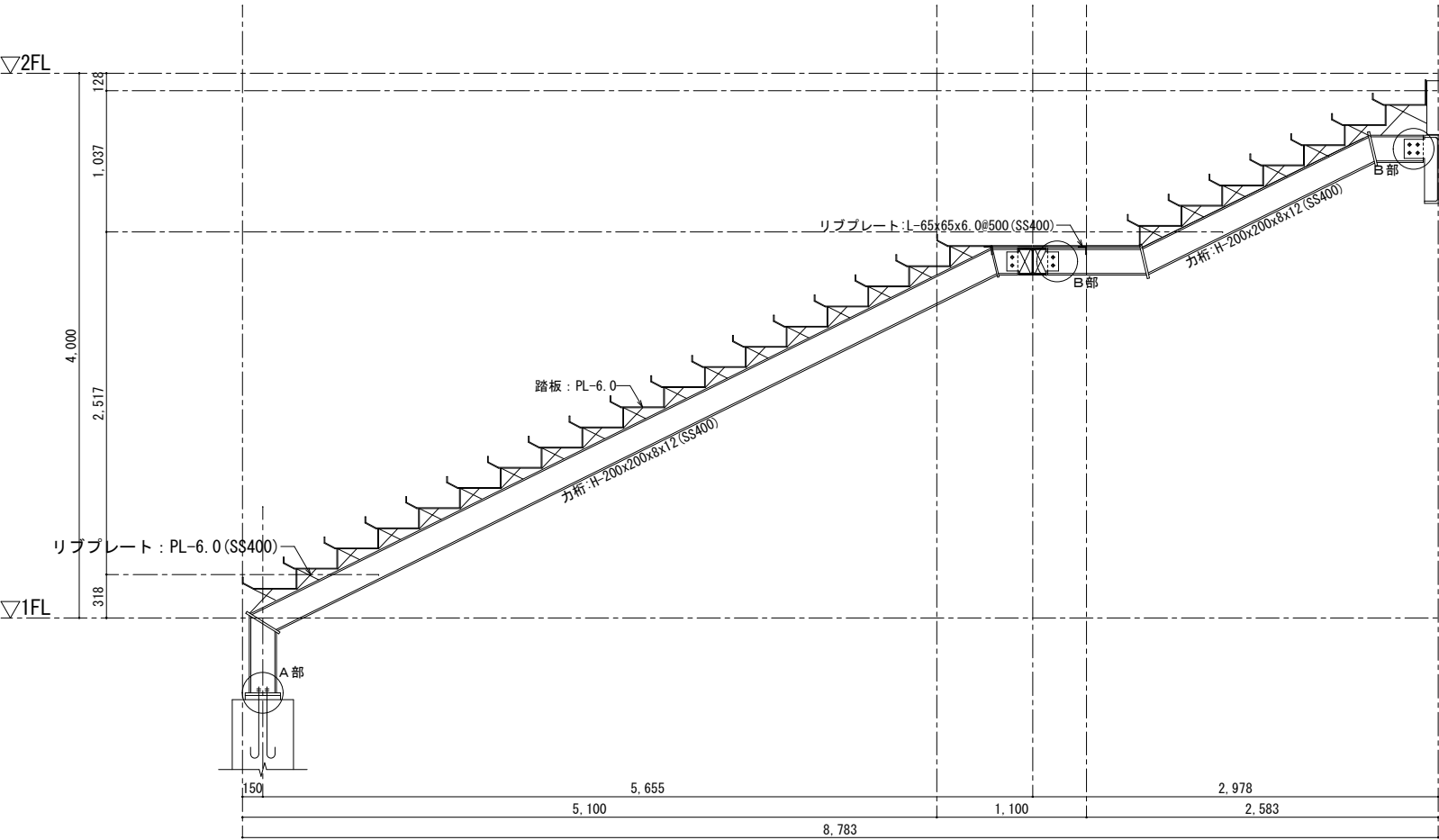
屋外階段1 鉄骨階段詳細図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 材質：鉄骨部材 SS400
ボルト H.T.B F8T

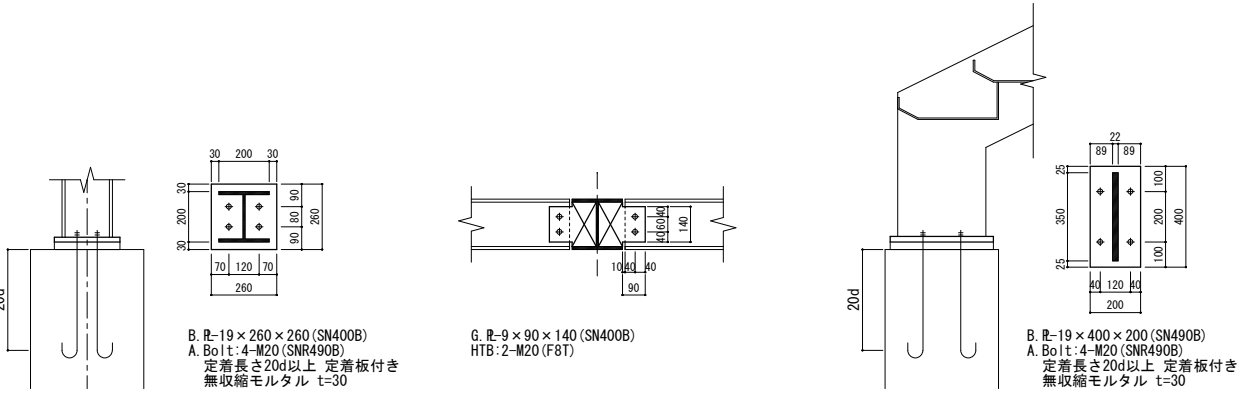
2. 取付くPL等は母材と同材とする。



屋外階段1平面図 (1/100)



A-A'断面図 (1/50)

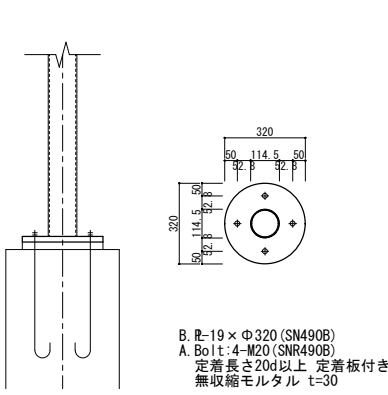


A部接合詳細図 (1/30)

B部接合詳細図 (1/30)

C部接合詳細図 (1/30)

D部接合詳細図 (1/30)

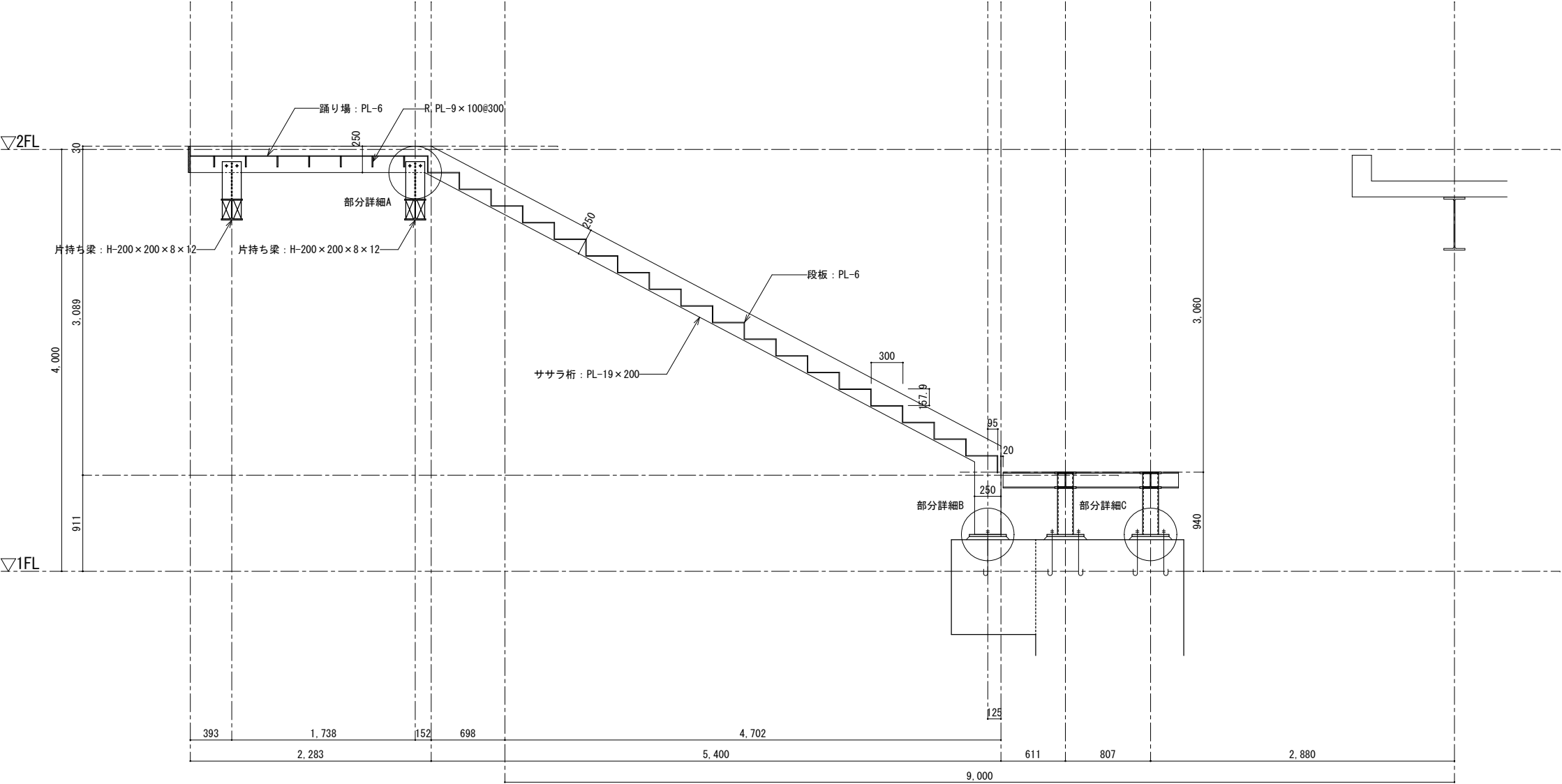


鉄骨柱sp1柱脚詳細図 (1/30)

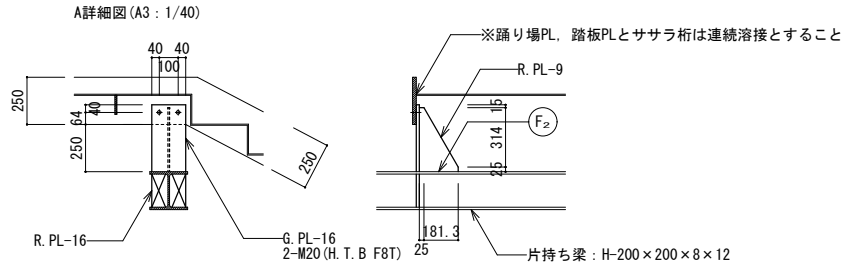
屋外階段3 鉄骨階段詳細図(1)

【注記事項】特記なき限り以下による。

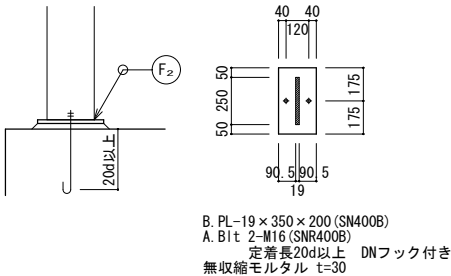
1. 材質：鉄骨部材 SS400
ボルト H.T.B F8T
2. 取付くPL等は母材と同材とする。



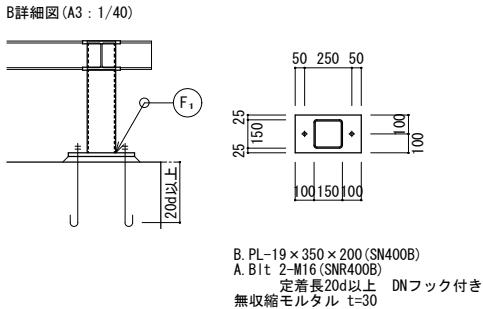
X6



B詳細図 (A3 : 1/40)



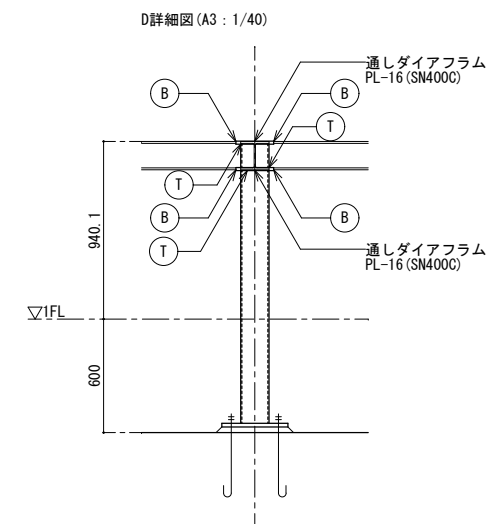
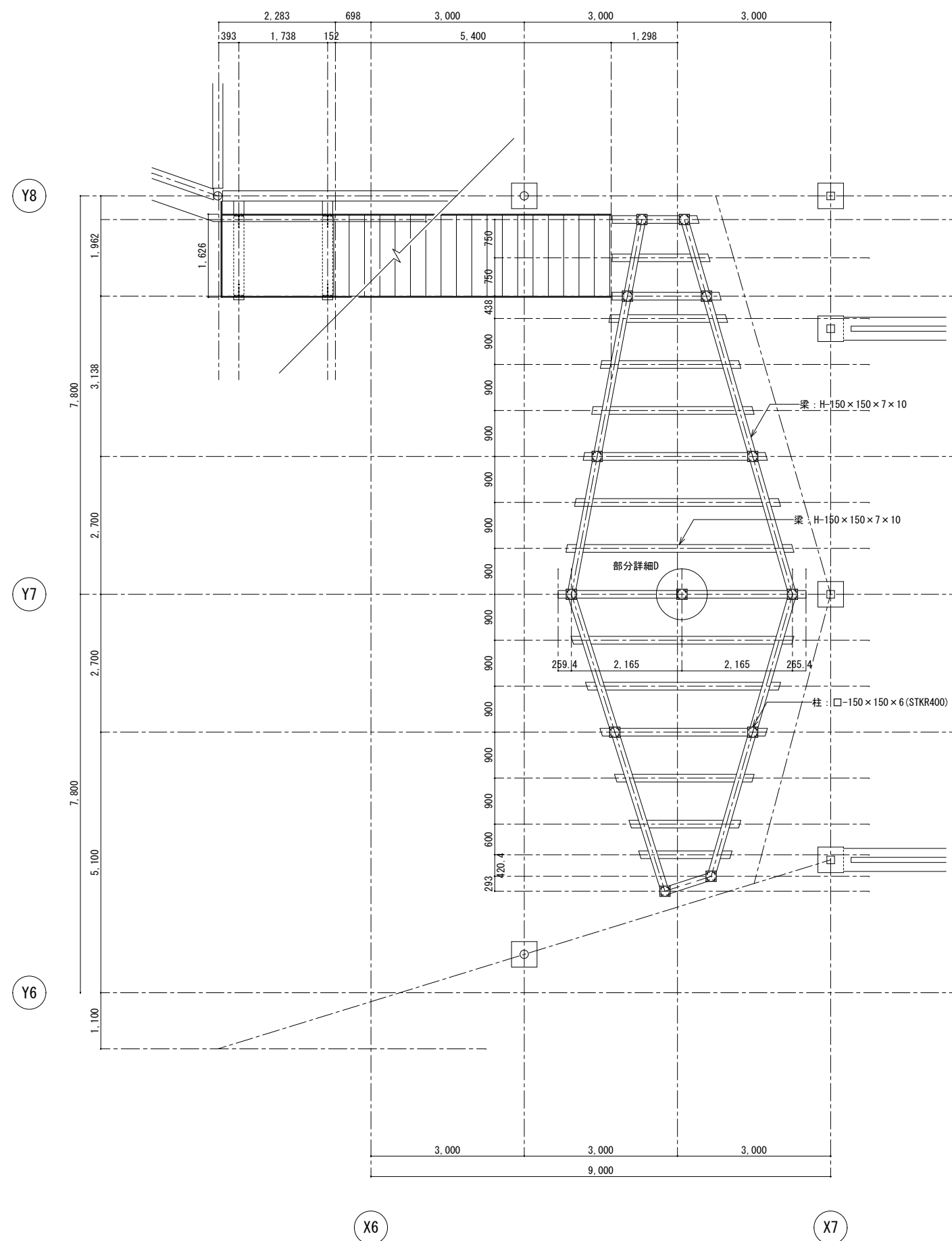
X7



屋外階段3 鉄骨階段詳細図(2)

【注記事項】特記なき限り以下による。

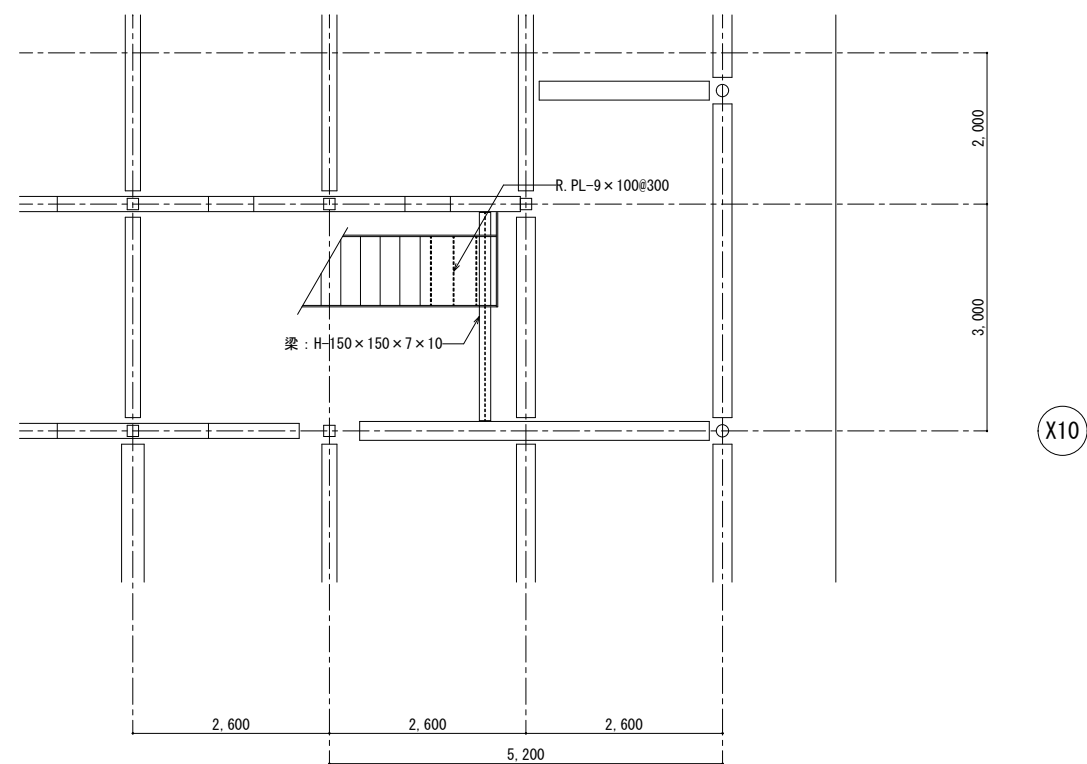
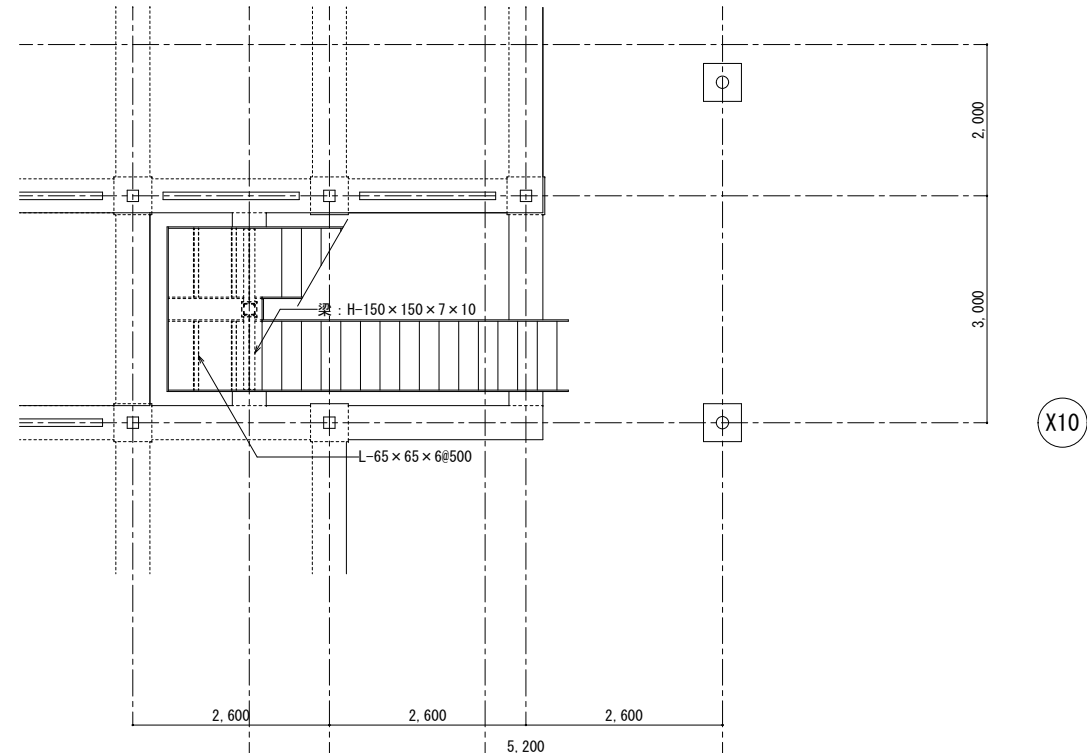
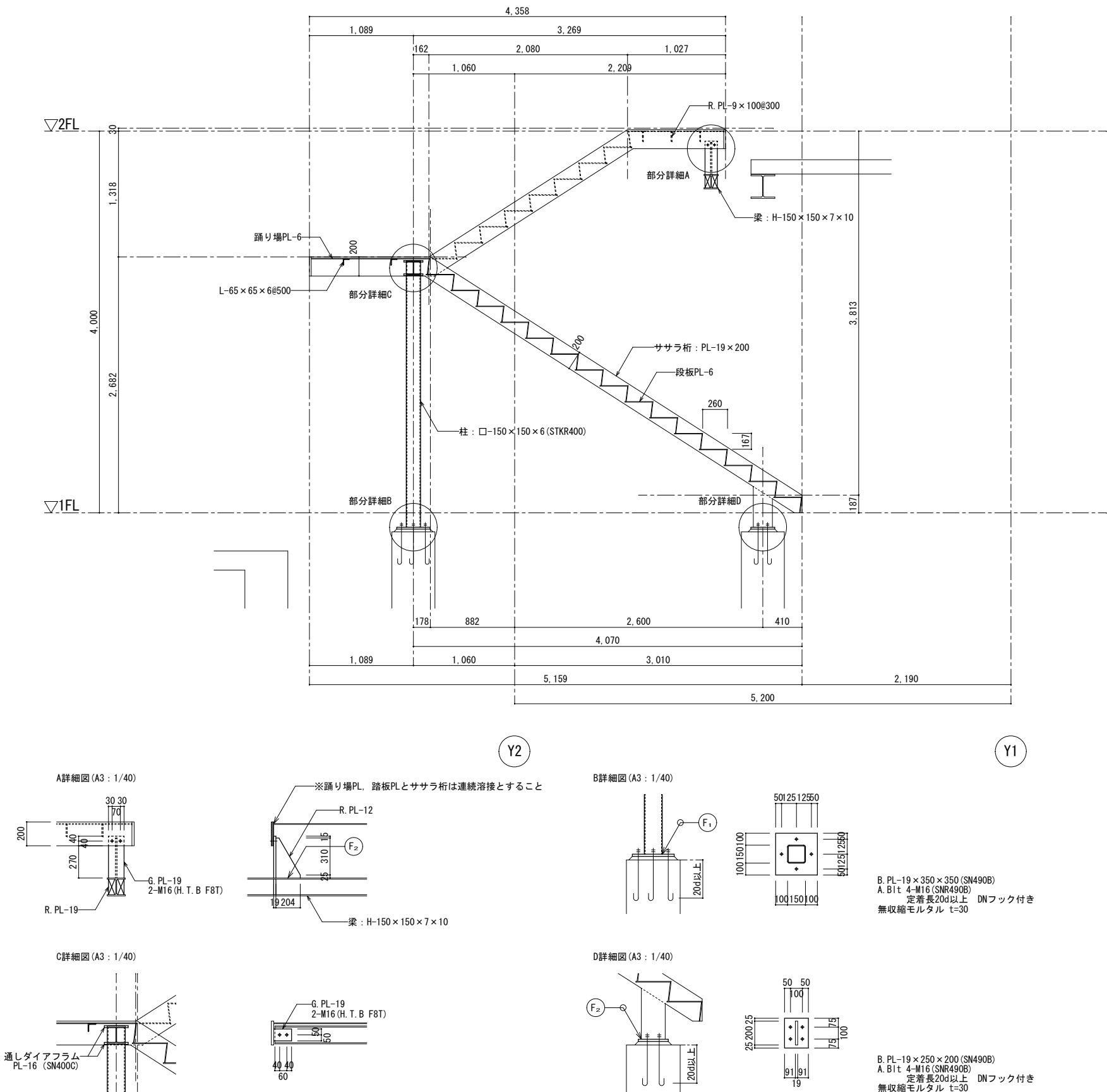
1. 材質：鉄骨部材 SS400
ボルト H.T.B F8T



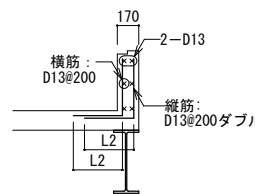
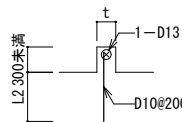
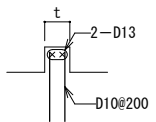
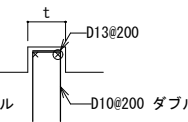
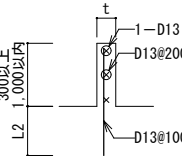
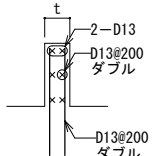
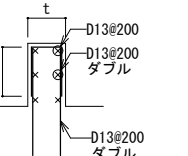
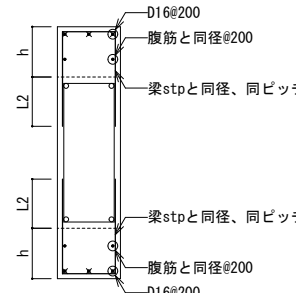
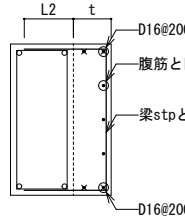
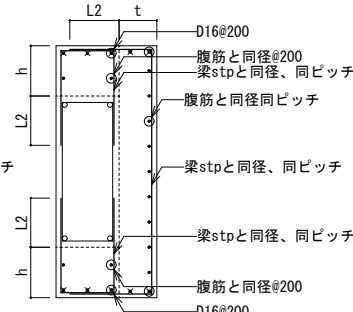
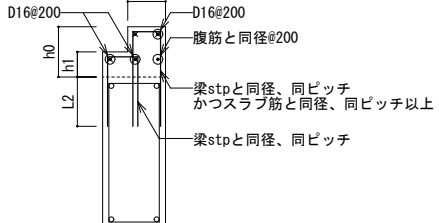
屋外階段4 鉄骨階段詳細図

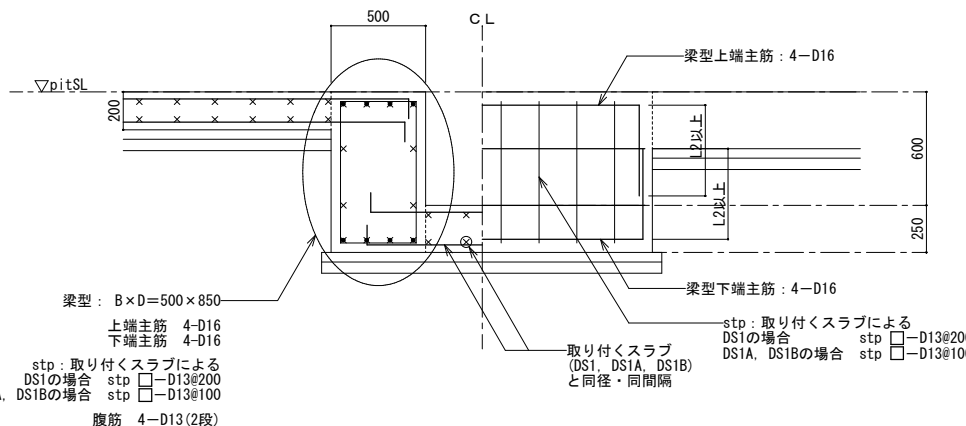
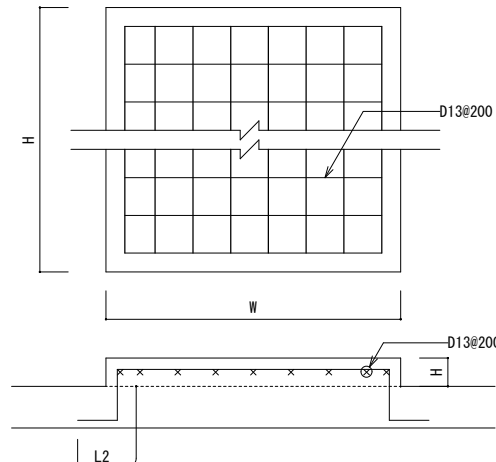
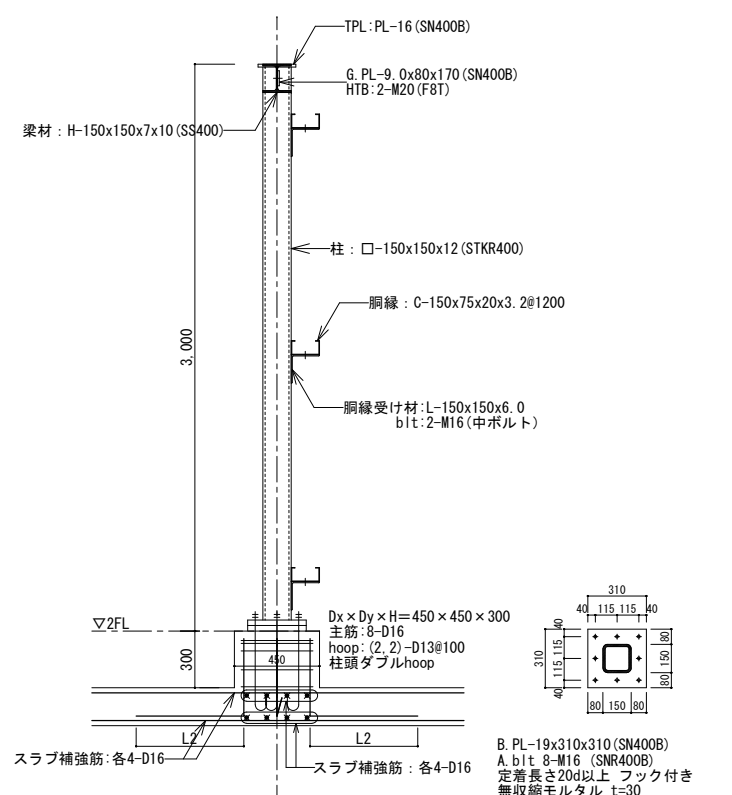
【注記事項】 特記なき限り以下による。

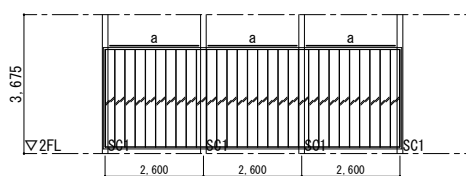
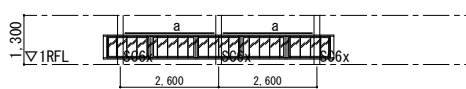
1. 材質：鉄骨部材 SS400
ボルト H.T.B F8T
2. 取付くPL等は母材と同材とする。



雑詳細図 (1)

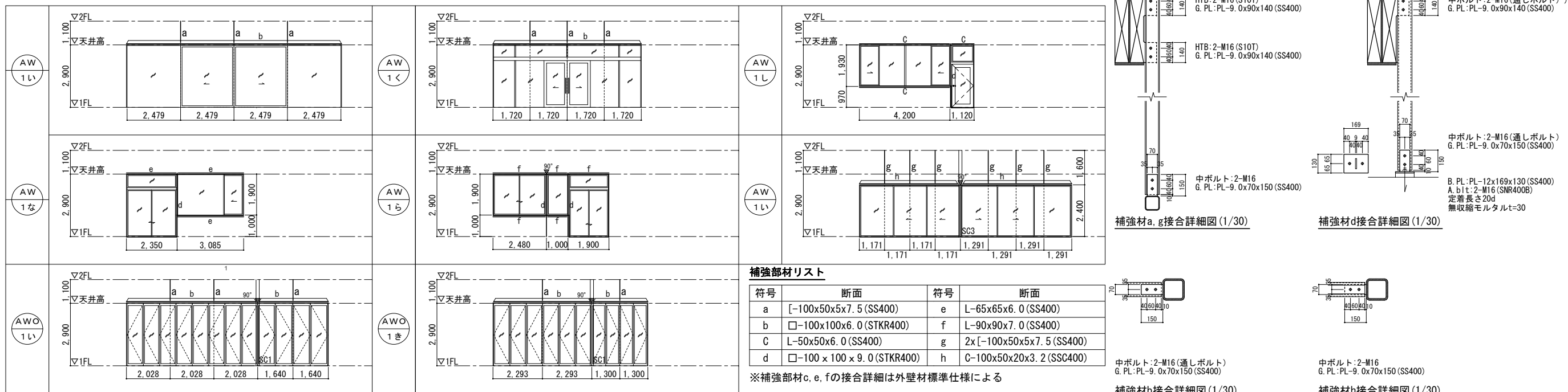
バラベツト配筋詳細図 *詳細な形状および配置は意匠図による。 	立上り詳細図 *詳細な形状および配置は意匠図による。 $t \leq 150$  $150 < t \leq 200$  $200 < t \leq 300$  $t < 150$  $150 \leq t \leq 200$  $200 < t \leq 300$ 	梁打増補強要領 梁上下打増の場合 *$h < 70$以下の場合は補強を要しない。  梁側打増の場合 *$t < 70$以下の場合は補強を要しない。  梁上下打増、梁側打増を併用する場合 *$h < 70$かつ$t < 70$以下の場合は補強を要しない。  梁上下打増に欠き込みのある場合 *$h_0 < 70$かつ$h_1 < 70$以下の場合は補強を要しない。 tが取付くスラブ厚の1.5倍を確保できない場合は、スラブハンチを設けること。 
--	--	--

釜場配筋詳細図 (A3 : 1/40) 	設備基礎詳細図 (1) (A3 : 1/40) ※べた基礎形式 ※設備基礎寸法、配置等は、意匠図による。 	屋外機械置場 目隠し壁下地鉄骨(1/60) 
---	---	--

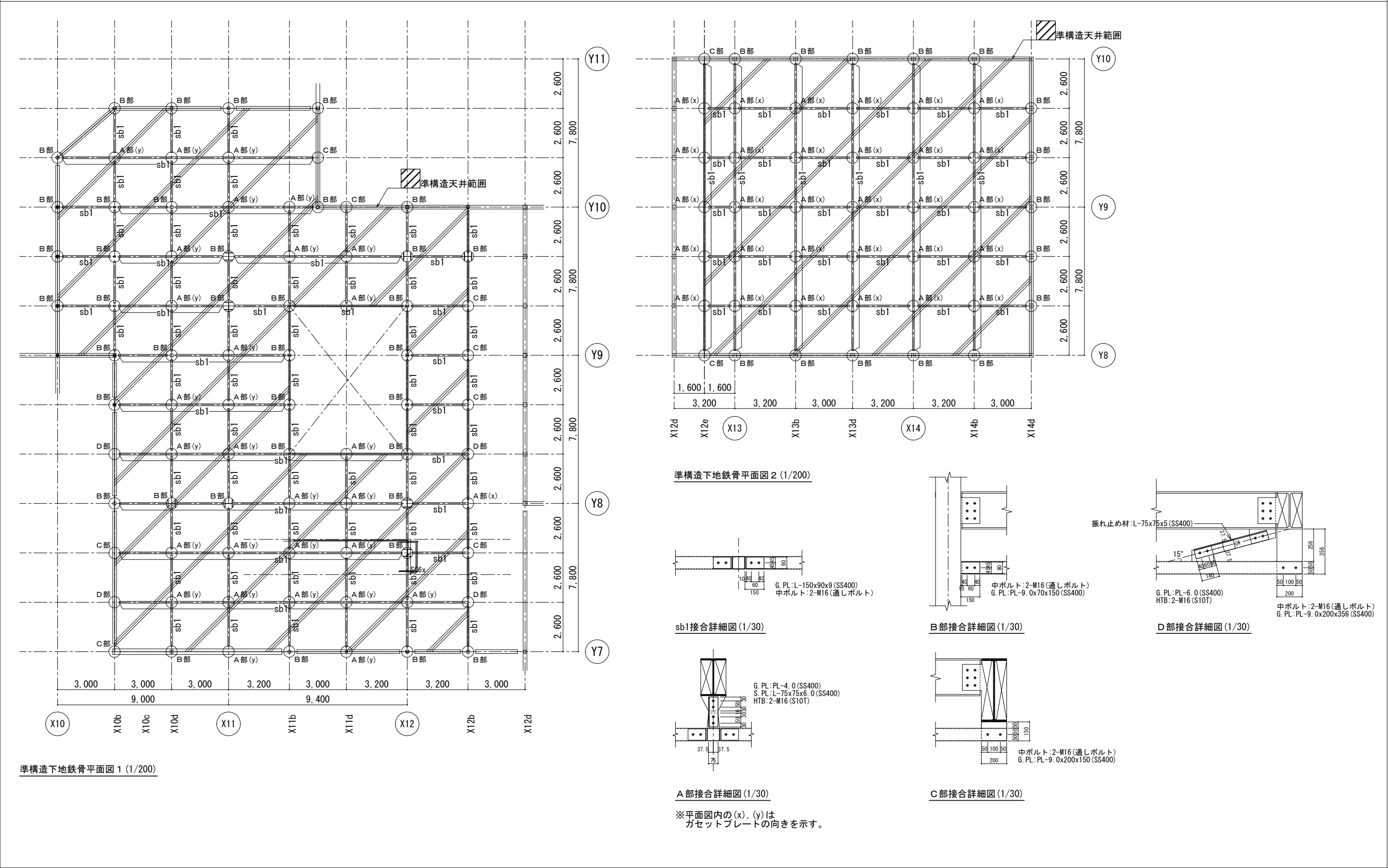
R階 建具開口補強リスト(1/200)									
SW 3あ		SW 3い							
SW 3う		SW 3え	補強部材リスト <table><tr><th>符号</th><th>断面</th></tr><tr><td>a</td><td>□-100x100x6.0 (STKR400)</td></tr><tr><td>b</td><td>□-150x150x9.0 (STKR400)</td></tr></table> 	符号	断面	a	□-100x100x6.0 (STKR400)	b	□-150x150x9.0 (STKR400)
符号	断面								
a	□-100x100x6.0 (STKR400)								
b	□-150x150x9.0 (STKR400)								

雜詳細図 (3)

1階 建具開口補強リスト(1/200)



準構造天井地下鉄骨図(1/200)



地盤改良伏図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - 改良体の仕様は以下による。
工法：エボコラムTaf工法(技審証第202005号) 同等工法
コラム径：φ1,600
支持層：泥岩層
支持力：625kN/m²
設計基準強度：F_c=1,500kN/m²
 - 施工前に六価クロム溶出試験を行う。

地盤改良、基礎下端レベル凡例

ゾーン	符 号	改良天端	改良下端	改良長	本数
⑤	aP1	設計GL-1,450	設計GL-8,100	6.65m	13本
	aP2	設計GL-2,420		5.68m	4本

基礎伏図

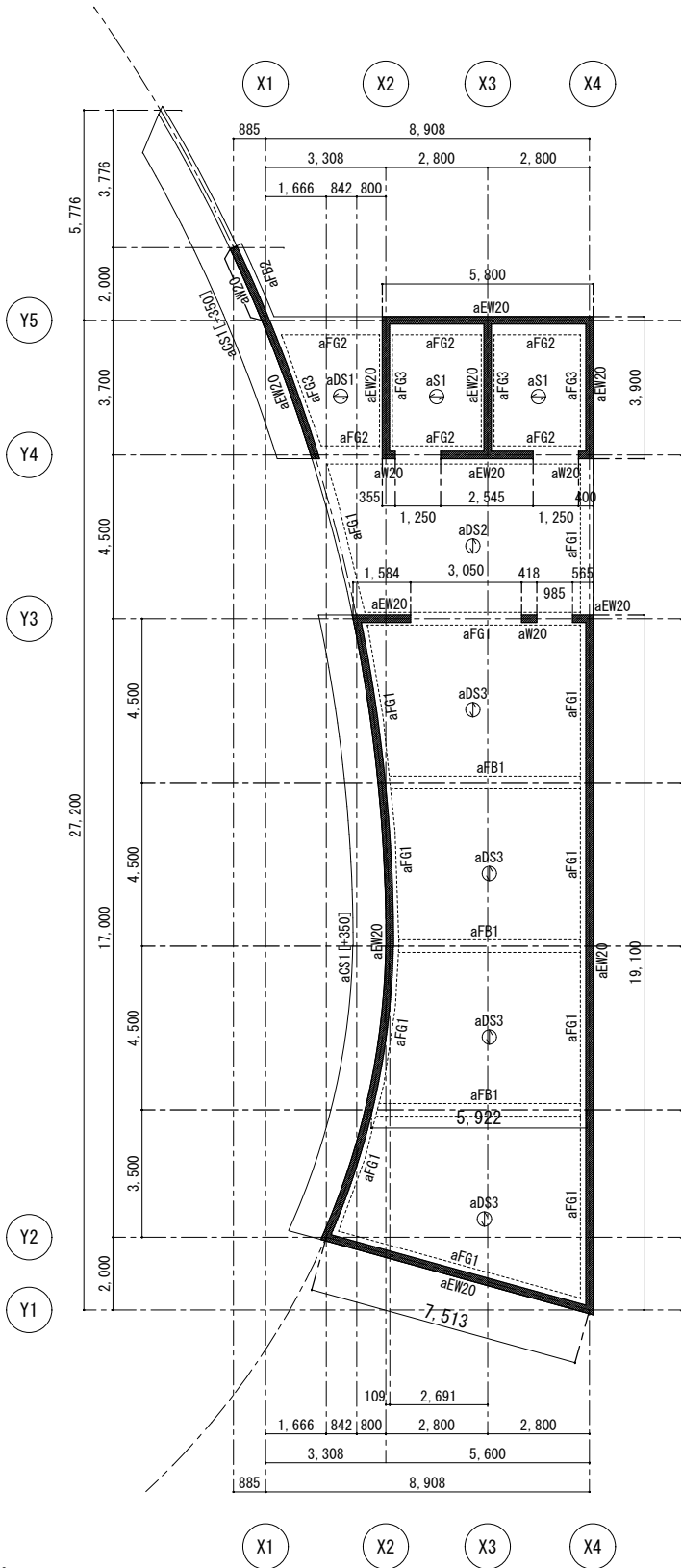
- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - 1FL=設計GL-50 とする。
 - ビットSL=1FL-1,870とする。特記は 1FL[±*,**] で示す。
 - 基礎下端レベルは以下による。
 - 基礎下端=1FL-1,350

▨

 基礎下端=1FL-2,320
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、⊖ で示す。

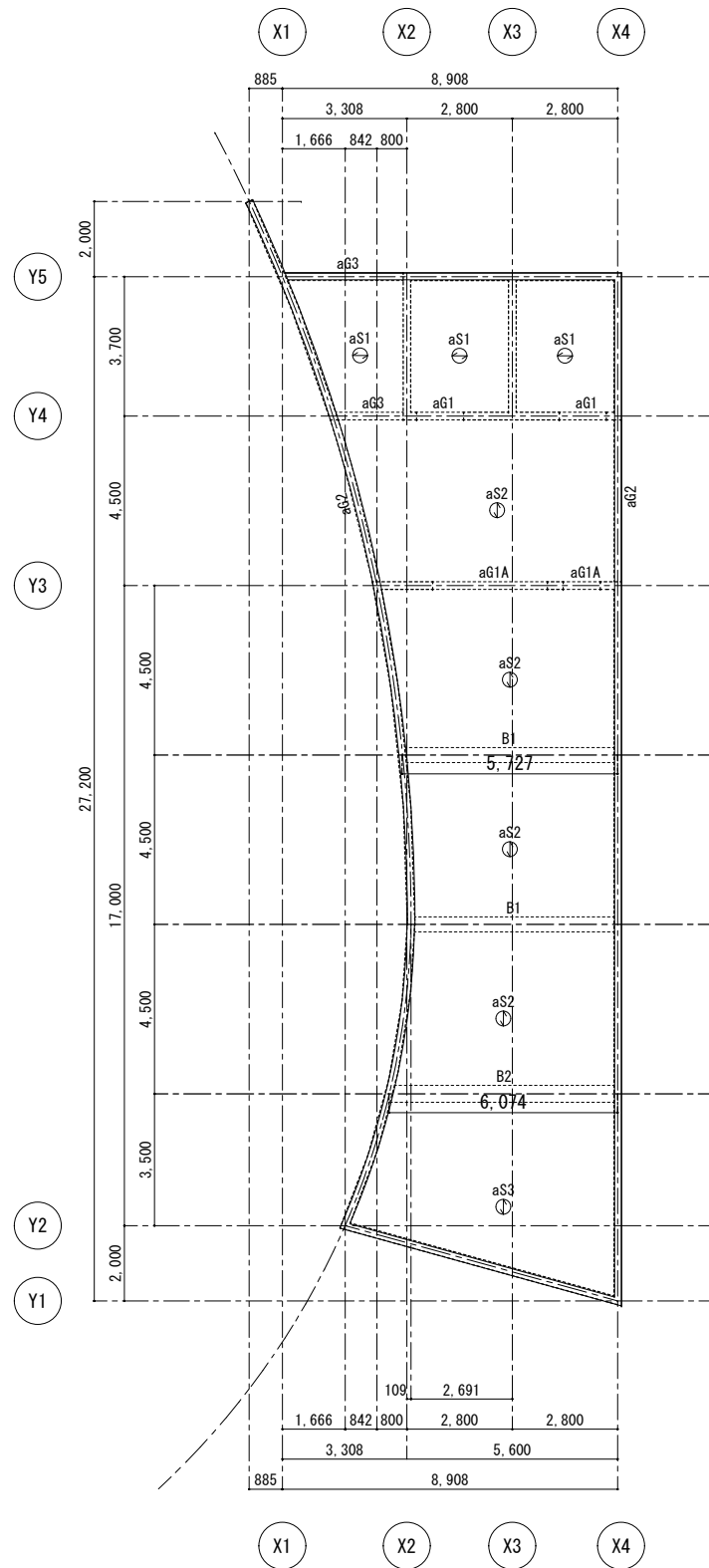
1 階伏図

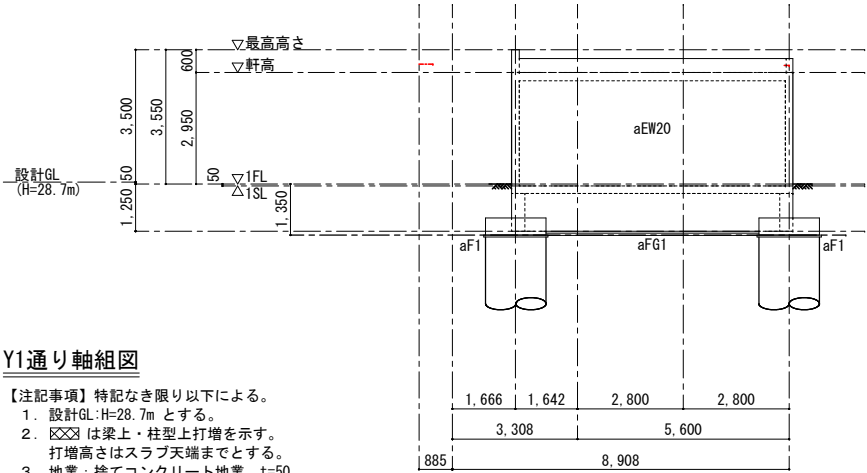
- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - 1FL=設計GL-50 とする。
 - 1SL=1FL-50とする。特記は 1FL[±*,***] で示す。
 - 基礎梁天端=1FL-250とする。特記は 1FL(±*,***) で示す。
 - ☒☒は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 梁の配筋方向はX方向を上配筋する。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、⊖ で示す。



屋根伏図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - 軒高=設計GL+2.900 とする。
最高高さは設計GL+3.500 とする。
 - RSL=軒高±0とする。特記は 軒高[±*,***] で示す。
 - 梁天端=軒高±0とする。特記は 軒高(±*,***) で示す。
 - ☒☒は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 梁の配筋方向はX方向を上配筋する。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、⊖ で示す。

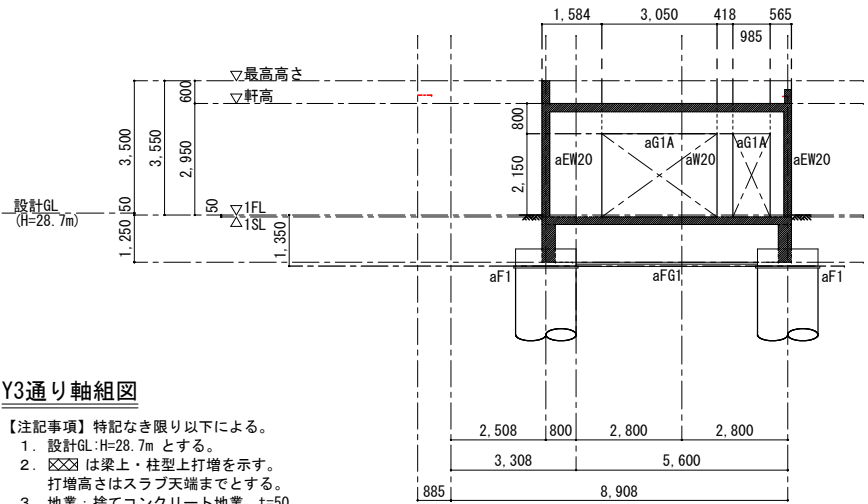




Y1通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中の枠線は梁上・柱型上打増を示す。打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50 砂利地業 t=60

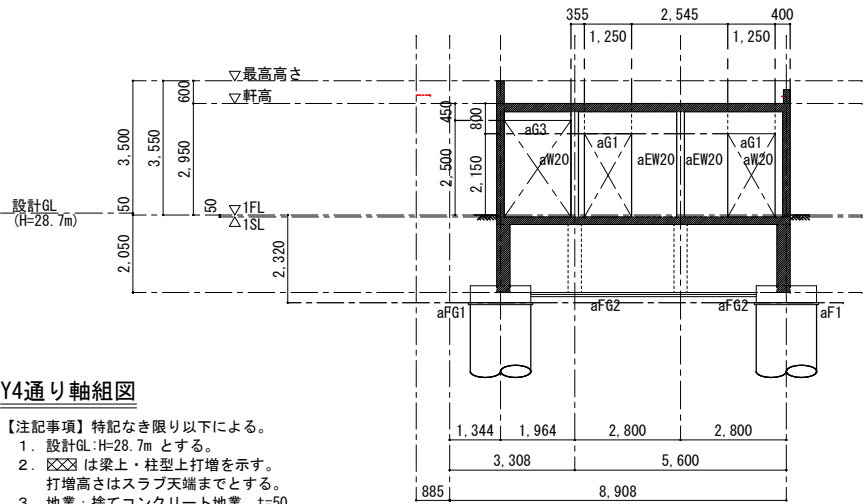
X1 X2 X3 X4



Y3通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中の枠線は梁上・柱型上打増を示す。打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50 砂利地業 t=60

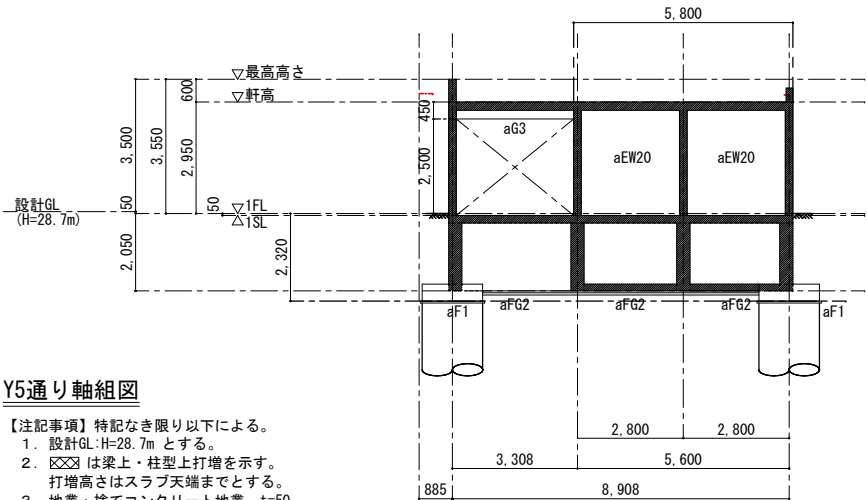
X1 X2 X3 X4



Y4通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中の枠線は梁上・柱型上打増を示す。打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50 砂利地業 t=60

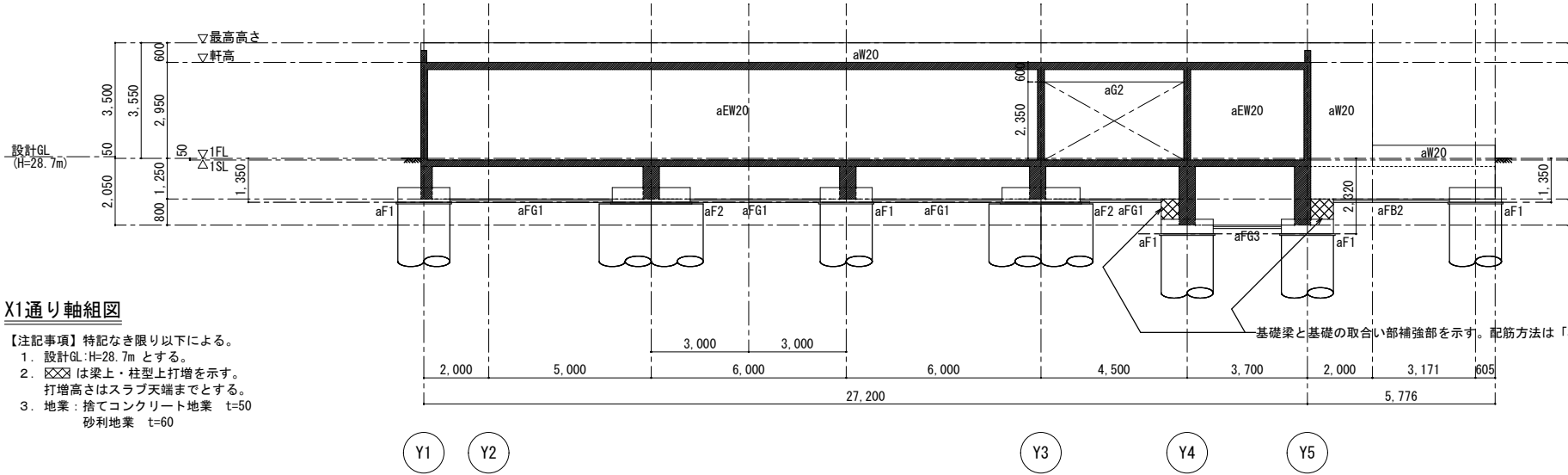
X1 X2 X3 X4



Y5通り軸組図

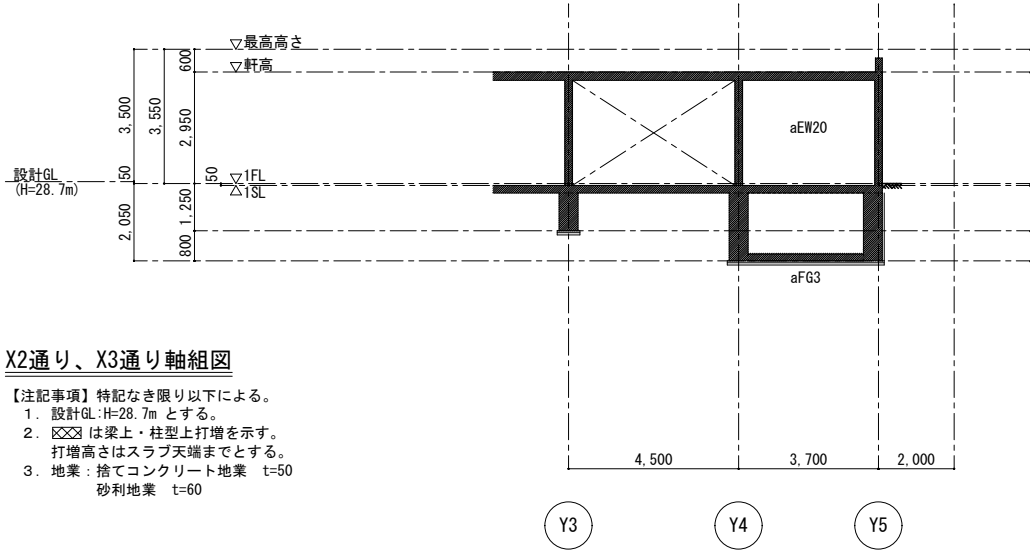
- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中の枠線は梁上・柱型上打増を示す。打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50 砂利地業 t=60

X1 X2 X3 X4



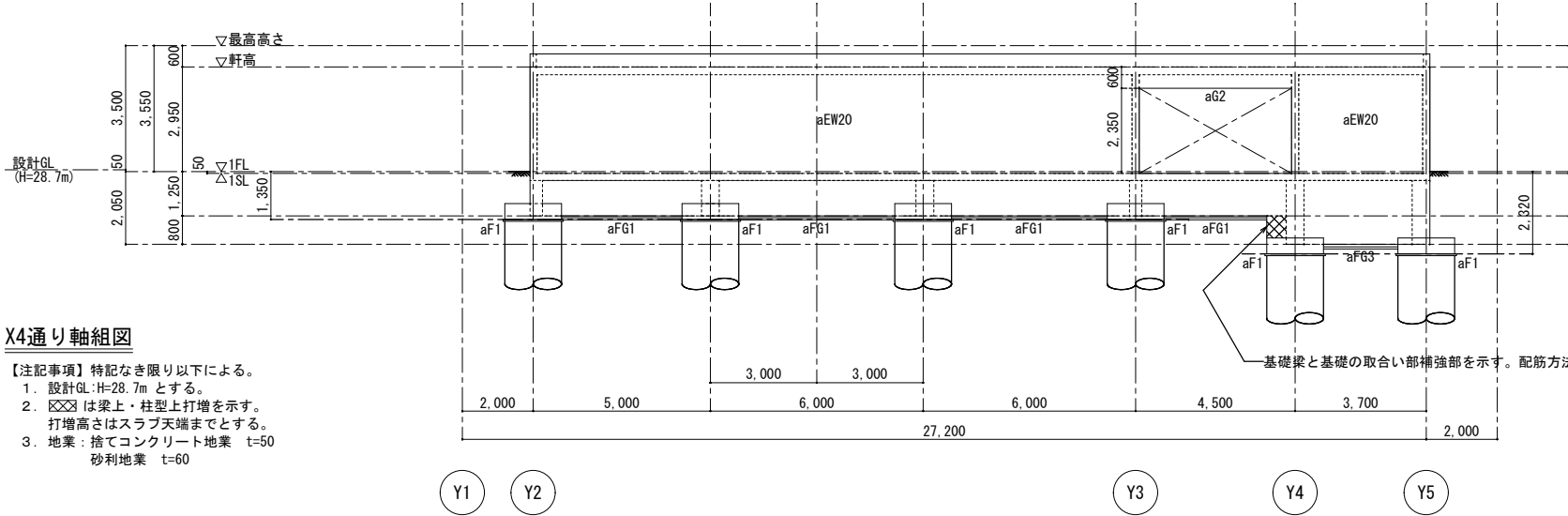
X1通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 〇〇〇は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



X2通り、X3通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 〇〇〇は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

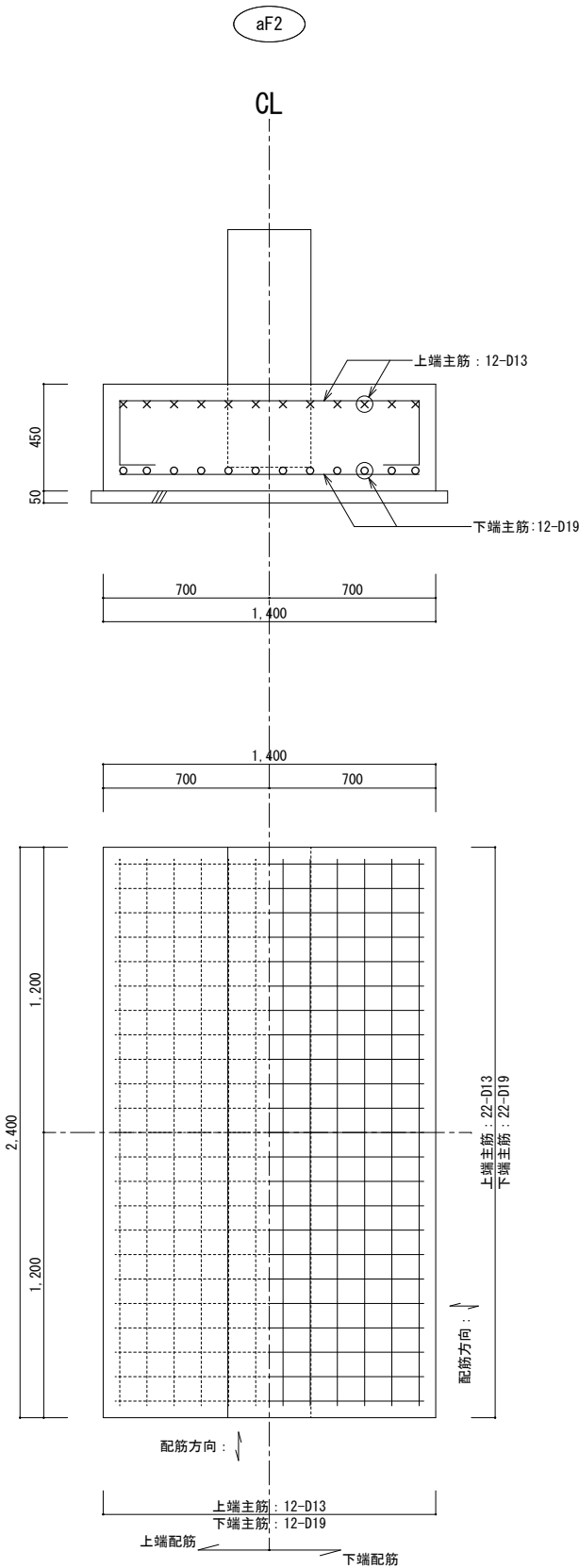
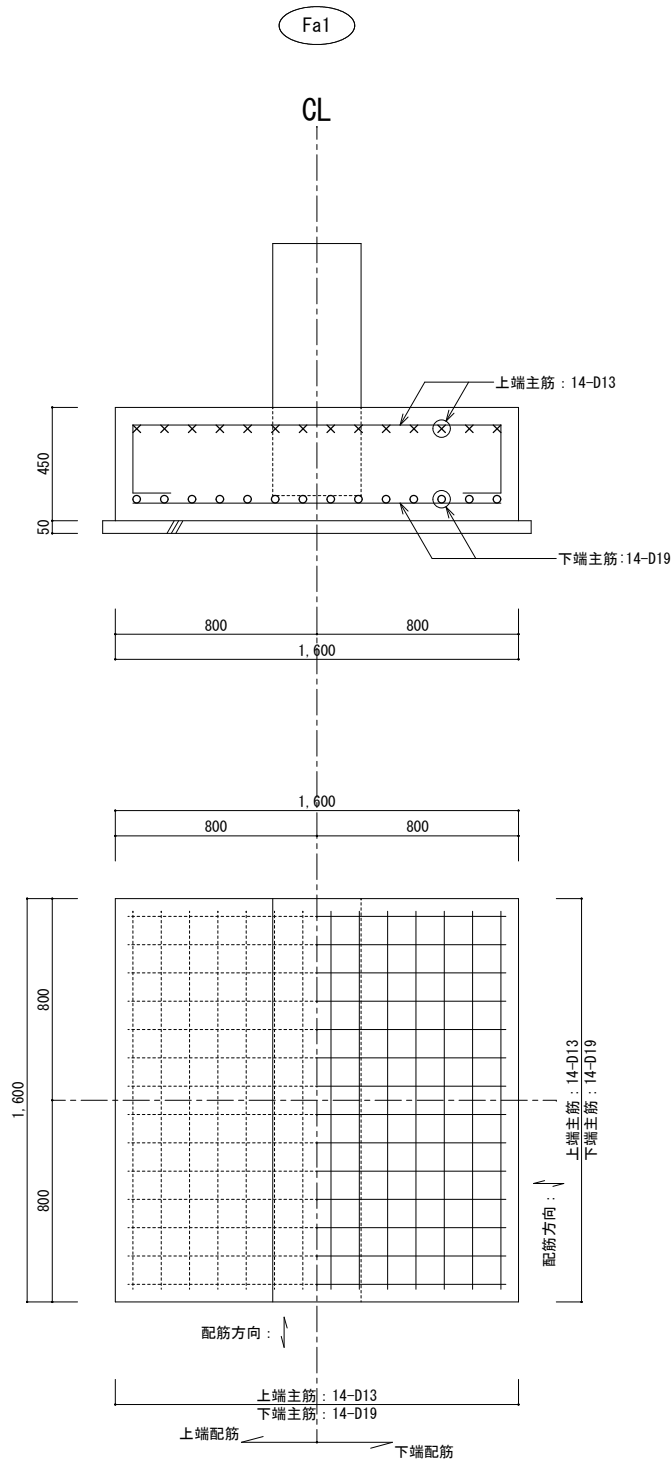


X4通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 〇〇〇は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

基礎リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295 2. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=150mm
D19～D25 SD345



【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295 3. 幅止筋：D10@1,000 以内 5. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm
D19～D25 SD345 4. 段受け筋：D10@1,000 以内
2. 腹筋：4-D13 (2段) 段受け筋の代わりとなる鉄筋支持金物を採用してよい。

基礎梁断面リスト

符 号	aFG1	aFG2	aFG3
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
B×D	350×1,000	500×1,800	350×1,800
上端主筋	6-D19	12-D19	6-D19
下端主筋	6-D19	12-D19	6-D19
stp	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋			6-D13 (3段)
備 考			

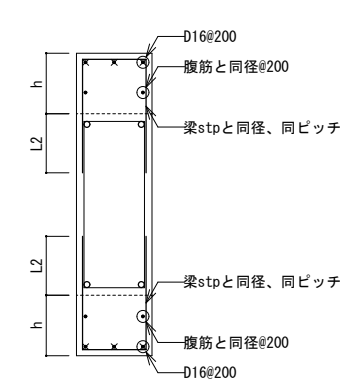
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295 3. 幅止筋：D10@1,000 以内 5. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm
D19～D25 SD345 4. 段受け筋：D10@1,000 以内
2. 腹筋：4-D13 (2段) 段受け筋の代わりとなる鉄筋支持金物を採用してよい。

基礎小梁、基礎片持ち梁断面リスト

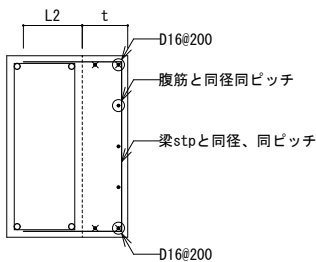
符 号	aFB1	aFB2	
位 置	全断面	全断面	
断 面			
B×D	350×1,000	350×1,000	
上端主筋	5-D19	6-D19	
下端主筋	6-D19	5-D19	
stp	□-D13@200	□-D13@200	
腹筋			
備 考			

梁打増補強要領

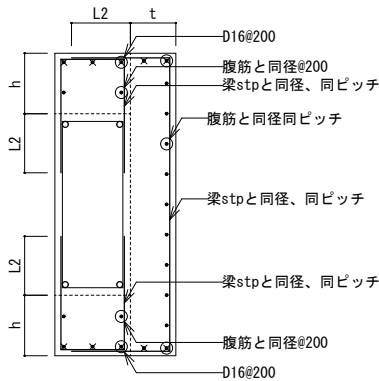
梁上下打増の場合
*h<70以下の場合は補強を要しない。



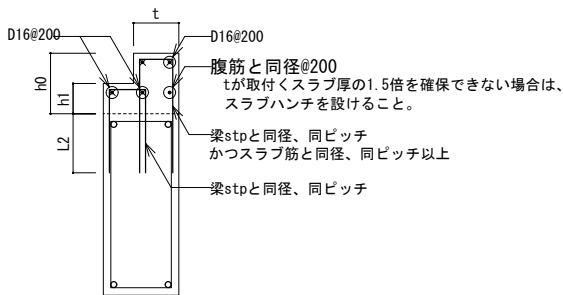
梁側打増の場合
*t<70以下の場合は補強を要しない。



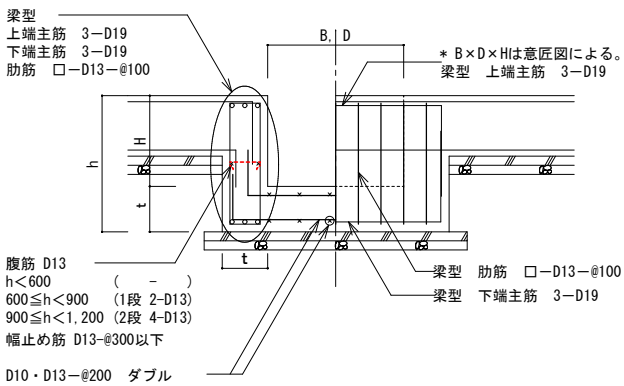
梁上下打増、梁側打増を併用する場合
*h<70かつt<70以下の場合は補強を要しない。



梁上下打増に欠き込みのある場合
*h0<70かつh1<70以下の場合は補強を要しない。

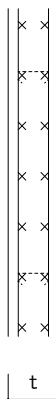


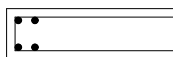
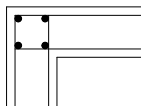
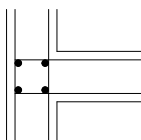
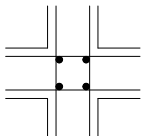
釜場配筋要領図



【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
2. 幅止筋 D10@1,000以内
3. 構造図に記載のない開口を設ける場合は、監督員の承諾を得ること。

壁断面リスト

符 号		aEW20、aW20		耐力壁の曲げ補強筋配置要領	
平断面					
壁 厚 (t)		200			
縦 筋	全断面	D13@200 ダブル			
横 筋	全断面	D13@200 ダブル			
端部曲げ補強筋	I 型	2-D16			
	L 型	4-D16			
	T 型	4-D16			
	＋ 型	4-D16			
開口部補強筋	縦 筋	2-D16			
	横 筋	4-D16			
	斜 筋	2-D10			
備 考					

I 型	
L 型	
T 型	
＋型	

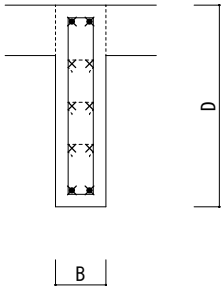
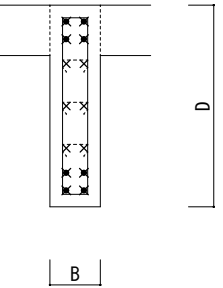
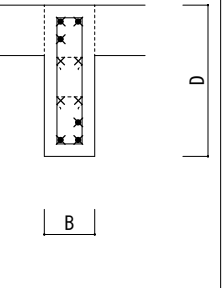
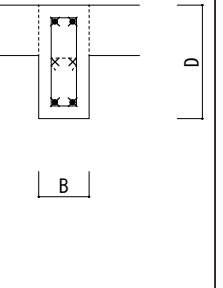
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295

スラブリスト

符 号	版 厚		位 置	主筋方向		配力筋方向		備 考
	元端	先端		端 部	中 央	端 部	中 央	
aDS1	180		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10@200		D10@200		
aDS2	200		上端配筋	D13@150		D10, D13@150		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10, D13@150		D10@150		
aDS3	200		上端配筋	D13@100		D10, D13@100		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10, D13@100		D10@100		
aDS4	180		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10@200		D10@200		
aS1	180		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		
			下端配筋	D10@200		D10@200		
aS2	200		上端配筋	D13@100		D13@200		
			下端配筋	D10, D13@100		D10, D13@200		
aS3	200		上端配筋	D13@100		D13@100		
			下端配筋	D10, D13@100		D10, D13@100		
aCS1	150		上端配筋	D10@100		D10, D13@200		
			下端配筋	D10@100		D10@200		

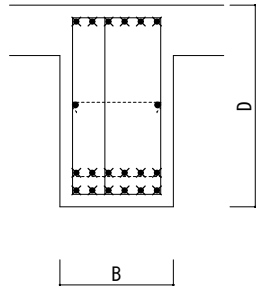
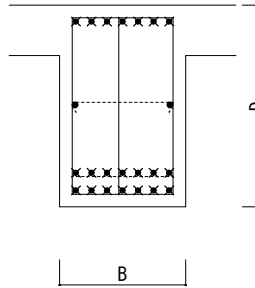
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
2. 腹 筋：6-D13 (3段)
3. 幅止筋：D10@1,000 以内
4. 段受け筋：D10@1,000 以内

壁梁断面リスト

符 号	aG1	aG1A	aG2	aG3
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
B×D	200×800	200×800	200×600	200×450
上端主筋	2-D16	4-D16	3-D16	2-D16
下端主筋	2-D16	4-D16	3-D16	2-D16
stp	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋			4-D13 (2段)	2-D13 (1段)
備 考				

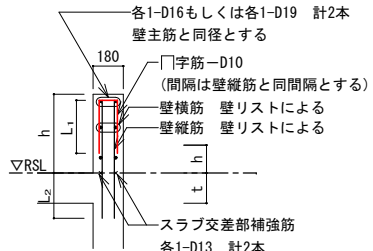
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
2. 腹 筋：2-D10 (1段)
3. 幅止筋：D10@1,000 以内
4. 段受け筋：D10@1,000 以内

小梁断面リスト

符 号	aB1	aB2
位 置	全断面	全断面
断 面		
B×D	450×700	500×700
上端主筋	6-D16	7-D16
下端主筋	12-D16	14-D16
stp	□-D10@200	□-D10@150
腹 筋		
備 考		

パラペット配筋詳細図

スラブ厚はtとし、立上りの寸法hは意匠図による。



地盤改良伏図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - 改良体の仕様は以下による。
工法：エボコラムTaf工法(技審証第202005号) 同等工法
コラム径：φ1,600
支持層：泥岩層
支持力：625kN/m²
設計基準強度：F_c=1,500kN/m²
 - 施工前に六価クロム溶出試験を行う。

地盤改良、基礎下端レベル凡例

ゾーン	符 号	改良天端	改良下端	改良長	本数
③	bP1	設計GL-3,140	設計GL-5,700	2.56m	21本
	bP2	設計GL-3,240		2.46m	4本
	bP3	設計GL-3,990		1.71m	12本

基礎伏図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - 1FL=設計GL-990 とする。
 - ビットSL=1FL-1,750とする。特記は 1FL[±*,***] で示す。
 - 基礎下端レベルは特記による。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、⊕ で示す。

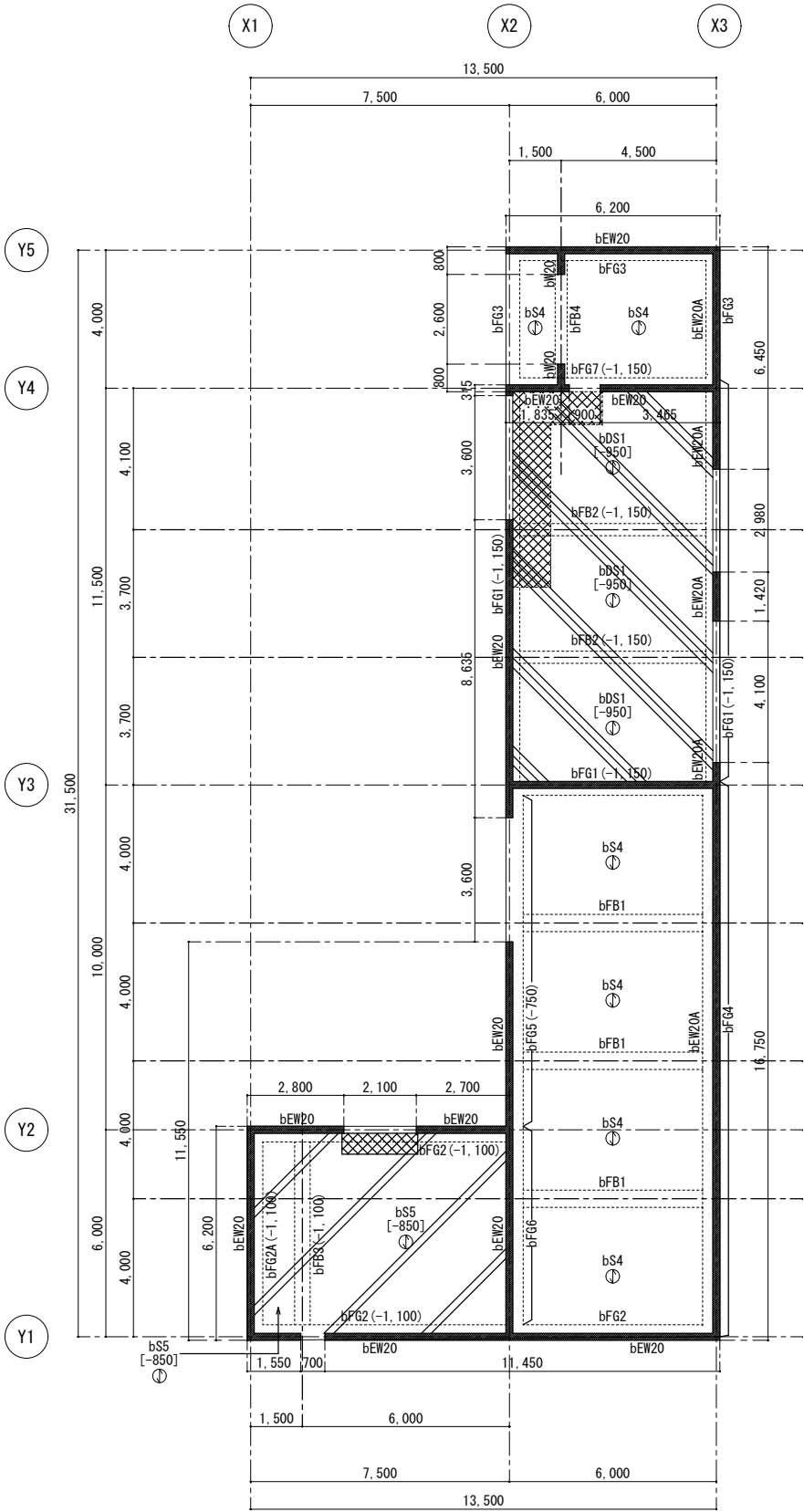
耐圧版レベル凡例

記号	耐圧版天端レベル FL[±*,***]	耐圧版下端レベル FL[±*,***]
	[-1,750]	[-2,100]
	[-2,550]	[-2,950]
	[-3,725]	[-4,125]

1 階伏図

【注記事項】 特記なき限り以下による。

- 1. 設計GL: H=28.7m とする。
- 2. 1FL=設計GL-990 とする。
- 3. 1SL=1FL-50 とする。特記は 1FL[±*, ***] で示す。
- 4. 基礎梁天端=1FL-250 とする。特記は 1FL(±*, ***) で示す。
- 5.  は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
- 6. 梁の配筋方向はX方向を上に配筋する。
- 7. スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、 で示す。



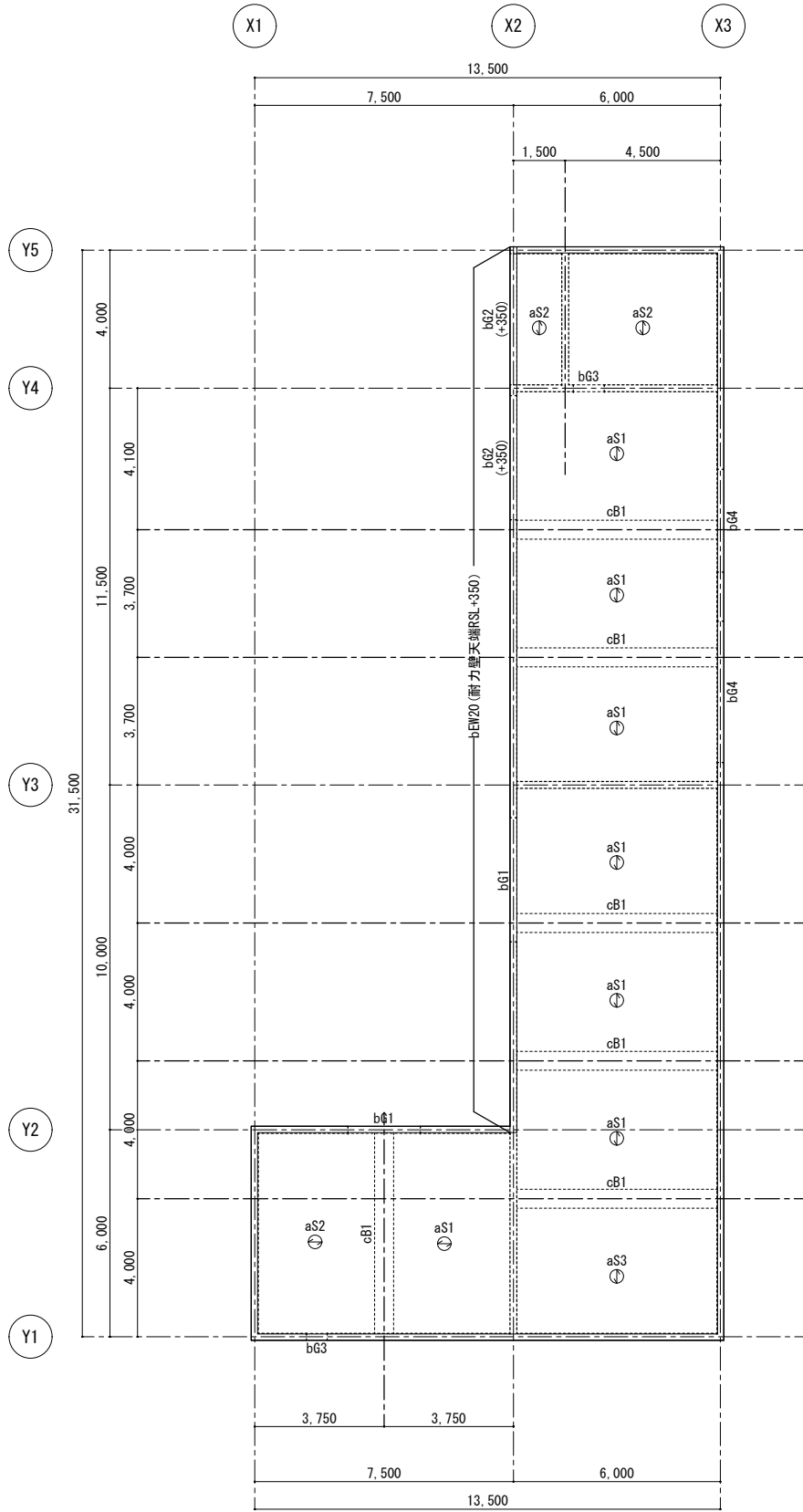
スラブレベル凡例

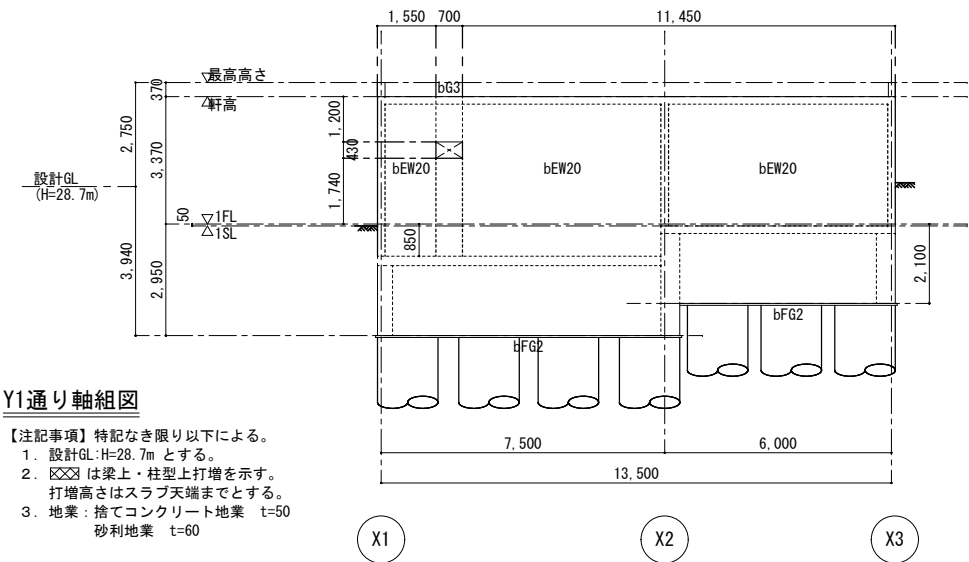
記号	スラブレベル
	FL[±*, ***]
	[±0]
	[-850]
	[-950]

屋根伏図

【注記事項】 特記なき限り以下による。

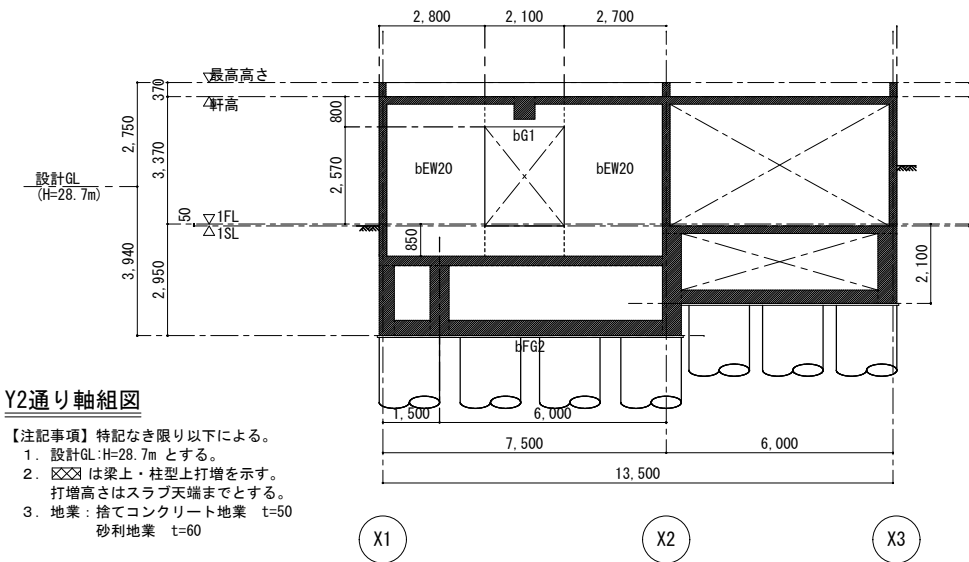
- 1. 設計GL: H=28.7m とする。
- 2. 軒高=設計GL+2.380 とする。
最高高さは設計GL+2.750 とする。
- 3. RSL=軒高±0 とする。特記は 軒高[±*, ***] で示す。
- 4. 梁天端=軒高±0 とする。特記は 軒高(±*, ***) で示す。
- 5.  は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
- 6. 梁の配筋方向はX方向を上に配筋する。
- 7. スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、 で示す。





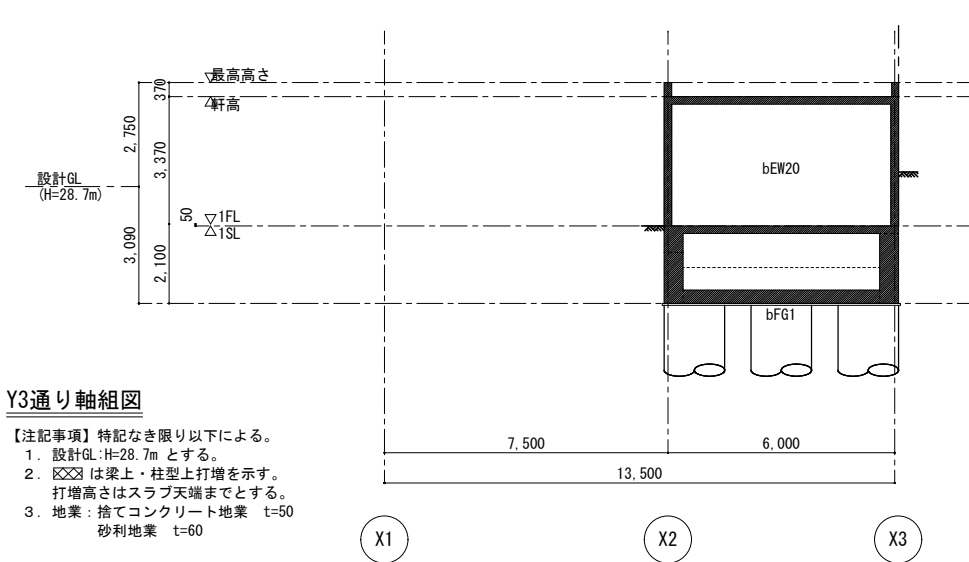
Y1通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - ☒☒は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



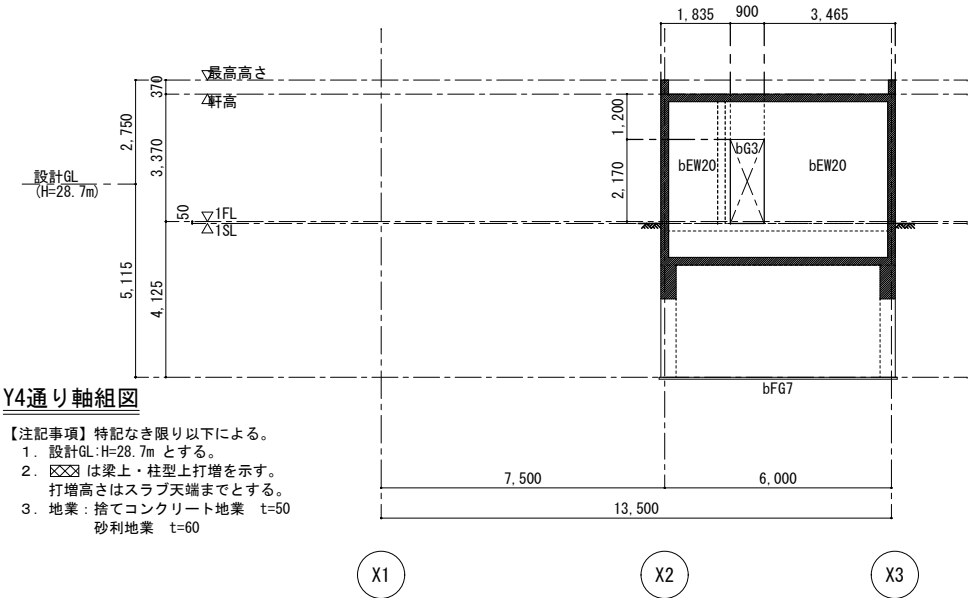
Y2通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - ☒☒は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



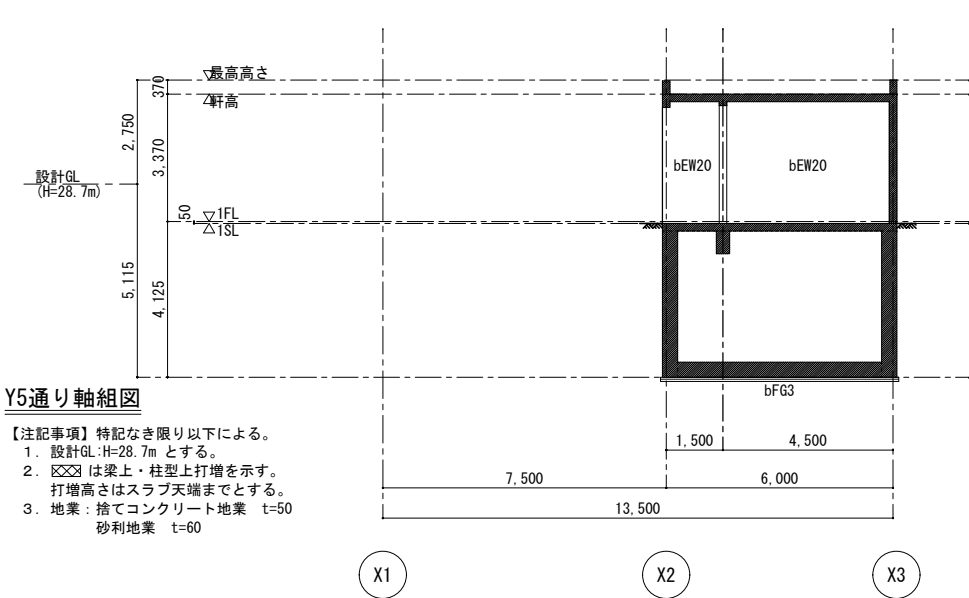
Y3通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - ☒☒は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



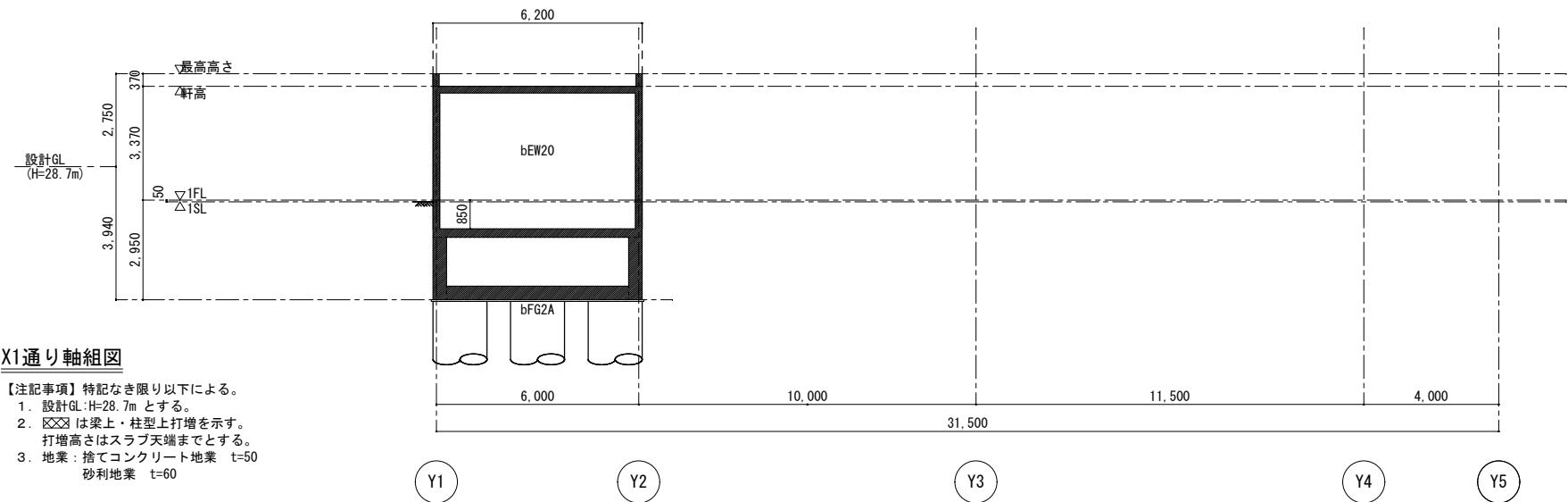
Y4通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - ☒☒は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



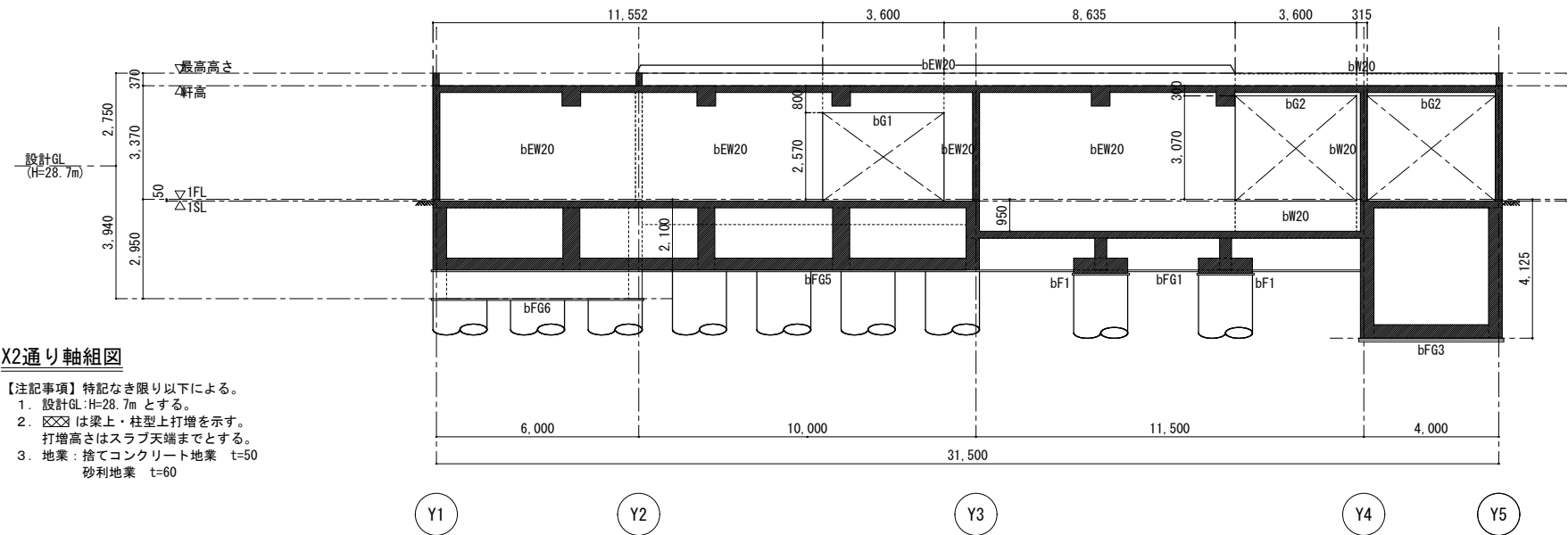
Y5通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL:H=28.7m とする。
 - ☒☒は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



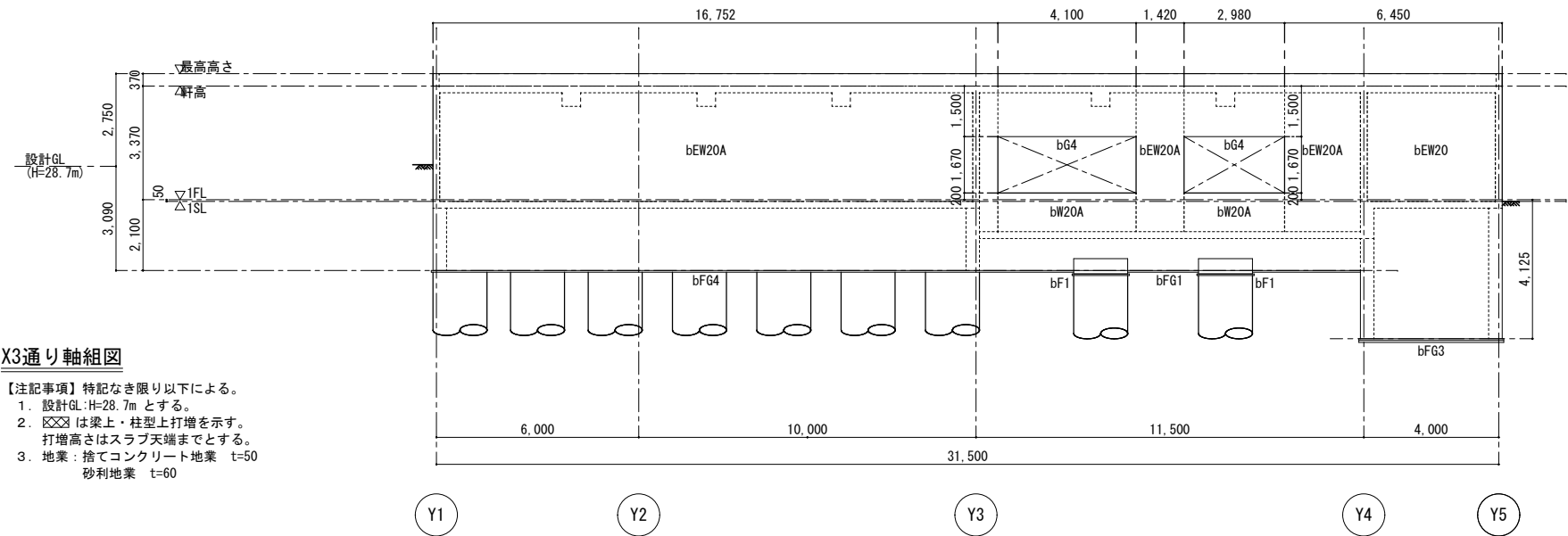
X1通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
2. ☒☒☒ は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
3. 地業: 捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



X2通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
2. ☒☒☒ は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
3. 地業: 捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



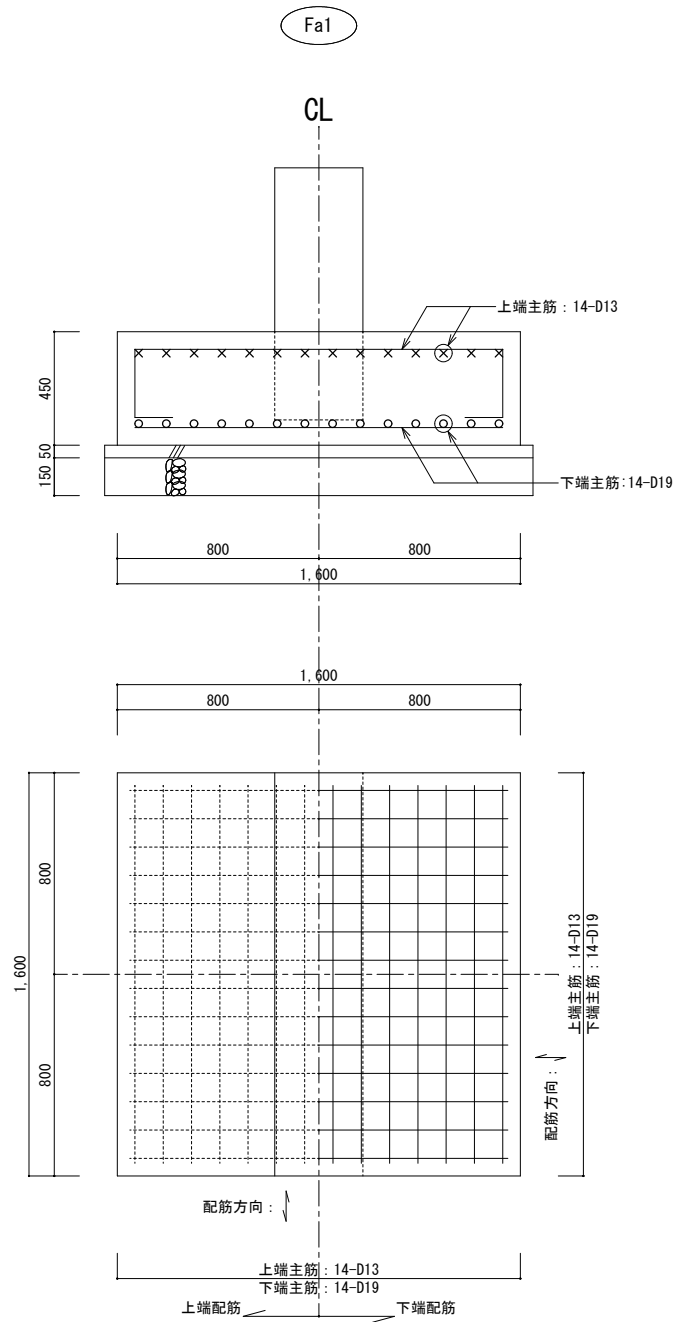
X3通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
2. ☒☒☒ は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
3. 地業: 捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

基礎リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
D19～D25 SD345

2. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm



耐圧版リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295

符 号	版 厚		位 置	主筋方向		配力筋方向		備 考
	元端	先端		端 部	中 央	端 部	中 央	
cFS1	350		上端配筋	D13@100		D13@150		地業：捨てコン t50
			下端配筋	D16@100		D16@150		
cFS2	400		上端配筋	D13@100		D13@100		地業：捨てコン t50
			下端配筋	D16@100		D16@100		
cFS3	400		上端配筋	D13@100		D13@150		地業：捨てコン t50、砂利 t60
			下端配筋	D16@100		D16@150		
cFS4	400		上端配筋	D13@200		D13@200		地業：捨てコン t50
			下端配筋	D16@200		D16@200		

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
D19～D25 SD345
2. 腹筋：4-D13 (2段)
3. 幅止筋：D10@1,000 以内

4. 段受け筋：D10@1,000 以内
段受け筋の代わりとなる鉄筋支持金物を採用してよい。
5. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm

基礎小梁断面リスト

符 号	bFB1	bFB2	bFB3	bFB4
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
B×D	500×1,850	350×950	450×1,850	350×600
上端主筋	10-D22	4-D19	8-D22	4-D16
下端主筋	7-D22	5-D19	7-D22	5-D16
stp	□-D13@150	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@200
腹筋	6-D13 (3段)		6-D13 (3段)	2-D13 (1段)
備 考				

釜場配筋要領図

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
D19～D25 SD345
2. 腹筋：4-D13 (2段)
3. 幅止筋：D10@1,000 以内
4. 段受け筋：D10@1,000 以内
段受け筋の代わりとなる鉄筋支持金物を採用してよい。
5. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm

基礎梁断面リスト

符 号	bFG1	bFG2	bFG2A	bFG3	bFG4	cFG5	cFG6	cFG7	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面									
	B×D	400×950	450×1,850	450×1,850	400×3,875	500×1,850	500×1,350	500×2,700	450×2,975
	上端主筋	5-D22	6-D22	5-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	6-D22
	下端主筋	5-D22	7-D22	5-D22	3-D22	4-D22	5-D22	3-D22	7-D22
	stp	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
	腹 筋	4-D13 (2段)	6-D13 (3段)	6-D13 (3段)	14-D13 (7段)	6-D13 (3段)	6-D13 (3段)	10-D13 (5段)	10-D13 (5段)
	備 考								

梁打増補強要領

壁断面リスト

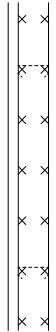
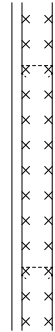
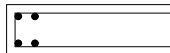
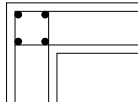
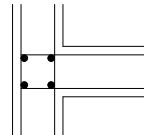
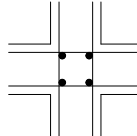
【注記事項】 特記なき限り以下による。

1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295

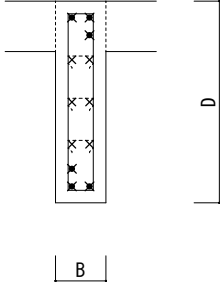
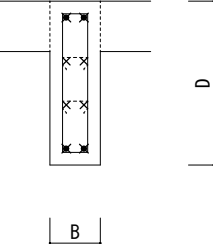
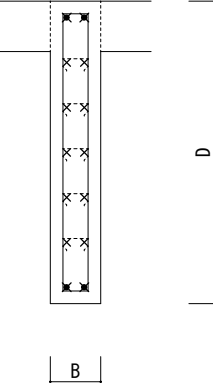
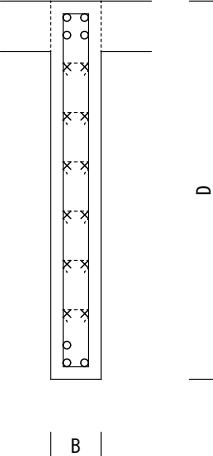
2. 幅止筋 D10@1,000以内

3. 構造図に記載のない開口を設ける場合は、監督員の承諾を得ること。

壁断面リスト

符 号		bEW20、bW20	bEW20A、bW20A	耐力壁の曲げ補強筋配置要領
平断面				I 型 L 型 T 型 + 型
				
		壁 厚 (t)	200	
		縦 筋 全断面	D13@200 ダブル	
		横 筋 全断面	D13@200 ダブル	
		端部曲げ補強筋 I 型	2-D16	
		L 型	4-D16	
		T 型	4-D16	
		+ 型	4-D16	
		開口部 縦 筋	2-D16	
		横 筋	4-D16	
		斜 筋	2-D10	
備 考				

壁梁断面リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。 1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295 2. 腹 筋：6-D13 (3段) 3. 幅止筋：D10@1,000 以内 4. 段受け筋：D10@1,000 以内				
符 号	bG1	bG2	bG3	bG4
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
	B	B	B	B
	B×D	200×800	200×650	200×1,200
	上端主筋	3-D16	2-D16	2-D16
	下端主筋	3-D16	2-D16	2-D16
	stp	□-D10@200	□-D10@150	□-D10@200
	腹 筋		4-D13 (2段)	10-D13 (5段)
	備 考			

スラブリスト

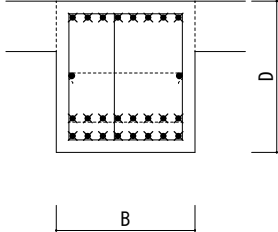
【注記事項】 特記なき限り以下による。

1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295

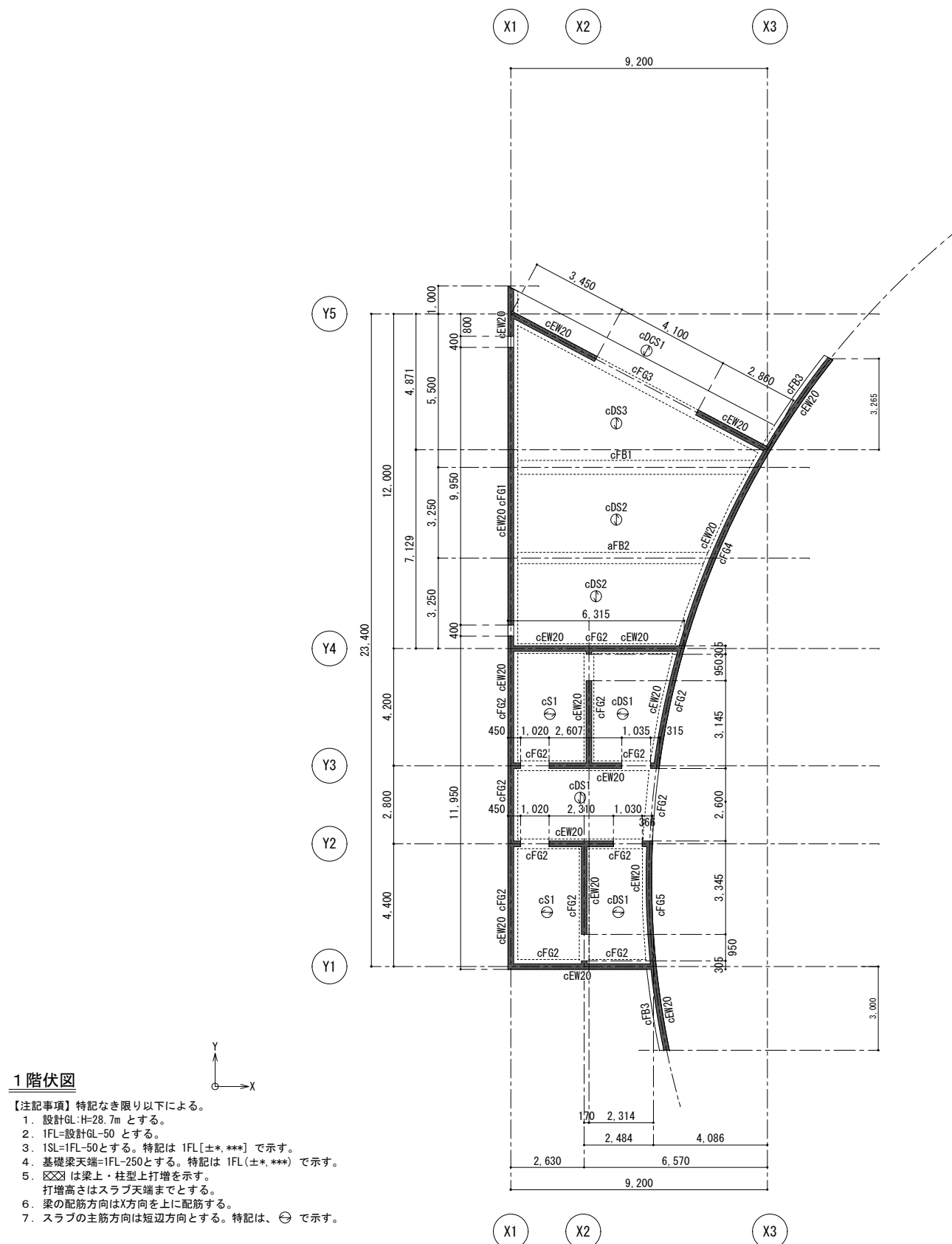
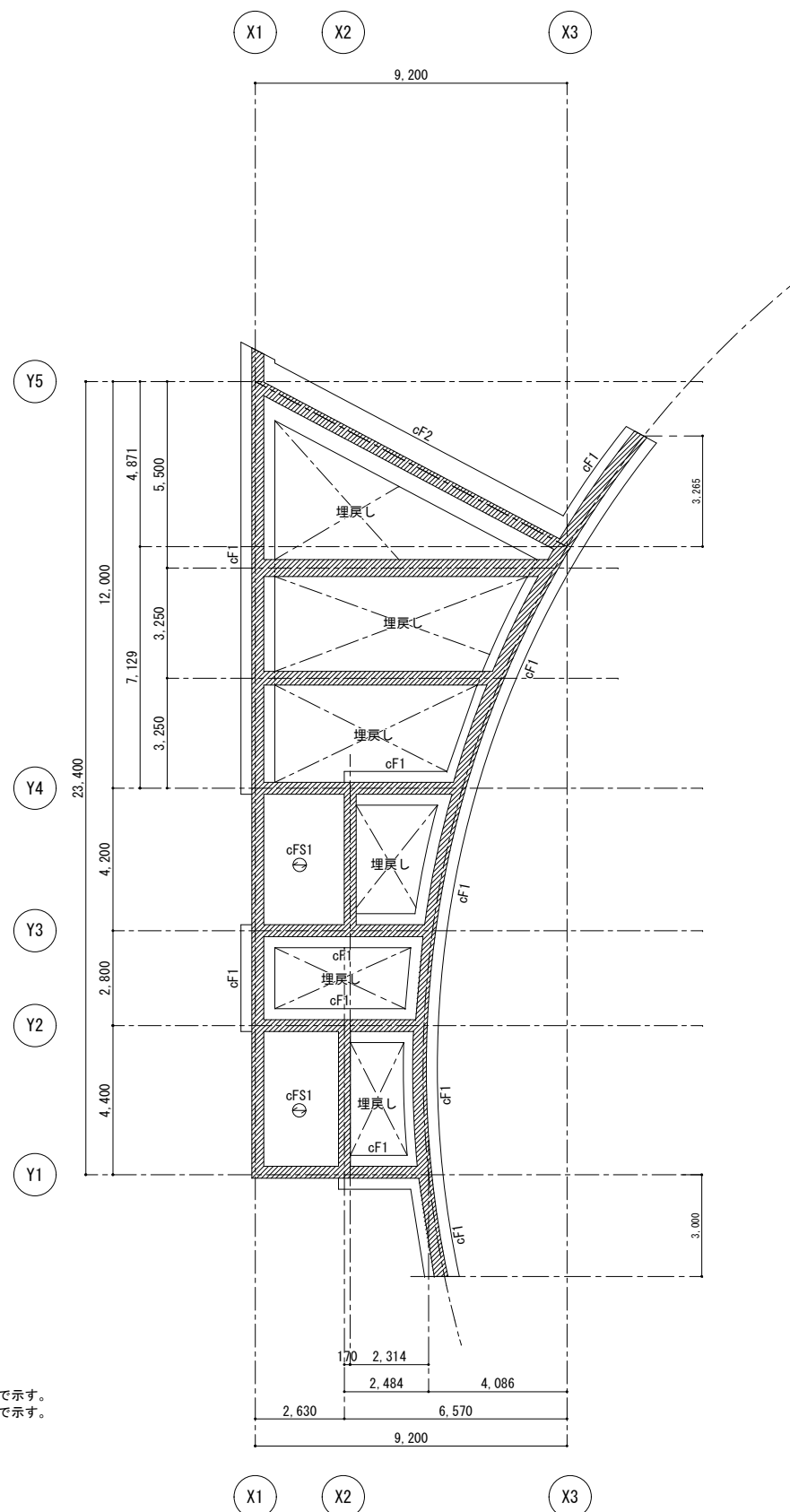
スラブリスト

符 号	版 厚		位 置	主筋方向		配力筋方向		備 考
	元端	先端		端 部	中 央	端 部	中 央	
bDS1	200		上端配筋	D13@150		D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10, D13@150		D10, D13@200		
bS1	200		上端配筋	D13@150		D10, D13@150		
			下端配筋	D10, D13@150		D10@150		
bS2	200		上端配筋	D13@100		D10, D13@150		
			下端配筋	D10, D13@100		D10@150		
bS3	200		上端配筋	D13@100		D13@150		
			下端配筋	D10, D13@100		D10, D13@150		
bS4	200		上端配筋	D13@200		D13@200		
			下端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		
bS5	250		上端配筋	D13@100		D13@100		
			下端配筋	D10, D13@100		D10, D13@100		

小梁断面リスト

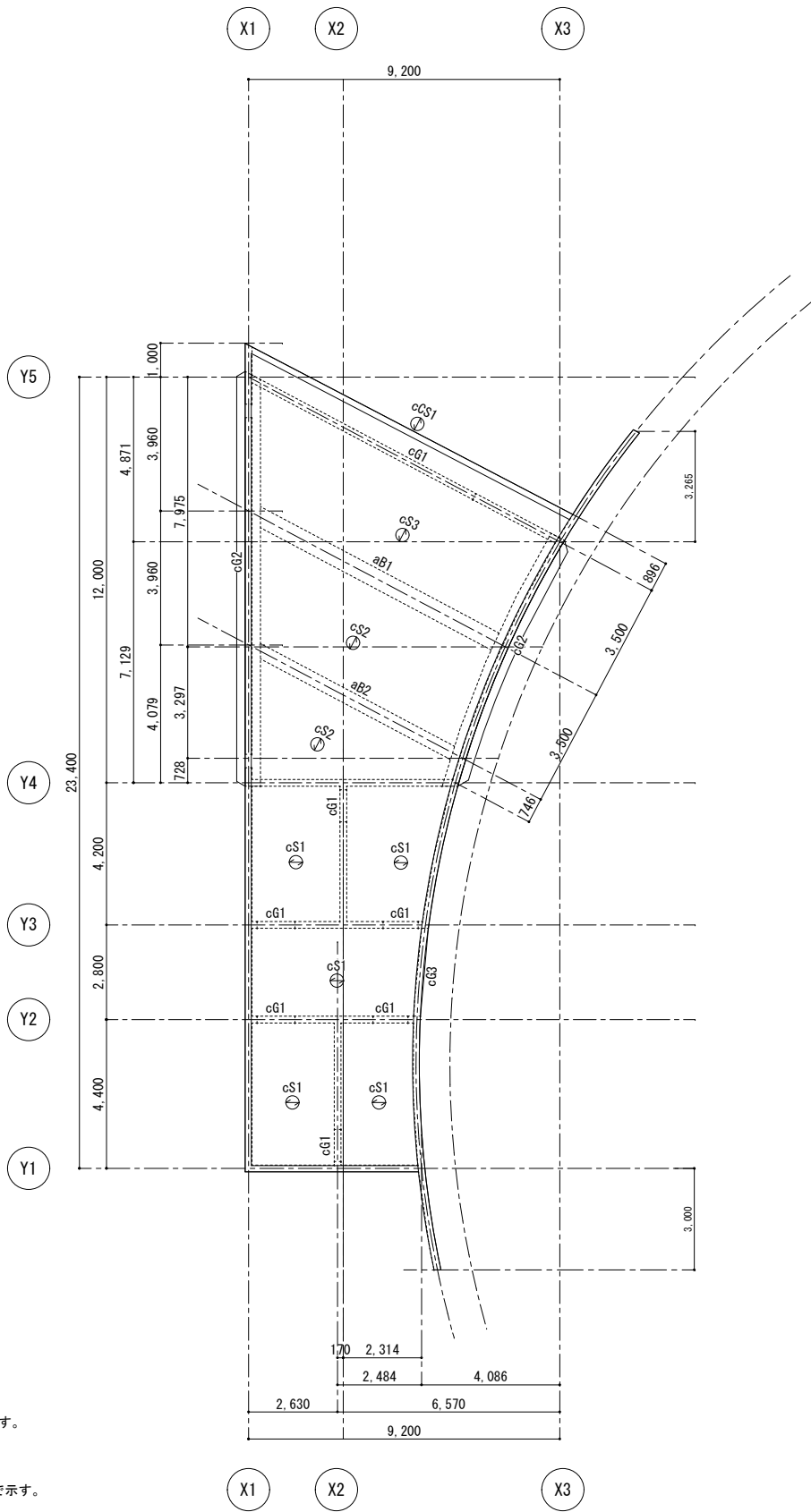
【注記事項】 特記なき限り以下による。 1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295 2. 腹 筋：2-D10 (1段) 3. 幅止筋：D10@1,000 以内 4. 段受け筋：D10@1,000 以内		
符 号	bB1	
位 置	全断面	
断 面		
	B	
	B×D	550×600
	上端主筋	8-D16
	下端主筋	16-D16
	stp	□-D10@150
	腹 筋	
	備 考	

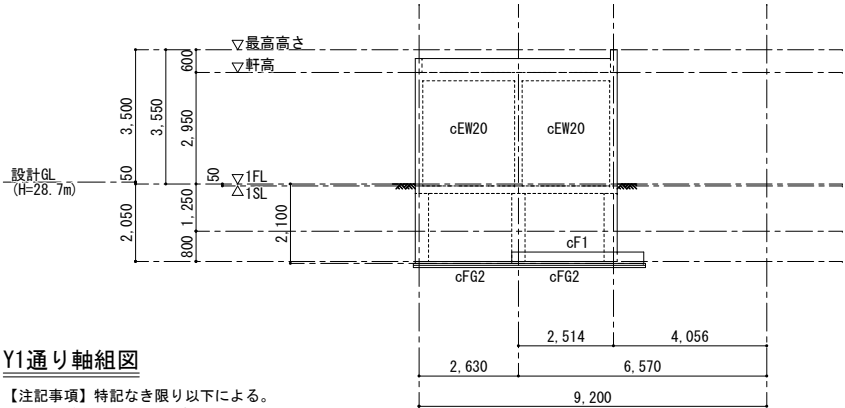
パラペット配筋詳細図



屋根伏図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
- 設計GL: H=28.7m とする。
 - 軒高=設計GL+2.900 とする。
最高高さ=設計GL+3.500 とする。
 - RSL=軒高±0とする。特記は 軒高〔±*,***〕で示す。
 - 梁天端=軒高±0とする。特記は 軒高〔±*,***〕で示す。
 - ☒☒☒ は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 - 梁の配筋方向はX方向を上に配筋する。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、⊖ で示す。

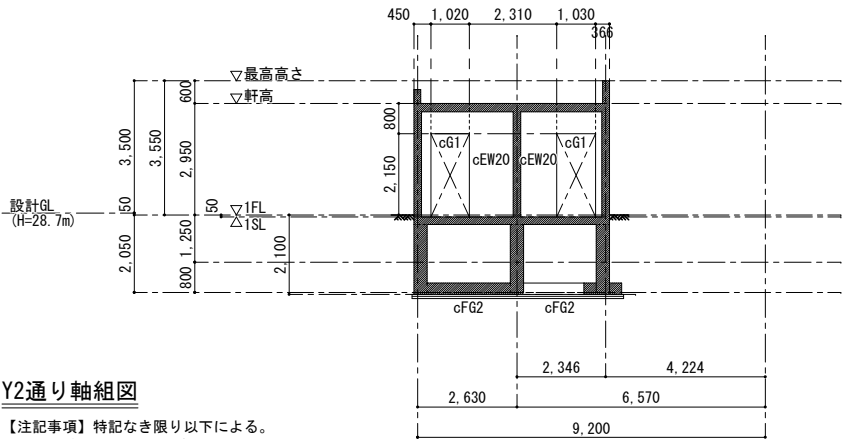




Y1通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中のXは梁上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

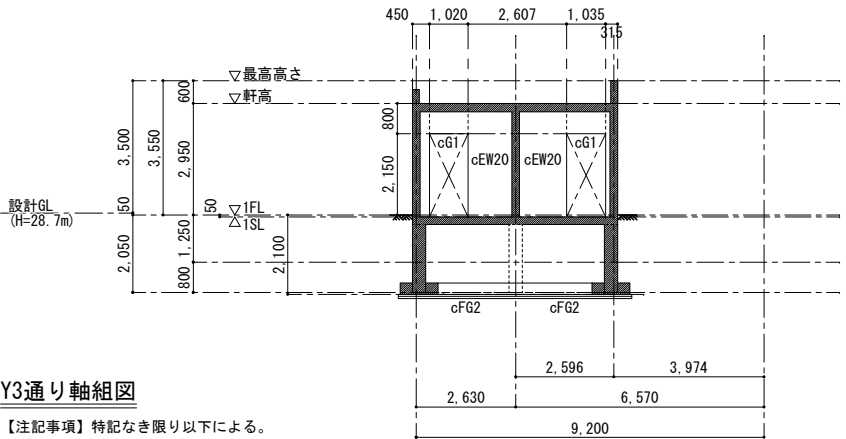
X1 X2 X3



Y2通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中のXは梁上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

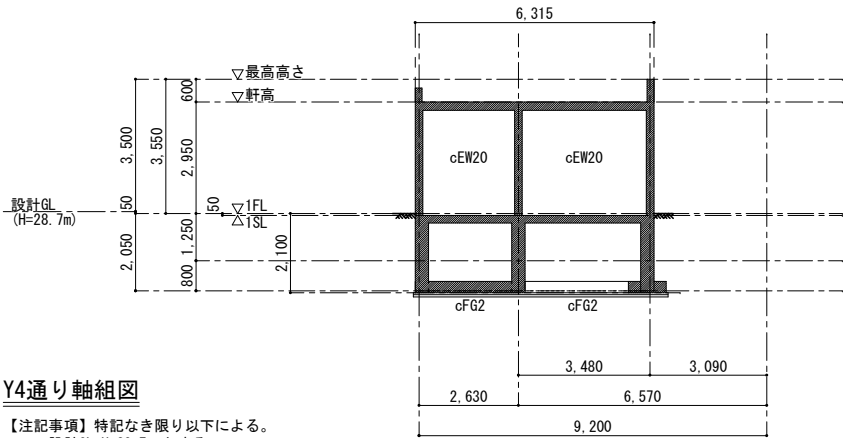
X1 X2 X3



Y3通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中のXは梁上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

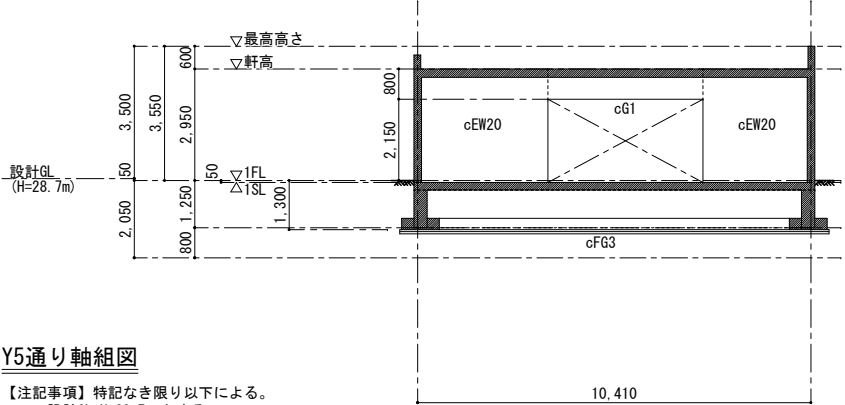
X1 X2 X3



Y4通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中のXは梁上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

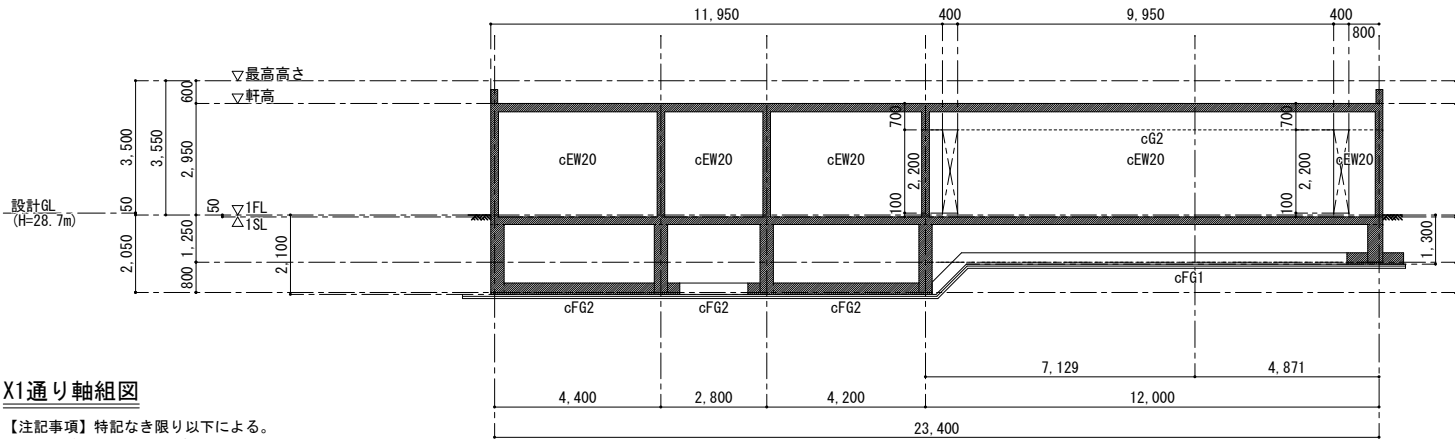
X1 X2 X3



Y5通り軸組図

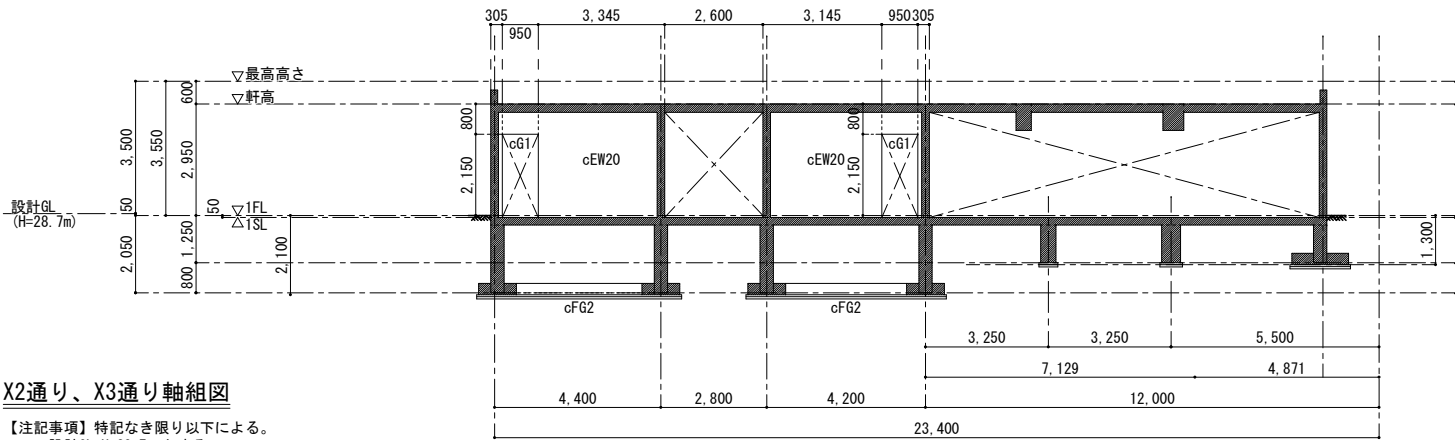
- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
 2. 図中のXは梁上・柱型上打増を示す。
 3. 打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

X1 X3



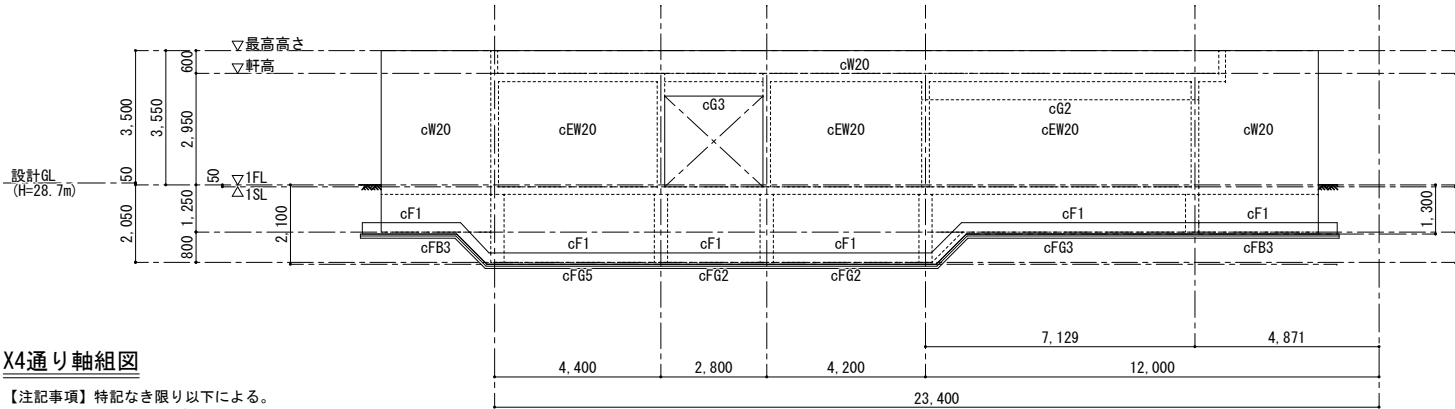
X1通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 図中の破線は梁上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地盤: 捨てコンクリート地盤 t=50
砂利地盤 t=60



X2通り、X3通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 図中の破線は梁上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地盤: 捨てコンクリート地盤 t=50
砂利地盤 t=60

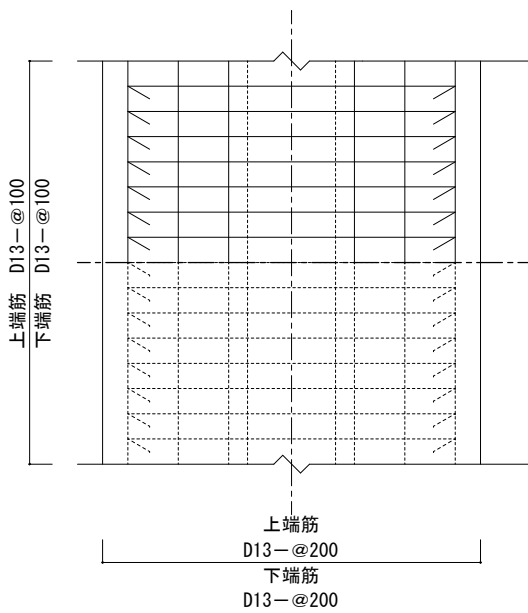
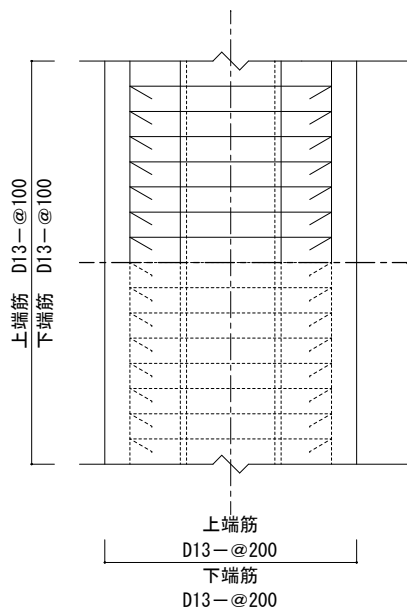
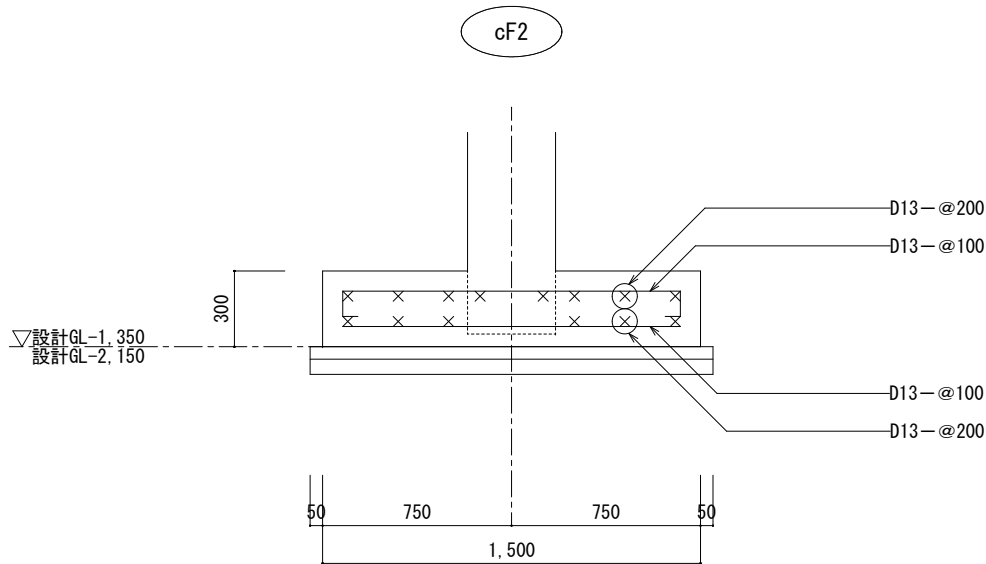
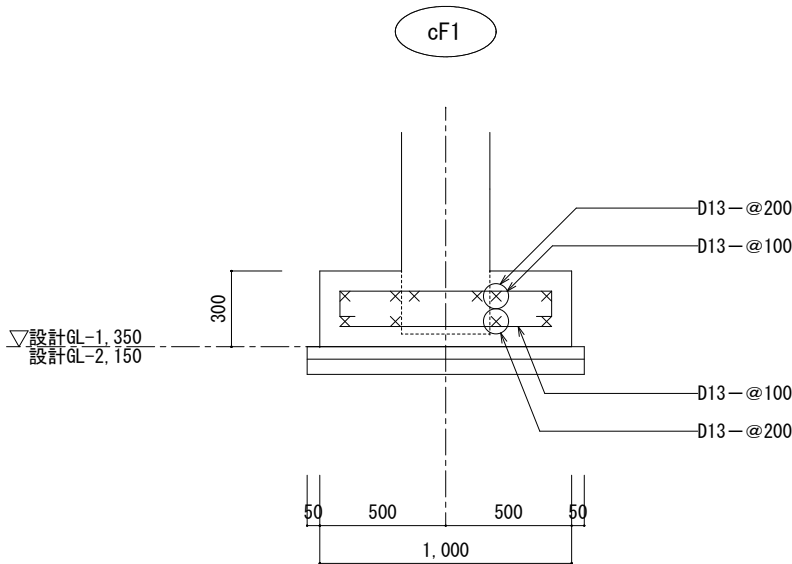


X4通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 図中の破線は梁上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地盤: 捨てコンクリート地盤 t=50
砂利地盤 t=60

基礎リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種 : D10～D16 SD295 2. 地業 : 捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm
D19～D25 SD345



耐圧版リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種 : D10～D16 SD295

符 号	版 厚		位 置	主筋方向		配力筋方向		備 考
	元端	先端		端 部	中 央	端 部	中 央	
cFS1	300		上端配筋	D13@100		D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D16@100		D16@200		

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295 3. 幅止筋：D10@1,000 以内
D19～D25 SD345 4. 段受け筋：D10@1,000 以内
2. 腹筋：4-D13 (2段) 段受け筋の代わりとなる鉄筋支持金物を採用してよい。
5. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm

基礎梁断面リスト

符 号	cFG1	cFG2	cFG3	cFG4	cFG5
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面					
B×D	350×1,000	350×1,800	400×1,000	350×1,000	350×1,800
上端主筋	6-D19	6-D19	8-D19	6-D19	6-D19
下端主筋	6-D19	6-D19	6-D19	6-D19	6-D19
stp	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋		6-D13 (3段)			6-D13 (3段)
備 考					

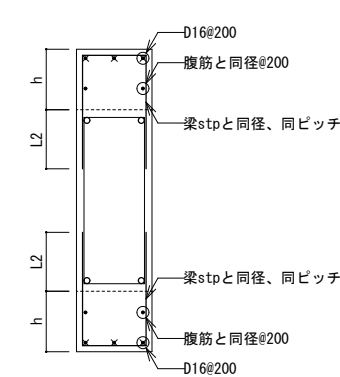
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295 4. 段受け筋：D10@1,000 以内
D19～D25 SD345 段受け筋の代わりとなる鉄筋支持金物を採用してよい。
2. 腹筋：4-D13 (2段) 5. 地業：捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm
3. 幅止筋：D10@1,000 以内

基礎小梁断面リスト

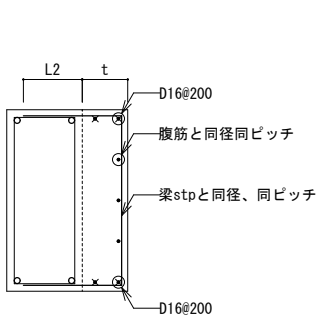
符 号	cFB1	cFB2	cFB3
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
B×D	500×1,000	400×1,000	350×1,000
上端主筋	8-D19	5-D19	6-D19
下端主筋	12-D19	7-D19	6-D19
stp	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋			
備 考			

梁打増補強要領

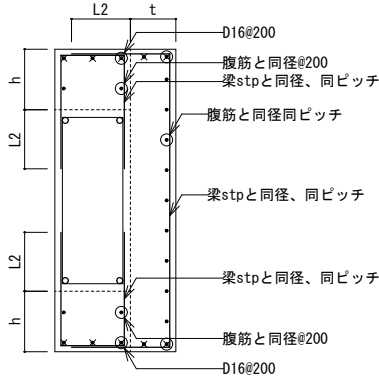
梁上下打増の場合
*h<70以下の場合は補強を要しない。



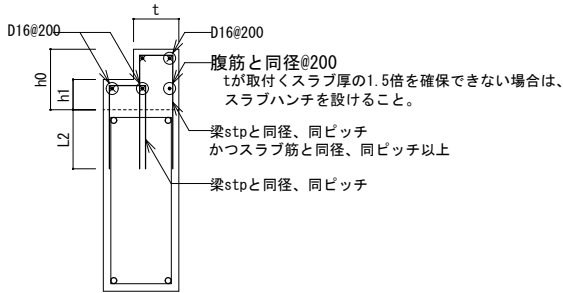
梁側打増の場合
*t<70以下の場合は補強を要しない。



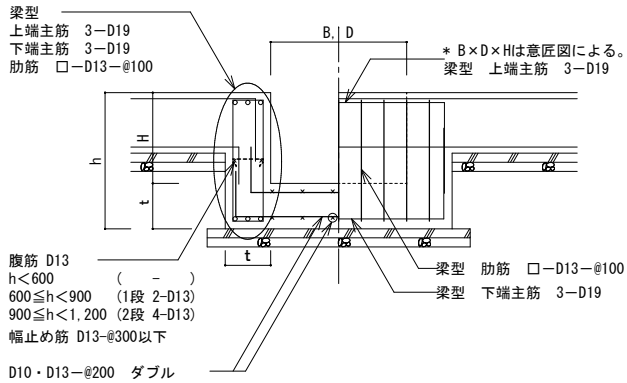
梁上下打増、梁側打増を併用する場合
*h<70かつt<70以下の場合は補強を要しない。



梁上下打増に欠き込みのある場合
*h0<70かつh1<70以下の場合は補強を要しない。

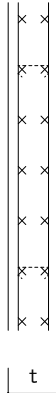
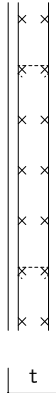
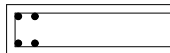
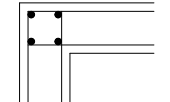
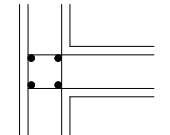
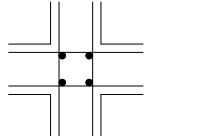


釜場配筋要領図



【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
2. 幅止筋 D10@1,000以内
3. 構造図に記載のない開口を設ける場合は、監督員の承諾を得ること。

壁断面リスト

符 号		cEW20、cW20		耐力壁の曲げ補強筋配置要領	
平断面				I 型	
				L 型	
				T 型	
				+ 型	
壁 厚 (t)		200			
縦 筋	全断面	D13@200 ﾀﾞﾌﾞﾙ			
横 筋	全断面	D13@200 ﾀﾞﾌﾞﾙ			
端部曲げ補強筋	I 型	2－D16			
	L 型	4－D16			
	T 型	4－D16			
	+ 型	4－D16			
開口部補強筋	縦 筋	2-D16			
	横 筋	4-D16			
	斜 筋	2-D10			
備 考					

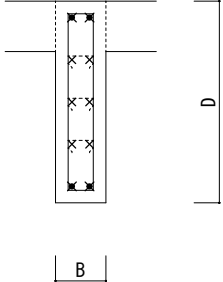
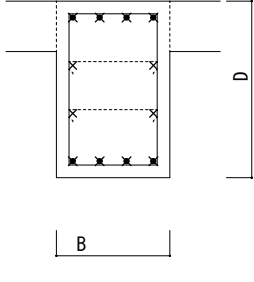
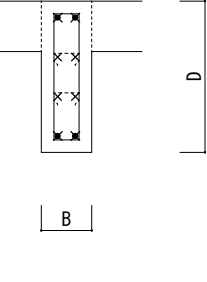
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295

スラブリスト

符 号	版 厚		位 置	主筋方向		配力筋方向		備 考
	元端	先端		端 部	中 央	端 部	中 央	
cDS1	180		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10@200		D10@200		
cDS2	200		上端配筋	D13@150		D10, D13@150		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10, D13@150		D10@150		
cDS3	200		上端配筋	D13@100		D10, D13@150		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D10, D13@100		D10@150		
cDCS1	200		上端配筋	D13@100		D13@200		地業：捨てコン t50, 砂利 t60
			下端配筋	D13@100		D10, D13@200		
cS1	180		上端配筋	D10, D13@200		D10, D13@200		
			下端配筋	D10@200		D10@200		
cS2	200		上端配筋	D13@150		D13@200		
			下端配筋	D10, D13@150		D10, D13@200		
cS3	200		上端配筋	D13@100		D13@200		
			下端配筋	D10, D13@100		D10, D13@200		
cCS1	200		上端配筋	D13@100		D13@200		
			下端配筋	D13@100		D10, D13@200		

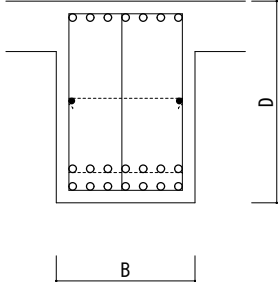
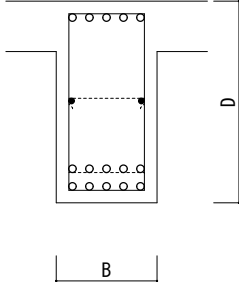
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
2. 腹 筋：6-D13 (3段)
3. 幅止筋：D10@1,000 以内
4. 段受け筋：D10@1,000 以内

壁梁断面リスト

符 号	cG1	cG2	cG3	
位 置	全断面	全断面	全断面	
断 面				
	B × D	200 × 800	450 × 700	200 × 600
	上端主筋	2-D16	4-D16	2-D16
	下端主筋	2-D16	4-D16	2-D16
	stp	□-D10@200	□-D10@150	□-D10@200
腹 筋		4-D13 (2段)	4-D13 (2段)	
備 考				

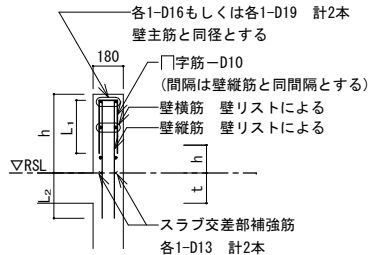
【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295
2. 腹 筋：2-D10 (1段)
3. 幅止筋：D10@1,000 以内
4. 段受け筋：D10@1,000 以内

小梁断面リスト

符 号	cB1	cB2
位 置	全断面	全断面
断 面		
	B × D	550 × 700
	上端主筋	7-D19
	下端主筋	14-D19
	stp	□-D10@150
腹 筋		
備 考		

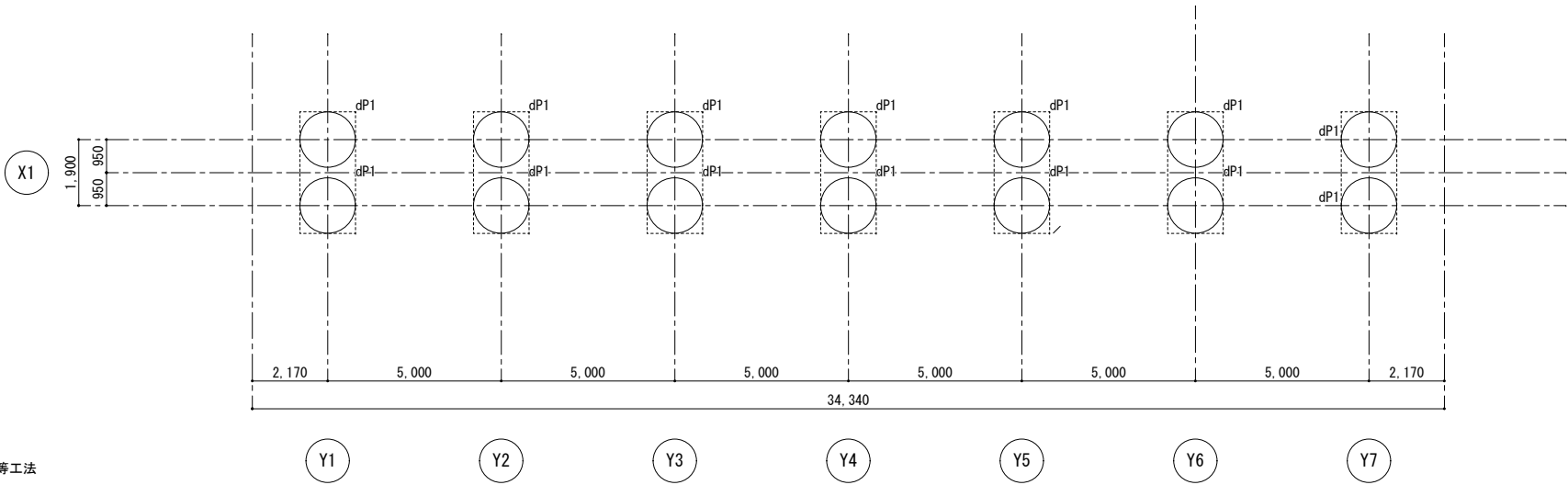
パラペット配筋詳細図

スラブ厚はtとし、立上りの寸法hは意匠図による。



地盤改良伏図

【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
2. 改良体の仕様は以下による。
工法：エボコラムTaf工法（技審証第202005号） 同等工法
コラム径：φ1,600
支持層：泥岩層
支持力：625kN/m²
設計基準強度：F_o=1,500kN/m²
3. 施工前に六価クロム溶出試験を行う。

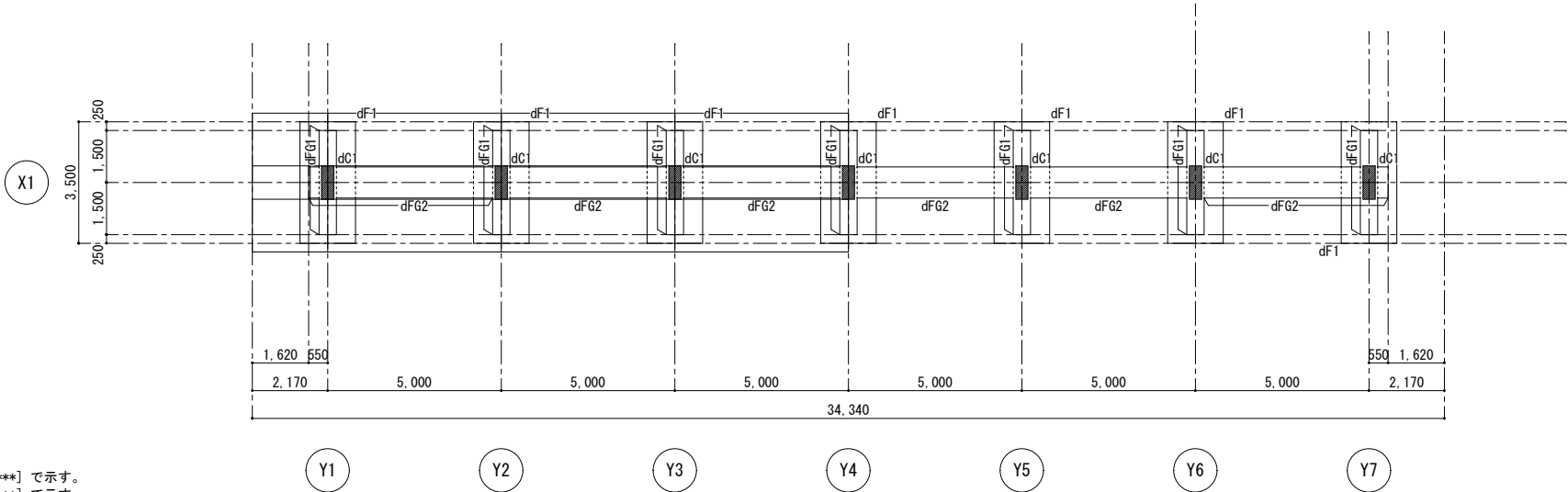


地盤改良、基礎下端レベル凡例

ゾーン	符 号	改良天端	改良下端	改良長	本数
④	dP1 	設計GL-1,730	設計GL-7,400	5.67m	14本

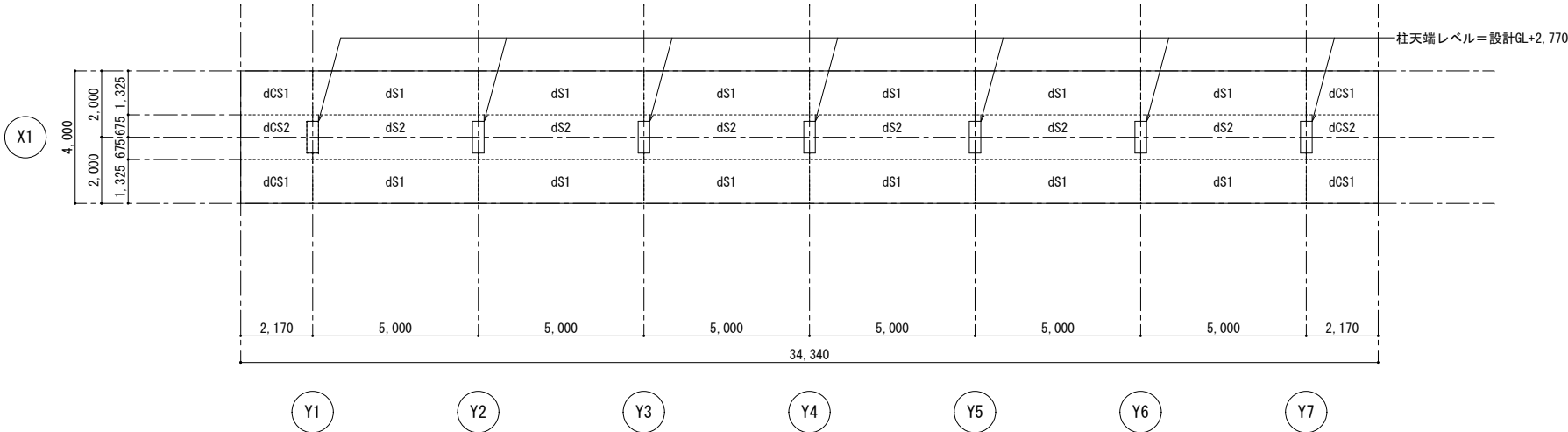
基礎伏図

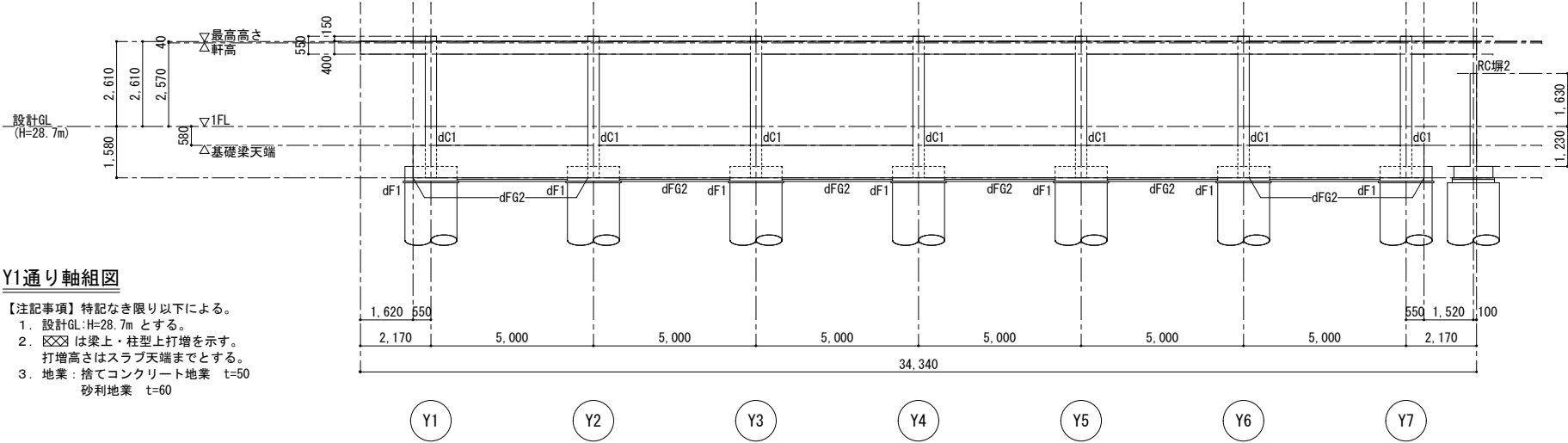
【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
2. 1FL=設計GL±0 とする。
3. 基礎梁天端レベル=1FL-580とする。特記は 1FL[±*,***] で示す。
4. 基礎下端レベル=1FL-1,680とする。特記は 1FL[±*,***] で示す。



屋根伏図

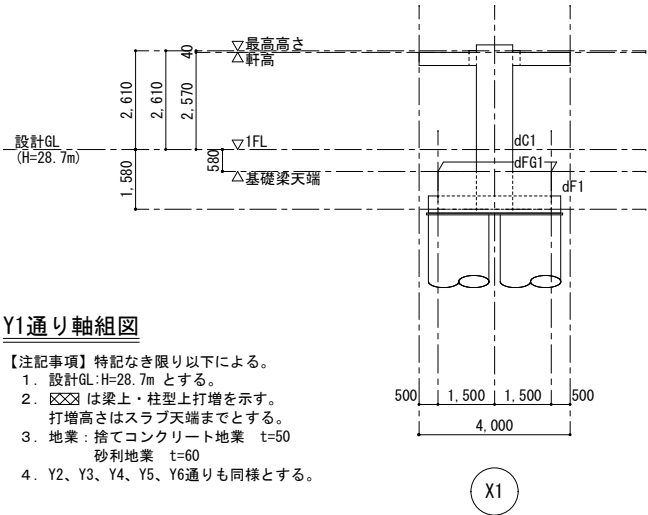
【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL:H=28.7m とする。
2. 軒高=設計GL+2,570 とする。
最高高さ=設計GL+2,610 とする。
3. RSL=軒高±0とする。特記は 軒高[±*,***] で示す。
4. スラブの主筋方向は短辺方向とする。特記は、 で示す。





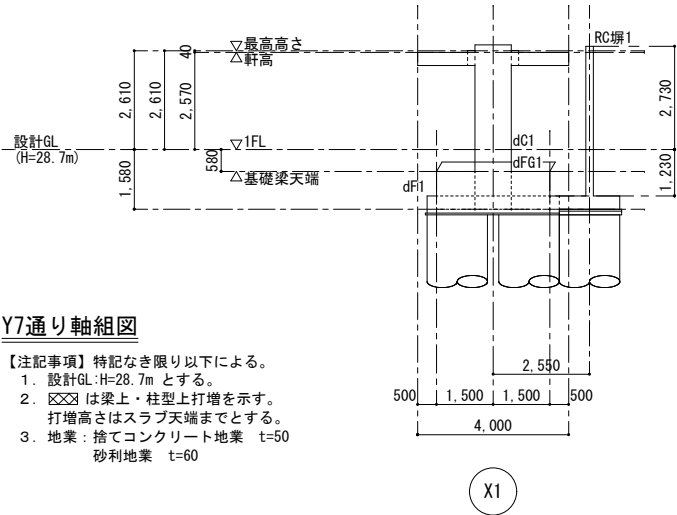
Y1通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 区間は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業: 捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60



Y1通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 区間は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業: 捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 4. Y2、Y3、Y4、Y5、Y6通りも同様とする。



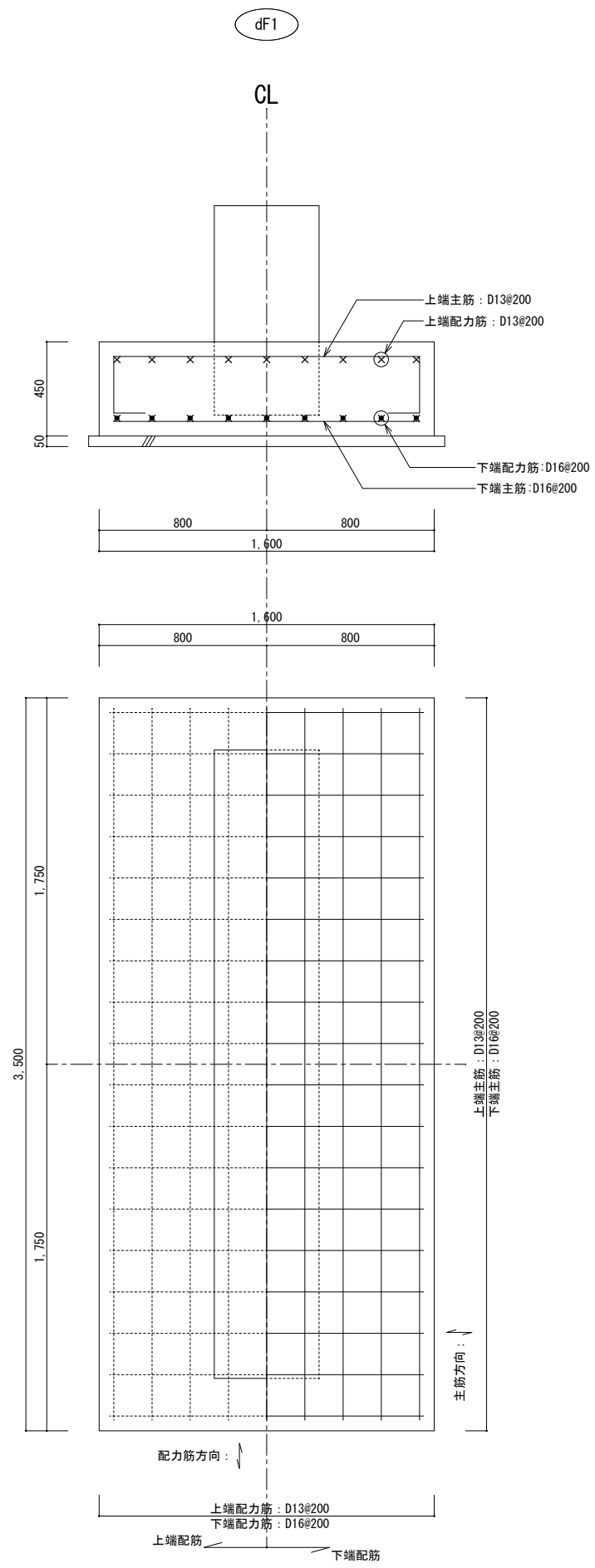
Y7通り軸組図

- 【注記事項】特記なき限り以下による。
1. 設計GL: H=28.7m とする。
 2. 区間は梁上・柱型上打増を示す。
打増高さはスラブ天端までとする。
 3. 地業: 捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

基礎リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種 : D10～D16 SD295
D19～D25 SD345

2. 地業 : 捨てコン t=50mm, 砂利 t=150mm

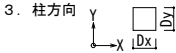


基礎梁断面リスト

【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種 : D10～D16 SD295
D19～D25 SD345
2. 腹筋 : 4-D13 (2段)
3. 幅止筋 : D10@1,000 以内
4. 段受け筋 : D10@1,000 以内
段受け筋の代わりとなる鉄筋支持金物を採用してよい。
5. 地業 : 捨てコン t=50mm, 砂利 t=60mm

符 号	dFG1	dFG2	
位 置	全断面	全断面	
断 面			
B × D	500 × 1,000	900 × 1,000	
上端主筋	8-D19	10-D19	
下端主筋	8-D19	10-D19	
stp	□-D13@200	▤-D13@200	
腹筋			
備 考			

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：主筋 D19～D25 SD345、D29～D32 SD390
hoop D10～D13 SD295A、K13 KW785
2. へ印は2段配筋を示す。(配筋基準図 (1) 2-4 主筋のあき、2段筋の間隔による)



柱断面リスト

符 号	dC1
位 置	全断面
断 面	
Dx × Dy	350 × 960
主 筋	20-D19
hoop	4E13@100
仕口部hoop	
備 考	

- 【注記事項】 特記なき限り以下による。
1. 鉄筋材種：D10～D16 SD295

スラブリスト

符 号	版 厚		位 置	X方向		Y方向		備 考
	元端	先端		端 部	中 央	端 部	中 央	
dS1	350		上端配筋	D16@100		D13@200		
			下端配筋	D13@100		D13@200		
dS2	400		上端配筋	D16@100		D16@100		
			下端配筋	D13@100		D13@100		
dCS1	350		上端配筋	D13@100		D13@200		
			下端配筋	D13@100		D13@200		
dCS2	400		上端配筋	D13@100		D16@100		
			下端配筋	D13@100		D13@100		

柱頭納まり要領

柱頭部の柱型はスラブ下端から550mmまで延長する。
柱配筋はフック付き定着として、スラブ下端からL2h以上確保する。
柱配筋の頂部は柱拘束帯筋を設けるものとして、配筋方法は柱 hoop と同配筋とする。

